

2023 年度

教育学部 講義計画と内容

[目次]

基礎教育学専修 基礎教育学コース
教育社会科学専修
教育社会科学専修 教育実践・政策学コース
心身発達科学専修
心身発達科学専修 教育心理学コース
心身発達科学専修 身体教育学コース
教養学部 第2学年 A1、A2、A1A2 持出専門科目
教職課程科目 (I) 本郷キャンパス
教職課程科目 (II) 駒場キャンパス
特設科目

※この資料は UTAS の簡易版です。

※UTAS と情報が食い違う場合は、UTAS を是としてください。

2023 年度は UTAS のシラバス情報が随時更新される予定のため、注意してください。

時間割コード	09231101	担当教員	隠岐 さや香		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	月 4
講義題目	西洋教育史概説 Introduction to Western Educational History				

授業の目的・概要	人は知識を求める存在とされるが、学び研究する権利は常に平等に配分されているわけではなかった。また、学ぶべきとされる内容については時代ごとに価値観の変遷があった。この授業では過去における教育・研究がいかなる公共性や科学的知識を育んだのか、またそこから誰が排除されていたのかについて、歴史を踏まえて考察する。この授業により、受講者が教育史の基礎的な素養を得ること、ならびに文系・理系を問わない学際的な視野を獲得することを目指している。
授業計画	1 古代ギリシアの教育と学問 2 西洋中世の教育(宗教・読み書き・算術) 3 ルネサンス・宗教改革と教育 4 「科学革命」と教育・研究 5 啓蒙思想と教育論争 6 産業革命と教育 7 近代公教育の形成—市民とは誰か 8 科学の専門職業化と近代大学 9 近代国家と国民教育 10 新教育運動の展開 11 第二次世界大戦後の教育 12 教育と多様性 13 総合討論
授業の方法	基本的には講義形式で行うが、毎回簡単な課題を出し、それを踏まえたディスカッションも行う
成績評価方法	平常点(課題提出・ディスカッション参加)が70%、期末レポートが30%とする
教科書	教員が適宜教材を配布する
参考書	授業時に文献を提示する
履修上の注意・備考	特にない 重要なことは適宜 ITC-LMS で掲示する
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)外国史(地)外国史

時間割コード	09231301	担当教員	山名 淳		
単位数	2.0	学 期	S1S2	時 限	木 4
講義題目	教育哲学演習 Seminar in Philosophy of Education				

授業の目的・概要	人生を自己形成(人間形成)の連続と捉えるとき、教育とはそのような自己形成への介入の営みとして位置づけることができる。本授業では、今日の社会において人間形成と教育の問題について考察するうえで重要なキーワード(特権、自己物語、デジタル・テクノロジー、アントロポセン、ビルドゥング、身体性、主体など)をいくつか挙げて、それにかかわるテキストを読解する。
授業計画	毎回、トピックを取り上げる。そのトピックに関連するテキストを授業者が選定して、受講生で担当を割り振る。各授業では、各担当受講生が報告を行った後、グループディスカッションを行い、それを全体討議に繋ぎ、最後に授業者が解説を試みる。
授業の方法	授業者が関連テキストを選定して、受講生による報告、グループディスカッション、全体討議、授業担当者による解説、受講生のコメントおよびそのフィードバックを重ねていく。
成績評価方法	平常点(60パーセント)と期末レポート(40パーセント)の総合的評価を行う。
教科書	教科書は使用しない。関連資料を授業時に配付する。
参考書	今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009年。 その他、授業時に指示する。
履修上の注意・備考	教育や人間形成に対する関心をもって積極的に参加していただきたい。教育哲学および教育思想史に関する教科書や基本文献を読んでおくことが望ましいが、必須の条件ではない。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09231302	担当教員	小国 喜弘		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 3
講義題目	戦後教育史演習 Seminar in Japanese Educational History after the World War II				

授業の目的・概要	日本教育史研究に必要な研究能力、基礎的教養を獲得することを目指している。 公教育の姿が揺らいでいる現在において、改めて、1945 年を画期とする戦後のそれぞれの時代に書かれた教師の手記を協働的に読んでいくことを通して、「よい教育」とはどのようなものだと考えられていたのか、その背景にはどのような社会事情や教育政策があったのかを考えていくこととしたい。それらの歴史的な思索を手掛かりとして、改めて、現代の教育において求められていることは何なのかを検討しなおしてみたい。
授業計画	第 1 回:オリエンテーション:ゼミの参加の仕方、教育史研究の意義 第 2 回:ゼミでの文献の調べ方について 第 3 回:<全員発表>私の考える「よい教育」とは何か 第 4 回:(対比としての)1940 年代初頭 齋藤喜博『教室愛』 第 5 回:1950 年代初頭 無着成恭『山びこ学校』を読む 一戦後初期民主主義と教育 第 6 回:1950 年代初頭 近藤益雄『なずなの花の子ら』を読む一「障害」による包摂と排除 第 7 回:1960 年代 阿部『現代子供気質』を読む一消費社会と教育 第 8 回:1960 年代 福地幸造『定本・落第生教室』一同和問題をめぐって 第 9 回:1970 年代 能重真作『ブリキの勲章』一教育における逸脱行動 第 10 回:1980 年代 北村小夜『一緒にいいならなぜ分けた』一「障害児」排除の様式の変更 第 11 回:1980 年代 鳥山敏子『いのちに触れる一性と死の授業』一「生命」への着目 第 12 回:1990 年代 奥地圭子『東京シューレ 学校の外で生きる子どもたち』一不登校と学校外教育 第 13 回 まとめ
授業の方法	基本的に対面で開講します。オンラインでの参加を希望する場合は、ご相談ください。
成績評価方法	基本的に発表の質によって評価する。 1文献を十分に読み込み論点を整理できているか 2周辺の文献、先行研究を踏まえているか 3自分自身の考えをよく言語化しているか *単位の取り方:講義の毎回終わりに、コメントペーパーを書いていただきます。その提出をもって出席とみなし、3 分の 2 以上の参加と小レポートによって単位を認定します(第 11~13 回目に発表する小レポートで成績を付けます。)
教科書	共通文献については、前週までに原則として PDF ファイルにて共有する。
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	毎週、20 ページ程度の文献を予め購読した上で出席してください。(教師の実践記録なので、読むのにそれほど時間はかかりません) どこかの回で最低 1 度、レポーターをつとめてもらいます。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09231303	担当教員	片山 勝茂		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 2
講義題目	価値と教育 IV Seminar in Values and Education IV				

授業の目的・概要	2022年度の「価値と教育 III」に引き続き、「アリストテレスと現代の人格教育」をテーマに、以下の英語文献と日本語文献(教科書)を講読することで、英語文献と日本語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、現代社会における人格教育に関する問題について、(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目標とする。
授業計画	奇数回が対面、偶数回がオンライン授業の予定です。初回は対面で実施します。2回目以降、変更が生じた際には、ICT-LMSでお知らせします。 1. オリエンテーション 2. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 2.1 Historical Background 精読 3. クリスチャンソン「第1章 序論:アリストテレス的人格教育とは何か」前半 講読 4. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 2.2 Problem Statement and Conceptual Clarifications 精読 5. クリスチャンソン「第1章 序論:アリストテレス的人格教育とは何か」後半 講読 6. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 2.3 Overall Evaluative Goals 精読 7. クリスチャンソン「第2章 アリストテレス的人格教育をめぐる根深い神話」講読 8. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 3 Methodology 前半 精読 9. クリスチャンソン「第3章 アリストテレス的人格教育のための徳目の測定」講読 10. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 3 Methodology 後半 精読 11. クリスチャンソン「第4章 「フロネーシス」とアリストテレス的人格教育」講読 12. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 4.1 Findings From the Experimental Trial 精読 13. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 4.2 Findings From the Interviews and Pupil Journals 前半 精読 14. Knightly Virtues Enhancing Virtue Literacy Through Stories: 4.2 Findings From the Interviews and Pupil Journals 後半 精読 15. まとめ
授業の方法	文献講読を基本とする。英語文献については、訳読による精読と内容についてのディスカッションを行う。日本語文献については、報告者が概要と(疑問点や討論の論点を提示する)コメントを発表し、討論を行う。 対面とオンラインを隔週で組み合わせる予定。 授業で使用する教材やレジュメは ICT-LMS やメールを通じて電子的に配布します。
成績評価方法	試験は行わない。毎回の授業で提出するコメントシートと期末レポート、ゼミでの報告および討論を合わせて総合的に評価する。期末レポートは「アリストテレスと現代の人格教育」をテーマに 2,000 字程度で論じたものとする予定である。
教科書	Jubilee Centre for Character and Virtues (2014) Knightly Virtues: Enhancing Virtue Literacy Through Stories Research Report (Birmingham: Jubilee Centre for Character and Virtues). クリスチャン・クリスチャンソン(2018)『子どもを開花させるモラル教育—21世紀のアリストテレス的人格教育』中山理監訳(麗澤大学出版会)。
参考書	Jubilee Centre for Character and Virtues (2017) A Framework for Character Education in Schools (Birmingham: Jubilee Centre for Character and Virtues). アリストテレス(2002)『ニコマコス倫理学』朴一功訳(京都大学学術出版会)。 片山勝茂(2017)「イギリスの道徳教育改革からみる日本の道徳『教科化』」明治図書「教育 ZINE」 https://www.me
履修上の注意・備考	2022年度の「価値と教育 III」を受講していない人も、受講を歓迎する。また、正当な理由があつて欠席する人は配慮する。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09231304	担当教員	田中 智志		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	教育文化論演習 Seminar in Education and Culture				

授業の目的・概要	この演習では、臨床哲学、また「教育臨床学概説」を踏まえつつ、自律性、関係性、固有性(かけがえのなさ)、弱さの力、交感、共鳴共振などの教育臨床学の基礎概念について、具体的な文学作品、映画、音(ロック)、ミュージカル、マンガなどを題材に、現代の社会状況を踏まえつつ、その理解を深めることをめざす。
授業計画	第1回 教育文化論の目的と方法 第2回 教育文化論演習のグループ編成・日程調整 第3回 発表テーマ 文学 1 第4回 発表テーマ 文学 2 第5回 発表テーマ 文学 3 第6回 発表テーマ 文学 4 第7回 発表テーマ 音楽1 第8回 発表テーマ 音楽2 第9回 発表テーマ 音楽3 第10回 発表テーマ 映画1 第11回 発表テーマ 映画2 第12回 発表テーマ 映画3 第13回 教育文化論演習のまとめ 第14回 教育文化論演習
授業の方法	本演習は、基本的に毎回、報告者を定めて、報告、討議を行う。とりあげる事例や文献については、参加者(報告者)の意向を最大限に尊重する。基本的に制限をもうけない。たとえば、少年犯罪の生育歴にかんする事例分析も、授業における子どもの発話分析も可能である。デューイについての考察も、デリダについての考察も可能である。 内容のうえで報告者に求められることは、その分析ないし考察によって、人(子ども)がよりよく生きるための知恵(思考活動)が暗示ないし示唆されていることである。
成績評価方法	毎回の各人の発表の内容、議論における各人の発言内容から、総合的に評価する。出席を重視する。
教科書	テキストはとくに定めないが、必要な文献は授業の開始時にリストにして配布する。
参考書	適宜、指示する。
履修上の注意・備考	出席を重視する。また教育学の基礎的素養を必要とする。 対面で行います。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09231305	担当教員	小玉 重夫		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 3
講義題目	教育政治学演習 Seminar in Politics of Education				

授業の目的・概要	朝、布団の中で寝覚めて起きなければいけないのに、登校したくない、出勤したくないという葛藤に直面したことはないでしょうか。そのような葛藤の中から、政治的主体化の可能性を探るために、ベンヤミン、アレントを経てアナークフェミニズムに至る系譜を検討したいと思います。テキストとしては、ベンヤミンの「暴力批判論」などや、高島鈴『布団の中から蜂起せよ』、柿木伸之『断絶からの歴史 ベンヤミンの歴史哲学』を取り上げ、ベンヤミンからアレントを経て現代に至るアナキズムの可能性を再検討します。
授業計画	今のところ予定している授業計画(シラバス)は以下の通りであるが、一部変更する可能性もある。 第1回ガイダンス 第2回 『布団の中から蜂起せよ』第1章 アナーク・フェミニズムの革命 第2章 蜂起せよ、〈姉妹〉たち 第3回 同上 第3章 ルッキズムを否定する 第4章 布団の中から蜂起せよ——新自由主義と通俗道徳 第4回 同上 第5章 動けない夜のために——メンタルヘルスと優生学 第6章 秩序を穿つ——ナショナリズム／天皇制に抗する 第5回 同上 第7章 儀礼から遠く離れて 第8章 死者たちについて 第6回 ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」前半 第7回 ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」後半 第8回 ベンヤミン「歴史の概念について」 第9回 ベンヤミン「暴力批判論」前半 第10回 ベンヤミン「暴力批判論」後半 第11回 『断絶からの歴史』Ⅰ 想起と救済 第12回 同上 Ⅱ ベンヤミンとハイデガー 第13回 同上 Ⅲ 歴史の媒体 第14回 同上 Ⅳ 名もなき者たちの歴史へ 第15回 まとめ
授業の方法	講義とグループによる討論を主とし、論文作成支援を兼ねたレポート作成と授業中の学生によるプレゼンを、随時導入する。各人の感心に応じて、論文の準備にも資するようにしたい。
成績評価方法	レポート・発表と平壤点によって行う。授業中にプレゼン、発表が求められる。
教科書	小玉重夫『教育政治学を拓く』勁草書房
参考書	関連する資料、教材をウェブサイトアップして、受講者がダウンロードできるようにする。
履修上の注意・備考	初回の授業時に発表の分担等を行う予定である。 本授業は感染状況にもよるが、原則、教室での対面で行う予定であるが、一定の条件希望者の希望者のオンラインでの受講も認める。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09231306	担当教員	大塚 類		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 5
講義題目	臨床教育現象学演習 Seminar in Clinical Phenomenology of Education				

授業の目的・概要	<p>臨床現象学では、私たちが日常生活において体験するさまざまな出来事を「事例」として、現象学や哲学の観点から考察することを試みます。事例に基づく質的研究の一種だと言えるでしょう。 本講義ではまず、講義者の自己紹介も兼ねて、臨床現象学的事例研究の論文を数本読み、その形式を学びます。そのうえで、若者・家族・教育にまつわる個別具体的なトピックを取り上げている『さらにはあたりまえを疑え！』を教科書として、皆で対話を重ねます。 人間の普遍的な経験構造を明らかにしようとする学問である現象学には、「個別は普遍に通じる」という言葉があります。個別具体的な事例を深く考察できれば、「私にも思い当たる節がある」、「そういうこともありうるかもしれない」という形で、普遍的な人間理解へと繋げられるはずで。受講者のみなさんが、自分事として当事者性をもって臨めるような身近なトピックを、深く考察することを通して、みなさんの物事を見る観点や、自己／他者理解が深まることを目指します。 Clinical phenomenology attempts to examine various events that we experience in our daily lives as 'cases' from a phenomenological and philosophical perspective. It is a type of qualitative research based on cases. In this lecture&comma; the lecturers will first read several papers on clinical phenomenological case studies and learn about their format&comma; as well as introducing themselves. Then&comma; using the textbook &quot;さらにはあたりまえを疑え！ Question the obvious even more!&quot;&comma; which covers individual and specific topics related to youth&comma; family and education&comma; the lecturers will engage in a dialogue. as a textbook&comma; which covers specific topics related to youth&comma; family and education&comma; and we will engage in dialogue together. In phenomenology&comma; the study of the universal structure of human experience&comma; there is a saying that &quot;the individual leads to the universal&quot;. If we can deeply examine individual concrete cases&comma; we will be able to connect them to a universal understanding of human beings in the form of &quot;I have an idea of what that could be like&quot; or &quot;That could happen to me too&quot;. The aim is to deepen participants' perspectives on things and their understanding of themselves and others through in-depth discussion of familiar topics that they can relate to as their own personal experiences.</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション 2 臨床現象学に関する論文講読① 3 臨床現象学に関する論文講読② 4 序章：みんなと普通に生きられること+第一章：家族の形 5 第二章：児童虐待 6 第三章：発達障害 7 第四章：生きられる時空間 8 第五章：いじめ 9 第六章：自閉症スペクトラム障害 10 第七章：カウンセリング 11 第八章：不登校 12 第九章：非行 13 第十章：キャリア教育 14 終章：みんなと普通に生き続けること 15 本ゼミのまとめ 1 Orientation 2 Reading of papers on clinical phenomenology (1) 3 Reading of papers on clinical phenomenology (2) 4 Introduction: living normally with everyone + Chapter 1: Family forms 5 Chapter 2: Child abuse 6 Chapter 3: Developmental disabilities 7 Chapter 4: Time and Space for Living 8 Chapter 5: Bullying 9 Chapter 6: Autism Spectrum Disorders 10 Chapter 7: Counselling 11 Chapter 8: Truancy 12 Chapter 9: Delinquency 13 Chapter 10: Career education 14 Concluding chapter: continuing to live normally with everyone else 15 Summary of this seminar</p>
授業の方法	<p>対面授業を想定しているが、感染状況によってはオンライン授業になる。 ・少人数のゼミ形式で行う。 ・受講者は事前に教科書の該当章を読み、質問(任意)とグループワークで話したいテーマ(必須)を、LMS にて提出 ・授業冒頭は、前回のリアクションペーパーへの回答、事前質問への回答を講義者より行う。(約 10 分) ・メンバーを変えて 2 回グループワークを行う(25 分と 30 分) ・残りの時間は全体討論。テーマへの考察を深める。(約 30 分) Face-to-face classes are envisaged&comma;</p>
成績評価方法	<p>平常点(毎回の出席状況と予習課題・オンラインリアクションペーパーの提出状況) Ordinary marks (attendance at each session and submission of preparatory assignments and online reaction papers)</p>

教科書	遠藤野ゆり・大塚類 2020『さらにあたりまえを疑え！』新曜社
参考書	授業中に適宜指示します Instructions will be given in class as appropriate.
履修上の注意・備考	<p>当事者意識をもった積極的な受講を期待します。 毎回、グループワークによる対話を中心とした授業構成のため、「対面授業」としているが、受講者の希望によっては、対面・オンライン併用型 A となる。 初回の授業はオンデマンド配信の予定。 We expect active participation in the course. As each class is structured around dialogue through group work&comma; the course is designated as a 'face-to-face class'&comma; but depending on the wishes of the participants&comma; it may be a combined face-to-face/online type A. The first class will be delivered on demand.</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09231307	担当教員	隠岐 さや香		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 4
講義題目	高等教育の歴史 History of Higher Education				

授業の目的・概要	この授業では西洋世界における大学の発展の経緯について考察する。過去における大学の多様で複雑な姿を理解する事を通じて、「大学ランキング」のような一面化された指標とは異なる視点から大学を捉える姿勢を養うことを目指している。 大学は過去より地域や国境を越えた存在であろうとしてきた機関であるが、その一方で、近代以降は各地域でのエリート養成や彼らのナショナル・アイデンティティ形成に関わってきたという二重の姿を持つ。また、近年では研究と教育を統合した独立の自治組織という大学モデルが自明視されているが、それは自然科学研究の大学への取り込みの過程で生じた 19 世紀以降の姿にすぎない。また、大学だけが高等教育や研究の場であったわけでもない 本授業を通じて、受講生は高等教育の歴史の基礎知識と方法論的な視点を身につけることができるであろう。
授業計画	暫定的に以下を示す。受講生との相談の結果変えることもある。 1 イントロダクション 2 大学史における複数の視点 3 大学の誕生 4 大学と中世文化 5 ルネサンス文化と大学、アカデミー 6 初期近代の大学と社会 7 大学の危機と改革—新しい科学と政治変動 8 高等教育の近代化(1780-1860) 9 研究大学化と社会的解放の葛藤 10 大学改革の困難 11 女性、マイノリティと高等教育 12 専門職養成と大学の現在—医療を例に 13 総合討論
授業の方法	講義の回と発表の回で構成される。発表の回においては、担当者が教科書および参考文献等の内容を踏まえて発表し、その後全体でディスカッションを行う。詳細は授業の初回に説明する。
成績評価方法	平常点(毎時授業の出席状況および議論への貢献度)および担当報告の総合評価とする(前者 50%、後者 50%)。発表を行わなかった者はレポート課題を課す。
教科書	クリストフ・シャルル『大学の歴史』岡山茂・谷口清彦訳、白水社、2009 年
参考書	R. D. アンダーソン『近代ヨーロッパ大学史』安原義仁、橋本伸也監訳、昭和堂、2012 年 Rury, John L., and Eileen H. Tamura (eds), The Oxford Handbook of the History of Education, Oxford Handbooks (2019; online edn, Oxford Academic, 13 June 2019), https:/
履修上の注意・備考	初回の授業時に分担等を行う予定なので参加出来ない場合は連絡して下さい。 重要事項は適宜 ITC-LMS で告知する
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09231401	担当教員	片山 勝茂
単位数	2.0	学期	S1S2
講義題目	道徳と教育 Morality and Education		

授業の目的・概要	「道徳と教育」をテーマに、道徳教育に関する近年の動向及び理論・歴史・実践についての知識・理解や、人間の道徳性についての近年の研究への知識・理解を得るとともに、アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)の視点から多様な道徳教育の授業を実践し、批評する能力を身につけ、現代の道徳と教育に関わる問題について(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目的とする。
授業計画	1. オリエンテーション、道徳科の学習指導案の実例と作成のポイント 2. 道徳の原義と本質、道徳と道徳を教えることへの疑い 3. 日常生活における道徳、道徳教育の目的—道徳教育及び道徳科の目標としての道徳性 4. 道徳教育の基本とよくある指導法の問題点、「考え合うことができる」発問 5. 道徳授業の経験のふりかえり、オリジナルな道徳授業の作成—教材の開発と活用 6. 道徳の「特別の教科」化と「考え、議論する道徳」①学習指導要領改訂の経緯と道徳科の主な内容 7. 道徳の「特別の教科」化と「考え、議論する道徳」②指導計画の作成と道徳科の評価 8. いじめについて—いじめの定義の変遷とその背景、いじめの理解 9. いじめの未然防止、ケアの共同体としての学校 10. 道徳(性)はいかにして変化するのか、情報モラル 11. 戦前のモラルと道徳教育の歴史①戦前・戦後 20 年のモラル、修身科、教育ニ関スル勅語 12. 戦前のモラルと道徳教育の歴史①国定修身教科書、国民学校と太平洋戦争下の教育 13. モラルジレンマ授業と道徳的判断の理由づけの発達(模擬授業の実施) 14. 問題解決型の道徳授業、モラルスキルを育成する道徳授業(模擬授業の実施) 15. エンカウンターと価値の明確化による道徳教育(模擬授業の実施)、まとめと解説
授業の方法	講義による。ただし、(新型コロナウイルスの感染状況によるが)できる限りワークショップ形式を取り入れ、(アイスブレイクなどを活用した)参加体験型学習を体験してもらう予定である。また、模擬授業を実施し、相互批評を行うことも予定している。
成績評価方法	試験は行わない。毎回の授業で提出するワークシート、期末レポート及び授業中の発表を合わせて総合的に評価する。期末レポートは二つをまとめた形での提出を求める予定である。一つは授業で扱った事柄をテーマに2,000 字程度で論じたものとする。もう一つは、道徳の学習指導案を提出してもらう予定である。
教科書	文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳編』教育出版(文部科学省のウェブサイトからダウンロード可能)。
参考書	荒木紀幸編(2017)『考える道徳を創る 中学校 新モラルジレンマ教材と授業展開』明治図書。 尾高正浩(2006)『「価値の明確化」の授業実践』明治図書。 永田繁雄編(2017)『「道徳科」評価の考え方・進め方』教育開発研究所。 中戸義雄・岡部美香編著(2005)『道徳教育の可能性—その理論と実践』ナカニシヤ出版。 ジョナサン・ハイト(2014)『社会はなぜ左と右にわかれるのか—対立を超えるための道徳心理学』紀伊国屋書店。 林泰成編(2011)『中学校 道徳授業で仲間づくり・クラスづくり モラル』
履修上の注意・備考	授業で使用するスライドと配布資料(教材)は前日までに ITC-LMS を通じて配布します。事前にダウンロードしておいてください。印刷する必要はありませんが、できるかぎり自分用の情報端末(ノートパソコン)を持参して、手元で見られるようにしてください。 授業中にコメントシート(課題)に取り組んでもらう時間を取ります。その場で取り組めるように、やはりできるかぎり自分用の情報端末(ノートパソコン)を持参してください。 正当な理由があって欠席する人は配慮するので、ITC-LMS で通知する欠席連絡フォームに記入すること。あわせて、ITC-LMS から教材をダウンロードし、別途通知する URL を用いてワークシート(課題)を提出すること。 また、教科書の文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳編』については、事前に冊子体を購入するか、文部科学省のウェブサイトからダウンロードしておくこと。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照※G 参照教科又は教職に関する科目(旧)大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09231402	担当教員	大塚 類		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 5
講義題目	臨床教育現象学概論 Introduction to Clinical Phenomenology of Education				

授業の目的・概要	<p>臨床現象学では、私たちが日常生活において体験するさまざまな出来事を「事例」として、現象学や哲学の観点から考察することを試みます。事例に基づく質的研究の一種だと言えるでしょう。 本講義では毎回、若者・家族・教育にまつわる個別具体的な事例を取り上げます。講義者が体験したり見聞きたりした出来事だけではなく、マンガ、エッセイなども事例として取り上げる予定です(参考資料参照)。人間の普遍的な経験構造を明らかにしようとする学問である現象学には、「個別は普遍に通じる」という言葉があります。個別具体的な事例を深く考察できれば、「私にも思い当たる節がある」、「そういうこともありうるかもしれない」という形で、普遍的な人間理解へと繋がられるはず。受講者のみなさんが、自分事として当事者性をもって臨めるような身近なトピックを、深く考察することを通して、みなさんの物事を見る観点や、自己／他者理解が深まることを目指します。 Clinical phenomenology attempts to examine various events that we experience in our daily lives as 'cases' from a phenomenological and philosophical perspective. It is a type of case-based qualitative research. Each lecture in this course will focus on a specific case study related to youth&comma; family and education. Not only events experienced&comma; seen or heard by the lecturer&comma; but also comics&comma; essays&comma; etc. will be taken up as case studies (see references). Phenomenology&comma; the study that seeks to clarify the structure of universal human experience&comma; has a saying that 'the individual leads to the universal'. If we can deeply examine individual concrete cases&comma; we can connect them to a universal understanding of human beings in the form of &quot;I can think of something like that too&quot; or &quot;it might be possible that something like that could happen&quot;. The aim is to deepen participants' perspectives on things and their understanding of themselves and others through in-depth discussion of familiar topics that they can relate to as their own personal experiences.</p>
-----------------	---

授業計画	<p>1 オリエンテーション 2 私たちが囚われている「あたりまえ」の枠組み:フッサール「間主観性」とハイデガー「世間」 3 自分の可能性を選びほぐす:ハイデガー「可能性」 4 当事者性の問題について考える:当事者研究とピアアプローチ 5 当事者性の問題について考える:胎内被爆者と2種類の原爆の絵 6 現代家族と過保護:「毒親」と「心の穴」 7 虐待親が語る虐待:ナラティブ・アプローチ 8 他者は理解できるのか①:フッサール「感情移入」 9 他者は理解できるのか②:空気を読む・雰囲気に基づく他者理解 10 つながり孤独:現象学における「他者」 11 愛するとはどういうことか:模図かずおから学ぶ 12 場面緘黙と学校の規範が生み出すリズム 13 語ることの功罪①:癒しとしての語り 14 語ることの功罪②:語りを強要すること 15 総括 1 Orientation 2 The 'natural' framework in which we are trapped: Husserl 'intersubjectivity' and Heidegger 'the world' 3 Choosing and unwinding our possibilities: Heidegger 'possibilities' 4 Thinking about the issue of tojishasei: research by tojisha and peer approaches 5 Thinking on the issue of tojishasei: in utero hibakusha and two kinds of atomic bomb pictures 6 Modern families and overprotection: 'toxic parents' and 'holes in the heart' 7 Abuse by abusive parents: narrative approach 8 Can others be understood (i): Husserl 'empathy' 9 Can others be understood (2): understanding others based on air-reading and atmosphere 10 Connection and loneliness: the 'other' in phenomenology 11 What does it mean to love: learning from Kazuo Umezumi 12 Rhythms created by place-holding and school norms 13 The merits and demerits of storytelling (1): storytelling as healing 14 The merits and demerits of storytelling (2): forcing storytelling 15 Concluding remarks</p>
-------------	---

授業の方法	<p>・受講者の人数にもよるが、講義形式で行なう。 ・毎授業の導入では、前回の授業における受講者からのリアクションペーパーへの回答を行う。 ・そのうえで、当該授業のテーマと具体的事例ならびに考察を提示する。 ・テーマによっては、授業中に受講者同士のディスカッションの時間を設ける。 ・授業後受講者はオンラインリアクションペーパーを提出する。 The number of students depends on the number of lectures. The introduction to each less</p>
--------------	--

成績評価方法	平常点(登録人数が 100 名を超えた場合毎授業後のリアクションペーパーで出席を管理する)と期末レポート Ordinary marks (attendance is controlled by a reaction paper after each class when the number of registered students exceeds 100) and a final report.
教科書	特に指定しない。 Not specified.
参考書	W.ブランケンブルク 1978『自明性の喪失』みすず書房 遠藤野ゆり・大塚類 2014『あたりまえを疑え!』新曜社 M.ハイデガー2003『存在と時間』中央公論新社 穂村弘 2009『世界音痴』小学館 E.フッサール 2001『デカルト的省察』岩波書店 村上春樹 2007『東京奇譚集』新潮社 村上靖彦 2017『母親の孤独を回復する』講談社 野口裕二 2002『物語としてのケア』医学書院 榎岡かずお 1995『おろち』秋田書店
履修上の注意・備考	当事者意識をもった積極的な受講を期待します。 We expect active participation in the course.
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09231403	担当教員	三澤 紘一郎		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	分析的教育哲学特論 Analytic Philosophy of Education				

授業の目的・概要	<p>本科目は、近年の(特に英国)教育哲学に顕著に見られる「教育人間学的転回」に焦点を当てることにより、受講生の人間理解を深め、人間の生における教育の意義と役割を再検討することを目的とする。 本科目は集中講義であるが、一つの文献につき 2 時限分の授業時間を使って内容を丹念に検討する。受講生には授業に臨むにあたって必ず文献(「授業計画」にある「検討文献」)を精読したうえで、自身の主張ならびに疑問点や批判点をまとめてくることを求める。 本科目は、人間を「内側から」理解することを目指す「教育人間学(philosophical anthropology)」を標榜するデイヴィド・バクハースト(David Bakhurst)の議論を主に取り上げ、その主張・含意・実践的応用の可能性等を検討する。 </p>
授業計画	<p>「人間であること」と「人間になること」を同時に射程に収めながら人間の生と教育を論じる「教育人間学」について、英国教育哲学の主要な議論・論争を中心に検討する。受講生の理解度や関心に応じて、以下のスケジュールは変更される可能性がある。 (第 1 日目) 第 1-3 回: 導入—英国教育哲学(分析的教育哲学)の勃興・展開と教育人間学的転回(検討文献: David Bakhurst and Carol Padden (1991) The Meshcheryakov experiment: Soviet work on the education of blind-deaf children. Learning and Instruction&comma; 1(3)&comma; pp. 201-215.) (第 2 日目) 第 4-5 回: ソ連の社会歴史的アプローチと英米系分析哲学の架橋(検討文献: David Bakhurst (2005) Ilyenkov on education. Studies in East European Thought&comma; 57(3-4)&comma; pp. 261-275.) 第 6-7 回: 心・脳・教育(検討文献: David Bakhurst (2008) Minds&comma; brains and education. Journal of Philosophy of Education&comma; 42(3-4)&comma; pp. 415-432.) (第 3 日目) 第 8-9 回: 『理性の陶冶』の総括と展開(検討文献: David Bakhurst (2012) Freedom and second nature in the formation of reason. Mind&comma; Culture&comma; and Activity&comma; 19(2)&comma; pp. 172-189.) 第 10-11 回: 『理性の陶冶』をめぐる論争(検討文献: Paul Standish (2016) The disenchantment of education and the re-enchantment of the world. Journal of Philosophy of Education&comma; 50(1)&comma; pp. 98-116.) (第 4 日目) 第 12-13 回: 教育人間学的探究と道徳(検討文献: David Bakhurst (2018) Practice&comma; sensibility and moral education. Journal of Philosophy of Education&comma; 52(4)&comma; pp. 677-694.)</p>
授業の方法	演習形式
成績評価方法	1. 授業へのとりくみ(事前準備・議論への参加等): 50% 2. 最終レポート(レポート課題は授業内に指示する): 50%
教科書	教科書は使用しない。各回の検討文献は授業担当者が準備し、事前に受講生の手元に届くようにする。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意・備考	<p>哲学文献を英語で読み進める読解力(少なくとも忍耐力)を必要とする。</p> <p>質問等は kmisawa@gunma-u.ac.jp までご連絡ください。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09231404	担当教員	小国 喜弘、能智 正博、野崎 大地、熊谷 晋一郎、近藤 武夫、額賀 美紗子、東郷 史治、飯野 由里子、大塚 類、星加 良司		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	ダイバーシティ・インクルージョン概論 Introduction to the Theories of Diversity and Inclusion				

授業の目的・概要	<p>障害者・女性・性的マイノリティ・外国にルーツを持つ人々等、多様な背景や特性を持つ人々の包摂(ダイバーシティ・インクルージョン)の必要性が社会的な関心事となっている。一方で、現実を目を向ければ、多様性の包摂は道半ばであるばかりでなく、ヘイトやバックラッシュ等、差異や多様性をめぐる分断や格差が先鋭化する状況すら顕在化している。こうした「理念」と「現実」とのギャップを的確に分析し、それを架橋するための方略を探究する知性が、多様性を包摂する社会に生きる私たちには求められている。本授業では、マジョリティ中心に形成された環境・制度・規範等がマイノリティを周縁化するメカニズムに着目しつつ、様々な専門性を有する教員の講義を通じて、多様性が生きる社会を実現するための視点や実践的知見を提供する。</p>
授業計画	<p>< 学校教育から DI を考える > 4/14 第二回 インクルーシブ教育とは(小国) 4/21 第三回 インクルーシブ教育と ICT (近藤先生) < 身体機能をめぐる DI > 4/28 第四回 多様性社会実現のためのパラリンピックの意義 (河合先生(野崎先生)) 5/19 第五回 身体機能の障害に立ち向かう科学技術(野崎先生) 6/2 第六回 思春期の多様な自己実現を可能にする心の健康とメンタルヘルスリテラシー(東郷先生) < 語り/言葉をめぐる DI > 6/9 第七回 言語障害者の体験と語り(能智先生) 6/16 第八回 解釈的正義と当事者研究(熊谷先生) 6/23 第九回 当事者とは誰か——現象学的質的研究から考える(大塚先生) < 改めて DI とは何か > 6/30 第十回 DI とクエア・アクティヴィズム(飯野先生) 7/7 第十一回 移民の子どもから考える日本社会の多様性(額賀先生)(オンデマンド) 7/14 第十二回 「多様性理解」とは何か(星加先生) 7/21 第十三回 DI と障害学(星加先生) </p>
授業の方法	<p>この授業は、ガイダンスも含めてオンラインで行います。初回から、時間までに zoom にアクセスするようにしてください。 zoom には氏名を記入して入室してください。途中で接続できなくなったときなどは再度接続するようにしてください。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行います。リアクションペーパーについては、オンライン講義の最後の 10 分に、ITC-LMS を用いて入力して貰う予定です。あまりに短い文章(例えば 30 字以内)は、0 点とすることがあります。およそ 200 字前後を目安として、自らの考えをしっかりとまとめる機会として用いてください。提出は、当日内に御願います。</p>
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	<p>zoom の参加 URL については、現在のところ、この講義に固定された URL となっていますが、変更する可能性がありますので、毎回確認をするようにしてください。 インターネットにうまくつながらない場合、事情により時間内で接続できなかった場合のために、講義を録画しています。その場合は、下記のアドレスにご連絡ください。また通信環境が整わない方は、整った段階でお知らせください。 バリアフリー教育開発研究センター バリア・スタディーズ担当 utbarrier.studies@gmail.com </p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09231501	担当教員	片山 勝茂、山名 淳、小国 喜弘、小玉 重夫、田中 智志、大塚 類、隠岐 さや香		
単位数	2.0	学期	通年	時限	月 1
講義題目	基礎教育学研究指導 Tutorial in Basic Theories of Education				

授業の目的・概要	基礎教育学コースの卒業論文の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。山名が教育哲学、小国が日本教育史、隠岐が西洋教育史、小玉と片山が教育人間学・教育思想、田中と大塚が教育臨床学・教育実践論を担当し、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
授業計画	この授業は集中形態の授業である。履修者は複数回にわたり、自分の卒業論文の研究主題についての報告を行う。その報告のために、履修者は事前に自分の研究テーマに関連する教員から資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等についての指導を受け、十分な準備をしなければならない。報告においては、自分の研究内容についての体系的なプレゼンテーションをしなければならない。その報告を受けて、担当教員全員ならびに当日の参加者との間で質疑応答を行う。 第1回 基礎教育学研究指導 オリエンテーション 第2回 卒業論文作成における留意点 第3回 卒業論文作成のためのガイドライン 第4回 卒業論文作成のための主題選択(個別指導)1 第5回 卒業論文作成のための主題選択(個別指導)2 第6回 卒業論文作成の方法(個別指導)1 第7回 論文作成の方法(個別指導)2 第8回 個別の報告・全体の指導1 第9回 個別の報告・全体の指導2 第10回 個別の報告・全体の指導3 第11回 個別の報告・全体の指導4 第12回 中間報告1 第13回 中間報告2 第14回 中間報告3 第15回 中間報告4 第16回 秋季報告1 第17回 秋季報告2 第18回 秋季報告3 第19回 秋季報告4 第20回 最終報告1 第21回 最終報告2 第22回 最終報告3 第23回 最終報告4 第24回 直前指導1 第25回 直前指導2 第26回 直前指導3 第27回 直前指導4 第28回 概要作成1 第29回 概要作成2 第30回 研究指導のまとめ
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成績評価方法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	必要な文献については、各自のテーマに即して指示する。
参考書	必要な文献について、各自のテーマに即して指示する。
履修上の注意・備考	基礎教育学コースで卒業論文を執筆する者は必ず登録すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232301	担当教員	濱中 淳子		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	月 3
講義題目	教育経済学 Seminar in Economics of Education				

授業の目的・概要	教育に関する社会的な問題について経済という視点から考えるための理論を習得し、その理論に裏付けられた実証分析(多変量解析を含む)ができるようになることが、本講義のねらいです。実証分析にはパソコンを使います。エクセルの基本的な操作は理解しているという前提で、講義を行います。なお本講義は、社会調査士カリキュラム上の E 科目(多変量解析の方法に関する科目)に対応しています。
授業計画	1.教育社会学と教育経済学 2.教育と労働市場(1)人的資本理論とシグナリング理論 3.教育と労働市場(2)就業後の技能形成と学び直し 4.教育の効果(1)国際比較からみえるもの【相関、単回帰】 5.教育の効果(2)収益率(エラボレイト法) 6.教育の効果(3)収益率(エラボレイト法)の計測(演習) 7.教育の効果(4)収益率(ミンサー型)【単回帰、重回帰、パス解析】 8.教育の効果(5)ジェンダーの視点を加えると何がみえるか 9.教育の効果(6)ミンサー型収益率の分析結果発表【単回帰、重回帰、パス解析】 10.教育の効果(7)多様な手法から学歴間所得格差を捉える【クロス表、ロジスティック、分散分析】 11.教育の効果(8)多様な手法による分析結果発表【クロス表、ロジスティック、分散分析】 12.教育の効果(9)データと政策をどう結ぶか 13.教育費をめぐる日本の世論+総括テストと解説
授業の方法	主な授業方法は講義形式ですが、授業計画にありますように一部演習形式を取り入れます。また、理解度を確認するために、数回の小テスト、そして最後に総括テストを行います。なお、進行状況に応じて授業計画を変更する場合があります。その場合は授業中に口頭でお知らせすると同時に、ITC-LMSの方にも掲示しておくようにします。
成績評価方法	小テストならびに総括テストの結果に基づいて成績を評価します。小テストを行うタイミングについては、授業中に口頭でお知らせすると同時に、ITC-LMSの方にも掲示しておくようにします。
教科書	指定しません。
参考書	授業各回の配付資料に記載します。
履修上の注意・備考	ノートパソコンを教室に持参するようお願いする場合があります。エクセルの基本的な操作は理解しているという前提で、講義と演習を行います。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232302	担当教員	本田 由紀		
単位数	2.0	学期	S1	時限	火 4, 金 4
講義題目	日本社会の変容と課題 Change and Problems of Japanese Society				

授業の目的・概要	<p>日本社会の変容と課題について、様々な文献やデータを読み取ることを通じて、現在の日本社会の特徴と求められる対策について認識を深める。 一般的・抽象的なレベルでは、ある社会の構造とその変動を俯瞰的に捉える見方、国際比較により社会間の体制の相違を知り特定の社会状況を相対化する見方、図表を読み取りながらデータが意味している事柄を解釈する力、ある社会で支配的な言説や規範を批判的にとらえ返す力などをつけることを目標とする。 </p>
授業計画	<p>授業計画 第1回:オリエンテーションと講義(「学校の学びはどう変わるべきか」) 第2回:講義(「メリトクラシーを弱毒化する」) 第3回:教育と貧困 第4回:教育政策 第5回:進路選択とジェンダー 第6回:「能力」の形成・構築 第7回:労働市場・働き方 第8回:家族形成 第9回:子育て 第10回:社会保障 第11回:社会意識 第12回:差別と排除 第13回:ふりかえりと期末課題構想発表</p>
授業の方法	<p>文献を講読し、履修者間で議論することにより、現代日本社会の現実と問題点について知り、その中で個人がいかなる役割を果たしてゆけるかについての認識を形成する。 授業で得た知識をふまえ、中間課題・期末課題を課す。 </p>
成績評価方法	<p>授業時に提出する講読票、中間課題、期末課題を5:2:3の比率で評価する。</p>
教科書	<p>文献等は本授業の初回で提示する。</p>
参考書	<p>本田由紀『「日本」ってどんな国?』ちくまプリマー新書、2021年 本田由紀『教育は何を評価してきたのか』岩波新書、2020年 本田由紀『社会を結びなおす』岩波ブックレット、2014年 本田由紀『教育の職業的意義』ちくま新書、2009年 </p>
履修上の注意・備考	<p>現代の親子関係、若年労働市場、教育政策、社会福祉などについて社会的課題と研究上の課題を幅広く押さえる内容の授業であるため、それらに関する実証的研究に取り組もうとする者にとって直接的に役立つことはもちろん、社会学の方法論・理論についての基礎教養を得ることができる。</p> <p>対面(オンラインも併用)</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232303	担当教員	本田 由紀		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	教育社会学理論演習 Seminar on Theories of the Sociology of Education				

授業の目的・概要	この授業では、(教育)社会学に関わる主な社会学理論についての基本文献を講読することを通じて、(教育)社会的な「ものの考え方」とは何か、それは時代や社会によってどのような拘束性を帯びているか、理論と現実を照らし合わせることによってどのように双方に対して示唆が得られるかを学ぶことを目的とする。
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:筒井淳也『社会を知るためには』第1章～第3章 第3回: “ 第4章～第6章 第4回:筒井淳也『社会学』第1章 第5回: “ 第2章 第6回: “ 第3章 第7回: “ 第4章 第8回: “ 第5章 第9回:松村一志『エビデンスの社会学』はじめに・序章 第10回: “ 第2章 第11回: “ 第3章 第12回: “ 中間考察・終章 第13回: 期末レポート構想発表
授業の方法	各回の指定文献について出席者はあらかじめ講読票を書いて提出する。それに加えて各回の担当者が詳細なレジメを作って発表し、その内容について全員で議論を行う。学期末には特定の理論や概念を取り上げて検討するレポートを執筆する。
成績評価方法	各回の講読票およびレジメと期末レポートを 7:3 の比で評価する。
教科書	筒井淳也『社会を知るためには』ちくまプリマー新書、2020 年 筒井淳也『社会学—「非サイエンス」的な知の居場所』岩波書店、2021 年 松村一志『エビデンスの社会学—証言の消滅と真理の現在』青土社
参考書	佐藤俊樹『社会学の方法—その歴史と構造』ミネルヴァ書房、2011 年 奥村隆『社会学の歴史 I』有斐閣アルマ、2014 年 富永健一『思想としての社会学—産業主義から社会システム理論まで』新曜社、2008 年 那須壽『クロニクル社会学—人と理論の魅力を語る』有斐閣アルマ、1997 年 野口雅弘『マックス・ウェーバー 近代と格闘した思想家』中公新書、2020 年 今野元『マックス・ヴェーバー 主体的人間の悲喜劇』岩波新書、2020 年 中野敏男『ヴェーバー入門 理解社会学の射程』ちくま新書、2020 年 ケン・プラマー著、
履修上の注意・備考	事前に「教育社会学概論」を履修していることが望ましい。 社会学という学問の固有の特性を理解することができる内容であるため、社会学系の大学院への進学を考えている者はもちろん、幅広い社会科学系の学問分野および仕事分野の基礎教養として役立つ。 対面(教室で Zoom 使用)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09232304	担当教員	阿曾沼 明裕、両角 亜希子、福留 東土		
単位数	2.0	学期	S2	時限	木 3, 木 4
講義題目	大学論 University Studies				

授業の目的・概要	<p>本授業では大学の教育に焦点を当てる。大学を含めた高等教育段階の教育研究は、伝統的な教育学において主要な研究対象ではなかったが、ここ 30 年ほどで大きく研究が進展した分野である。本授業の担当教員は、普段、大学院の「大学経営・政策コース」の教育を担当しているが、その知見を学部教育に反映させ、学部生向けに編成した授業を行う。 本授業の主要な目標は、受講生各自の大学生生活の経験に立脚しながら、各自が自分の視点から、大学での学習や大学生生活の意義を捉えることができるようになることである。各自の学習や学生生活を考える材料として、それらを支える教育とカリキュラム、学生支援、歴史的・比較的視点を取り上げる。 もうひとつ、この授業で重視するのは、大学院生・大学職員と学部生との対話である。相互にとって学びの機会になると思う。</p>
授業計画	<p>1. 大学教育を巡る論点 2. データから見る大学と大学教育 3. 大学教育のカリキュラム 3. 国際比較の視野から見た大学教育 4. 歴史的視野から見た大学教育 5. 学生生活と大学生の経験 6. 学部・専攻の決定過程 7. 学生の経済支援: 授業料と奨学金 8. コロナ禍の大学と大学教育 9. 大学院生・職員の目から見た学部教育</p>
授業の方法	<p>講義、学生間のグループディスカッション、大学院生・職員、受講生の発表と意見交換を中心に行う。</p>
成績評価方法	<p>授業への参加と貢献、期末レポートによる。</p>
教科書	<p>授業時に配布する。</p>
参考書	<p>大学経営・政策コース編『大学経営・政策入門』東信堂、2018 年。 小方直幸編『大学マネジメント論』放送大学、2020 年。 橋本鉦市・阿曾沼明裕編『よくわかる高等教育論』ミネルヴァ書房、2021 年。 他、授業時に提示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>できるだけ学生参加型の授業編成とするので、授業に積極的に参加すること。また、要望があれば担当教員に伝えること。 受講を決めたら Google Classroom への登録を済ませること(開講前に登録しても可)。 授業はすべてハイフレックス方式(受講生は対面でもオンラインでも受講可)で実施する予定である。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232305	担当教員	勝野 正章、橋野 晶寛、村上 祐介		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 3
講義題目	教育行政調査演習 I Seminar in Field Research on Educational Administration I				

授業の目的・概要	自治体や学校をフィールドとした調査および実証分析の方法の基礎を学び、教育政策の課題、教育行政や学校の改革動態について理解を深めることを目標とする。テーマや調査対象は参加者の討議により自主的に決定し、演習Ⅱ(A1・A2)での調査に向けて計画を立てる。教育行政調査演習Ⅱと併せて履修することが望ましい。
授業計画	質的・量的な調査および分析手法の基礎を学んだ上で、演習Ⅱでの調査に向けてテーマ設定・調査の企画を行う。授業の実施形態については原則としてオンラインで実施する。ただし、いずれかの回(1回)で対面授業を取り入れる。 第1回 オリエンテーション 第2回 政策リサーチの方法 第3~6回 量的研究法の基礎 第7~10回 質的研究法の基礎 第11回 実証研究の検討 第12回 研究・調査計画の設計1 第13回 研究・調査計画の設計2
授業の方法	文献輪読・発表、討議を組み合わせで行う。
成績評価方法	平常点と期末レポートによる。
教科書	特に指定しない。文献は都度配布する。
参考書	・伊藤修一郎(2022)『政策リサーチ入門 増補版』東京大学出版会。 ・佐藤郁哉(2008)『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社。 ・佐藤郁哉(2015)『社会調査の考え方(上)(下)』東京大学出版会。 ・佐藤郁哉(2021)『ビジネス・リサーチ』東洋経済新報社。 ・畑農鋭矢・水落 正明(2022)『データ分析をマスターする12のレッスン 新版』有斐閣。 ・藤原文雄・露口健司・武井敦史編著(2010)『学校組織調査法』学事出版。
履修上の注意・備考	・時間割上に設定された時間以外に作業を行う場合も生じることもありうるので留意すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232306	担当教員	勝野 正章、橋野 晶寛、村上 祐介		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 3
講義題目	教育行政調査演習Ⅱ Seminar in Field Research on Educational Administration Ⅱ				

授業の目的・概要	自治体や学校をフィールドとして実際の調査を通じて教育政策の課題、教育行政や学校の改革動態について理解を深めることを目標とする。テーマや調査対象は参加者の討議により自主的に決定する。調査結果を報告書にまとめる。
授業計画	テーマの設定、先行研究の検討、調査の計画・実施、データ分析、報告書の作成を小グループを単位として行う。原則として対面で授業を実施する。 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 量的調査・研究例の検討 第 3 回 質的調査・研究例の検討 第 4 回 班・テーマ設定 第 5～9 回 班での作業 第 10 回 中間発表 第 11 回 班での作業 第 12 回 班での作業 第 13 回 最終発表
授業の方法	グループで計画を立て、調査・分析を行う。時間割上に設定された時間以外に調査を行う場合も生じることに留意してほしい。
成績評価方法	出席状況と報告書による。
教科書	特に指定しない。
参考書	設定したテーマにあわせて授業で指示する。
履修上の注意・備考	・時間割上に設定された時間以外に作業を行う場合も生じることもありうるので留意すること。 ・教育行政調査演習Ⅰ(S1S2)を履修していることが望ましい。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232307	担当教員	勝野 正章		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 4
講義題目	教育行政・学校経営演習 I Seminar in Educational Administration and School Management I				

授業の目的・概要	教育行政・学校経営の現代的課題に関する理解を深め、それに関わる政策や実践の学術的分析や評価が行えるよう、そのために必要となる理論や方法を学ぶ。
授業計画	特に本授業では教育行政・学校経営にかかわる現代的課題をとりあげる。たとえば、以下の事項をとりあげることを予定しているが、受講者の問題関心に基づいて変更もありうる。 児童・生徒の「データフィケーション (datafication)」、公教育の市場化・民営化・商品化、コミュニティ・スクール (学校と地域の連携)、放課後学習支援 (「子どもの貧困対策」)、外国籍児童・生徒に対する支援、教員とスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携 (「チーム学校」)、教員の働き方改革、ICT 教育
授業の方法	文献・資料の輪読に加えて、可能な範囲で調査を実施したい。
成績評価方法	授業中の発表並びにディスカッションへの参加に加え、最終レポートで評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業中に必要なものを指示する。
履修上の注意・備考	特になし。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232308	担当教員	李 正連
単位数	2.0	学期	A1
講義題目	社会教育学演習 I Seminar in Adult and Lifelong Education I		
		時限	火 3, 火 4

授業の目的・概要	本授業のテーマは、「教育福祉と社会教育・生涯学習」とする。近年拡大しつつある社会格差やさまざまな社会的排除の問題を受け、それらの問題を教育の側面からとらえ、生涯学習を基盤とした教育福祉による社会的包摂の可能性を考える。
授業計画	第1回 オリエンテーション&教育福祉について考える。 第2回 問題の所在(第1章～第4章) 第3回 実践の諸相(第5章～第8章) 第4回 実践から学ぶ①ゲストスピーカーによる特別講義 第5回 課題と展望(第9章～第12章) 第6回 実践から学ぶ②実践現場の見学 第7回 全体のまとめ(第13章)
授業の方法	指定文献の輪読(発表と討論)を基本とするが、演習内でゲストスピーカーにも適宜参加していただく。また、実践現場にも出向き、見学する予定である。 なお、履修者は発表以外にも、各回の指定文献についてあらかじめ講読票を書いて提出する。
成績評価方法	演習への参加度、課題(発表と講読表、ワーキングペーパー等)への取組状況を総合的に評価する。
教科書	岩槻知也編著『社会的困難を生きる若者と学習支援—リテラシーを育む基礎教育の保障に向けて』明石書店、2016年 その他、授業で随時提示する。
参考書	授業で随時紹介する。
履修上の注意・備考	初回の授業では発表の順番や履修方法について説明するので、履修希望者は必ず出席すること。 授業での積極的な発言・参加を求める。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232309	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	2.0	学期	A2	時限	月 1, 月 2
講義題目	社会教育学演習Ⅱ Seminar in Adult and Lifelong Education II				

授業の目的・概要	都市における市民の学習・文化活動の実態はどのようなものか。それが都市の形成とどのように作用しあいながら営まれてきたか。行政はそうした活動をどう支えているか。基本文献の講読、東京都もしくは関東圏の自治体のケーススタディ(自治体職員や非営利団体へのインタビュー、社会教育施設への訪問調査等)をつうじて探る。 このようなフィールド調査を主体にした授業を想定しているが、感染症の動向などにより困難な場合は、社会教育の基本文献を購読するゼミに切り替える。
授業計画	(1)オリエンテーション、(2)基本文献購読、(3)近郊都市への訪問調査、(4)調査のまとめ作業 からなる。
授業の方法	文献講読とフィールドワークによる。
成績評価方法	出席および授業への参加状況により判断する。
教科書	初回に提示する。
参考書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	フィールドワークを交えた授業のため、無断遅刻欠席は避けること。 フィールド調査を主体にした授業を想定しているが、感染症の動向などにより困難な場合は、社会教育の基本文献を購読するゼミに切り替える。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232310	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	1.0	学期	通年	時限	木 6
講義題目	博物館学特別研究 Special Studies in Museum Activities				

授業の目的・概要	博物館実習について、事前および事後の指導を行う。
授業計画	実習は、事前のガイダンス、博物館現場での実習および実習記録の作成と実習報告の執筆、発表によって行われる。 授業初回の時限にガイダンスを行うので(オンラインで実施予定)、履修希望者は必ず参加すること。
授業の方法	実習先については、「関連ホームページ」に掲載された館については紹介可能だが、それ以外は自身で探すものとする。実習期間だけではなく、学内で行う事前事後の指導も合わせて出席することが求められる。
成績評価方法	実習、事後指導への出席、実習後の報告、レポートをもとに総合的に評価する。
教科書	使用しないが、以下の「博物館実習ガイドライン」を参照。 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/014/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/06/15/1270180_01_1.pdf
参考書	使用しない
履修上の注意・備考	<ul style="list-style-type: none"> ・履修するには、原則として前年に、博物館概論(教育学部)、文化施設経営論(文学部)、博物館資料論(文学部)、博物館資料保存論(理学部)、博物館教育論(教育学部)、博物館展示論(文学部)、博物館情報・メディア論(教育学部)のうち最低二つを受講していることが必要である。詳細は相談に応じるので、これらの科目未履修者は個別に問い合わせること。 ・不明点等はメールにて問い合わせること。 ・感染症の状況により、実習先を見つけることや実習の遂行が以前よりも困難になっている。実習が確定したあと中止になる場合も出ているため、実習先探しは早めに行うこと。 ・実習の際は、感染症対策に十分留意し、実習先の指示に従うこと。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232311	担当教員	齋藤 泰則		
単位数	2.0	学期	A1	時限	金 1, 金 2
講義題目	情報サービス演習 Seminar in Information Service				

授業の目的・概要	情報源(レファレンス資料)についてその信頼性を評価する手法の習得と、レファレンス質問への回答に必要な検索戦略の構築のための知識とスキルの取得を目指す。 ／ The objectives of this class are to acquire the following expertise and skills. 1) on evaluating library and information resources 2) on building the search strategy 3) on answering the reference questions
授業計画	第1回: 情報サービスの概要 第2回: 情報源(レファレンス資料)の評価 第3回: インターネット情報源の評価 第4回: 文字・言葉に関する情報源の評価とレファレンス質問の処理 第5回: 事象・事物に関する情報源の評価 第6回: 事象・事物に関するレファレンス質問の処理 第7回: 歴史・日時に関する情報源の評価 第8回: 歴史・日時に関するレファレンス質問の処理 第9回: 地理・地名に関する情報源の評価とレファレンス質問の処理 第10回: 人物・団体に関する情報源の評価とレファレンス質問の処理 第11回: 図書・雑誌に関する情報源の評価とレファレンス質問の処理 第12回: 雑誌記事に関する情報源の評価とレファレンス質問の処理 第13回: 新聞記事に関する情報源の評価とレファレンス質問の処理 第14回: まとめ ／ The 1st: Overview of information services The 2nd: Evaluation of library and information resources The 3rd: Evaluation of internet resources The 4th: Evaluation of information resources on languages & letters and answering reference questions on language & letters The 5th: Evaluation of information resources on matters and facts The 6th: Answering reference questions on matters and facts The 7th: Evaluation of information resources on history and events The 8th: Answering reference questions on history and events The 9th: Evaluation of information resources on geography, and answering reference questions on geography The 10th: Evaluation of information resources on persons & corporate bodies, and answering reference questions on persons & corporate bodies The 11th: Evaluation of information resources on books & serials, and answering reference questions on books & serials The 12th: Evaluation of information resources on journal articles and answering reference questions on journal articles The 13th: Evaluation of information resources on articles of newspapers and answering reference questions on articles of newspapers The 14th: Summary
授業の方法	図書館を利用した演習形式で行う。 ／ Seminar mainly in the library.
成績評価方法	毎回の課題の提出物により評価する。 ／ Grade Evaluation is based on reports.
教科書	特に使用しない。 ／ Not used
参考書	大谷康晴、齋藤泰則編著. 『情報サービス演習』新訂版, 日本図書館協会, 2020, 258p. 長澤雅男, 石黒裕子著 『レファレンスブックス: 選び方・使い方』三訂版, 日本図書館協会, 2016, 242p. 斎藤文男, 藤村せつ子著『実践型レファレンスサービス入門』補訂2版, 日本図書館協会, 2019, 203p. ／ Otani, Yasuharu an
履修上の注意・備考	図書館の情報源を利用した演習を行うので、本学図書館で利用可能な情報検索システムやデータベースについて、利用方法を含めて、事前に把握しておくようにしてください。 また、公共図書館のレファレンス資料を利用した課題も予定していますので、近隣の公共図書館のレファレンス資料とレファレンスサービスについて事前に把握しておくようにしてください。 ／ To look into reference materials, information retrieval systems and databases available in the University Library and the public libraries.
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232312	担当教員	藤江 康彦、浅井 幸子		
単位数	2.0	学期	S1	時限	火 1, 火 2
講義題目	教育方法学演習Ⅲ Seminar of Research on Teaching and Curriculum III				

授業の目的・概要	<p>[授業の目標]この授業では、教育実践の研究課題や実践上の課題の概要を理解するとともに、教育方法学領域の研究手法の基礎のなかでも主に観察法を身につける。具体的には、以下の通りである。 1. 授業、カリキュラム、教師、教育内容(リテラシー)、教育評価に関する、研究上、実践上の今日的課題について概要を理解する。 2. 授業、カリキュラム、教師、教育内容(リテラシー)、教育評価に関して、研究課題を設定し、探究する。 3. 課題を探究する過程で、記録の採取の仕方、フィールドワークの仕方、文献収集の方法等を身につける。 4. 採取した記録のまとめ方やプレゼンテーションの仕方を身につける。 5. 教育方法学とはどのような学問か、自分なりの説明ができるようになる。 </p> <p>[授業の概要]教育方法学は、特定の親学問をもたず、教育事象に対する臨床性やアプローチの学際性を特徴とする。教育実践に関するあらゆる事柄が研究対象となっているが、主として研究が進められてきたのは、授業研究、カリキュラム研究、教師研究、教育内容研究、教育評価研究、である。この授業では、授業、カリキュラム、教師、教育内容(リテラシー)、評価などのトピックごとに、近年の課題状況を概観したうえで、授業観察を中心としたフィールドワークや、文献調査、インタビュー調査等を行う。教育実践への課題意識や興味関心を基盤としたグループに分かれて探究し、報告会を行う。</p>
授業計画	<p>第1回 教育実践の課題 授業・教師・カリキュラム・教育内容・教育評価 第2回 教育実践の研究手法(1) フィールドワークと質的研究法(観察法、面接法) 第3回 教育実践の研究(1)フィールドワーク 第4回 教育実践の研究(2)報告会① 第5回 教育実践の研究手法(2) 歴史研究・ナラティブ研究 第6回 教育実践の研究(3)文献調査 第7回 教育実践の研究(4)報告会②</p>
授業の方法	<p>第1回は、主として講義と文献購読による情報の共有を行う。 第2回～第7回は、主として教育研究の方法を学び、調査とその報告を行う。</p>
成績評価方法	<p>授業への参加状況とレポートの提出状況によって総合的に評価する。</p>
教科書	<p>指定しない。</p>
参考書	<p>秋田喜代美・藤江康彦(編)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』東京図書 秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの質的研究法:15の事例にみる学校教育実践研究』東京図書 秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの教師研究:20の事例にみる教師研究方法論』東京図書 浅井幸子ほか(編)『教師の声を聴く:教職のジェンダー研究からフェミニズム教育学へ』学文社 秋田喜代美・藤江康彦(編)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』東京図書 秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学(共編)『教育研究のメソドロジー:学校参加』</p>
履修上の注意・備考	<p>本授業は、S1 タームに開講される2時間連続の授業である。 情報収集やフィールドワークは受け入れ機関の事情により、必ずしも授業時間内に実施できるとは限らない。授業時間外でも活動をすることになるので、注意されたい。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232401	担当教員	松村 智史		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 6
講義題目	子どもの貧困・ケア・家族と教育 Child Poverty, Care, Family and Education				

授業の目的・概要	<p>この授業では、私たちが生きている現代の「日本社会」において、子どもの貧困・ケア・家族と教育の関連について、多角的に考えるための視点を養うことを目標とします。具体的には、教育を核・キータームとしつつ、その隣接領域である、子どもの貧困、ケア、家族のあり方について、先行研究や政策・対策動向を踏まえつつ、一緒に考えます。 教育と同じく、貧困、ケア、家族は、現代の「日本社会」を構成するとともに、密接に関連し、呼応しながら変化しています。一見、別々のように見える、教育、貧困、ケア、家族が、実は結びつきながら、総体として、様々な特性を持つ「日本社会」をかたちづくっていることを確認します。また、貧困、ケア、家族の観点から、相対的に浮かび上がってくる、教育のあり方についても考えていきたいと思います。さらに、具体的な取組(例えば、子どもの貧困では、学習支援や子ども食堂など)の概要や、そうした取組を「日本社会」において、どのように位置づけることができるのかということも考えていきます。 “Child Poverty&comma; Care&comma; Family and Education” The aim of this course is to introduce the actual situation as to child poverty and to help students develop the ability to think about modern Japanese society from many perspectives. You study this theme&comma; following previous researches and policy trends&comma; based on key words “child poverty”&comma; “care”&comma; “family” and “education”. These four factors seem separate&comma; but there are close connections among them and they are the constituent parts of Japanese society. The current Japanese administration is taking measures such as study support and children’s cafeteria. You will study how education for poor children should be and how such measures should work in Japanese society. </p>
授業計画	<p>第1回:子どもの貧困① 総論、基本概念の確認 第2回:子どもの貧困② 子どもの貧困の背景にある日本社会 第3回:子どもの貧困③ 子ども期を貧困で過ごすということ、その後の人生 第4回:子どもの貧困④ 子どもの貧困対策 第5回:子どもの貧困⑤ まとめとディスカッション① 第6回:家族・ケア① 日本型福祉社会の家族主義とケア(ケアの社会化の理想と現実) 第7回:家族・ケア② ヤングケアラーの困難とケア 第8回:家族・ケア③ ひとり親世帯の困難とケア 第9回:家族・ケア④ 移民・外国籍の子どものケア、多文化共生社会? 第10回:家族・ケア⑤ まとめとディスカッション② 第11回:教育① 貧困世帯にとっての教育、学校文化 第12回:教育② 学校におけるケア、スクールソーシャルワーカー、教育・ケアの担い手の窮状 第13回:教育③ 日本社会における教育と、貧困・ケア・家族を問い直す(全体まとめとディスカッション)</p>
授業の方法	<p>授業テーマに応じて、教員が作成したレジュメを配布します。そのレジュメに基づいて講義したのち、ディスカッションを行います。 </p>
成績評価方法	<p>レポート(計3回程度を予定)に加えて、授業・ディスカッションへの参加・寄与の程度を勘案します。</p>
教科書	<p>特になし。 ※必要に応じて授業時に伝えます。</p>
参考書	<p>参考文献はそのつど授業で伝えますが、以下は、比較的読みやすいので、一読を薦めます。 本田由紀(2014)『社会を結びなおす:教育・仕事・家族の連携へ』岩波ブックレット 澁谷智子(2018)『ヤングケアラー:介護を担う子ども・若者の現実』中公新書 松岡 亮二(2019)『教育格差』ちくま新書 小熊英二(2019)『日本社会のしくみ:雇用・教育・福祉の歴史社会学』講談社現代新書</p>
履修上の注意・備考	<p>授業への参加はもちろんのこと、ディスカッションへの積極的な参加を期待します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232402	担当教員	藤原 翔		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	水 3
講義題目	教育調査分析法 Quantitative Educational Research Methodology				

授業の目的・概要	教育の社会科学的研究に用いられる社会調査データを分析する際に、必要となる統計学に関して入門的な講義を行う。具体的には、分布と統計量、相関係数、確率論の基礎、サンプリング、推定と検定、クロス集計、回帰分析について概説する。それによって、既存の分析結果の意味を正確に理解し、自分で新たに意味のある計量分析を行うための初歩的な知識を獲得することを目標とする。「教育社会学調査実習」の履修者は、この講義を併修すること。
授業計画	・イントロダクション ・度数分布表 ・基本統計量 ・相関係数 ・確率モデルと統計的推定 ・統計的検定 ・平均値の差の検定 ・クロス集計と独立性の検定 ・多重クロス集計とエラボレーション ・回帰分析 ・偏相関と重回帰分析 ・回帰モデルの説明力と検定 ・回帰分析の応用(以上はあくまで予定のため、変更になる場合がある。)
授業の方法	教科書の主要部分を用いて講義を行う。また SSJ データ・アーカイブで公開されているデータ(あるいは教員が独自に収集したパネルデータ)を用いた R による実習も行う。毎回、R を用いた課題を提出することが必要となる。
成績評価方法	課題レポート 60%、期末レポート 40%
教科書	杉野勇『入門・社会統計学——2 ステップで基礎から[R で]学ぶ』(法律文化社、2017 年)
参考書	轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法[第 3 版]——2 ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社、2017 年)
履修上の注意・備考	「教育社会学調査実習」の履修者は、この講義を併修すること。「教育社会学調査実習」を履修しない学生が多数、この講義を履修すると見込まれる場合は、受講者数の調整を行う場合がある(詳細は初回の授業で説明する)。この授業科目は、社会調査士資格取得のための「D. 社会調査に必要な統計学に関する科目」、教職課程の「教科に関する科目(社会学)」にそれぞれ該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09232403	担当教員	額賀 美紗子		
単位数	2.0	学期	S2	時限	火 3, 火 4
講義題目	フィールドワークの理論と実践 Theory and Practice of Fieldwork				

授業の目的・概要	エスノグラフィーとは、ある出来事が起こっている現場に入り込み、そこに参加している人々と関わりあいながら、かれらの日常世界の成り立ちを、かれらの視点に立って内側から理解する調査方法のことを指す。参与観察(フィールドワーク)やインタビューが中心となり、質的調査法ともいわれる。この授業ではエスノグラフィーの理論とプロセスについて学び、実際にインタビューや現場のフィールドワークを演習形式で行いながら、さまざまな質的調査の方法論を習得することをめざす。
授業計画	第一回 ①質的調査とはなにか:目的、意義、プロセス ②参与観察を行う:現場のメモからフィールドノートへ 第二回 ①フィールドノートを書く:何をどう描写するか ②フィールドにアクセスする:研究者のポジショナリティと研究倫理 第三回 ①質的テキストを分析する:コーディングとグラウンデッド・セオリー・アプローチ実践 ②研究計画をたてる:先行研究・リサーチ・クエスションの設定・フィールド/対象の選定 第四回 ①話を聴く:インタビュー、生活史調査、ライフストーリー研究 ②《グループ・プロジェクト》テーマを設定し、インタビュー・ガイドラインの検討 第五回 ① インタビューの技法と授業内ミニ実践 ②《グループ・プロジェクト》データ収集の進捗状況確認、コーディングの検討 第六回 ①質的研究法を使って論文を書く:良い質的研究論文の条件 ②《グループ・プロジェクト》次週の発表準備:コードから仮説生成へ 第七回 プロジェクトのグループ発表
授業の方法	講義と演習を組み合わせる
成績評価方法	出席 20%、課題 80%
教科書	小田博志 2010 『エスノグラフィー入門—〈現場〉を質的研究する』春秋社。 佐藤郁也 2007 『フィールドワーク増訂版—書を持って街へ出よう』新曜社。
参考書	エマーソン, R. 1998. 『方法としてのフィールドノート—現地取材から物語作成まで』新曜社。 佐藤郁也 2002『フィールドワークの技法—問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社。 藤田結子・北村文編 2013 『現代エスノグラフィー:新しいフィールドワークの理論と実践』新曜社。
履修上の注意・備考	フィールドノートの作成やインタビューによるデータ収集と分析など、授業の課題が多いのでそのつもりで履修すること。積極的にディスカッションに参加することを期待する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)地理学(地誌を含む)(公)社会学

時間割コード	09232404	担当教員	多喜 弘文		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	火 2
講義題目	比較社会学の方法 Methods and Approaches in Comparative Sociology				

授業の目的・概要	社会学は、もし異なった社会的・歴史的環境に置かれていたら、今の自分とは異なる価値判断をしていたかもしれないという想像力を比較によって喚起する。この比較には様々な単位がありうるが、本講義では他社会との比較における日本社会の特徴に焦点をおき、その考え方と実証の方法を先行研究から学んでいく。根拠のない特殊性論や文化還元主義的のトートロジー、あるいは自覚なく欧米中心主義や計量帝国主義に依拠することの問題点を理解できるようになることが目標である。
授業計画	第1回: イントロダクション: 何のために比較するのか 第2回: 日本社会は特殊か 第3回: 欧米の研究者からみた日本の教育 第4回: 国内の研究者からみた日本の教育 第5回: 欧米の研究者からみた日本の労働 第6回: 国内の研究者からみた日本の労働 第7回: 教育・労働の日本的特徴にかんする先行研究の問題点 第8回: 制度的相補性について 第9回: 日本特殊性論に対する批判 第10回: 計量的な比較研究の紹介 第11回: オリエンタリズムを乗り越える 第12回: 比較社会学の方法: 理論と実証 第13回: まとめと期末課題について
授業の方法	授業は、教員による講義と受講学生による議論を組み合わせる形式でおこなう。いくつかの回では、事前に指定された文献を読み、講読票を提出したうえで授業に参加してもらう。また、いくつかの回では、講義内容と授業での議論を踏まえて感想を提出してもらう。講読票やコメントシートは、できる限り授業でフィードバックする。
成績評価方法	上述の①講読票、②コメントシートに加え、③期末レポートの提出を課す。また、④授業への積極的な参加についても一定程度加味する。以上4点の評価のウェイトは、①3割、②3割、③3割、④1割である。
教科書	授業で用いる文献は、初回の授業で指示する。
参考書	授業で中心的に取り上げる文献のうち、書籍として出版されているものを以下に挙げる(おそらく手に入りにくいものもある)。 ルース・ベネディクト, 1946=1948, 『菊と刀: 日本文化の型』講談社学術文庫。ジェームズ・アベグレン, 1958=2004, 『日本の経営<新訳版>』日本経済新聞社。中根千枝, 1967, 『タテ社会の人間関係: 単一社会の理論』講談社現代新書。ウォルター・ワラス, 1971=2018, 『科学論理の社会学: 「ワラスの輪」というモデル』ミネルヴァ書房。ロナルド・ドーア, 1973=1993, 『イギリス
履修上の注意・備考	指定がある場合には事前の文献購読や講読票の提出を求める。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232405	担当教員	小川 義和		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	月 6
講義題目	博物館教育論 Museum Education				

授業の目的・概要	博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得させ、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。 博物館教育について、博物館を利用する人々、博物館、それを取り巻く社会との関係性から考察する。博物館教育の発達とその社会的背景を紹介し、博物館教育の現代的意義を論じていく。特に従来の教育普及にとどまらない博物館教育の範囲、その独自性と学習理論、生涯学習の観点から人材養成の必要性等を概説する。これらの基礎的な知識と理論を踏まえ、変化する社会における博物館教育のあり方について実際に即して考察を深める。さらに具体的な目標論を持って博物館教育活動を企画し、評価するスキルについて演習を通じて身につけさせる。
授業計画	第 1 回 博物館教育の意義と理念(1)学びの意義 第 2 回 博物館教育の意義と理念(2)博物館教育の範囲 第 3 回 博物館教育の意義と理念(3)博物館教育の特徴 第 4 回 博物館教育の意義と理念(4)博物館教育の歴史 第 5 回 博物館教育の意義と理念(5)生涯学習の場としての博物館 第 6 回 博物館教育の意義と理念(6)人材養成の場としての博物館 第 7 回 博物館教育の意義と理念(7)博物館における学びの特性と学習理論 第 8 回 博物館教育の意義と理念(8)ミュージアムリテラシーの理念と構成 第 9 回 変化する社会における博物館教育(1)コミュニケーションとしての博物館教育 第 10 回 変化する社会における博物館教育(2)博物館の利用実態と利用者の博物館体験 第 11 回 変化する社会における博物館教育(3)博物館教育の方針と評価 第 12 回 博物館教育の実際(1)博物館教育活動の企画と実際 第 13 回 博物館教育の実際(2)博物館教育と学校教育
授業の方法	各回、前半は適宜資料を提示しつつ、テーマに基づく概説を行う。後半は受講生からのテーマに関する質問と議論を行い、教員がまとめる。受講生は問題を整理してテーマに関する報告を提出する。 受講生は最終回に課題を提出する。
成績評価方法	講義の出席・各回の提出報告書(6割)及び最終課題(4割)で判断する。
教科書	使用しない。
参考書	ジョージハイン著、鷹野光行監訳「博物館で学ぶ」(同成社, 2010) 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編「新時代の博物館学」(芙蓉書房出版, 2012) 小川義和・五月女賢司編著「挑戦する博物館 今、博物館がオモシロイ!!」(ジダイ社, 2018) 小川義和編著「協働する博物館 博学連携の充実に向けて」(ジダイ社, 2019) 小川義和・五月女賢司編著「発信する博物館 持続可能な社会に向けて」(ジダイ社, 2021)
履修上の注意・備考	受講生が主体的に、自主的に博物館を見学し、多様な博物館の様子を把握することをすすめる。また見学した博物館の現状や課題について講義中に共有するように心がける。なお博物館の見学料金や交通費な自己負担とする。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232406	担当教員	高橋 望
単位数	2.0	学期	A1A2
		時限	月 5
講義題目	比較教育行政論 Comparative Study of Educational Administration		

授業の目的・概要	本授業は、学校の自律性のあり方について、教育行政や教育経営の視点から考察し、理解を深めることを目標とする。学校の自律性は、教育行政学や教育経営学における重要課題の1つと言える。本授業では、1980年代後半以降、学校に多くの自律性を付与し、「自律的な学校経営」を導入・展開しているニュージーランドを事例として取り上げる。同国で展開される取り組み、実践等を概説し、同時に日本の事情とも比較検討しながら、授業を構成していく。
授業計画	1. オリエンテーションーニュージーランドの教育制度ー 2. 自律的な学校経営の導入①ー教育委員会と学校視学ー 3. 自律的な学校経営の導入②ー行財政改革と教育改革ー 4. 自律的な学校経営の導入③ー学校理事会制度ー 5. 自律的な学校経営の展開①ー学校評価ー 6. 自律的な学校経営の展開②ー教員評価ー 7. 自律的な学校経営の展開③ー学校への支援ー 8. 自律的な学校経営の展開④ー教員登録と教員研修ー 9. 自律的な学校経営の展開⑤ースクールリーダー養成とスクールリーダーシップー 10. 自律的な学校経営の展開⑥ー学校間連携ー 11. 民族的多様性と学校教育 12. 自律的な学校経営の見直し 13. まとめ
授業の方法	・講義形式を主体とするが、受講者によるディスカッションを取り入れながら構成する予定である。 ・授業内容に応じて、小課題の提出を求めることがある。
成績評価方法	・最終課題レポート(約 60%) ・平常点(約 40%)平常点は、授業中の小課題、授業への参加・貢献度を総合的に評価する。
教科書	特に指定しない。
参考書	・石附実・笹森健編『オーストラリア・ニュージーランドの教育』東信堂、2001年。 ・青木麻衣子・佐藤博志編『第三版 オーストラリア・ニュージーランドの教育』東信堂、2020年。
履修上の注意・備考	・諸外国(とりわけニュージーランドやオーストラリア)の教育に関心があることが望ましい。 ・教育行政、教育経営、学校経営、教育制度等に関心があることが望ましい。 ・意見を求めることが多くなるので、積極的な参加が求められる。 ・配布した資料等を確認し、各回の内容理解に努めること。 ・初回に授業の進め方等について説明をするので、参加することを求める。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232407	担当教員	淵上 孝		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	月 1
講義題目	教育法 Educational Law				

授業の目的・概要	我が国の教育関係法令の体系を理解しつつ、教育基本法・学校教育法をはじめとする主要な法律の構造や内容、最近の改正の動向などを学ぶことによって、今後の教育政策のあり方や教育現場が直面する重要課題への対応策について考察する上での基礎を培うことを目標とします。 なお、授業では初等中等教育に関する法令を中心に学びますが、高等教育に関する法令等も取り上げます。
授業計画	※ 以下の授業計画は、全面対面授業で実施する場合を想定しています。 オンライン授業になる場合は、変更があり得ます。 第1回 ガイダンス、教育法規の基礎 第2回 我が国の学校教育制度の歴史 第3回 教育行政に関する法令 第4回 教育財政に関する法令 第5回 教育課程・学習内容に関する法令 第6回 教職員に関する法令 第7回 生徒指導(いじめ、不登校等)に関する法令 第8回 幼児教育・保育に関する法令 第9回 特別支援教育に関する法令 第10回 学校安全・学校保健に関する法令 第11回 高等学校教育に関する法令 第12回 高等教育に関する法令(1) 第13回 高等教育に関する法令(2) 第14回 修了試験
授業の方法	講義形式
成績評価方法	対面授業の場合 ①筆記試験(60%)、②授業における議論への貢献度・出席状況、課題提出(40%)に基づいて評価します。 ※全面オンライン授業となり、筆記試験が実施できない場合には別途お示しします。
教科書	講師が最新の情報も含めた資料を用意します。
参考書	授業では直接使用しませんが、授業内容の理解を深める上での参考図書として、以下の文献を挙げておきます。 「逐条解説 改正教育基本法」(教育基本法研究会、第一法規) 「逐条 学校教育法」(鈴木勲、学陽書房) 「逐条解説 地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(木田宏、教育行政研究会、第一法規) 「教員・教員志望者のための教育法の基礎」(樋口修資、明星大学出版部) 「新訂第5版 やさしい教育法規の読み方」(菱村幸彦、教育開発研究所)
履修上の注意・備考	授業は、講義形式を中心としつつ、受講者各自の興味・関心の高い部分についての発表、ディスカッション、それまでに学んだ内容をもとにしたグループ・ワークなどを適宜活用する。 受講生は事前にシラバスを熟読し、講義全体の流れを把握するとともに、講義の中で扱われるテーマの中で、自分が主として興味関心・課題意識を持っているものは何かを考えておくこと。 事前学習として事前にアップされる資料に目を通しておくこと。 また、各回の授業の翌日までに、授業の感想および質問を提出する。 講師は現役の国家公務員(文部科学省職員)であるため、受講生の中に公務員志望者がいる場合は、必要に応じ、中央官庁における行政実務や勤務の様子などについても触れたり、文部科学省の若手職員を授業に招いて懇談する機会を設けたりする予定です。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)法律学(公)法律学(国際法を含む)

時間割コード	09232408	担当教員	山内 祐平		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	水 2
講義題目	学習環境のデザイン Design of Learning Environment				

授業の目的・概要	学習環境のデザインについてデジタル教材、オンライン学習、ワークショップなどの事例研究を通じて検討する。 知識目標:「理解や問題解決の支援」を教材として実装する方法を知る 技能目標:教材のポイントを発表し、本質を議論する技能を身につける
授業計画	2023/04/05 オリエンテーション 授業の概説 2023/04/19 デジタル教材概論 領域の概論 2023/04/26 ゲストトーク 2023/05/10 初等中等教育での展開 Khan Academy 2023/05/17 高等教育での展開 Minerva Schools 2023/05/24 幼児教育での展開 Kits 2023/05/31 企業内教育での展開 ムビケーション 2023/06/07 オープンエデュケーション Coursera 2023/06/14 シリアスゲーム Minecraft 2023/06/21 ICT を用いたプロジェクト学習 Google for Education 2023/06/28 ゲストトーク 2023/07/05 STEAM 教育 MakeBlock 2023/07/12 ワークショップ CAMP (ゲスト との調整で一部変更の可能性あります)
授業の方法	1)担当グループが事例研究を行い発表する 2)事例についてグループで議論し、デザインの特徴と課題について検討する 3)議論から出た疑問を報告グループに投げかけ、問いを深める 4)教育・学習研究の概念との接続について教員が解説する
成績評価方法	毎回の小レポート評価(50%) グループの事例研究報告の評価(25%) グループ議論における貢献と発見(25%)
教科書	山内祐平「学習環境のイノベーション」東京大学出版会、2020
参考書	山内祐平編「デジタル教材の教育学」東京大学出版会、2010 山内祐平編「学びの空間が大学を変える」ポイックス出版、2010 山内祐平・森玲奈・安斎勇樹「ワークショップデザイン論」慶応大学出版会、2013
履修上の注意・備考	グループワークのため履修人数制限あり(20 名) オリエンテーション時に 20 名を超えた場合には授業後に抽選を行い、落選者に連絡する。 抽選を行った場合公平性を担保するため 2 回目からの履修はできないので注意すること。 本授業は対面での参加を原則とし、特別な事情がある場合のみオンライン参加を認めるハイブリッド形式で行う。 各種資料の提供およびレポート提出は ICT-LMS で行うため、そちらも履修登録を行うこと。 4 月 5 日(水)10:30 より Zoom でオリエンテーションを行いません。 参加する際には以下のアドレスにアクセスしてください。 https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/87841186119?pwd=ZlgzeHJuc1hjWTVKUXNXSEhWTWIOZz09 ミーティング ID: 8
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232409	担当教員	妹尾 涉		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	水 6
講義題目	教育政策の計量分析入門 Introduction to Quantitative Analysis of Education Policy				

授業の目的・概要	教育に関して集められたデータについて、どのような統計的な処理を利用すると、なにが明らかになるのか、そしてそこから何が言えるのか、また、逆になにが言えないのか、について、実践的に学びます。最終的な目標は、教育に関するデータの収集から効果の測定とその解釈までが自分一人で実践できるようになることです。
授業計画	1 R の使い方 2 記述統計 3 層別分析・可視化 4 t検定 5 分散分析・多重比較 6 効果量 7 相関分析 8 回帰分析 ① 9 回帰分析② 10 回帰分析の応用 11 ロジスティック回帰分析 12 因子分析 13 その他の応用分析
授業の方法	講義では、まず、統計ソフト(フリーソフト)の R のインストールとそのプログラミングの基礎について学びます。次に、データの集計方法、図表の作成、といった統計の基礎的な処理の方法について学びます。最後に、より高度な統計分析の手法について学びます。毎回の講義では、最初に教科書の該当部分の解説を行い、その後に実際のデータを用いて各自の PC で分析を行います。
成績評価方法	毎回の課題の提出(80%)と最終レポートの提出(20%)
教科書	小林雄一郎・濱田彰・水本篤(2020)『R による教育データ分析入門』オーム社
参考書	浅野正彦・矢内勇生(2018)『R による計量政治学』オーム社
履修上の注意・備考	授業の参加にあたって、R の使える PC(windows, MacOS, Linux のいずれかの OS がインストールされたもの)を 各自で用意すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232410	担当教員	高橋 和子		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	英語教授法・学習法概論 An Introduction to Methodologies for Teaching and Learning English				

授業の目的・概要	<p>・英語教育者として必要な基礎知識(母語・第二言語習得, 外国語教授法, 4技能5領域、学習者理論等)を概観し、これらの理解を深める ・各自の外国語教育・学習歴を振り返り、英語教育・英語学習に対する認識を深める ・効果的な英語教授法・学習法について歴史を踏まえて考察し、これからの英語教授法・学習法を展望する 以上の目標達成を目指して、状況に応じながら、双方向的な授業を行います。</p>
授業計画	<p>第1回:イントロダクション 第2回:学習者(各自の英語教育歴・学習歴を踏まえて) 第3回:外国語教授法1(文字中心) 第4回:外国語教授法2(音声中心) 第5回:外国語教授法3(コミュニケーション中心) 第6回:聞くことの指導と学習 第7回:読むことの指導と学習1(アナログ時代) 第8回:読むことの指導と学習2(デジタル時代) 第9回:話すことの指導と学習 第10回:書くことの指導と学習 第11回:これからの英語教授法 第12回:これからの英語学習法 第13回:授業のまとめ ※注意:上記計画は、受講者の状況等に伴って、変更の可能性があります。変更等の連絡は、必要に応じてLMSで行います。 </p>
授業の方法	<p>・検定教科書等に掲載されている教材分析の他、これらと関連する資料を使用しながら授業を行います。 ・講義と演習を組み合わせた授業形態です。 ・受講者同士のグループワークを随時取り入れます。 ・LMSでの教材配布、ZOOMでの授業を組み合わせる予定です。 </p>
成績評価方法	<p>・課題 30%、最終レポート 70% ・上記にグループワークの成果、ZOOM や LMS へのログイン状況等も踏まえて、総合的に評価します。</p>
教科書	<p>・教材を配布します </p>
参考書	<p>・Jack C. Richards and Theodore S. Rogers. Approaches and Methods in Language Teaching. Second edition. Cambridge University Press. ・伊村元道『日本の英語教育 200 年』大修館書店 ・田崎清忠編『現代英語教授法総覧』大修館書店 ・今井むつみ『英語独習法』岩波新書 その他は授業中に紹介します</p>
履修上の注意・備考	<p>【準備学習(講義を履修するために必要な予備知識)等] 本科目は、現在の外国語(英語)教育の概要を理解していることを前提に進めます。 これらの概要を把握していない場合、各学校種の『学習指導要領』及び同解説(外国語・英語教育関係)をあらかじめご覧ください。以下の文部科学省ホームページより入手可能です(2023年1月5日現在): https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.html 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』の付録8・9・10は学校種を横断して目標や言語材料が閲覧可能です。 </p> <p>・本講義は集中講義で行います。日程および実施形態等は、関連部署が発信する情報をご覧ください。 ・配布教材に基づいて学習し、問題意識を持って授業に臨んでください。 ・授業に関する情報は、LMSのお知らせ欄で周知します。定期的にお知らせを見るようにして下さい。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232411	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 5
講義題目	博物館概論 Introduction to Museum Studies				

授業の目的・概要	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。博物館とはいかなる、何のための施設なのかについて、定義、歴史、国際比較等の多面的な視野から理解することを目標とする。博物館という場所を通じて、人はなぜものを集めるのか、ものをみるとはどういうことか、といった問いについて考える。博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。博物館とはいかなる、何のための施設なのかについて、定義、歴史、国際比較等の多面的な視野から理解することを目標とする。博物館という場所を通じて、人はなぜものを集めるのか、ものをみるとはどういうことか、といった問いについて考える。また、博物館以外の文化・教育施設(公共ホール、公民館、図書館等)、文化的な活動が生起する空間も視野に入れる。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 博物館学の目的・方法・構成 3. 博物館という思想 4. 博物館の定義 5. 博物館史(1)古代ギリシア～17 世紀 6. 博物館史(2)ベーコン～19 世紀 7. 博物館史(3)文明のなかの博物学 8. 博物館史(4)近代日本の博物館 9. 博物館と社会 10. 記憶の場所としての博物館(1)想起について 11. 記憶の場所としての博物館(2)東京大学との関わり 12. 体験・触発・教育 13. 参加と創造の支援／情報・身体・機会 14. 博物館をとりまく人 15. まとめ
授業の方法	基本はオンライン講義とする予定だが、感染症の動向をみつつ変更する場合は授業開始までに指示する。博物館見学やゲスト講義等もおりませる予定である。
成績評価方法	最終レポート(50%)および授業中に出す課題(50%)による。
教科書	特に使用しない。
参考書	中小路久美代・新藤浩伸・岡田猛・山本泰裕編『触発するミュージアム』あいり出版、2016 ミヒャエル・パーモンティエ著、眞壁宏幹訳『ミュージアム・エデュケーション 感性と知性を拓く想起空間』慶應義塾大学出版会、2012年 その他授業中に指示する。
履修上の注意・備考	一口に博物館といっても館種も領域也多岐にわたるため、自分自身の専門領域を超えて幅広く関心を持って頂きたい。 ICOM: The International Council of Museums http://icom.museum/
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232412	担当教員	福島 幸宏
単位数	2.0	学期	A2
		時限	木 4, 木 5
講義題目	図書館・博物館情報メディア論 Information Media in Library and Museum		

授業の目的・概要	図書館・博物館等における情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。その際、現場の実態を提示するとともに、情報を活用するための前提となる知的財産権や情報倫理についても言及する。また、情報メディアをその歴史性から検討する視野を持てることも目標とする。
授業計画	1. 資料と情報-その過去と現在 2. 資料と情報-その未来 3. 文化資源をめぐる関係制度・法制 4. 図書館・博物館等の資料管理システムとweb サイト 5. 施設見学 6. 図書館・博物館等の情報の流通と連携 7. 文化資源を拓く
授業の方法	講師による講義を基本とするが、随時受講者からの発言を求めるとともに、各回ごとに意見等の提出を求める。
成績評価方法	授業中の発言等を通じての授業への参加(10%)、レポート(90%)を総合的に評価する。
教科書	指定しない。
参考書	岡田一祐 2019『ネット文化資源の読み方・作り方』(文学通信) 時実象一 2015『デジタルアーカイブの最前線』(講談社ブルーバックス) 長尾真 1994『電子図書館』(岩波書店)(新装版は 2010) 日本図書館情報学会用語事典編集委員会編 2020『図書館情報学用語事典 第 5 版』(丸善出版) 庭田杏珠・渡邊英徳 2020『AI とカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争』(光文社) 蛭田廣一 2019『地域資料サービスの実践(日本図書館協会) 福井健策監修・数藤雅彦責任編集 2019『権利処理と法の実務』(勉誠出版)
履修上の注意・備考	様々な図書館・博物館等の動向を取り上げて講義を行うので、平素からさまざまな図書館・博物館等の動向に注視し、その情報発信の状況に関心を持っておくこと。特に国立国会図書館のカレントアウェアネス・ポータル https://current.ndl.go.jp/ を毎日チェックすることが望ましい。 講義内容は進行状況によって前後する場合がある。 また、状況によってはゲスト講師を依頼することもある。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232413	担当教員	藤江 陽子		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	生涯学習政策論 Study on Lifelong Learning Policy				

授業の目的・概要

人生 100 年時代、Society5.0 の到来、DX の急速な進展など、急速な変化を続ける社会においては生涯学習・社会教育の役割も従来の枠にとどまらず、時代・社会の変化に見合うものに変化していくことが求められている。経済先進諸国においては、経済的な豊かさのみならず精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える「ウェルビーイング」の考え方が重視されてきており、我が国でも教育を通じて日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図ることが求められる。| VUCA の時代とも呼ばれる予測困難な時代では、学校教育終了後も人生の諸段階に応じて様々な学びが不可欠となる。今後は時代のニーズに即して職業上新たに必要なスキルを習得するためのリスキリング、社会人を対象とした職業能力等の向上のためのアップスキリングにとどまらず、社会変化に対応して年齢問わず必要となる基礎的なスキル習得のための学習や、自己実現を図る上で必要となる学習等も含めた広い意味でのリカレント教育を個々人のニーズに応じえて受けられる機会の充実を図り、生涯を通じたウェルビーイングの実現につなげることが重要である。| また、生涯学習・社会教育は、人々の生活基盤を形成する「学び」の実践を核とした地域づくりのための営みという性格を強く持っており、これまでもコミュニティ形成の基盤となる役割を担ってきた。今後はデジタル社会において不可欠となるデジタルデバイドの解消等の新たな課題にも対応し、各地域において誰一人取り残さない社会的包摂を実現することで、個人だけではなく地域社会のウェルビーイングにもつなげることも求められている。| 本講義では、現在の我が国を取り巻く社会環境の変化を踏まえつつ、生涯学習や社会教育について地域レベル、国レベルでの現状と施策の全体像を把握するとともに今後の展望を考察する。| 文部科学省や自治体において生涯学習・社会教育政策、教育行政等を担当した経験のある職員による講義も設ける。また受講者との対話や意見交換の場も設け、行政担当者が何を考え、感じながら施策の立案・推進に当たっているかを披瀝しつつ、今後の政策について共に考える講義としたい。||Our society is continuously facing rapid changes, such as the coming era of the 100-year lifespan, the advent of Society 5.0, the rapid advances in digitalization, and so on. In such a society, the role of lifelong learning and social education will be required to go beyond traditional frameworks and adapt to these rapid social changes. In economically advanced countries, greater focus is being given to the concept of “well-being,” which is not confined to economic prosperity only but centers on happiness and purpose of life, from good health to spiritual richness. In Japan as well, there is a pressing need to improve well-being that is rooted in Japanese society through education.||In our unpredictable times, called the VUCA era — a time of “volatility, uncertainty, complexity, and ambiguity” — diverse learning after the completion of school education is now indispensable for coping with each stage of life. Not only “reskilling” for acquiring new occupational skills according to the needs of society, or even “upskilling” targeting working adults for improving their occupational capabilities will be adequate. What will be required are the kind of learning for acquiring, regardless of age, the basic skills necessary to cope with changes in society and the enhancement of opportunities for receiving recurrent education in a broad sense, including learning needed for self-actualization, according to each person’s individual needs. These will be essential for achieving well-being throughout one’s life. ||Moreover, lifelong learning and social education are strongly characterized by action for regional development that centers on “learning” that will form the foundation of people’s daily lives, and they have played a key, fundamental role in building the community up to now. They are also essential for leading to the well-being of not only the individual but also the regional society as well by dealing with new issues such as the bridging of the digital divide, now an indispensable task in our increasingly digital society, and realizing an inclusive society where no one is left behind in any region. ||These lectures will provide

	<p>an overview of the current situation and policies regarding lifelong learning and social education at the regional and national levels; as well as consider future prospects for education in this area based on the changes in the social environment surrounding Japan. The lectures will be given by an officer of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) responsible for lifelong learning policy; social education policy; and education administration at MEXT and local governments; or by a MEXT officer with past experience in this area. Moreover, opportunities will be provided for discussion and exchanges of views with the MEXT official. The lectures will be “open and relevant” and enable participants to consider together with the lecturer future policy while revealing what administrative officials think and feel when formulating and administering policy measures.</p>
授業計画	<p>(若干変更する可能性あり) 1. 教育政策の全体像と方向性 2. 社会教育と社会教育行政の現状と課題 3. 生涯学習と生涯学習行政の現状と課題 4. 学校・地域の連携・協働、大学と地域との連携 5. 共生社会に関する学習の現状と課題 6. 文部科学省総合教育政策局職員との対話・意見交換 等 (may be revised slightly) 1.Overview and direction of education policy 2.Current situation and issues regarding social education and social education administration 3.Current situation and issues regarding lifelong learning and lifelong learning administration 4.School and community coordination/collaboration; university and community coordination/collaboration 5.Current situation and issues regarding learning for an inclusive society 6.Discussion/exchange of views with official from the Education Policy Bureau at MEXT </p>
授業の方法	<p>講義、討議等/Lecture; discussion; etc.</p>
成績評価方法	<p>出席状況や討議への貢献、レポート等を通じた総合評価とする/Overall evaluation based on attendance; contribution to discussion; report; etc.</p>
教科書	<p>特になし/None in particular</p>
参考書	<p>講師が講義の中で必要な資料を配付する予定/Lecturer scheduled to distribute necessary materials during class.</p>
履修上の注意・備考	<p>・講師との対話や討議の時間を設ける予定であるので、積極的な参加を期待する。 ・以下の審議会の議論等を確認しておくこと 中央教育審議会生涯学習分科会 (https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/index.htm) 中央教育審議会教育振興基本計画部会 (https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo17/index.html) Since time for discussion with the lecturer will be provided; attendees are expected to participate actively. Refer to the discussions; etc. by the following national councils beforehand: Lifelong Learning Subcommittee of Central Council for Education (https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/index.htm) Special Committee on the Basic Plan for the Promotion of Education; Central Council for Education (https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo17/index.html) </p> <p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm * See website for schedule and classroom of lectures Student support team website; timetable; undergraduate faculty (intensive lecture) http://</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232414	担当教員	山崎 亮		
単位数	2.0	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	社会教育経営論 Management of Adult and Lifelong Learning				

授業の目的・概要	まちづくりの現場ではワークショップ参加者の学びが必要になる。その学びをどう進めていくべきなのかを、履修生同士の学び合いの中から見つけ出し、提案することを目標とする。
授業計画	・1 日目: ジョン・デューイの生涯と思想を調べ、共有する。 ・2 日目: デューイの思想に基づいて、あるべき社会教育のプログラムについて検討する。 ・3 日目: グループごとに検討したプログラムを発表する。
授業の方法	・対面の授業とする ・グループワークを基本とする。 ・インターネットや図書館などを使った文献調査を行う。 ・調査内容や提案内容を発表する。
成績評価方法	・発表内容に基づいてグループに素点を設定する。 ・グループの構成員は、各自の貢献度合い(エフォート)を設定する。 ・グループの素点にエフォートをかけ合わせ、適切に補正した上で成績を確定させる。
教科書	特になし。
参考書	・ジョン・デューイ『民主主義と教育(上下)』1975、岩波文庫 ・ジョン・デューイ『学校と社会』1957、岩波文庫 ・ジョン・デューイ『経験と教育』2004、講談社学術文庫 ・ジョン・デューイ『公衆とその諸問題』2014、ちくま学芸文庫 ・上野正道『ジョン・デューイ: 民主主義と教育の哲学』2022、岩波新書 ・山田英世『J デューイ』1966、清水書院 ・田浦武雄『デューイとその時代』1984、玉川大学出版部
履修上の注意・備考	・履修生の主体的な学びを軸にしたグループワークが基本となる。 ・教員はファシリテーター役に徹する。 ・インターネットや図書館などでの文献調査が含まれる。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232415	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2.0	学期	A1	時限	月 5, 木 5
講義題目	図書館サービス論 Library Services				

授業の目的・概要	図書館におけるサービスは、その対象や図書館の種類によってさまざまである。そういったサービスをその歴史や関係する法制度とともに概観しつつ、図書館が競合するサービスとの関係の中でどのように位置づけられているのかを明らかにする。
授業計画	1 オリエンテーション 2 図書館サービスの基本 3 資料提供サービス 4 情報サービス 5 館種ごとのサービス 6 利用対象者ごとのサービス 7 中間まとめ 8 広報、企画、集会活動 9 図書館協力 10 図書館と法制度 11 図書館以外における同種のサービス 12 これからの図書館サービス 13 最終まとめ
授業の方法	教科書は使わず、レジュメを配布する。
成績評価方法	授業への積極的参加およびテストによって評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意・備考	特になし。 ITC-LMS (https://itc-lms.ecc.u-tokyo.ac.jp/portal/login) からレジュメをダウンロードできるようにする予定。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232416	担当教員	小山 憲司		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 4
講義題目	大学図書館サービス論 University Library Services				

授業の目的・概要	<p>大学図書館は、大学の組織の一部である。したがって大学図書館は、大学が果たすべき使命、すなわち研究、学習・教育、そして社会貢献を十全に達成できるよう、そのサービスを構築し、運用することが求められる。本授業では、これら大学の 3 つの使命を切り口として、大学図書館サービスの現状および課題を明らかにし、今後のサービスのありかたについて検討する。 Academic libraries are part of the universities to which they belong. Therefore academic libraries are expected to develop and operate their services to achieve the universities' mission of research and learning and teaching and social contribution. This course will consider the functions, roles, and services of academic libraries and examine their current status, challenges, and prospects.</p>
授業計画	<p>1. ガイダンス、大学図書館に利用者を知る 2. 高等教育政策と大学図書館 3. 身近な大学図書館を知る(1): 課題提示 4. 身近な大学図書館を知る(2): 発表、まとめとふりかえり 5. 大学図書館を支える学術情報基盤 6. 大学図書館と学習支援 7. 多様な学習支援を考える(1): 課題提示 8. 多様な学習支援を考える(2): 発表、まとめとふりかえり 9. 大学図書館と研究支援 10. 多様な研究支援を考える(1): 課題提示 11. 多様な研究支援を考える(2): 発表、まとめとふりかえり 12. 大学図書館と資料保存 13. 大学図書館サービスの課題と今後の展望 14. まとめ</p>
授業の方法	講義、グループワーク、グループワークの成果発表と議論
成績評価方法	期末レポート 40%、授業への参画度 60%
教科書	テキストは使用しない。 授業で用いる文献は、その都度指示する。
参考書	<p>竹内比呂也、逸村裕編『変わりゆく大学図書館』勁草書房、2005。 倉田敬子著『学術情報流通とオープンアクセス』勁草書房、2007。 加藤信也、小山憲司共編訳『ラーニング・コモンズ: 大学図書館の新しいかたち』勁草書房、2012。 ジョン・ポールフリー著、雪野あき訳『ネット時代の図書館戦略』原書房、2016。 クリスティン・L・ボーグマン著、佐藤義則、小山憲司共訳『ビ</p>
履修上の注意・備考	<p>授業では、3 回程度のグループワークを取り入れる予定である。受講者の積極的な参画を希望する。</p> <p>授業は対面を基本とするが、新型コロナウイルスの状況および授業内容に応じてオンラインで実施することも想定している。なお、授業を円滑に進めるために、ITC-LMS(https://itc-lms.ecc.u-tokyo.ac.jp/)を利用する予定である。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232417	担当教員	山田 翔平		
単位数	2.0	学期	A2	時限	金 1, 金 2
講義題目	情報組織論 Theories of Information Organization				

授業の目的・概要	<p>伝統的な図書館の世界では、目録と分類が資料組織化の2つの中心であった。21世紀は、文字、画像、動画、音声、ソフトウェアなどあらゆる形式の情報・知識がデジタル化され、コンピュータ・ネットワーク上に膨大かつ半永久的に蓄積される時代であるが、今も目録と分類が情報組織化の重要な手法であることに変わりはない。 本授業の目的は、目録を中心とする情報組織化についての基礎的理論と実践的技法を学び、さらに学習・研究を続ける契機となる問題意識を獲得することにある。授業は、(1)情報組織化および目録の社会的な意義・機能と、その歴史的な変化について学ぶパート、(2)印刷資料をモデルとして確立した目録法(おもに記述目録法)の理論と技法を学ぶパート、(3)あらゆる情報メディアを対象として構築されつつある書誌コントロールの理論と技法を学ぶパートの順に進める。(2)では、目録の対象となる情報資源集合の構造について、とりわけ情報資源の同一性の問題も取り上げる。また(2)と(3)では、授業中および授業時間外の実習を一部行う予定。</p>
授業計画	<p>1. 導入: 図書館と情報組織化, 情報組織化と目録法 2. 目録の歴史(1): 古代から 19 世紀まで, 目録の歴史(2): 20 世紀以降 3. 記述目録法(1): 『日本目録規則』, 記述目録法(2): 書誌記入の構成要素と記述の原則 4. 記述目録法(3): 図書・逐次刊行物の記述, 小テスト(1)と解説 5. メタデータ(1): 目録法見直しの必要性, メタデータ(2): ダブリンコアと RDF 6. メタデータ(3): FRBR と RDA, 書誌コントロール(1): 国立国会図書館, 書誌コントロール(2): 書誌ユーティリティと IFLA 7. 書誌コントロール(3): 非コントロール情報資源, 小テスト(2)と解説 </p>
授業の方法	<p>基本的に講義形式と実習を交互に行う。また講義の際には、個別に指名して質問に回答してもらう。毎回授業資料を配布する予定。</p>
成績評価方法	<p>授業中に行う数回の発表、小課題、小テストおよび授業への参加度により総合的に評価する。</p>
教科書	<p>使用しない。</p>
参考書	<p>以下の 2 点のほかは授業中に随時紹介する。 ・根本彰著『文献世界の構造』勁草書房&comma; 1998。 ・根本彰・岸田和明編『情報資源の組織化と提供』東大出版会&comma; 2013。</p>
履修上の注意・備考	<p>本科目は司書課程の必修科目に該当する。なお、司書資格を希望していなくても履修可能である。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232418	担当教員	今井 福司		
単位数	2.0	学期	S1	時限	金 1, 金 2
講義題目	学校経営と学校図書館 School Management and School Libraries				

授業の目的・概要	<p>学校図書館は、学校図書館法において学校教育に資する施設であることが明記されており、学校教育を支える基盤とされている。しかし実態は一致しておらず、資料、予算、人、周囲の理解を含めて課題が多く残されている。このような状況の中では、司書教諭は単に求めに応じてサービスを提供するだけでなく、自ら積極的に周囲の教員や学校関係者に働きかけを行い、実践を展開せざるを得ない。この授業においてはそうした実践を展開するときに、必要となる知識や基本的なスキルを身につけることを目的とする。特に、学校経営の文脈だけに限らず、学校図書館に関わるあらゆる分野の基本的な内容を幅広く扱い、他の司書教諭講習相当科目に対する入門編とすることを意図している。 その上で、本授業では司書教諭として、学校内において積極的に学校図書館実践を展開していくために必要とされる基本的な知識を身につけた上で、学校教育の目的と対応させた学校図書館実践について、受講者がアイデアを提示できるようになることを目標とする。 The School Library Law clearly states that school libraries are facilities that contribute to school education&comma; and they are regarded as the foundation that supports school education. However&comma; the actual situation is not consistent&comma; and many issues remain&comma; including materials&comma; budget&comma; personnel&comma; and the understanding of the surrounding community. Under these circumstances&comma; librarians must not only provide services in response to requests&comma; but must also proactively encourage surrounding teachers and school personnel to develop their own practices. In this class&comma; we aim to acquire the knowledge and basic skills necessary to develop such practices. In particular&comma; it is intended to cover a wide range of basic content in all fields related to school libraries&comma; not only in the context of school management&comma; and to serve as an introduction to other subjects equivalent to the course for teacher librarians. In addition&comma; this course aims to provide students with the basic knowledge necessary to actively develop school library practices in schools as a teacher librarian&comma; and to enable them to propose ideas for school library practices that correspond to the objectives of school education.</p>
授業計画	<p>第 1 回 授業概要の説明、学校図書館に関する統計数字 第 2 回 学校教育実践における学校図書館、学校図書館関係法規と国、自治体の振興政策 第 3 回 アメリカ・日本における学校図書館史とその理念・意義 第 4 回 学習指導要領における学校図書館の扱い 第 5 回 学校図書館の整備 I メディアの選択と組織化 第 6 回 学校図書館の活動 I 読書センターとしての活動 第 7 回 多様なニーズに向けた学校図書館のあり方 第 8 回 学校図書館の活動 II: 学習・情報センターとしての活動 第 9 回 学校図書館職員の位置づけ 第 10 回 学校図書館の経営(学校教育計画の中での位置づけ)、学校図書館の評価と改善 第 11 回 著作権と学校図書館の関わり 第 12 回 学校図書館の整備 II 環境整備(施設・設備) 第 13 回 図書館の自由に関する宣言と学校図書館 第 14 回 情報教育と学校図書館の関わり 第 15 回 試験とまとめ</p>
授業の方法	<p>講義を中心とし、受講生の人数に応じて、ディスカッションや演習を取り入れた授業を行う予定である。授業前の予習復習時間は 1 コマあたり 4 時間を予定している。</p>
成績評価方法	<p>授業の参加(発言を頻繁に求める)、グループ・個人発表、授業時間外に取り組む課題(レポート)、小テストを 50%、最終試験もしくは最終課題を 50%として、総合評価 60%以上を単位認定の最低条件とする。</p>
教科書	<p>坂田 仰、河内 祥子(編著).『学校図書館への招待(第 2 版)』八千代出版 &comma; 2020. この他、頻繁にレジュメや参考資料を配布する。</p>
参考書	<p>根本彰編(著).『探究学習と図書館－調べる学習コンクールがもたらす効果』学文社&comma; 2012. 日本図書館協会 図書館利用教育委員会(編著).『問いをつくるスパイラルー考えることから探究学習をはじめよう!』日本図書館協会, 2011.</p>

履修上の注意・備考

履修者は以下の事項をあらかじめ了解した上で授業に臨むこと。|・本科目は司書教諭資格取得の 5 科目のうちの概論的なものであるため、最初に履修することが望ましい。また学校教育に関する知識が事前にあると好ましいため、事前学習することを推奨する。|・最終試験の受験資格は全 14 コマの授業のうち、原則として 9 コマ以上の出席がある受講者のみとする。|【以下は対面授業時の注意事項】|・授業進行の都合上、初回に受講者の座席指定を行う予定である。よって、初回は特段の理由がない限り欠席しないこと。|・授業の連絡は電子メールで行う。授業用メールアドレスからの連絡が受け取れるように、各自でメッセージフィルタの設定を行っておくこと。受講人数によっては欠席する際に、事前の連絡を求める場合がある(事前連絡の要不要は初回に指定する)。|・携帯電話の電源は切っておくこと。就職活動などで電話を待つ場合には、授業開始時にその旨を教員に伝え、マナーモードに設定し、退室の上で通話すること。|・その他、授業進行上妨げとなるような行為を行わないこと。|履修登録を行った学生は、以上の事項並びに初回オリエンテーションの内容を承諾したと見なす。「シラバスを読んでいなかった」「初回授業に出席していなかった」という理由であっても、後日の異議の申し出は受けつけない。

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09232419	担当教員	庭井 史絵
単位数	2.0	学期	S2
		時限	金 1, 金 2
講義題目	探究学習の方法 Methodology of Inquiry Learning		

授業の目的・概要	<p>【目標】この授業は、司書教諭資格取得のための科目「学習指導と学校図書館」に位置づけられている。そのため、学校図書館の機能を生かした探究学習について理解することが主たる目標である。探究学習の方法のみを取り扱う授業ではないことに注意されたい。【概要】学校図書館が、学校の内外で行われる教育活動にどのように関わり、児童・生徒の学びをいかに支援するのかについて講義する。学校図書館は、単に読書材を提供する場ではない。司書教諭は教科教員と連携して、授業計画を立て、チームティーチングによる指導を実践する必要がある。また児童・生徒の学びを支援するための情報環境を作り、それらが効果的に利用されるようさまざまなサービスを提供しなければならない。教育課程の展開に寄与する学校図書館のあり方を踏まえた上で、学校図書館を活用した探究学習の方法について学び、学生自らが「学校図書館を活用した授業」の指導案を作成する。指導案作成にあたっては、探究学習や情報利用に関する理論モデルを踏まえる。</p>
授業計画	<p>1. 学校教育に必要な資料と学校図書館メディア 2. 探究学習のプロセス 3. 学校図書館を活用した学びのプロセス①テーマを決める 4. 学校図書館を活用した学びのプロセス②問いをつくる 5. 学校図書館を活用した学びのプロセス③情報を収集する(本の探し方と使い方の指導) 6. 学習のための学校図書館コレクション(図書館演習) 7. 学校図書館を活用した学びのプロセス④情報を収集する(図書館演習) 8. 学校図書館を活用した学びのプロセス⑤情報を収集する(インターネットと DB) 9. 学校図書館を活用した学びのプロセス⑥情報を整理分析する 10. 学校図書館を活用した学びのプロセス⑦情報を使った書き方 11. 学校図書館を活用した授業の設計①(指導案の作成) 12. 学校図書館を活用した授業の設計②(模擬授業) 13. 学校図書館を活用した授業の設計③(相互評価)</p>
授業の方法	<p>講義と、学生自身による「学校図書館を利用した授業」の事例調査、情報源の選択とリスト化、教材作成、指導案作成、模擬授業を演習として行い、成果の共有と相互評価を行う。公共図書館、あるいは大学図書館での実習を行う。必要に応じて、オンラインデータベースの検索、Youtube の動画の視聴、Web サイト参照を指示するので、インターネット環境が必要になる。</p>
成績評価方法	<p>授業内の課題によって評価する。具体的には、「学校図書館を活用した授業実践例」の調査調査・報告(20%)、情報源リスト作成(20%)、「学校図書館を利用した授業」の指導案と教材作成(20%)、模擬授業(20%)、これらの課題における相互評価への貢献度(20%)による。授業を欠席した場合は(公欠を含む)、自分で教科書や配布資料を読んだうえで課題に取り組んで提出すること(欠席に対する特別な課題は出さない)。</p>
教科書	<p>「探究学校図書館学」編集委員会編著、学習指導と学校図書館(探究学校図書館学 3)、全国学校図書館協議会(2020)、978-4-7933-2276-1</p>
参考書	<p>授業中に紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>★学校図書館司書教諭資格取得のための科目「学習指導と学校図書館」の位置付けである。そのため、授業の内容は学校図書館と学習指導について扱う。その点を良く理解したうえで履修すること。★児童青少年向けの図書を利用するため、1日(2授業分)を近隣の公共図書館で実習を行うことを予定している。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09232420	担当教員	小国 喜弘、能智 正博、野崎 大地、熊谷 晋一郎、近藤 武夫、額賀 美紗子、東郷 史治、飯野 由里子、大塚 類、星加 良司		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	ダイバーシティ・インクルージョン概論 Introduction to the Theories of Diversity and Inclusion				

授業の目的・概要	<p>障害者・女性・性的マイノリティ・外国にルーツを持つ人々等、多様な背景や特性を持つ人々の包摂(ダイバーシティ・インクルージョン)の必要性が社会的な関心事となっている。一方で、現実を目を向ければ、多様性の包摂は道半ばであるばかりでなく、ヘイトやバックラッシュ等、差異や多様性をめぐる分断や格差が先鋭化する状況すら顕在化している。こうした「理念」と「現実」とのギャップを的確に分析し、それを架橋するための方略を探究する知性が、多様性を包摂する社会に生きる私たちには求められている。本授業では、マジョリティ中心に形成された環境・制度・規範等がマイノリティを周縁化するメカニズムに着目しつつ、様々な専門性を有する教員の講義を通じて、多様性が生きる社会を実現するための視点や実践的知見を提供する。</p>
授業計画	<p>< 学校教育から DI を考える > 4/14 第二回 インクルーシブ教育とは(小国) 4/21 第三回 インクルーシブ教育と ICT (近藤先生) < 身体機能をめぐる DI > 4/28 第四回 多様性社会実現のためのパラリンピックの意義 (河合先生(野崎先生)) 5/19 第五回 身体機能の障害に立ち向かう科学技術(野崎先生) 6/2 第六回 思春期の多様な自己実現を可能にする心の健康とメンタルヘルスリテラシー(東郷先生) < 語り/言葉をめぐる DI > 6/9 第七回 言語障害者の体験と語り(能智先生) 6/16 第八回 解釈的正義と当事者研究(熊谷先生) 6/23 第九回 当事者とは誰か——現象学的質的研究から考える(大塚先生) < 改めて DI とは何か > 6/30 第十回 DI とクエア・アクティヴィズム(飯野先生) 7/7 第十一回 移民の子どもから考える日本社会の多様性(額賀先生)(オンデマンド) 7/14 第十二回 「多様性理解」とは何か(星加先生) 7/21 第十三回 DI と障害学(星加先生) </p>
授業の方法	<p>この授業は、ガイダンスも含めてオンラインで行います。初回から、時間までに zoom にアクセスするようにしてください。 zoom には氏名を記入して入室してください。途中で接続できなくなったときなどは再度接続するようにしてください。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行います。リアクションペーパーについては、オンライン講義の最後の 10 分に、ITC-LMS を用いて入力して貰う予定です。あまりに短い文章(例えば 30 字以内)は、0 点とすることがあります。およそ 200 字前後を目安として、自らの考えをしっかりとまとめる機会として用いてください。提出は、当日内に御願います。</p>
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	<p>zoom の参加 URL については、現在のところ、この講義に固定された URL となっていますが、変更する可能性がありますので、毎回確認をするようにしてください。 インターネットにうまくつながらない場合、事情により時間内で接続できなかった場合のために、講義を録画しています。その場合は、下記のアドレスにご連絡ください。また通信環境が整わない方は、整った段階でお知らせください。 バリアフリー教育開発研究センター バリア・スタディーズ担当 utbarrier.studies@gmail.com </p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09233101	担当教員	中村 高康		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 3
講義題目	教育社会学概論 Introduction to the Sociology of Education				

授業の目的・概要	教育現象を社会的に捉えるとは、どういうことか。なぜそれが必要なのか。現在の教育はいかなる状況にあるのか。この概論では、教育を対象とする社会学の基本的な理論や概念、実証的知見を学ぶことを通じて、教育をめぐる我々が直面している課題を理解することを目的とする。
授業計画	さしあたり以下の内容を予定している(若干の変更の可能性あり。初回講義時に説明する)。 ①イントロダクション・教育社会学とは何か ②教育社会学のパラダイム1 ③教育社会学のパラダイム2 ④社会の中で生まれるー属性・社会化・言語ー ⑤家庭の中で育つー家族と教育ー ⑥ 学校に入るー近代化と教育投資ー ⑦学校の中で育つ1ー学校の社会的機能ー ⑧学校の中で育つ2ー教育内容・教育方法と社会ー ⑨学校の中で育つ3ー学校安全・学校問題ー ⑩学校から労働へー就職とキャリア ⑪次の世代へー社会階層と教育ー ⑫ジェンダーと教育 ⑬まとめ:現代の教育を見る視点
授業の方法	リアクションペーパーやコメントメモを提出してもらい、それを前提にして、授業は議論と講義を組み合わせた形で行う。授業では挙手なし指名によりできるだけ学生からの意見を募る。
成績評価方法	通常リアクションペーパーおよびコメントメモ(随時)のほかに、学期末に期末レポートの提出を求める。成績は、リアクションペーパー他:期末レポート=40:60の比で評価する。授業への参加度も若干加味することがある。
教科書	現時点で使用方法はまだ検討中だが、授業時に適宜参照するので、以下の書籍は教科書としておく。 中村高康・松岡亮二編(2021)『現場で使える教育社会学』ミネルヴァ書房
参考書	各回の授業に関連する参考文献を毎回の授業で提示する。 基礎的参考書としては、以下をあげておく。 酒井朗・多賀太・中村高康編(2012)『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房 相澤真一ほか(2023)『これからの教育社会学』有斐閣 片山悠樹ほか(2017)『半径5メートルからの教育社会学』大月書店
履修上の注意・備考	授業への積極的な参加を期待したい。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※4 参照※C 参照

時間割コード	09233102	担当教員	多喜 弘文		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 3
講義題目	高等教育概論 Introduction to Higher Education Studies				

授業の目的・概要	本講義は、高等教育の構造と機能についての理解を深めることを目標とする。基本的な概念・考え方の習得と、具体的な歴史と現状の検討を通じ、今ある高等教育を他でもあり得たものとして批判的に捉える視野を提供する。高等教育のあり方とそれを要請する教育外部の社会構造との相互作用に目を向けるため、異なる時代や異なる社会を取り上げて比較をおこなう。
授業計画	1. イントロダクション 2. 高等教育の構造と機能 3. 大学の歴史(1) 4. 大学の歴史(2) 5. 戦前日本の高等教育 6. 戦後日本の高等教育(1) 7. 戦後日本の高等教育(2) 8. 欧米における高等教育(1) 9. 欧米における高等教育(2) 10. 高等教育の選抜機能 11. 高等教育の配分機能 12. 日本の高等教育システムの特徴と課題 13. 総括
授業の方法	主に講義形式でおこなうが、授業時には発言や議論への参加を求められることがある。受講者には、指定された内容についてのリアクションペーパー等を課す。
成績評価方法	平常点(30%)、期末レポート(70%)
教科書	文献は授業時に指示する。
参考書	教科書としてそのまま用いるわけではないが、以下の書籍を持っていくと受講にあたって便利である。 橋本鉦市・阿曾沼明裕編, 2021, 『よくわかる高等教育論』ミネルヴァ書房。 その他の文献は授業時に指示する。
履修上の注意・備考	事前に文献を読んで出席することを求める場合がある。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09233103	担当教員	額賀 美紗子、北村 友人		
単位数	2.0	学期	S1	時限	木 3, 木 4
講義題目	比較教育学概論 Introduction to Comparative Education				

授業の目的・概要	<p>本講義の目的は、比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法、テーマについて理解し、比較教育学のテーマに関わる学校のフィールドワークや国際データの検討、ゲストスピーカーの講義と授業内討論を通じて学生が比較教育学の知識と方法論を習得することである。 講義は教育社会学を専攻する二名の教員が担当し、それぞれが専門とする研究領域(異文化間教育/教育開発)、地域(アメリカ/アジア諸国)、教育段階(幼児・初等教育/高等教育)、焦点(政策/実践)を紹介する。グローバリゼーションの進展の中で、比較教育学における研究テーマや分析視角の多様化が進んでいることについて理解を深めてもらいたい。 具体的には、比較教育学に含まれる以下の研究領域を取り上げる。①教育制度、学校文化、学力、教育病理といった具体的テーマに関する国際比較、②途上国における教育開発、21世紀に向けた教育の新たなアプローチ、グローバル化と教育の関係、③人の国際移動に伴う教育の多文化化と移民生徒の学力保障、の3領域である。 なお、この授業科目は、教職課程の「教科に関する科目((社)地理学、(公)社会学)」に該当する。 </p>
授業計画	<p>第1週 担当:額賀 <比較教育学とは何か ①概要、国際比較の目的と手法> 比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法について概観する。学校制度、学力、学校文化、子育てといった具体的テーマに関するデータを検討しながら、国際比較研究の方法と意義について学ぶ。海外のゲストスピーカーを予定。 第2週 担当:北村 <比較教育学とは何か ②開発領域> 比較教育学の一領域としての開発領域について学ぶ。アジア地域と教育開発、グローバリゼーション、大学改革等を取り上げる。 第3週 担当:額賀 <比較教育学とは何か ③異文化間教育領域> グローバリゼーションやトランスナショナルリズムという概念について学び、そうした現代の超国家的現象が既存の学校教育につきつけている課題について考える。国の間を移動する子どもたちが経験する文化的葛藤、アイデンティティ形成、言語獲得、学力等の問題について理解を深め、多文化化する日本社会の教育課題を検討する。 第4週 担当:額賀 <移民教育・多文化教育の国際比較> 各国で提唱されてきた多文化主義・多文化教育や、日本における多文化共生の教育について批判的に考察し、国際比較の視点から日本における外国人生徒の教育を受ける権利や、マイノリティを包摂する教育の可能性と課題について考える。ゲストスピーカーを予定。 第5週 担当:北村 <持続可能な社会の実現に向けた教育の役割> 持続可能な社会の実現へ向けて、教育が果たすべき役割はどのようなものであるか、変容する「学び」のあり方という観点から検討を加える。「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連を中心に据えながら、多様な教育のあり方について論じる。 第6週 担当:北村 <比較教育学の国際的な視点からの捉え直し> 「比較教育学を国際的な視点から考える」というテーマのもと、海外講師の講義と議論の後、比較教育学の可能性と課題、そして日本(さらにはアジア)における比較教育学のあり方について考える。 第7週 担当:北村 <比較教育学の課題と展望> 今学期のまとめとして、現在の比較教育学が直面している課題を整理し、今後の比較教育学のあり方を展望する。なお、このセッションは、一コマのみの講義となる。 </p>
授業の方法	講義とディスカッションを組み合わせる
成績評価方法	出席 20%、レポート課題(北村 40%、額賀 40%)
教科書	特に指定しない
参考書	随時指定する
履修上の注意・備考	二時間続きの講義であるため、両方とも受講できることが履修条件となる。グループ・ディスカッションに積極的に参加することを求める。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目(社)地理学(地誌を含む)(公)社会学

時間割コード	09233201	担当教員	仁平 典宏、寺澤 さやか、三輪 哲		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 1
講義題目	教育社会学調査実習 I Training in Research Methods for the Sociology of Education I				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習 II~IV」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習 I」では、「教育社会学調査実習 III、IV」で行う調査実習で必要とされる知識として、社会調査に関する基本的な考え方、量的調査や質的調査などの社会調査の方法、資料やデータの蒐集から分析までの諸過程、質問文の作り方などについて、テキストを用いて学習する。この実習を通じて、社会学的な認識のしかた、問題構成の方法、社会的現実の記述と分析の方法について学んで欲しい。
授業計画	1 ガイダンス。研究の進め方、文献の探し方、調査倫理について。 2 文献講読。社会調査の歴史。社会調査の目的、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法。 3 文献講読。調査の目的に応じた調査方法の選び方。標本調査の特徴。 4 文献講読。先行研究・先行調査などの探し方。 5 文献講読。社会学の理論と検証。理論仮説—作業仮説—検証。 6 文献講読。社会調査の目的。仮説—質問項目。 7 文献講読。変数のしくみ。データのしくみ。変数の合成のしかた。 8 文献講読。質問紙のしくみ。 9 文献講読。ワーディングの注意点。 10 調査対象に関する既存資料・官庁統計などについての報告。 11 文献講読。昨年度の調査実習報告書の批判的検討。 12 研究トピック別に3班に分かれて討議(「社会調査とプライバシー」等) 13 文献講読。今後の調査の流れについて留意点、課題、作業について説明。
授業の方法	演習
成績評価方法	平常点
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法[第4版]』(2021年、法律文化社)
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』(2014年、オーム社)
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可 初回の授業は2限に行います。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09233202	担当教員	仁平 典宏、寺澤 さやか、三輪 哲		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 2
講義題目	教育社会学調査実習Ⅲ Training in Research Methods for the Sociology of Education III				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習Ⅲ」では、「教育社会学調査実習Ⅳ」で行う質問紙調査の準備段階として、調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・質問紙の作成などの作業を行う。
授業計画	4～5月：文献講読（実証研究、社会学の考え方、質問紙の作り方・ワーディング・変数のしくみ）、調査の企画、見本となる研究例や先行研究の検討。 6月前半：調査対象訪問とフィールドワークの報告。 6月後半～7月：仮説構成、質問項目づくり、ワーディング。
授業の方法	1.調査のテーマ/領域:中学校の生活と学習に関する調査 2.調査の内容/概要:東京では国・私立中学や公立中高一貫校を目指す動きが目立ち、その一方で公立中学校にも学校選択制が導入されるなど従来とはまったく違った状況の中で、公立中学校のあり方自体が問われる時代となっている。この調査実習では、学校自身が本来実施予定であった学校評価調査を一部代行する形で、公立中学校の学校評価と大学の調査実習のコラボレートを意図したアンケート調査を実施することで、こうした実態を学生自らがとらえることを目標とする。 3.調査の範囲/
成績評価方法	平常点
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法〔第4版〕』（2021年、法律文化社）
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』（2014年、オーム社） その他は、授業中に指示する。
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（社）社会学（公）社会学

時間割コード	09233203	担当教員	仁平 典宏、寺澤 さやか、三輪 哲		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 1
講義題目	教育社会学調査実習 II Training in Research Methods for the Sociology of Education II				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習 I、III、IV」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習 II」では、「教育社会学調査実習 IV」で行う質問紙調査の分析に必要とされる知識として、サンプリングの方法、調査の実施方法、調査データの整理、統計の基礎知識や諸分析方法、統計ソフトの使用方法などについて、テキスト等を用いて学習する。この実習を通して、社会学的な調査の方法と考え方を体得することをめざす。この実習を通じて、社会学的な認識のしかた、問題構成の方法、社会的現実の記述と分析の方法について学んで欲しい。
授業計画	1 文献講読。全数調査と標本調査、サンプリングの諸方法。本調査サンプルの特徴と留意点。 2 調査の実施方法に関する説明。調査対象への質問紙の発送・回収作業、質問紙に添付する、説明や依頼や調査実施方法に関する書類の書き方。 3 調査票の構成と、質問文を作成する上での方法と留意点に関する講義。 4 分析で主として用いる統計に関する確認の講義。(基礎統計量、クロス分析。エラボレーションなどの研究モデル。) 5 分析で用いる統計ソフト SPSS に関する講義。(データファイルのしくみ。基礎的な記述統計分析。変数の加工方法。) 6 調査データの整理方法に関する講義。(エディティング、コーディング、変数リストのしくみ、コーディングマニュアルの作り方。) 7 エディティング、コーディング作業。同上 8 調査データの整理方法に関する講義(1)。(回答状況に基づく新変数の作成。自由記述の処理。) 9 調査データの整理方法に関する講義(2)。(データクリーニングについて。) 10 調査データの整理方法に関する講義(3)。(基礎集計表の作成方法) 11 受講者全員で、基礎集計表に基づく、データの特徴に関する検討。 12 報告書を作成する際の留意点について。 13 担当教員、TA からデータ分析に関する個別指導。
授業の方法	演習
成績評価方法	平常点
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法[第4版]』(2021年、法律文化社)
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』(2014年、オーム社) その他は、授業中に指示する。
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09233204	担当教員	仁平 典宏、寺澤 さやか、三輪 哲		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 2
講義題目	教育社会学調査実習IV Training in Research Methods for the Sociology of Education IV				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習Ⅰ～Ⅲ」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習Ⅳ」では、「教育社会学調査実習Ⅲ」を受けて、質問文・質問紙の画定、サンプリング、質問紙調査の実施、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成を行う。この実習を通して、社会学的な調査の方法と考え方を体得することをめざす。
授業計画	10月：質問紙原案の確定作業、調査対象の責任者のチェックとそれをふまえての修正、質問紙最終稿の確定とレイアウトを含めた質問紙作成作業、質問紙発送作業。 11～12月：統計ソフト操作実習。変数リスト、コーディングマニュアル作成作業、エディティング、コーディング作業、データクリーニング作業、集計表作成作業。 1～2月：データクリーニング作業、集計表作成作業、データ分析作業と中間報告と検討、レポート作成、成果報告会。
授業の方法	1.調査のテーマ/領域:中学校の生活と学習に関する調査 2.調査の内容/概要:東京では国・私立中学や公立中高一貫校を目指す動きが目立ち、その一方で公立中学校にも学校選択制が導入されるなど従来とはまったく違った状況の中で、公立中学校のあり方自体が問われる時代となっている。この調査実習では、学校自身が本来実施予定であった学校評価調査を一部代行する形で、公立中学校の学校評価と大学の調査実習のコラボレートを意図したアンケート調査を実施することで、こうした実態を学生自らがとらえることを目標とする。 3.調査の範囲/
成績評価方法	平常点 最終レポート
教科書	轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法〔第4版〕』(2021年、法律文化社)
参考書	三輪哲・林雄亮編『SPSSによる応用多変量解析』(2014年、オーム社) その他は、授業中に指示する。
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09233205	担当教員	額賀 美紗子、多喜 弘文、本田 由紀、中村 高康、仁平 典宏		
単位数	2.0	学期	通年	時限	水 6
講義題目	比較教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education, Comparative Education and Higher Education				

授業の目的・概要	各教員が第一回ゼミに説明する。
授業計画	各教員が第一回ゼミに説明する。
授業の方法	各教員が第一回ゼミに説明する。
成績評価方法	各教員が第一回ゼミに説明する。
教科書	各教員が第一回ゼミに説明する。
参考書	各教員が第一回ゼミに説明する。
履修上の注意・備考	各教員が第一回ゼミに説明する。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09233501	担当教員	額賀 美紗子、多喜 弘文、本田 由紀、中村 高康、仁平 典宏		
単位数	2.0	学期	通年	時限	月 1
講義題目	比較教育社会学研究指導 Tutorial in Sociology of Education, Comparative Education and Higher Education				

授業の目的・概要	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する。
授業計画	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
授業の方法	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
成績評価方法	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
教科書	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
参考書	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
履修上の注意・備考	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09234101	担当教員	牧野 篤
単位数	2.0	学期	S1
		時限	月 5, 月 6
講義題目	社会教育論Ⅱ Theories of Adult Education II		

授業の目的・概要	<p>少子高齢化・人口減少、グローバル化などによる社会構造の大きな変容にもなっており、人々の学びのあり方も変わることが迫られている。さらにコロナ禍にあって、この社会の底抜けが明らかとなっている。それは端的に、人々の孤立という現象として表面化している。改めて、人々が孤立しない社会のあり方を構想することが求められている。学校制度の基本的な原理と社会教育の特質を原理的に概観した上で、今日の社会変動の背景をとらえ、それらと生涯学習が課題化されることとの関係を把握する。さらに教育を可能とする「発達」概念のあり方について、それを近代産業社会の資本増殖のアナロジーからとらえ、新たな社会における自己のあり方を検討する。また、制度が構築されればされるほど、その網の目から抜け落ちる人々をどう「社会」につなぎ止めておくのか、「福祉」のあり方ともかかわらせて、議論したい。 本講義は、概ね以下の内容から構成される。Ⅰ. 近代産業社会と学校・社会教育・生涯学習、Ⅱ. 社会の構造的変動と教育システムの改編、Ⅲ. 揺らぐ自己と自我の形、Ⅳ. 〈いま〉の継起としての自己、Ⅴ. 発達する自己の一般理論生成し続ける、Ⅵ. 〈あいだ〉に生成する運動としての自己。 生涯学習時代における「学び」のあり方を考えるための基礎的な視点を養うとともに、受講者各個人が、自らの人生を主体的に考え、選択するとともに、この社会で学び続けることの意味を考え、自らの社会的な役割をとらえ課すことができるようになることを目的とする。 オンラインでの開講とする。オンラインで〈つながる〉ことのあり方についても、受講者とともに考えたい。 なお、授業途中であっても、新たな知見を得られた場合には、内容を組み換えることがありえる。</p>
授業計画	<p>概ね、以下のような内容から構成される。 1. 日本社会の変容と生涯学習 2. 学校の原理・選抜の原理 3. 〈いま〉の継起としての自己・再帰的ならざる人々から考える 4. 〈いま〉の継起としての自己・再帰的ならざる人々から考える 5. 〈いま〉の継起としての自己・再帰性のほころびと〈主体〉 6. 〈いま〉の継起としての自己・再帰性のほころびと〈主体〉 7. 〈いま〉の継起としての自己・再帰性のほころびと〈主体〉 8. 発達する自己の一般理論・資本増殖のアナロジーとして 9. 発達する自己の一般理論・資本増殖のアナロジーとして 10. 発達する自己の一般理論・資本増殖のアナロジーとして 11. 発達する自己の一般理論・事後性と過剰性 12. 〈あいだ〉に生成する運動としての自己 13. 〈あいだ〉に生成する運動としての自己 14. 〈わたし〉と〈わたしたち〉・〈ことば〉が生み出す自己 15. 〈学び〉を再定位する なお、授業内容は授業の進捗および担当者の議論の進展によって組み換える。</p>
授業の方法	オンライン開講とする。UTAS および ITC-LMS 上でリンク URL を受講者に伝える。
成績評価方法	適宜レポートを課す。
教科書	牧野篤『発達する自己の虚構—教育を可能とする概念をとらえ返す』(東京大学出版会、2021 年)
参考書	以下のものを参照する。 牧野篤『認められたい欲望と過剰な自分語り—そして居合わせた他者・過去とともにある私へ』(東京大学出版会、2011 年) 牧野篤『生きることとしての学び—自生する地域コミュニティと共変化する人々』(東京大学出版会、2014 年) 牧野篤『社会づくりとしての学び—信頼を贈りあい、当事者性を復活する運動』(東京大学出版会、2018 年) 牧野篤(編著)『人生 100 年時代の多世代共生—「学び」によるコミュニティの設計と実装』(東京大学出版会、2020 年) なお、参考書は本来であれば購入し、熟読し
履修上の注意・備考	人が社会でともに生きることや学びに強い関心をもって授業に臨んで欲しい。 大学は自律的に学ぶ場であることを十分に自覚し、積極的に授業に参加して欲しい。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09234102	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2.0	学期	S1	時限	火 5, 金 5
講義題目	図書館情報学概論 Introduction of Library and Information Studies				

授業の目的・概要	本授業では、図書館、図書館情報学、そしてその関連分野についての基礎的な概念を理解することを目標とする。まずは、普遍的な図書館の理念と、時代・地域ごとの図書館の役割を講義する。その後、館種(国立図書館、公共図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館)ごとにどのような機能を果たしているのかを講義する。最後に、「場所」、関連機関との図書館および図書館情報学の関係について述べる。
授業計画	1 オリエンテーション 2 図書館と図書館情報学の理念 3 公共図書館 4 学校図書館 5 大学図書館 6 国立図書館 7 中間まとめ 8 専門図書館 9 図書館と知識の歴史 10 場所としての図書館 11 司書の養成 12 図書館の関連機関 13 最終まとめ
授業の方法	教科書は使わず、レジュメを配布する。
成績評価方法	授業への積極的参加およびテストによって評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業中に指示する。
履修上の注意・備考	特になし。 ITC-LMS (https://itc-lms.ecc.u-tokyo.ac.jp/portal/login) からレジュメをダウンロードできるようにする予定。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09234103	担当教員	北村 友人、額賀 美紗子		
単位数	2.0	学期	S1	時限	木 3, 木 4
講義題目	比較教育学概論 Introduction to Comparative Education				

授業の目的・概要	<p>本講義の目的は、比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法、テーマについて理解し、比較教育学のテーマに関わる学校のフィールドワークや国際データの検討、ゲストスピーカーの講義と授業内討論を通じて学生が比較教育学の知識と方法論を習得することである。 講義は教育社会学を専攻する二名の教員が担当し、それぞれが専門とする研究領域(異文化間教育/教育開発)、地域(アメリカ/アジア諸国)、教育段階(幼児・初等教育/高等教育)、焦点(政策/実践)を紹介する。グローバリゼーションの進展の中で、比較教育学における研究テーマや分析視角の多様化が進んでいることについて理解を深めてもらいたい。 具体的には、比較教育学に含まれる以下の研究領域を取り上げる。①教育制度、学校文化、学力、教育病理といった具体的テーマに関する国際比較、②途上国における教育開発、21世紀に向けた教育の新たなアプローチ、グローバル化と教育の関係、③人の国際移動に伴う教育の多文化化と移民生徒の学力保障、の3領域である。 なお、この授業科目は、教職課程の「教科に関する科目((社)地理学、(公)社会学)」に該当する。 </p>
授業計画	<p>第1週 担当:額賀 <比較教育学とは何か ①概要、国際比較の目的と手法> 比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法について概観する。学校制度、学力、学校文化、子育てといった具体的テーマに関するデータを検討しながら、国際比較研究の方法と意義について学ぶ。海外のゲストスピーカーを予定。 第2週 担当:北村 <比較教育学とは何か ②開発領域> 比較教育学の一領域としての開発領域について学ぶ。アジア地域と教育開発、グローバリゼーション、大学改革等を取り上げる。 第3週 担当:額賀 <比較教育学とは何か ③異文化間教育領域> グローバリゼーションやトランスナショナルリズムという概念について学び、そうした現代の超国家的現象が既存の学校教育につきつけている課題について考える。国の間を移動する子どもたちが経験する文化的葛藤、アイデンティティ形成、言語獲得、学力等の問題について理解を深め、多文化化する日本社会の教育課題を検討する。 第4週 担当:額賀 <移民教育・多文化教育の国際比較> 各国で提唱されてきた多文化主義・多文化教育や、日本における多文化共生の教育について批判的に考察し、国際比較の視点から日本における外国人生徒の教育を受ける権利や、マイノリティを包摂する教育の可能性と課題について考える。ゲストスピーカーを予定。 第5週 担当:北村 <持続可能な社会の実現に向けた教育の役割> 持続可能な社会の実現へ向けて、教育が果たすべき役割はどのようなものであるか、変容する「学び」のあり方という観点から検討を加える。「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連を中心に据えながら、多様な教育のあり方について論じる。 第6週 担当:北村 <比較教育学の国際的な視点からの捉え直し> 「比較教育学を国際的な視点から考える」というテーマのもと、海外講師の講義と議論の後、比較教育学の可能性と課題、そして日本(さらにはアジア)における比較教育学のあり方について考える。 第7週 担当:北村 <比較教育学の課題と展望> 今学期のまとめとして、現在の比較教育学が直面している課題を整理し、今後の比較教育学のあり方を展望する。なお、このセッションは、一コマのみの講義となる。 </p>
授業の方法	講義とディスカッションを組み合わせる
成績評価方法	出席 20%、レポート課題(北村 40%、額賀 40%)
教科書	特に指定しない
参考書	随時指定する
履修上の注意・備考	二時間続きの講義であるため、両方とも受講できることが履修条件となる。グループ・ディスカッションに積極的に参加することを求める。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目(社)地理学(地誌を含む)(公)社会学

時間割コード	09234104	担当教員	浅井 幸子		
単位数	2.0	学期	S2	時限	火 3, 火 4
講義題目	教職論 Introduction to Research on Teacher Development				

授業の目的・概要	教師の仕事に多様な側面からアプローチし、その複雑な構造を理解する。とりわけ教師の仕事の中心である授業の経験に焦点をあてる。教員免許の取得を目指す履修者には、進路選択を考えるための知識と情報を提供する。
授業計画	授業の流れは以下のように予定している。各回のトピックは授業の進行の状況に従って変更することもある。 1回 ガイダンス 2回 変容する社会の教師(1) 転換期の学校 3回 変容する社会の教師(2) 知識社会の学校と教師 4回 教師の知識(1) 資質と知識 5回 教師の知識(2) 教師の実践的思考様式 6回 教師の同僚性と共同体(1) 教師の同僚性 7回 教師の同僚性と共同体(2) 専門家共同体 8回 教師と学校の責任(1) 教師のヴァルネラビリティ 9回 教師と学校の責任(2) 教師と学校の責任 10回 日本の授業研究の歴史(1) 授業研究の視点 11回 日本の授業研究の歴史(2) 授業研究の歴史 12回 専門性と専門職性(1) 教師の専門職性 13回 専門性と専門職性(2) 反省的实践家としての教師 14回 カリキュラムのデザイン(1) カリキュラムの概念 15回 カリキュラムのデザイン(2) カリキュラムの変化 15回 まとめ
授業の方法	講義を中心に、具体的な課題に即したグループディスカッションを行う。
成績評価方法	出席と課題レポートで評価する。
教科書	特になし。
参考書	秋田喜代美、佐藤学編著『新しい時代の教職入門(改訂版)』有斐閣、2015年。 そのほか、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意・備考	特になし。 特になし。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照※B 参照

時間割コード	09234105	担当教員	渡辺 貴裕		
単位数	2.0	学期	A1	時限	月 5, 月 6
講義題目	教育方法論 Teaching Methods				

授業の目的・概要	具体的な方法論なしに教育目標を実現することはできない。本講義では、教育方法に関する理論的基盤への理解を深めるとともに、自らが教師として授業を行い専門的発達を遂げるための実践的力の土台を形成することを目指す。 次の3つの内容が柱となる。 ・学ぶとはどういうことか。 ・学習を促す授業のあり方はどういうものか。 ・教師は実践からどのように学び成長していくのか。
授業計画	1. 実践記録から学ぶ 2. 教育実践の法則性と固有性 3. 海外の実践事例から学ぶ 4. 学習観の転換 5. 子どもの「間違い」をどう捉えるか 6. 教科内容と教材 7. 教師が発する言葉 8. 協同学習の意義と技法 9. 自律的な学習 10. ファシリテーターとしての教師 11. 授業をめぐる対話と省察 12. ミニ模擬授業の実施 13. ミニ模擬授業の検討会 14. 省察を通じた教師の成長 15. 教師による実践研究
授業の方法	グループワークを多用する。積極的な参加が不可欠である。
成績評価方法	定期試験は行わず、授業中に出题する課題をもって評価を行う。 出席が授業回数の3分の2に満たない場合、原則として評価の対象外とする。
教科書	指定しない。
参考書	渡辺貴裕『授業づくりの考え方 ―小学校の模擬授業とリフレクションで学ぶ―』くろしお出版、2019年 フレット・コルトハーヘン『教師教育学 ―理論と実践をつなぐリアリティック・アプローチ―』学文社、2010年 その他、授業中に適宜指示する。
履修上の注意・備考	履修を希望する場合、初回から必ず出席すること。 授業時間中の活動を重視する授業形態であるため、教育実習などにより(7回のうちの)3回以上の欠席が見込まれる場合は、別年度あるいは他の時期の科目を履修することを推奨する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照※J 参照

時間割コード	09234106	担当教員	上野 正道		
単位数	2.0	学期	A2	時限	火 1, 火 2
講義題目	教育課程論 Curriculum Studies				

授業の目的・概要	現代のグローバル時代において、学校教育は大きな転換点を迎えている。この科目では、教育課程の理論とその実践的課題を整理して検討し、教育課程の過去・現在・未来について吟味し探究することを目的にする。特に、民主主義と公共性を基盤にした学校改革の観点から、教育課程を構成する授業や学力、教師といった主題にアプローチするとともに、想像的なアートと学びを中心とする教育課程についても取り上げることとする。また、アメリカ、ヨーロッパ、アジア諸国の教育についても紹介する。それによって、教育課程とは何か、授業と学びをどのように創造するか、学校をどのように改革するか、といったテーマに迫ることとする。
授業計画	第1回 ガイダンス 教育課程とは何か 第2回 学校と教育課程の現代史 第3回 グローバル時代の学校と教育課程 第4回 フィードバックとディスカッション 第5回 近代日本の学校と教育課程 第6回 西洋近代の学校と教育課程 第7回 新教育から現代の教育課程へ 第8回 フィードバックとディスカッション 第9回 アート教育とカリキュラム 第10回 シティズンシップ教育とカリキュラム 第11回 シティズンシップ教育とカリキュラム 第12回 教職の専門性と教育課程 第13回 まとめ
授業の方法	講義形式
成績評価方法	平常点とレポートによる
教科書	上野正道『民主主義への教育——民主主義への教育』東京大学出版会、2013年 (教科書は、東大生協本郷書籍部で販売しています。授業で使用しますので、初回までに購入し準備してください。)
参考書	上野正道他『東アジアの未来をひらく学校改革』北大路書房、2014年 上野正道『ジョン・デューイー——民主主義と教育の哲学』岩波新書、2022年
履修上の注意・備考	【履修上の注意】 本科目は開講時期(1-3月集中講義)の都合上、2021年度卒業・修了予定者については卒業・修了要件に含めることはできないので注意すること。 ※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.html ※2020年度以前開講「教育課程」(担当教員:上野正道)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照※F 参照

時間割コード	09234201	担当教員	橋野 晶寛
単位数	2.0	学期	A1A2
		時限	金 4
講義題目	教育行政・学校経営演習Ⅱ Seminar in Educational Administration and School Management Ⅱ		

授業の目的・概要	この授業では、現代の教育政策・行政の動向および考え方・論点を学ぶ。教育政策・行財政の現代的トピックについて、政策動向を把握するだけでなく、普遍的・中核的論点について教育学のみならず隣接社会科学分野の実証研究・規範論を参照しながら、多角的に深く考察する視点を養う。
授業計画	授業実施形態については、原則としてすべての回を対面とする。 第 2 回以降は発表者を割り当て、文献輪読を行う。扱う予定のトピックは以下の通り。 1)教育政策の目的 教育政策は何をなすべきか・何ができるのか 政策の可否を何によって判断すべきか、等。 2)教育政策における価値 学校教育における自由はどこまで可能か 教育機会均等のために政策・行政には何ができるか/できないか、何をすべきか/すべきでないか 自由・平等・民主性・効率性といった曖昧な規範的概念を教育政策の文脈でどう理解・具現化すべきか、等。 3)教育財政・教育費負担 教育財政支出を正当化する根拠は何か 教育費負担をめぐる政治において、政治的制約(シルバー民主主義、増税忌避、「福祉の磁石」とどう向き合うか、等 4)教員政策 日本の教育制度は教員の人材確保における量的・質的側面、教員の厚生にどのように影響するのか 教職の特質は、人材確保、働き方、力量形成・動機づけにどのように影響するか 教員の量的・質的人材確保に寄与する政策は何か、等 5)教育政策とデータサイエンス 教育政策の効果を測る上で何が難しいのか 成果、貢献、必要性を測ることはできるか/どう測るのか エビデンスは教育政策に関わる政治を変えうるか 「予測」は教育政策・行政に何をもたらすのか 教育分野において政策研究と社会・政治はどのような関係にあるのか/あるべきか、等 第 1 回 オリエンテーション 第 2~13 回 文献輪読
授業の方法	第 2 回以降は、文献輪読を行う。 毎回指定された文献(論文または図書の一部の章)を事前に読んできた上で、発表者が文献要旨と論点を報告し、議論を行う。
成績評価方法	平常点(発表、授業中の発言)による。 ただし、日程の都合等で発表を担当できない場合は、期末に相応のレポートを提出してもらおう。
教科書	特になし。毎回文献を用意する。
参考書	市川昭午(2021)『教育改革の終焉』教育開発研究所。 村上祐介・橋野晶寛(2020)『教育政策・行政の考え方』有斐閣。(1~6 章, 終章)。
履修上の注意・備考	「教育行財政学」(教育実践・政策学コース駒場持出科目)を履修していることが望ましい。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09234202	担当教員	牧野 篤
単位数	2.0	学期	S1
		時限	火 3, 火 4
講義題目	社会教育学演習Ⅲ Seminar in Adult and Lifelong Education III		

授業の目的・概要	<p>社会教育・生涯学習を専門的に学ぼうとする受講者に、教育や学びが広く人が社会の中で生きようすることに深く関わるものであることを理解してもらうために、社会的な課題に関わるトピックスや議論を取り上げて、文献を検討するとともに、地域の住民アクターとのかかわりを通して、地域社会で人が生きることとその課題を体験的に考察することを目的とする。 とくに、近年、人生 100 年時代を迎え、学校のみならず、社会教育・生涯学習を含めた教育体系の総合行政への組み換えが進められており、その焦点はコミュニティである。新たな教育改革の方向として「地域学校協働活動」が提示され、法律の改正などを経て、コミュニティスクールの設置が努力義務化されており、教員にとっても地域社会との連携及び自らの教育実践を地域社会に開くことが求められる。また、社会教育施設の一般行政への移管が特例的に認められるなど、従来の教育行政と一般行政の区分が、社会教育・生涯学習の領域から組み換えられ、融合へと向かっている。 本演習では、このような変化が求められるに至った政策的な経緯、とくに 1980 年代半ばの臨時教育審議会以降の教育政策の生涯学習への転回と「社会に開かれた教育課程」・コミュニティスクールの政策化、さらにコミュニティが政策的な焦点となる事態を、その社会的な背景を含めて理解し、受講者が自分なりの教育観・学習観を持つことを目標とする。 </p>
授業計画	<p>本演習は文献講読を通して、住民の学びと社会活動との関係の基礎を学ぶとともに、住民アクターとのかかわりを通して、人々の活動に関与しつつ、住民が地域社会で活動することの意味を考察する。 本演習では、地域社会への関与に先立って、今日の日本の地域社会が抱える諸課題をとらえるために、関連文献の講読を進める。取り扱う文献は、グローバル化の進展にともなう雇用構造の変化、少子高齢化がもたらす社会構造の変化、過疎化・高齢化に悩む地域社会のありよう、「無縁社会」と呼ばれる社会の出現、さらにこれらの社会にあって進められる「定常型社会」など新たな社会のあり方の模索など関するものであり、それらを教育と学習という実践の場においてどう受け止めるのかを考える。 その後、近年の教育改革の方向として示された地域学校協働をとらえるために、1980 年代半ばの臨時教育審議会における議論、その後の教育政策の動向、そしてコミュニティスクール・地域学校協働活動の提起と実施にいたる議論を、関係の文献にあたることでとらえるとともに、その社会的な背景を理解し、教育政策の展開と社会の要請、さらにその個人への影響をとらえ、受講者自らの教育観・学習観を形成することを目的とする。 授業期間中にエクスカージョンなどの実習を予定している。 コロナ禍の状況によっては、オンラインに切り換えることがあり得る。</p>
授業の方法	<p>演習形式とし、とくにワークショップなどの手法を取り入れる。受講者の積極的な発言を期待する。 エクスカージョンなど実習の後には、報告書の作成を進めるため、自覚的な探求的態度で臨むことが求められる。ただし、コロナ禍の状況下、エクスカージョンなどの実習は困難となる可能性も高いため、その場合には、文献研究を中心に授業を構成する。 基本的に対面とし、オンラインでの聴講も可とする。オンラインの場合には、リンク URL を UTAS 上で連絡する。 なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、オンライン開講に切り換える</p>
成績評価方法	<p>授業への参加とときどきのレポートにもとづき評価する。</p>
教科書	<p>牧野篤編著『社会教育新論―「学び」を再定位する』、ミネルヴァ書房、2022 年</p>
参考書	<p>牧野篤『生きることとしての学び―2010 年代・自生する地域コミュニティと共変化する人々―』(東京大学出版会、2017 年) 牧野篤『社会づくりとしての学び―信頼を贈りあい、当事者性を復活する運動』(東京大学出版会、2018 年) 牧野篤『公民館はどう語られてきたのか―小さな社会をたくさんつくる・1』(東京大学出版会、2018 年) 牧野篤『公民館をどう実践してゆくのか―小さな社会をたくさんつくる・2』(東京大学出版会、2019 年) 牧野篤『人生 100 年時代の多世代共生―「学び」によるコミュニティの設計と実装』</p>
履修上の注意・備考	<p>演習であるため、積極的な参加が求められる。 </p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09234203	担当教員	藤江 康彦、浅井 幸子		
単位数	2.0	学期	A1	時限	火 1, 火 2
講義題目	教育方法学演習IV Seminar of Research on Teaching and Curriculum IV				

授業の目的・概要	[授業の目標]この授業では、保育・幼児教育施設や小学校、中学校、高等学校などの教育の現場におけるフィールドワークを通して、教育実践を観察することの基礎を身につける。具体的には下記の通りである。Ⅰ1. 課題を探究する過程で、記録の採取の仕方、フィールドワークの仕方を身につける。Ⅱ2. 採取した記録のまとめ方やプレゼンテーションの仕方を身につける。Ⅲ[授業の概要]教育方法学は、特定の親学問をもたず、教育事象に対する臨床性やアプローチの学際性を特徴とする。教育実践に関するあらゆる事柄が研究対象となっているが、主として研究が進められてきたのは、授業研究、カリキュラム研究、教育内容研究、教育評価研究、教師研究、である。この授業では学校において授業観察を中心としたフィールドワークを行う。教育実践への課題意識や興味関心を基盤としたグループに分かれて探究し、報告会を行う。
授業計画	第1回 教育実践の課題 ガイダンス 第2回 教育実践の研究(1)フィールドワーク① 第3回 教育実践の研究(2)報告会① 第4回 教育実践の研究(3)フィールドワーク② 第5回 教育実践の研究(4)報告会② 第6回 教育実践の研究(5)フィールドワーク③ 第7回 教育実践の研究(6)報告会③
授業の方法	主として学校におけるフィールドワークの方法を学び、調査とその報告を行う。
成績評価方法	授業への参加状況とレポートの提出状況によって総合的に評価する。
教科書	指定しない。
参考書	秋田喜代美・藤江康彦(編)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』東京図書 秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの質的研究法:15の事例にみる学校教育実践研究』東京図書 秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの教師研究:20の事例にみる教師研究方法論』東京図書 浅井幸子ほか(編)『教師の声を聴く:教職のジェンダー研究からフェミニズム教育学へ』学文社 稲垣忠彦・佐藤学(著)『授業研究入門』岩波書店 佐藤学『教育方法学』岩波書店 秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会 このほか
履修上の注意・備考	本授業は、A1 タームに開講される2時間連続の授業である。 情報収集やフィールドワークは受け入れ機関の事情により、必ずしも授業時間内に実施できるとは限らない。授業時間外でも活動をすることになるので、注意されたい。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09234501	担当教員	河村 俊太郎、橋野 晶寛、影浦 峽、北村 友人、勝野 正章、牧野 篤、李 正連、村上 祐介、藤江 康彦、浅井 幸子、新藤 浩伸		
単位数	2.0	学期	通年	時限	木 6
講義題目	教育実践・政策学 研究指導 Tutorial in Educational Administration and Adult Education				

授業の目的・概要	教育実践・政策学コース所属学生のために、教育実践・政策学(教育行政学・社会教育学・図書館情報学・学校教育学)に関する卒業論文の執筆指導を行なう。
授業計画	以下の点について、報告・指導を行う。 1) 卒業論文の趣旨・書き方 2) テーマ選択 3) 研究方法 4) 研究成果のまとめ方 夏学期に1度、全体検討会を持つ。
授業の方法	各自が卒業論文に向けた研究に取り組み、それに基づいて議論を行なう。
成績評価方法	平常点による。
教科書	特になし。
参考書	テーマに応じて文献紹介を行う。
履修上の注意・備考	卒業論文執筆の規程を踏まえて履修すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235301	担当教員	能智 正博		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 3
講義題目	質的心理学研究法Ⅱ Research Methods for Qualitative Psychology Ⅱ				

授業の目的・概要	めまぐるしく変化する社会のなかで、教育や臨床の現場において現れてくる問題も変化しており、心理学もまた実験室的な研究だけではなく、現場の実践と関わりながらの新たなアイデアの探索と知識の生成が求められている。そうした背景のもとで近年注目されているのが、問題の発見と仮説生成を重視する質的研究であり、質的な方法を用いて〈現実〉にアプローチしようとする心理学の実践の全体を「質的心理学」と呼ぶ。本年は、自然場面の観察を用いたフィールドワークの方法についての理解を深めることを目標とする。
授業計画	1) イントロダクション 2) 質的研究法入門 3) エスノグラフィーと参与観察 4) フィールドの選定 5) フィールドでのデータ収集 6) データ収集の方法 7) フィールドでの観察 8) 観察のためのトレーニング① 9) 観察のためのトレーニング② 10) フィールドに出る 11) データの整理と分析 12) フィールド研究の倫理 13) エスノグラフィーの研究例 14) 成果発表
授業の方法	実習、講義、受講生の発表を適宜用いながら、授業を進めていく。フィールドでの観察やそのトレーニングのために対面の回も組み込む、ハイブリッド授業となる。
成績評価方法	授業への出席と参加 60% 最終レポート 40%
教科書	アングロシーノ『質的研究のためのエスノグラフィーと観察』(新曜社、2016)
参考書	能智正博『質的研究法』(東京大学出版会、2011)
履修上の注意・備考	原則として、授業にすべて出席できる見込みがあることを受講の条件とする。基本的に授業は時間通りに始める。遅刻しないように。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学

時間割コード	09235302	担当教員	遠藤 利彦		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 2
講義題目	生涯発達心理学演習 Seminar in Life-span Developmental Psychology				

授業の目的・概要	胎児期から老年期に至る生涯発達のプロセスとメカニズムについて学ぶ。この演習の目的は、現代生涯発達心理学のホットなトピックを見極めることと時代の先を読んで新しい研究テーマを切り拓く感性やスキルを身につけることであり、また文献レビューの方法や研究デザインの組み方等について具体的な示唆を得ることである。
授業計画	実際の進め方としては、数名の者からなる小グループに分かれ、それぞれ1つの発達ステージを選択・担当する。そして、その発達ステージに関して、これまで、心理学・教育学およびその周辺諸科学では、どのような形で研究が進められてきたか、その動向を簡単に説明し、かつ、代表的な実証研究の概要を紹介する。また、その発達ステージに絡む現代的諸問題について論究し、その上で、批判的観点から、これまでの研究の問題点や欠落点等を指摘、さらにそれらを補うには、今後どのような研究を新たに実施していく必要があるか、具体的に研究計画の立案を試みる。
授業の方法	基本的に演習形式で行う。
成績評価方法	授業への出席状況と発表内容および毎回の議論への参加度などに基づいて、総合的に評価を行う。
教科書	特に用いない。
参考書	授業時に適宜、紹介する。
履修上の注意・備考	授業時に紹介する関連文献等に可能な限り、目を通すこと。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（公）心理学

時間割コード	09235303	担当教員	藤村 宣之
単位数	2.0	学期	S1S2
		時限	木 2
講義題目	教授・学習心理学演習 I Seminar on Psychology of Learning and Instruction I		

授業の目的・概要	教授・学習心理学やそれに関連する認知発達心理学の研究手法と最近の知見について理解を深めることを目標とする。先行研究の文献検討や、授業時の映像やワークシートの心理学的分析などを通じて、教授・学習心理学や認知発達心理学の知見と方法論(実験研究, 実践研究, 調査研究, 面接研究など)について学ぶ。
授業計画	第 1 回: イントロダクション: 教授・学習心理学に関する諸概念 第 2 回: 教授・学習心理学, 認知発達心理学の研究手法 第 3~7 回: 教授・学習心理学, 認知発達心理学に関する先行研究の文献検討 第 8~10 回: 授業時の映像視聴, 心理学的視点による映像分析・ワークシート分析 第 11~13 回: 分析にもとづく心理学的考察および関連する文献の検討
授業の方法	教授・学習心理学や認知発達心理学に関する文献検討では、『教育心理学研究』、『発達心理学研究』、『教授学習心理学研究』などの学術誌に掲載されている, 教授・学習心理学分野や児童期・青年期の認知発達心理学分野の最近の論文を対象とし, 各論文の担当者を決めて担当者がレポートを行い, 参加者全員で検討・討論を行う。また, 授業時の映像分析・ワークシート分析では, 授業時の映像を視聴して発話等の心理学的分析を行うと同時に, 児童・生徒のワークシートの記述内容について心理学の視点から分析を行う。さらに分析にもとづいた心理学的考察
成績評価方法	授業への参加・発表状況, および最終レポートにより行う。
教科書	『協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために』(藤村宣之・橋春菜・ 名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著, ミネルヴァ書房, 2018 年)
参考書	『数学的・科学的リテラシーの心理学—子どもの学力はどう高まるか—』(藤村宣之著, 有斐閣, 2012 年) 『発達心理学—周りの世界と関わりながら人はいかに育つか—(第 2 版)』(藤村宣之編著, ミネルヴァ書房, 2019 年)
履修上の注意・備考	毎週の授業に先立ち, 当日の授業に対応する教科書の章, および当日に発表・検討予定の論文について熟読しておくこと。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235304	担当教員	一柳 智紀		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	月 4
講義題目	教授・学習心理学演習Ⅱ Seminar on Psychology of Learning and Instruction II				

授業の目的・概要	本演習では、教授・学習領域における授業実践を対象とした研究を読み、まとめ、発表するためのスキルを学ぶ。
授業計画	1:興味・関心から研究テーマを設定する 2:文献を検索する 3:論文を読む 4~8:受講者による論文の発表・討論 9:関連する英語論文を読む 10~13:受講者による英語論文の発表・討論
授業の方法	受講者が各自の興味関心からテーマを設定し、選んだ日本語文献を読み、まとめ、その内容を発表する。それをもとに、参加者全員で討論を行う。また、日本語文献に関連する英語文献も読み、まとめ、その内容を発表し、参加者全員で討論を行う。
成績評価方法	担当回での発表、授業時の議論への参加、課題の提出によって総合的に評価する。
教科書	秋田喜代美・藤江康彦編著『これからの質的研究法:15の事例にみる学校教育実践研究』東京図書 秋田喜代美・藤江康彦編著『これからの教師研究:20の事例にみる教示研究方法論』東京図書
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	受講者の人数によってスケジュールを調整する。積極的な参加を期待する。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235305	担当教員	清水 大地、岡田 猛
単位数	2.0	学期	A1
講義題目	身体性と創造性 Creativity and Embodiment		
時限	集中		

授業の目的・概要	この授業では、心理学論文のレビュー・ペアワークと、芸術表現の実践体験を通し、我々の身体と思考/創造性との関連に関する知識・理解を獲得する。心理学論文のレビュー・ペアワークに関しては、身体と思考・創造性との関連を検討した心理学論文を学生がレビューし、ペアとなりその内容を全体に共有し、上記の関連に関する概念的な理解を深める。芸術表現の実践体験に関しては、例えば、ダンスや音楽制作を通して記号や概念のイメージを深める体験に取り組み、我々の身体がいかに思考・創造性に影響を与え、また思考・創造性が身体に影響を与えうるか、その関連の理解を経験的に深めていく。以上の概念的・経験的活動双方から身体と思考/創造性の理解を深め、その理解を最後に発表・共有することが求められる。以上の異なる体験の活動を通し、身体と思考/創造性に関する包括的理解を深めると共に、芸術表現に関する心理学的知見を得ることを目指す。
授業計画	全3回の授業 第1回 オリエンテーション、ペアによる論文レビュー・発表、表現の実践体験(音楽制作)、ディスカッション (11/1(水)1~5限、以下全て赤門総合研究棟 A200 での実施) 第2回 ペアによる論文レビュー・発表、表現の実践体験(ダンス、セッション)、ディスカッション (11/21(火)1~5限) 第3回 グループでの発表・ディスカッション、総括(11/27(月)3~5限)
授業の方法	身体と思考/創造との関連を取り上げた心理学論文のレビュー・発表・ディスカッションを通して上記の関連についての概念的な理解を深める。加えて、身体と思考/創造とが深く結びついた芸術表現体験への主体的な参加・共有・ディスカッションを通して上記の関連についての経験的・演習的理解を深める。受講生は上記の発表やディスカッションへの活発な参加が求められる。
成績評価方法	最終発表ならびに通常授業の出席・積極的な参加・発表とディスカッションを重視して評価を付ける。
教科書	資料は逐次配布する。
参考書	「創造的認知」ロナルド・A.フィンケ、トーマス・B.ウォード、森北出版 「知の創生—身体性認知科学への招待」ロルフ・ファイファー、クリスチャン・シャイアー、共立出版
履修上の注意・備考	発表・ディスカッション・実践を伴う授業であるため、履修希望者は必ず出席して授業に参加すること。なお実践を伴う授業の性質上、受講希望者が多い場合は何らかの形で人数制限をする可能性がある。 心理学論文を読んだことがある人・ない人、表現(ダンス・音楽等)を行ったことがある人・ない人といった経験の有無は全く問いません。論文を読んだ経験や表現の経験がある人は本授業を含む今までの体験が、無い人は本授業で初めて経験する体験がいかなるものであるのか、それ自体を深く考え、周囲の方と共有してみましょ。それらを通して理解・解釈が深まっていく豊かな過程を体験して欲しいと考えています。 持参物: 仔細は授業回ごとに指示。論文を読む・発表する作業が可能なPC等の個人端末(論文レビュー・発表・ディスカッションの回
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235306	担当教員	高木 紀久子、岡田 猛		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 4
講義題目	芸術創造性の実践演習 Art and creativity seminar				

授業の目的・概要	この授業では、芸術の実践的な演習を通して身体レベルと思考レベルの創造プロセスの方法を身につける。身体レベルの創造に関しては、外界とのインタラクションを中心としたワークを行い、自己の記録および他者と共有することでその可能性を探る。思考レベルの創造に関しては、既存の思考の枠を外して新しいアイデアを発想することの理解を、関連する心理学論文のレビューとワークの双方を通じて深めていく。身体レベルと思考レベルの双方の活動からアイデアを統合させ作品創作を行い、最後の授業で発表することが求められる。この二つのタイプの活動を通して、芸術の創作プロセスに関する体験的理解を深めると共に、身体と思考を融合した創造活動についての心理学的知見を得ることを目指す。
授業計画	1. 講義:オリエンテーション(全体概要とフロッタージュなど身体を通じた表現の解説) 2. 演習:フロッタージュ演習 タクティルラインの演習 3. 論文レビュー1: 芸術創作に関する論文 4. 演習:フロッタージュ演習(描画材の応用)タクティルラインの演習 5. 論文レビュー2: 芸術創作に関する論文 6. 講義: 芸術創作のプロセス(参考スライド) 演習:フロッタージュの展開(多様な支持体による効果, 空間への展開) 7. 講義: 芸術創作のプロセス(現代美術家の作品創作のモデル) 演習:ポートフォリオへのまとめ 8. 美術館見学(この時期開かれている展覧会に行き、実際の作品の鑑賞体験を得る) 9. 講義:最終作品に向けての解説(参考スライド: 諸領域との関係性) 演習:グループディスカッション、作品企画 10. 作品制作(個別指導) 11. 作品制作(個別指導) 12. 作品制作(個別指導)プレゼンテーション計画(個別指導) 13. 作品発表・講評 なお、授業計画は履修者数、教室状況などにより変更が生じることがある。
授業の方法	実際に身体を動かして作品を作るという演習形式で、アートの創造性について学ぶ。加えて、心理学論文のレビューとディスカッション、ワークを通じて理解を深める。受講生は毎回の実際の制作活動への参加が求められる。
成績評価方法	最終発表ならびに通常授業の出席と授業への積極的な参加を重視して評価を付ける。
教科書	資料は逐次配布する。
参考書	「創造的認知」ロナルド・A.フィンケ, トーマス・B.ウード, 森北出版 「ART SINCE 1900: 図鑑 1900年以後の芸術」 ハル フォスター, ロザリンド・E. クラウス, イヴ-アラン ポワ, ベンジャミン・H.D. ブークロー, デイヴィッド ジョーズリット, 東京書籍 「Arts-Based Methods i Education Research in Japan」Kayoko Komatsu&c
履修上の注意・備考	履修希望者は必ず初回のオリエンテーションに出席すること。実技の授業なので、必ず出席して、授業に参加することが望まれる。なお、実践授業の性質上、受講希望者が多い場合は、何らかの形で人数制限をする可能性がある。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235307	担当教員	中島 由宇、野中 舞子、能智 正博、高橋 美保、滝沢 龍		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	火 4
講義題目	心理演習 Seminar in Psychology				

授業の目的・概要	<p>心理療法やカウンセリングの実践的な基礎となる臨床的態度、人とかかわり人のこころを理解しようとするありかたについて、こころをつかって(体感的、内省的、対話的に)学びます。そうした学びを土台として、 ・心理的支援を要する人への心理療法などに関する知識や技能の修得を目指します。 ・心理的支援を要する人の理解やニーズの把握、支援計画の作成を行うためのアセスメント能力を養います。 ・心理的支援を要する人の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携や地域連携に必要な、対話し協働する力を養います。 ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務の意義を理解します。 </p>
授業計画	<p>授業前半では、臨床心理学の社会的、心理学的、生物学的基盤、臨床心理学の研究、心理的支援技法などについて講義する予定です。 授業後半では、心理療法やカウンセリングの実践的な基礎となる臨床的態度について、ロールプレイとディスカッションを通して学ぶ予定です。 </p>
授業の方法	<p>授業の前半は、臨床心理学実践の基本的な知識や姿勢について学ぶ講義を主とします。後半はロールプレイの演習を主とします。</p>
成績評価方法	<p>レポートを中心に、授業内の発表やディスカッションも含めて評価します。</p>
教科書	<p>特に指定しません。</p>
参考書	<p>必要に応じて授業内で提示します。</p>
履修上の注意・備考	<p>この授業は公認心理師資格取得のためのカリキュラムの一部です。4年生で、公認心理師課程の指定科目のうち、4分の3以上(25科目中18科目)の履修を受講し終えていることを条件とします。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235308	担当教員	稲吉 玲美、野中 舞子、能智 正博		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 1
講義題目	心理実習 Practical Training in Psychology				

授業の目的・概要	保健医療、福祉、教育の3つの分野の施設において見学等による実習を行い、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受けながら、以下の点についての理解を深める。 ・心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ ・多職種連携及び地域連携 ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
授業計画	10月5日(木) ① オリエンテーション 10月12日(木)② 教育分野の概観 10月19日(木)③ 保健医療分野の概観 10月26日(木)④ 福祉分野の概観 11月～1月 先方と都合を合わせて実習に出る 1月11・18日 振り返り
授業の方法	まず座学において、保健医療、福祉、教育領域における公認心理師の活動について学んだ上で、以下の3つの実習機関すべてを回ることになる。 ・東京大学医学部附属病院(5日間、20時間) ・社会福祉法人 三井記念病院(1日間、8時間) ・社会福祉法人 泉会 岡本福祉作業ホーム玉堤分場(2日間、16時間) ・跡見学園中学校高等学校(1日間、1時間) ※ 実習先についてはあくまで予定であり、情勢等によって中止や内容変更等の可能性がある。
成績評価方法	平常点 70%(現地実習指導者による評価も含む)、 レポート 30%(施設毎に、A4で1～2枚程度) レポートの締め切り・提出方法は授業内で提示する。
教科書	津川律子・江口昌克(編)公認心理師分野別テキスト1「保健医療分野」(創元社, 2019) =1章、2章を読む 片岡玲子・米田弘枝(編)公認心理師分野別テキスト2「福祉分野」(創元社, 2019) =1章、2章を読む 増田健太郎(編)公認心理師分野別テキスト3「教育分野」(創元社, 2019) =1章、2章を読む
参考書	必要に応じて指示する。
履修上の注意・備考	公認心理師の受験資格を得ることを真剣に考えている4年生であること(3年生は来年度にとっていただきたい)。 原則として、「公認心理師の職責」および「心理演習」の単位を修得済みなし修得中の者。 実習費用がかかる可能性がある。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235309	担当教員	上岡 洋晴
単位数	2.0	学期	S1
		時限	火 1, 火 2
講義題目	身体教育方法論 Methodology of Physical and Health Education		

授業の目的・概要	<p>この授業では、発育過程にある子どもが、運動嫌いにならず、自分のからだを上手に動かすことができること、生涯スポーツ(身体活動・運動)に繋がるようにすることについての教育方法論を学ぶ。具体的には、学校体育、部活動、生涯スポーツなどがその範疇となる。年齢や学年に応じた指導方法の具体例を踏まえての講義と学生自身の調査報告を中心に授業を進める。親子一緒に運動体験、幼児教育(体育)、学校体育、大学体育(学生)、あるいはスポーツ少年団・部活動・自主サークルの実状とその問題点を明らかにすることが議論の出発点となる。例えば、身体活動・運動の質と量が多い子どもと、そうでない子どもの二極化の対策方法が挙げられる。何らかの原因で一度運動嫌いになると、以後の参加がかなり困難になることが知られており、これを防ぐ手立て考えることも現在の体育に求められる大きな課題である。 授業は、講義に加えて、事前に設定したテーマに基づき、担当する受講者が、図書・論文・各種統計資料などをまとめてプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションする形式で進める。 体育の教職の単位取得を希望している学生はもちろんのこと、体育のあり方について興味のある学生には適した授業内容である。なお、この科目は教科に関する科目「(体)保健体育科の指導方法」「(保)保健科の指導方法」に該当する。 In this class&comma; you learn educational methodologies for children who are in the process of developing so that they can move their bodies well without being averse to exercise&comma; and that they are able to play lifelong sports (physical activity and exercise). Specifically&comma; students learn about school physical education&comma; athletic club activities&comma; and lifelong sports. Classes will focus on lectures based on specific examples of teaching methods according to age and grade level&comma; and survey reports by students. The starting point of discussion is to clarify the actual situation and problems of exercise experiences with parents and children&comma; early childhood education (physical education)&comma; school physical education&comma; university physical education (students)&comma; youth sports clubs&comma; club activities&comma; and voluntary circles. For example&comma; there are measures to deal with the polarization of children who have a high quality and quantity of physical activity and exercise and those who do not. It is known that once a person dislikes exercise for some reason&comma; it becomes quite difficult to participate in the future&comma; and thinking about ways to prevent this is also a major issue required of current physical education. In addition to regular lectures&comma; classes are conducted in a format in which the students in charge summarize books&comma; papers&comma; various statistical materials&comma; etc. based on a predetermined theme&comma; present them&comma; and discuss them with all students. The course content is suitable not only for students who wish to earn credits for a physical education teaching license&comma; but also for students who are interested in the state of physical education. This subject corresponds to the subjects &quot;Teaching Methods for (Body) Health and Physical Education&quot; and &quot;Teaching Methods for (Insurance) Health Departments&quot;. </p>
授業計画	<p>4月11日: イントロダクション、4月18日: 学習指導要領、4月25日: 子どもの体力問題、5月2日: 運動部活動、5月9日: 生涯スポーツ、5月16日: プレゼンテーション(1回目)、5月23日: プレゼンテーション(2回目)と総括。 April 11: Introduction&comma; April 18: Course of Study&comma; April 25: Children's physical fitness problems&comma; May 2: Sports club activities&comma; May 9: Lifelong sports&comma; May 16: Presentation (1st)&comma; May 23: Presentation (2nd) and summary. </p>
授業の方法	<p>学習指導要領・資料・新聞記事・パワポイントなどを用いた講義、ディスカッションを行う。各自に当該方法論に関するプレゼンテーション(20分程度)を実施してもらう。 Lectures and discussions using the Course of Study&comma; materials&comma; newspaper articles&comma; power points&comma; etc. are conducted. Students give a presentation on th</p>

成績評価方法	毎回の授業におけるミニレポートと、プレゼンテーションの質を総合して評価する。テストは実施しない。 The quality of the small report and presentation in each class is evaluated comprehensively. No testing is conducted.
教科書	指定図書はない。 There are no designated books.
参考書	文部科学省：小学校学習指導要領（体育編）、中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編） Japan Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology: Course of Study for Elementary Schools (Physical Education), Course of Study for Junior High and High Schools (Health
履修上の注意・備考	<p>定刻に授業を開始するので遅刻なく出席すること。 Classes start on time&comma; so students must attend without delay. </p> <p>緊急の場合、下のメールアドレスまたは電話に連絡すること。 In case of emergency&comma; please contact me at the email address below or by phone. </p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（体）保健体育科の指導法

時間割コード	09235310	担当教員	佐々木 司		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 5
講義題目	教育の疫学入門 Studying Epidemiology in the Field of Education				

授業の目的・概要	<p>健康教育に関連する疫学の概念・方法論(疫学研究の様々なスタイル、統計の基本的知識を含む)の理解を目的とする。これらの理解は、今後教育学の分野でも evidence-based の科学的実証性が次第に要求されるに従って不可欠のものになると考えられ、また将来社会人や研究者となったときの業務・政策等の立案・理解にも極めて重要である。またこの理解を通じて、世の中にあふれる「科学情報」の中で、信頼できる情報とそうでない情報を区別するポイントについて習得することも目標の1つである。これらの力は、学問の世界のみでなく行政、マスコミ、実業界等で活躍する上で今後必要不可欠になると考えられる。</p>
授業計画	公衆衛生と疫学研究に関する基礎知識について講義する。
授業の方法	基本的に講義形式で行う
成績評価方法	期末試験を基本とする。
教科書	中村好一著「基礎から学ぶ、楽しい疫学(第4版)」医学書院
参考書	S.B.Hulley et al. Designing Clinical Research, 4th Edition, Lippincott, Williams & Wilkins.(木原雅子、木原雅博訳)「医学的研究のデザイン:研究の質を高める疫学的アプローチ(第3版)」メディカル・サイエンス・インターナショナル Kenneth J. Rothman. Epidemiology: An Introduction (2nd Ed). Oxford University Press
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)衛生学及び公衆衛生学

時間割コード	09235311	担当教員	山本 義春、内匠 透		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 2
講義題目	教育の生理学 Educational Physiology				

授業の目的・概要	<p>教育生理学は、教育対象の精神的・身体的機能のうち、教育の受け容れを可能にする諸機能と、それらに対する教育内容・方法・環境等の影響を生理学的に解明することを目的とする。本講義では特に、神経系の構造と機能を学び、運動や学習と記憶等の教育の神経生理学的基盤および睡眠や精神機能の成り立ちとその破綻について理解を深めることを目指す。 Educational physiology aims to physiologically elucidate the various mental and physical functions of educational subjects that make them receptive to education&comma; and the effects of educational content&comma; methods&comma; and environment on these functions. In this course&comma; students will learn the structure and function of the nervous system&comma; and deepen their understanding of the neurophysiological basis of education&comma; such as movement&comma; learning and memory&comma; and the origins of sleep and mental functions and their disruption.</p>
授業計画	以下のトピックスに関連する文献を読み、その生理学的背景を検討する。 ・神経系の構造と機能(細胞、神経系、薬理) ・運動の制御 ・睡眠と生体リズム ・情動 ・学習と記憶 ・統合失調症と感情障害 ・不安障害と発達障害
授業の方法	文献講読および下記 URL での教材を用いた解説
成績評価方法	平常点(出席)およびレポート・小試験による総合評価
教科書	Physiology of Behavior, Neil R. Carlson, 11th edition, Pearson.
参考書	カールソン、神経科学テキスト 脳と行動、第 4 版、丸善.
履修上の注意・備考	4 月 7 日は山本の公務のため休講とし 4 月 14 日から開始する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09235312	担当教員	多賀 厳太郎		
単位数	2.0	学期	S1	時限	月 2, 木 2
講義題目	心と脳の発達 Development of Mind and Brain				

授業の目的・概要	人間の発達は、胚の形態形成にはじまり、胎児や新生児に与えられた遺伝的要因と生得的な能力、自らを変化・発展させる内在的な機構、物理的環境や他者との相互作用により適応・学習していく機構などが複雑にからみあう現象である。本演習では、講義及び受講者による演習、原著論文講読、レポート作成、プレゼンテーションを行い、発達脳科学に関わる基本的概念を学ぶ。
授業計画	講義内容 胚発生と形態形成 自発活動の生成 脳構造的ネットワーク形成 脳機能的ネットワーク形成 脳機能的領域形成 運動 睡眠と意識 共生 物理的世界との相互作用(知覚) 他者との相互作用(言語) 演習課題 授業時間内のミニレポート 指定英語論文の要約提出とプレゼンテーション
授業の方法	講義、受講者によるプレゼンテーションとディスカッション。
成績評価方法	授業時間内のミニレポート、レポート課題、プレゼンテーション、ディスカッションを総合的に評価する。
教科書	なし
参考書	開講時に参考書リストを配布。
履修上の注意・備考	この科目は教職課程における「教科に関する科目」(体)体育心理学に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育心理学

時間割コード	09235313	担当教員	東郷 史治		
単位数	2.0	学期	A1	時限	火 1, 金 1
講義題目	安全・安心教育 Safety and Security Education				

授業の目的・概要	近年、我が国の交通事故件数や交通事故死者数が減少する一方で、自殺率の増加、地球温暖化、自然災害、SNSなど、子どもの生命や心身の健康などを脅かす身近な危険因子は多様化しつつある。これに対し学校では、交通安全のみならず生活安全と災害安全の領域にわたり、児童生徒等の安全確保の取り組みが進められている。そこで本授業では、医学・生物学・理工学を含む学際的視点から、現在の学校と日常生活全般における安全確保のために必要な主要事項を理解し、生涯を通じて安心・安全な生活を送る基礎を培うとともに、安心な社会づくりに貢献できるような資質や能力を養うことを目標とする。
授業計画	各週の予定項目は以下のとおりである。 ガイダンス 学校安全(1):安全安心科学 学校安全(2):体育・スポーツ活動中の事故 学校安全(3):部活動 学校安全(4):ピアサポート 災害安全(1):自然災害 災害安全(2):救命処置 現代生活安全(1):精神保健 現代生活安全(2):インターネット・情報セキュリティ 現代生活安全(3):高齢社会 環境安全(1):熱中症 環境安全(2):化学物質 定期テスト
授業の方法	学生のプレゼンテーションを中心に授業を進める。第1回目のガイダンスはZoomのリアルタイム配信で行う。2回目以降は対面とオンラインの併用(ハイブリッド式)の予定。ただし、状況によってはオンラインのみに変更となる可能性がある。
成績評価方法	平常点(出席)、プレゼンテーション、試験による総合評価。
教科書	なし
参考書	初回に紹介する
履修上の注意・備考	文部科学省等で作成されている関連資料について確認すること。なお、この科目は教科に関する科目「(体)(保)学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む)」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

時間割コード	09235314	担当教員	植阪 友理
単位数	2.0	学期	A1A2
講義題目	教育認知科学実践演習 I Practical Training in Educational Cognitive Science I		
		時限	月 3

授業の目的・概要	<p>心理学を生かした実践的研究活動である、「認知カウンセリング」や、その応用について学ぶ授業である。認知カウンセリングとは、一言でいえば人間の知的な問題(例、「～が覚えられない」「時間をかけていても、問題が解けるようにならない」「やる気がでない」)を抱えたクライアントに対して、心理学を生かしながら自立支援を行う活動である。自己調整学習などの知見も活用しながら学習者の自立を促している。 こうした活動を通じて、心理学の有用性を知るとともに、心理学の限界にも気づくことになり、新たな研究の立ち上げにもつながることが期待できる。こうした認知カウンセリングは、貧困家庭の子どもの支援や文京区教育センターと連携した事業などで活用されている。 本授業では、実際に文京区教育センターや貧困家庭支援の施設と連携し、実際に相談にくる小中学生に対して認知カウンセリングを行う。参加者は、基本的には事前に S セメスターで「認知カウンセリングの技法と応用」を受講することを条件とする。なお、診断初期、中期にその様子を報告し、参加者同士で議論する機会を設ける。最終的には、文京区教育センターや貧困家庭支援施設での最終発表を行い、その指導をめぐって議論する場を設ける。 実践の性質上、15~20 名程度を上限とする。</p>
授業計画	<p>S セメスターで学んだことを活かして、文京区教育センターおよび生活保護受給者家庭の施設において、実習を行う。8~10 回にわたる指導を行ってもらい、そこでの様子をそれぞれが持ち寄って議論する。これらの実習の時間については授業以外の時間帯に行われるため、それについて問題がない学生のみを受講を受け付ける。 相談開始1~3回目くらいのあたりで、初期診断に関する相談を授業の中で行う。 相談開始4~8回目くらいのあたりで、ショートレポートを作成し、中間報告発表を行う。 終了後にロングレポートを作成してもらい、実践した施設において、発表を行う。 実習の進行状況や、実践を行う施設との調整の結果、当該の授業時間以外にも発表等が行われる場合がある。これについては受講者と相談しながら進める。 なお、相談開始までの期間はこれまでに提出されているケースレポートなどを読んで議論し、研修する時間に当てる。認知カウンセリングの発想を生かした一斉授業の検討になる場合もある。</p>
授業の方法	対面を基本とする。
成績評価方法	授業に関連する活動およびレポートによって総合的に判断する。授業に関連する活動としては、授業中の議論への参加および授業後に提出を求める「振り返りシート」への記入状況などを総合して判断する。
教科書	適宜指示する。
参考書	認知カウンセリングに関連する資料を以下にアップする： https://www.dropbox.com/sh/2ju9yxizhwn2jfu/AAAx3fs6XQcnpf8rGRqk2EJpa?dl=0
履修上の注意・備考	<p>本講座を受講するためには、S セメスターにおいて「認知カウンセリングの技法と応用」を受講していることが条件となる。どうしても「認知カウンセリングの技法と応用」を履修できずに参加したい場合には、夏のプログラムに参加する必要があるため、植阪まで連絡を取ること。</p> <p>授業に関する連絡は、Slack を通じて行う。このため、初回の授業で手続きを行うこと。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235315	担当教員	岡田 猛
単位数	2.0	学期	S2
		時限	月 3, 月 4
講義題目	STEAM 授業を作る Designing STEAM workshops		

授業の目的・概要	<p>近年、諸学問を教える際にアートの手法を用いる試みが行われている。例えば、医学生の教育に演劇の手法を取り入れてコミュニケーション能力の育成を目指したり、歴史の授業の中で身体表現を取り入れて歴史の事象を自分事として捉える能力を育むといった試みである。これらは、その形態によって arts-based education や STEAM 教育などと呼ばれている。本授業では、アートの手法を取り入れた STEAM のワークショップ案を作ることを目的とする。そのために、受講生はまず STEAM 授業の理論や実践研究を学ぶ。その際、アートについての理解を深めるために、ダンスなどのアート・ワークショップの実施も予定している。次に数人のグループに分かれ、何らかの学術的トピックを選び、何らかのアートの手法を取り入れ、そのトピックを教えるための授業を作る。受講生の中には、多様な専攻の学生がいることが想定されるため、学際的なトピックを選ぶことが推奨される。最後に、各グループがデザインしたワークショップを他の受講生を対象に実施する。 このゼミナールは、頭や身体や情動を動かしながら、自分で授業を作ることによって STEAM 授業について学ぶ授業である。 クラブ活動等で演劇やダンスや音楽や美術などの芸術活動に携わっている人だけでなく、芸術はまだやったことがないけれど興味がある人など、どなたでも歓迎します。 </p>
授業計画	<p>1 日目 6/5 講義, STEAM 文献のグループ分けと論文の割り当て 2 日目 6/12 WS(ダンス:中野優子氏) 3 日目 6/19STEAM 論文講読(各文献グループの発表と議論) 4 日目 6/26STEAM の WS デザイン(高木紀久子氏), project のグループ分けとグループ作業, テーマ決定と文献探し 5 日目 7/3 WS(書: 畠田優衣氏) 6 日目 7/10project のグループ作業, 中間発表 7 日目 7/24 最終発表会 </p>
授業の方法	<p>論文講読やディスカッション, アートのワークショップ参加, STEAM ワorkshop作成のグループワークなど, 授業に実際に参加することで体験的に学習する授業である。</p>
成績評価方法	<p>授業への積極的参加と, ワorkshopの作成と発表, レポート</p>
教科書	<p>特に無し</p>
参考書	<p>特に無し</p>
履修上の注意・備考	<p>ワークショップの実技が含まれるため, その際には動きやすい服装をしてくること。ワークショップの内容によっては, 汚れてもよい服装をすること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235401	担当教員	登藤 直弥
単位数	2.0	学期	S1S2
講義題目	心理学統計法Ⅱ Psychological Statistics II	時限	火 2

授業の目的・概要	本授業では、心理学で用いられる統計手法に共通する考え方と最もよく用いられるごく基本的な統計手法について講義を行い、加えて、より高度な統計手法を学んでいくうえでの基盤となる各種統計手法の数理的な側面についても講義を行います。具体的には、推定と検定の考え方を学んだうえで平均値差と連関に関する推測の方法について学修し、その後、線形モデルの基礎について学修します。したがって、この授業を通して、「心理学で用いられる統計手法」や「統計に関する基礎的な知識」について習得することができるわけですが、これが授業の目標となります。
授業計画	本授業では、以下のような進度で授業を進めていく予定です。 第1回 推定量とその標準誤差(教科書第5章1節) 第2回 検定の考え方(教科書第5章2節) 第3回 検定力とその利用、区間推定の考え方(教科書第5章3-4節) 第4回 独立な2群の平均値差の検定(教科書第6章1節) 第5回 平均値差および効果量の区間推定(教科書第6章2節) 第6回 対応のある2群の平均値差の検定と推定(教科書第6章3節) 第7回 2群の比率の差の検定(教科書第6章4節) 第8回 カテゴリ変数間の連関の分析(教科書第6章5節) 第9回 変数と統計量のベクトルによる表現(教科書第7章1節) 第10回 回帰分析のベクトル表現(教科書第7章2節) 第11回 平方和および分散の分割(教科書第7章3節) 第12回 独立変数の効果の検定と自由度(教科書第7章4節) 第13回 平均値差への回帰分析的アプローチ、線形モデルに基づく統計的方法(教科書第7章5-6節)
授業の方法	授業については、教科書に基づき作成した資料を利用して「対面の講義形式」で行います。
成績評価方法	毎回実施する小テストへの解答結果(50%)と期末テストの結果(50%)に基づき成績評価を行います。詳細については、第1回目の授業時に説明します。
教科書	本授業では、以下の書籍を教科書とし授業を行います。なお、授業では教科書の内容をまとめた資料を作成して配布します。 ・南風原朝和(2002). 心理統計学の基礎——統合的理解のために 有斐閣。
参考書	本授業の参考書として、以下の書籍を挙げておきます。 ・南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊(2009). 心理統計学ワークブック——理解の確認と深化のために 有斐閣。
履修上の注意・備考	【履修上の注意点】・2017年度以前開講「心理統計学Ⅱ」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。 ・「心理学統計法Ⅰ」で扱った内容を前提とする。 ・学部横断型プログラム「数理・データサイエンス教育プログラム」の対象科目となる。 【予習・復習について】 各回の講義で教科書のどの範囲の内容について扱うかは「授業計画・内容」に記載してありますので、予習、復習をする際の参考にしてください。また、本授業では、高等学校までに学修した数学の知識および「心理学統計法Ⅰ」で学修した知識を前提に講義を行いますので、必要に応じて、関連する内容について復習をしておいてください。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235402	担当教員	宇佐美 慧		
単位数	2.0	学 期	A1A2	時 限	火 2
講義題目	心理学統計法Ⅲ Psychological Statistics III				

授業の目的・概要	回帰分析・分散分析・因子分析・共分散構造分析の基礎について理解する。
授業計画	下記の事柄を 13 コマで実施する。 1. 部分相関係数と偏相関係数 2. 偏回帰係数とその解釈 3. 重回帰分析のしくみ 4. 平方和の分割と重相関係数の検定 5. 個々の独立変数の寄与の評価 6. 完全無作為 1 要因デザイン 7. 多重比較の考え方 8. 完全無作為 2 要因デザイン 9. 対応のある 1 要因デザイン 10. 共分散分析 11. 因子分析の考え方とモデル 12. 因子分析のしくみと因子の解釈 13. 因子の回転 14. 共分散構造と母数の推定 15. 共分散構造分析による潜在変数間の関係の分析 16. 項目反応理論・階層線形モデルに関する基礎
授業の方法	講義による。
成績評価方法	期末試験による。
教科書	南風原朝和『心理統計学の基礎－統合的理解のために』(有斐閣, 2002 年)
参考書	南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊『心理統計学ワークブック－理解の確認と深化のために』(有斐閣, 2009 年) 南風原朝和『臨床心理学をまなぶ7 量的研究法』(東京大学出版会, 2011 年)
履修上の注意・備考	特になし 【履修上の注意点】2017 年度以前開講「心理統計学Ⅲ」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235403	担当教員	遠藤 利彦		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	月 2
講義題目	社会性と感情の発達心理学(感情・人格心理学) Psychology of human socioemotional development				

授業の目的・概要	近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果に依拠しながら、主に乳幼児期から児童期くらいにかけての子どもの社会情緒的側面の発達について概説するとともに、そこに生じる個人差が遺伝と環境のいかなる要因によって規定されるかについて考察を行う。また、人間の社会性を高度に支える種々の感情の発生機序や機能性などに関して、さらに人間のパーソナリティ(人格)の基本的性質・構造およびその形成過程などについても、最新の研究知見に基づきながら概観を行う。
授業計画	具体的には以下のようなテーマについて掘り下げて論じることにした。 ・乳幼児期における社会的知覚(顔・表情・視線・発声などの知覚・理解) ・原初的コミュニケーションの起源と発達(言葉を準備する非言語的コミュニケーション) ・感情に関する理論及び感情喚起の機序 ・感情が行動に及ぼす影響(感情の機能性・合理性) ・感情および感情制御・感情的知性の起源と発達 ・自己および他理解の起源と発達 ・子どもの心的理解の起源と発達 ・共感性・道徳性と向社会的行動の起源と発達 ・子どもの対人関係の起源と発達 ・社会性に関わる発達上の病理・障害とその支援 ・社会性発達の進化論的基盤・遺伝的基盤・脳神経学的基盤・環境的基盤 ・親子関係から alloparenting/allocare へ ・パーソナリティ(人格)の概念及び形成過程 ・パーソナリティ(人格)の類型、特性 etc.
授業の方法	基本的に講義形式で行う。
成績評価方法	出席状況と試験成績によって評価を行う。
教科書	特に用いない。
参考書	授業時に適宜、紹介する。
履修上の注意・備考	授業時に紹介する関連文献等に、可能な限り目を通すこと。 【履修上の注意点】 2019年度以前開講「社会性の発達心理学」と同一科目のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目(公)心理学

時間割コード	09235404	担当教員	岡田 猛		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 2
講義題目	創造性の心理学 Psychology of Creativity				

授業の目的・概要	創造性の心理学、特に「創造性への認知的アプローチ」を中心とした心理学・認知科学の研究知見について紹介する。この講義では、研究領域をくまなく概観することを目指すのではなく、芸術創作や科学的発見などに関する研究の具体例を詳細に紹介しながら、その背後にある考え方や方法論を理解できるように心がける。 なお、実際に創造活動に携わっている専門家の講演も予定している。
授業計画	・授業案内 ・熟達化 ・創造性の定義 ・創造性の概説 ・科学的発見 ・妥当性境界 ・面白い研究とは ・芸術創作活動 ・芸術的インスピレーション ・表現支援 ・ダンス ・伝統と創造 ・創造性評価 等
授業の方法	基本的には、講義形式の授業である。加えて、参加者間のディスカッションやゲストスピーカーの講演等も計画している。受講生は宿題として、文献を読んで授業に臨むことなどが求められる。
成績評価方法	毎回の出席と最終レポートにより評価する。
教科書	教科書は特に定めず、授業中に適宜関連文献を紹介する。
参考書	特になし
履修上の注意・備考	特になし COVID-19 の状況次第では、全面オンラインの可能性もある。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235405	担当教員	鈴木 雅之		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	教育評価 Educational Evaluation				

授業の目的・概要	本講義では、教育心理学的観点から教育評価を捉え、教育実践の中でどのように評価を行っていくべきかについて考察する。また、人の様々な特性を測定するという問題について理解を深めるために、教育測定に関する理論についても学ぶ。
授業計画	1. 教育評価とは 2. テストデータの分析 3. 妥当性と信頼性 4. テスト理論 5. 教育評価の方法 6. パフォーマンス評価 7. 教育測定・評価の歴史 1 8. 教育測定・評価の歴史 2 9. 自己調整学習 1 10. 自己調整学習 2 11. 指導と学習と評価 1 12. 指導と学習と評価 2 13. 指導と学習と評価 3
授業の方法	講義を中心に進め、適宜グループワークを取り入れる。 講義資料はITC-LMS上で配付する。
成績評価方法	講義内課題(25%) 期末レポート(75%)
教科書	特に指定しない。
参考書	野口裕之・大隅敦子 (2014). テスティングの基礎理論 研究社 佐藤浩一 (編) (2013). 学習の支援と教育評価 北大路書房 田中耕治 (2008). 教育評価 岩波書店 自己調整学習研究会 (編) (2016). 自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術 北大路書房 その他、授業時に適宜指示する。
履修上の注意・備考	特になし。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235406	担当教員	服部 雅史
単位数	2.0	学期	集中
講義題目	考えることの認知科学 Cognitive Science of Thinking		

授業の目的・概要	<p>授業の目標: 人間の思考に関する認知科学的研究, すなわち, 高次認知過程の基本的特性の解明を目指す研究について, 基礎的な研究成果から最近の重要な知見まで広く学習し, そのアプローチを深く理解する。 また, 知識を身につけるだけでなく, 実際に自分の頭を使って思考について思考する訓練をしながら, 認知科学的, 認知心理学的なものの方や考え方ができるようになることを目標とする。 さらに, 人間の思考に関する認知科学が, 今後, どのような方向に進むべきかについて, 自分なりのオリジナルなアイデアを持つことを目指す。 授業の概要: 私たちは, なぜ論理的に考えられないのか, なぜ間違った判断をしてしまうのか, なぜ必要なときによりアイデアが浮かばないのか。この授業では, こうした疑問に答えることを目指す「考えることの認知科学」について講義し, 受講生といっしょに考えたい。 かつて西洋の哲学者たちは, 「考えること」は人間とそれ以外の動物を隔てる理性の本質であり, 人間の基本的な精神活動であると考えていた。しかし, 最新の認知科学は, 必ずしもそのように捉えているわけではない。私たちは, バイアスにまみれた判断をし, 論理的な推論とはかけ離れた考えから短絡的な結論を導く。そうした姿からは, 非合理的な人間像が浮かび上がる。このように相反する両極的な視点を吟味すると, 合理性という概念自体のあいまいさと複雑さが明らかとなると同時に, 非合理的な思考からその合理的側面が見え, また合理的な思考からその非合理的側面に気づく。 本講義では, 合理性を主軸としながら, 創造性, 意識性という2本の軸を取り入れることにより, 人間の思考, ひいては人間の知性について立体的に捉えることを試みる。一人一人が人間の思考について深く思考して, それを踏まえたお互いの議論の中から, 思考についての新しい問題が発見できることを期待している。できるだけデモや簡単な実験を交えながら, 受講生の理解を深めるように努力したい。 </p>
授業計画	<p>第1回 イントロダクション 第2回 合理性と非合理性(1): 論理主義の限界 第3回 合理性と非合理性(2): 効用理論の限界 第4回 表象と確率: 非論理主義的アプローチ, メンタルモデル, 確率モデル 第5回 因果と共変: 確率, 介入, 反事実 第6回 規範と解釈: 多様な規範, 二重フレーム, 二重合理性 第7回 進化と思考: 単純ヒューリスティック, Less-Is-More, 社会契約 第8回 社会と合理性: 互恵的利他行動, 実験ゲーム 第9回 意識と無意識: 理由探索, 言語陰蔽効果, 二重過程 第10回 感情と経験効用: 現状維持, More-Is-Less, ピークエンド 第11回 合理性と創造性: 対称性推論, 目標多重性 第12回 創造性と意識性: アイデア生成, 潜在情報利用, 第13回 知性とは: 自己意識, 人工知能, まとめ </p>
授業の方法	<p>2-3 月集中講義として対面で実施する。 講義の中にデモ実験やグループワーク, 討論の時間を取り入れて, 理解を深められるように工夫したい。 </p>
成績評価方法	<p>授業内で不定期に課す複数回の小レポート・小テストの合計点(60%)と最終レポート課題(40%)で評価する。そのほかに, 授業内での鋭い質問やコメントなど, 授業に対して顕著な積極的・創造的な関与が認められた場合は, ボーナス点として加点する。 </p>
教科書	なし
参考書	<p>マンクテロウ&comma; K. 著 服部雅史・山祐嗣(監訳)(2015). 思考と推論: 理性・判断・意思決定の心理学 北大路書房 978-4-7628-2893-5(思考心理学に関する最も詳しい和書) スタノヴィッチ&comma; K. E. 木島泰三(訳)(2017). 現代世界における意思決定と合理性 太田出版 978-4778315979 カーネマン&comma; D. 村井章子(訳)(2012). ファスト&スロー: あなたの意思はどのように決まるか?(上・下) 早川書房 978-415050</p>
履修上の注意・備考	<p>一般教養レベルの心理学(特に認知心理学)の基礎的な知識があることを前提として授業を進める。知識が十分でない場合は, 上記の『基礎から学ぶ認知心理学』などで自学自習しておくことが望ましい。 受け身で学ぶという姿勢ではなく, 自ら考えて積極的にアウトプットする姿勢が求められる。 </p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235407	担当教員	未定
単位数	2.0	学期	集中
講義題目	公認心理師に関する法律と制度(関係行政論) Legal and Administrative System of Licensed Psychologists		

授業の目的・概要	<p>公認心理師及び臨床心理士などの心理専門職が心理支援を行う場合に知っておくべき法律と行政的な施策、必要となる倫理について、この授業で議論する。心理支援は、①保健医療分野、②福祉分野、③教育分野、④司法・犯罪分野、⑤産業・労働分野の5分野に大きく分けることができる。また、これらの分野をまたいで横断的に対応する必要がある心理支援もある。発達障害や自殺、虐待などの課題である。さらに、5分野に含まれない、その他の分野として、私設開業の心理相談室等の活動もある。これらの心理支援を行う上で、どのような法律が関係するのか、法律も含めてどのような施策や制度が設定され展開されているのか、どのような歴史的経緯で法律や制度が構築されどのような課題を有しているのか等を学んでいく。また、これらの分野や課題別の法律や制度の基盤となる、日本国憲法や公認心理師法などの基盤的法制度やその理念への理解も重要となる。 この授業では、心理支援を行うものが必ず知っておくべき法律と行政的な仕組みについて学修する。また支援を行う上での倫理についても取り上げる。さらに、一般企業に就職した社会人や地域生活を営むよき市民として知っておくとい、心の支援に関する施策や住民サービスについても学ぶことになる。具体的な事例についてディスカッションする機会も設け理解を深める。 心理支援に関する法律や諸制度を学ぶことで、心理専門職を目指す人はもちろん、一般就職をする人も、将来社会人となった時によりよく社会参加していく上で、その知識や時代背景の理解が役立つであろう。家族や友人、知人が心理支援を必要とした時の諸制度の利用、家庭を持ち子育てをする際に受けることのできる行政、福祉、教育サービスへの理解を深めることで、自らの人生をよい形で展開することにも貢献するであろう。 なお、この科目は、公認心理師資格を取得するために必要な科目にも位置付けられる。 <到達目標> 1)臨床心理学的支援と関連する法律や制度の概説ができる 2)心の支援に関する諸政策の展開を行政の動きも含め説明できる 3)心の支援に関する倫理的課題について論点を説明できる。 4)公認心理師の本質を法律や制度の成り立ちをふまえて説明できる 5)よき市民として生活する上で心の支援に関する住民サービスの利用について意見を持つことができる</p>
授業計画	<p>【第1回】・ガイダンス／・法律と倫理の総論 *グループワークディスカッション 【第2回】・公認心理師法について 【第3回】・医療全般における法律と制度(保健医療分野①) 【第4回】・精神科医療における法律と制度(保健医療分野②) 【第5回】・保健活動における法律と制度(保健医療分野③) *グループワークディスカッション 【第6回】・児童福祉における法律と制度(福祉分野①) 【第7回】・障害者における法律と制度(福祉分野②) 【第8回】・高齢者における法律と制度(福祉分野③) *グループワークディスカッション 【第9回】・教育における法律と制度(教育分野①) 【第10回】・教育における法律と制度(教育分野②) *グループワークディスカッション 【第11回】・非行矯正における法律と制度(司法・犯罪分野①) 【第12回】・犯罪及び犯罪被害における法律と制度(司法・犯罪分野②) *民事における法律と制度を含む 【第13回】・産業労働における法律と制度(産業・労働分野) 【第14回】・いのちに関する法律と制度、倫理 【第15回】・まとめと展望</p>
授業の方法	<p>パワーポイントと配布資料を基にした講義をベースにして、ディスカッション及びグループワークを行い、理解を深める。授業に通底するのは、心理専門職とは何者か、その本質とは何かという問いである。その問いを、法律や制度、そしてそれらの成り立ち、現状と課題を通して、議論を深める。</p>
成績評価方法	<p>授業内で求めるリアクションペーパー30%、小テスト20%、課題レポート50%</p>
教科書	<p>元永拓郎編(法律監修 黒川達雄) 公認心理師の基礎と実践シリーズ②③関係行政論[第2版] 遠見書房 </p>
参考書	<p>津川律子・元永拓郎 編著 心の専門家が会える法律[新版] 誠信書房 津川律子・元永拓郎 編著 心理臨床における法・倫理・制度 放送大学教育振興会</p>
履修上の注意・備考	<p>公認心理師及び臨床心理士として社会で活動する上で、関連する法律の知識と行政が行う施策の理解は必須のものとなる。心の支援に関する法律や制度を体系的に学ぶことで、社会人となった後に、心の支援を有効に利用すること</p>

につながる。また周囲の人に、そのような制度の活用を勧めることもできるであろう。よき社会人として生きるための基本的知識として、法律および制度を位置づけることができる。|

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09235408	担当教員	大橋 靖史		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	司法・犯罪心理学 Forensic and Criminal Psychology				

授業の目的・概要	<p>司法・犯罪心理学に関する知識を習得するとともに、そうした知識をもとに、さまざまな犯罪や司法に関わる出来事を多様な視点から捉えることができるようになることを目指す。 犯罪が生じた心理学的原因を探ることにとどまらず、犯罪(加害)者、(冤罪被害者を含む)被疑者/被告人、(犯罪被害者を含む)市民という3者の視点から、司法・犯罪心理学を捉えていく。こうした視点をとることにより、犯罪という現象や司法という制度に関わる(関わらざるを得なくなる)人間の心理を理解することが可能となる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 事例紹介 第3回 犯罪の原因(バイオ、サイコ) 第4回 犯罪の原因(ソーシャル) 第5回 精神鑑定、医療観察法 第6回 犯罪者の矯正・更生(アセスメントを含む) 第7回 プロファイリング 第8回 ポリグラフ検査 第9回 取調べの方法 第10回 供述の分析 第11回 犯罪被害者の心理 第12回 犯罪の未然防止 第13回 家事事件</p>
授業の方法	講義
成績評価方法	授業参加 10点 レポート 20点 期末試験 70点
教科書	特に指定しない。授業内で使用する資料等については、授業内で指示します。
参考書	特に指定しない。授業内で適宜、紹介します。
履修上の注意・備考	予習、復習を欠かさないこと。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235409	担当教員	武見 ゆかり		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 1
講義題目	栄養学概論 Introduction to Human Nutrition				

授業の目的・概要	<p>栄養とは、人間が食物として外界から必要な物質(栄養素)を取り入れ代謝して生命活動を続ける営みをいう。人間の健康の維持, 増進のためには適切な栄養が必要である。人間は, 食物として外界から必要な物質(栄養素)を取り入れながら, こうした栄養の営みを行っている。栄養の営みは個人の生活だが, その営みには, 職業, 収入, ジェンダーなど社会的決定要因の影響が大きい。本講では, 人間の栄養の営み及び食生活を, 地域社会や環境との関わりも含めてとらえる基礎的知識とその活用方法を学習する。自分を事例として, 健康状態やライフスタイルに合わせて, 学んだことを実生活で活用する力の修得も目的とする。 </p>
授業計画	<p>1. 今この時期(新型コロナウイルス感染症対策の新しい生活様式)だからこそ, 自分の食生活を考えてみよう: 食生活のセルフチェック 2. 何をどのくらい食べたらよいか: 食事バランスガイドの理解と活用 3. 何をどのくらい, いつ食べたらよいか(時間栄養学の知見から) 4. 栄養素の機能と代謝① 炭水化物(糖質, 食物繊維) 5. 栄養素の機能と代謝② たんぱく質 6. 栄養素の機能と代謝③ 脂質 7. 栄養素の機能と代謝④ ビタミン, ミネラル, 水分 8. どの栄養素をどのくらい摂取したらよいか: 食事摂取基準 9. スポーツと栄養 10. 社会的決定要因と生活習慣病・食生活: 国民健康・栄養調査結果を中心に 11. 農業政策と栄養政策, 「健康な食事」実現のための食環境整備 12. 世界の健康・栄養対策の動向: 健康を超えて, 地球環境を考慮した持続可能性の重視 13. 健康・栄養情報の読み解き方: ヘルスリテラシーを高めよう 14. 総合レポート</p>
授業の方法	原則オンライン講義形式。Zoom を使って同時配信の授業を行う。 一部自分で演習を実施し、提出物を求める。
成績評価方法	最終回の総合レポート(60%)、および提出物の内容(40%)を合わせて総合的に評価
教科書	必要資料は随時配布。参考図書を紹介。
参考書	香川靖雄「やさしい栄養学」(女子栄養大学出版社) 上西一弘「食品成分最新ガイド 栄養素の通になる」(女子栄養大学出版社) 武見ゆかり・吉池信男編「食事バランスガイドを活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版」(第一出版)
履修上の注意・備考	開講中に数回、授業内容に関するコメントなどの提出を求めらるので、それに適宜対応すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235410	担当教員	佐々木 司、山本 義春、東郷 史治		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 5
講義題目	ストレス・マネジメント概論(健康・医療心理学) Introduction to Stress-Management				

授業の目的・概要	<p> /Course Objectives/ Overview この授業は、急速に変化する現代社会を生きていく上で、またそのような社会の中で相互扶助による貢献を第一義とする市民的エリートとして成長するために不可欠な心身の実践科学とその知識について、理論と実践両面から学ぶことを目的とします。インターネットや SNS の急速な普及(四半世紀前にはこの世に存在しなかった)と情報氾濫、生活の 24 時間化・国際化、産業構造の変化、これらに伴う対人関係の変化など、現代のわれわれを取り巻く環境と状況は加速度的に変化し続けています。このような変化は、当然ながら、心身の健康、ストレス、学習に大きな影響を及ぼし、人間関係、将来設計、社会での適応のあり方、精神疾患などにも影響を及ぼしています。これらは学生の皆さんの現在の生活のみでなく将来の社会人としての活躍にも当然ながら深く関係する問題です。この授業では、教育学部身体教育学コースでの研究内容を紹介しつつ、生活習慣、学習、脳、精神医学、社会など様々な観点からこれらの問題について考えていきます。この中には、相談支援研究開発センターの教員が担当して行う、学生支援の実践した講義も多数含まれます。この講義での学習を通じ、学生生活における健康の維持・向上とともに、将来の社会での活躍のあり方について考えを深める上でも必要な知識とスキルを習得してもらえればと思います</p>
授業計画	<p>以前の各回の講義タイトルを示す。2023 年度もこれに準ずる。 各回の担当教員と授業タイトルの当面の予定は以下の通りである。「大学生と健康」「脳と身体の複雑さ」「神経発達症とソーシャルスキル」「心の健康について学ぶ」「孤立予防と自殺予防」「消費者被害とカルト問題」「生命のリズムと心身の健康」「学生生活とピアサポート」「生活習慣とメンタルの健康」「無意識のうちに選択・制御・学習される行動」「セクシュアルマイノリティと学生生活」「ハラスメントについて考える」「価値学習の脳機構および依存症の神経生物学的機序」</p>
授業の方法	基本的に講義形式で行う。内容に応じた課題や討論などが適宜加わることがあり得る。
成績評価方法	毎回レポートを授業時間内に課す。 (成績はその評価によって行う。期末試験は行わない)
教科書	使用しない
参考書	使用しない
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

時間割コード	09235411	担当教員	森田 賢治		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	脳科学特論 Functions and dysfunctions of the brain				

授業の目的・概要	This lecture gives an introduction to modern systems, cognitive, and computational neuroscience on the brain functions and dysfunctions. Planned contents include: activity dynamics of neurons and neural circuits, computational and physiological mechanisms for learning, memory, and decision making (especially focusing on value learning and value-based decision making), and computational approaches to neuropsychiatric disorders.
授業計画	The currently planned order is as follows, though this can be changed: - activity dynamics of neurons and neural circuits - computational and physiological mechanisms for learning, memory, and decision making - computational approaches to neuropsychiatric disorders
授業の方法	lecture
成績評価方法	attendance and report
教科書	none
参考書	will be announced in the lecture
履修上の注意・備考	We welcome motivated students from any departments (undergraduate or graduate) ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235412	担当教員	小国 喜弘、能智 正博、野崎 大地、熊谷 晋一郎、近藤 武夫、額賀 美紗子、東郷 史治、飯野 由里子、大塚 類、星加 良司		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	ダイバーシティ・インクルージョン概論 Introduction to the Theories of Diversity and Inclusion				

授業の目的・概要	<p>障害者・女性・性的マイノリティ・外国にルーツを持つ人々等、多様な背景や特性を持つ人々の包摂(ダイバーシティ・インクルージョン)の必要性が社会的な関心事となっている。一方で、現実を目を向ければ、多様性の包摂は道半ばであるばかりでなく、ヘイトやバックラッシュ等、差異や多様性をめぐる分断や格差が先鋭化する状況すら顕在化している。こうした「理念」と「現実」とのギャップを的確に分析し、それを架橋するための方略を探究する知性が、多様性を包摂する社会に生きる私たちには求められている。本授業では、マジョリティ中心に形成された環境・制度・規範等がマイノリティを周縁化するメカニズムに着目しつつ、様々な専門性を有する教員の講義を通じて、多様性が生きる社会を実現するための視点や実践的知見を提供する。</p>
授業計画	<p>< 学校教育から DI を考える > 4/14 第二回 インクルーシブ教育とは(小国) 4/21 第三回 インクルーシブ教育と ICT (近藤先生) < 身体機能をめぐる DI > 4/28 第四回 多様性社会実現のためのパラリンピックの意義 (河合先生(野崎先生)) 5/19 第五回 身体機能の障害に立ち向かう科学技術(野崎先生) 6/2 第六回 思春期の多様な自己実現を可能にする心の健康とメンタルヘルスリテラシー(東郷先生) < 語り/言葉をめぐる DI > 6/9 第七回 言語障害者の体験と語り(能智先生) 6/16 第八回 解釈的正義と当事者研究(熊谷先生) 6/23 第九回 当事者とは誰か——現象学的質的研究から考える(大塚先生) < 改めて DI とは何か > 6/30 第十回 DI とクエア・アクティヴィズム(飯野先生) 7/7 第十一回 移民の子どもから考える日本社会の多様性(額賀先生)(オンデマンド) 7/14 第十二回 「多様性理解」とは何か(星加先生) 7/21 第十三回 DI と障害学(星加先生) </p>
授業の方法	<p>この授業は、ガイダンスも含めてオンラインで行います。初回から、時間までに zoom にアクセスするようにしてください。 zoom には氏名を記入して入室してください。途中で接続できなくなったときなどは再度接続するようにしてください。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行います。リアクションペーパーについては、オンライン講義の最後の 10 分に、ITC-LMS を用いて入力して貰う予定です。あまりに短い文章(例えば 30 字以内)は、0 点とすることがあります。およそ 200 字前後を目安として、自らの考えをしっかりとまとめる機会として用いてください。提出は、当日内に御願います。</p>
教科書	特になし
参考書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	<p>zoom の参加 URL については、現在のところ、この講義に固定された URL となっていますが、変更する可能性がありますので、毎回確認をするようにしてください。 インターネットにうまくつながらない場合、事情により時間内で接続できなかった場合のために、講義を録画しています。その場合は、下記のアドレスにご連絡ください。また通信環境が整わない方は、整った段階でお知らせください。 バリアフリー教育開発研究センター バリア・スタディーズ担当 utbarrier.studies@gmail.com </p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09235413	担当教員	植阪 友理
単位数	2.0	学期	S1S2
講義題目	認知カウンセリングの技法と応用 I Cognitive Counseling and its Applications I		
		時限	月 3

授業の目的・概要	心理学を生かした実践的研究活動である、「認知カウンセリング」や、その応用について学ぶ授業である。認知カウンセリングとは、一言でいえば人間の知的な問題(例、「～が覚えられない」「時間をかけていても、問題が解けるようにならない」「やる気がでない」)を抱えたクライアントに対して、心理学を生かしながら自立支援を行う活動である。こうした活動を通じて、心理学の有用性を知るとともに、心理学の限界にも気づくことになり、新たな研究の立ち上げにもつながることが期待できる。こうした認知カウンセリングは、貧困家庭の子どもの支援や文京区教育センターと連携した事業などで活用されている。本授業では、これらの基本的な技法や考え方、実際の支援のあり方について、座学のみならずロールプレイなども通じて体験し、学んでもらう。さらに、こうした個別学習支援の発想を、集団指導に応用していく方法についても学んでいく。 なお、後期に文京区教育センターや貧困家庭支援の施設で実習を行いたい場合には、Aセメスターで本授業と接続する「教育認知科学実践演習」もあわせて受講されたい。原則として、本講座を履修した学生のみ、「教育認知科学実践演習」が履修可能となるため、注意されたい。
授業計画	初回:ガイダンス(第1回) S1 セメスター(第2回～6回) 認知カウンセリングの基本的技法を座学および体験型ワークショップで学ぶとともに、具体的なケース検討会を行う。 S2セメスター(第7回～12回) 認知カウンセリングの発想をいかした一斉指導のあり方について、座学と体験型ワークショップなどで学ぶとともに、実際の授業のビデオを見ながら議論を行う。 最終回:まとめ(第13回)
授業の方法	対面、毎回の授業で座学およびグループワークを実施。
成績評価方法	授業への出席に関連する評価と、最終レポートを組み合わせる総合的に判断する。授業への出席に関連する評価の中身は、毎回のグループワークの様子や、授業後に提出を求める「振り返りシート」を含む諸課題等の提出状況から、総合的に判断する。
教科書	適宜指示する。
参考書	関係する資料を以下にアップする： https://www.dropbox.com/sh/2ju9yxizhwn2jfu/AAAx3fs6XQcnpf8rGRqk2EJpa?dl=0
履修上の注意・備考	A セメスターにおいて、教育認知科学実践演習において認知カウンセリングの実習を、文京区教育センターもしくは貧困家庭支援の実践現場で体験したい場合には、この授業を履修すること。どうしてもこの授業を履修できずに、参加したい場合には、夏のプログラムに参加する必要があるため、植阪まで連絡を取ること。 授業に関する連絡は、Slack を通じて行う。このため、初回の授業で手続きを行うこと。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09236101	担当教員	清河 幸子		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 4
講義題目	教授・学習心理学概論 (教育・学校心理学) Psychology of Learning and Instruction				

授業の目的・概要	教育現場において生じる問題及びその背景, 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援に関して理解することを目標とする。本授業では, 特に, 教授・学習に関して扱う。具体的には学習が成立するメカニズムや学習を支える要因, 効果的な教授法についての基礎知識を獲得するとともに, 受講者自身にとっての「教授・学習」の経験について振り返り, 改善することを目標とする。
授業計画	1. 「学習」とは? 2. 記憶のしくみ 3. 記憶の種類 4. 「概念」とは? 5. 概念の獲得・概念変化 6. 読みの学習: 文章理解 7. 書きの学習: 作文 8. 動機づけ 9. メタ認知 10. 説明による学習 11. 発見・探究による学習 12. 協同による学習 13. まとめ
授業の方法	講義形式を中心に進めていくが, 適宜, 小グループでの討論を行う。また, トピックに関連した実験や質問紙調査を実施し, 体験的に学ぶ機会を提供する。
成績評価方法	課題(50%)および理解確認テスト(50%)により評価する。
教科書	指定しない。
参考書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	課題は毎回の授業時に出題する。理解確認テストは学期末に1回実施する。 2022 年度以前開講の「教授・学習心理学概論」と同一科目のため, 既に単位を修得している場合は本科目を履修出来ない。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学

時間割コード	09236102	担当教員	針生 悦子		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 1
講義題目	発達心理学 Developmental Psychology				

授業の目的・概要	ことばを話す, 問題をうまく解決する, 他者の気持ちを理解する, など, おとなになればたいていできるようになっていることが「できない」(ようみ見える)状態で, 子どもは生まれてくる。そこからの発達のプロセスとはどのようなもので, そのプロセスを支え, また, そのプロセスに影響を及ぼしているのはどのような要因か, そして, それらの能力や特性の生涯にわたる変化とはどのようなものか。これらの問題について概観し考察していく。
授業計画	以下の内容をカバーする予定である。 ①認知機能の発達および感情・社会性の発達 ②自己と他者の関係のあり方と心理的発達 ③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達 ④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識および考え方 ⑤高齢者の心理
授業の方法	講義形式。
成績評価方法	授業初回到説明する。
教科書	授業内で適宜、紹介する。
参考書	授業内で適宜、紹介する。
履修上の注意・備考	授業初回到説明する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学

時間割コード	09236201	担当教員	清河 幸子、野中 舞子、一柳 智紀、藤村 宣之、岡田 謙介、能智 正博、針生 悦子、高橋 美保、岡田 猛、滝沢 龍、遠藤 利彦、植阪 友理、宇佐美 慧		
単位数	4.0	学期	S1S2	時限	木 3, 木 4
講義題目	教育心理学実験演習Ⅱ(心理学実験) Experiments in Educational Psychology II				

授業の目的・概要	実習や見学を通じて、教育心理学の研究や実践をおこなうための基礎を養う。
授業計画	確定したスケジュールは、初回授業で提示するが、面接法、性格検査、発達検査、知能検査、調査(質問紙)データの解析、認知心理学実験などの実習のほか、必要に応じて、心理学の生かされている現場(学校、老人ホーム)の見学も行っていく。
授業の方法	実習、見学
成績評価方法	レポート
教科書	必要に応じて授業中に指示する
参考書	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)「心理学研究法入門」東京大学出版会
履修上の注意・備考	履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。 2019年度以前開講「教育心理学実験演習Ⅱ」と同一科目のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修不可。 公認心理師カリキュラムにおける学部科目の1つである。 掲載されているオンライン URL は初回のものである。2 週め以降については、初回授業内での指示にしたがって URL にアクセスすること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09236202	担当教員	清河 幸子、野中 舞子、一柳 智紀、藤村 宣之、岡田 謙介、能智 正博、針生 悦子、高橋 美保、岡田 猛、滝沢 龍、遠藤 利彦、植阪 友理、宇佐美 慧		
単位数	4.0	学期	A1A2	時限	木 3, 木 4
講義題目	教育心理学実験演習Ⅲ(心理学実験) Experiments in Educational Psychology III				

授業の目的・概要	具体的な研究テーマのもと、研究の計画からデータの収集と解析、考察、報告書の作成にいたる、一連の研究活動にかかわり、心理学研究の実際を理解する。
授業計画	1学期を、前半と後半、2つのタームに分け、それぞれのタームにおいて1つずつ、研究活動をおこなう。テーマは、教員や大学院生の提案する研究テーマの中から、各自の興味関心にしたがって選択する。
授業の方法	グループ実習
成績評価方法	研究活動、レポート
教科書	必要に応じて授業中に指示する
参考書	必要に応じて授業中に指示する
履修上の注意・備考	履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。「教育心理学実験演習Ⅰ」「教育心理学実験演習Ⅱ」とともに、実質的に、教育心理学コースの必修科目である。ほかの実験演習に比べると、参加者自身が、研究に積極的に関わっていける余地が大きく、コースの科目では模擬卒業論文のような位置づけとなっている。 初回授業は 158 教室で実施します。希望テーマ調査へ回答いただくため、スマートフォン、PC等の Google フォームに回答できる端末を持参してください。 初回授業に関して、やむを得ない事情によりオンラインで参加される方の Zoom URL は 次の 通り です 。これは 初回 に 限り 利用 できる URL です 。 https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/85741113639?pwd=MjZ3TjlmZjBldHZyVkJaSGJLc0dLQT09 ミーティング ID: 857 4111 3639 パスワード:
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09236501	担当教員	清河 幸子、野中 舞子、一柳 智紀、藤村 宣之、岡田 謙介、能智 正博、針生 悦子、高橋 美保、岡田 猛、滝沢 龍、遠藤 利彦、植阪 友理、宇佐美 慧		
単位数	2.0	学期	通年	時限	火 5
講義題目	教育心理学研究指導 Guided Research in Educational Psychology				

授業の目的・概要	教育心理学、特に、教育認知科学分野において、学び手の学習過程の研究や、教師に関する研究、効果的な指導法検討などの研究を行い、卒業論文を書こうとしている学生に対し、指導を行う。
授業計画	受講者との個別面談により指導を行う。
授業の方法	演習形式による。
成績評価方法	研究や発表等により、総合的に判断する。
教科書	適宜、指示する。
参考書	適宜、指示する。
履修上の注意・備考	Slack で情報をやり取りするため、メールにて連絡し、登録のための手続きをとること (yuri-uesaka@p.u-tokyo.ac.jp/yuri.uesaka@ct.u-tokyo.ac.jp)。 植阪研究室は教育学部棟 250 号室に加えて、薬学部607も研究室として利用している。 薬学部 607 で面談を行うの場合には、以下の道案内に従って訪問されたい。 薬学部正面玄関をはいり、目の前右手に見える渡り廊下を渡り、十字路で右に曲がること。十字路右手裏にあるエレベーターで6階にあがり、エレベーターをおりたら、渡り廊下をわたり、扉をあける。扉からみて、左側の部屋607が研究室。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09237201	担当教員	野崎 大地、林 拓志、東郷 史治		
単位数	3.0	学期	S1	時限	木 3, 木 4, 木 5
講義題目	身体教育学演習 I Laboratory in Physical and Health Education I				

授業の目的・概要	本実験演習の目的は、身体教育学における実験や測定に必要な方法論・技術を習得することである。具体的には、実際に研究室で進行している研究テーマにスポットを当てながら、問題設定の方法、様々な実験装置の使い方やデータ処理の方法などについて幅広く学んでいく。
授業計画	予定項目は以下のとおりである。 1. ガイダンス 2. Excel, JASP による簡単なデータ処理・統計処理 3, 4. Matlab の使い方 5. 動作分析 6. 運動学習課題
授業の方法	・実験および分析の内容について講義形式のイントロダクション。 ・実験機器の使い方、データ処理の仕方を実習。 ・グループ毎に取得したデータを分析し、提出期限までにレポートを提出。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポートによる総合評価。
教科書	演習中に指定する。
参考書	演習中に指定する
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

時間割コード	09237202	担当教員	野崎 大地、林 拓志、東郷 史治		
単位数	3.0	学期	S2	時限	木 3, 木 4, 木 5
講義題目	身体教育学演習Ⅱ Laboratory in Physical and Health Education II				

授業の目的・概要	本実験演習の目的は、身体教育学における実験や測定に必要な方法論・技術を習得することである。具体的には、実際に研究室で進行している研究テーマにスポットを当てながら、問題設定の方法、様々な実験装置の使い方やデータ処理の方法などについて幅広く学んでいく(身体教育学実験演習Ⅰに準じて行う)。
授業計画	各週の予定項目は以下のとおりである。 経頭蓋磁気刺激による脳機能の測定 脊髄反射の測定 歩行運動の測定 心拍と血圧の測定 日常生活下での気分と体調の記録・分析 アンケート調査
授業の方法	・実験および分析の内容について講義形式のイントロダクション。 ・実験機器の使い方、データ処理の仕方を実習。 ・グループ毎に取得したデータを分析し、提出期限までにレポートを提出。
成績評価方法	平常点(出席)、レポートによる総合評価。
教科書	演習中に指定する。
参考書	演習中に指定する。
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09237203	担当教員	野崎 大地、林 拓志、東郷 史治		
単位数	2.0	学期	A1	時限	木 3, 木 4, 木 5
講義題目	身体教育学演習Ⅲ Laboratory in Physical and Health Education III				

授業の目的・概要	身体教育学演習Ⅰ,Ⅱで得た知識をもとに、研究計画、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションまでの一連の流れを体験する「プロジェクト研究」を行い、一連の研究遂行の流れをつかんでもらう。
授業計画	2,3 人のグループで、研究計画を立て、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションまで行う「プロジェクト研究」を実施する。
授業の方法	・2,3 人のグループで、研究計画を立て、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションを行ってもらう。 ・毎週、進捗状況を報告する。 ・最終週に、コース教員、大学院生も出席する発表会で研究内容のプレゼンテーションを行う。
成績評価方法	平常点(出席)、プロジェクト研究による総合評価。
教科書	教科書は指定しない。
参考書	参考書は指定しない。
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09237204	担当教員	野崎 大地、東郷 史治		
単位数	2.0	学期	S2	時限	集中
講義題目	運動指導方法(夏季野外種目) Seminar in Teaching Methodology of Human Movement (Outdoor Activity in Summer)				

授業の目的・概要	野外生活を経験することにより、自然環境の理解を促し、共生の方法を学ぶ一方で、安全かつ効果的な野外活動の指導方法を学ぶ。これと並行して球技、水泳、登山の実習を行い、体育実技指導において必要な指導方法の習得を目指す。
授業計画	2023年度は7月26日-29日に実施予定(費用は個人負担)。 ガイダンスを6月中旬、事前打ち合わせを7月中旬に行う。 日程は決まり次第掲示する。
授業の方法	集中講義の形式で、夏季キャンプ実習を行う。
成績評価方法	出席および平常点。
教科書	使用しない。
参考書	使用しない。
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)体育実技」に該当する。 【履修上の注意】※集中講義の授業日程および教室はHPを参照のこと 学生支援チーム HP > 時間割 > 学部(集中講義)を参照 http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育実技

時間割コード	09237501	担当教員	野崎 大地、林 拓志、森田 賢治、多賀 厳太郎、山本 義春、佐々木 司、東郷 史治		
単位数	2.0	学期	通年	時限	火 5
講義題目	身体教育学研究指導 Tutorial in Physical and Health Education				

授業の目的・概要	卒業論文作成のためのテーマ設定、研究計画の立て方、先行研究の探索、研究手法、論文執筆の方法、卒論発表会でのプレゼンテーションの方法と内容について、本コース各研究分野(身体教育科学、教育生理学、発達脳科学、健康教育学)の全教員による助言・指導の機会と場を持つ。
授業計画	卒業論文の計画書を作成し、本コースの全教員からその内容に対する助言・指導を受ける。
授業の方法	随時検討会を開催する。
成績評価方法	平常点(出席・発表)による評価。
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	本年度に卒業論文を執筆し提出する予定の4年次を対象とする。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09238001	担当教員	大塚 類、山名 淳、小国 喜弘、小玉 重夫、片山 勝茂、隠岐 さや香		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 4
講義題目	基礎教育学概論 Introduction to Basic Theories of Education				

授業の目的・概要	基礎教育学は人文・社会科学的なテキスト解釈の方法によって教育現実に接近しようとする領域であり、教育哲学、教育史、教育人間学、教育臨床学などの分野を含んで教育学の基礎的領域を構成している。 この概論では、教育哲学・教育史・教育人間学・教育臨床学の分野を中心として、教育と教育学の基礎的・基本的問題についての概観を与えるとともに、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想についての理解を深める。
授業計画	1. オリエンテーション。臨床教育学(1)〈臨床〉とは何か(大塚) 2. 臨床教育学(2)〈現場〉から考える(大塚) 3. 日本教育史(1)1945年以降の教育史を概観する(小国) 4. 日本教育史(2)教育史を通して現在を考えるーインクルーシブ教育を阻むもの(小国) 5. 西洋教育史(1)近代公教育の成り立ちを振り返る(隠岐) 6. 西洋教育史(2)理科教育の歴史(隠岐) 7. 教育哲学(1)教育学にとって哲学とは何か(ビルドゥング論を中心に)(山名) 8. 教育哲学(2)人間・文化・記憶ー教育哲学の一事例(山名) 9. 教育政治学:教育の公共性を考える(小玉) 10. 教育人間学(1)教育基本法における教育の目的・目標及び理念(片山) 11. 教育人間学(2)現代社会におけるシティズンシップ(市民性)教育の役割と限界(片山) 12. 科学リテラシー教育(ゲスト講師) 13.授業のまとめ
授業の方法	講義による。それぞれ教員が、各自の専門領域と問題意識に基づき、現代教育学についての重要なトピックをとりあげて解説する。
成績評価方法	各担当教員によるレポート試験と、授業での平常点を総合する形で評価する。
教科書	講義において指示する。
参考書	講義において指示する。
履修上の注意・備考	基礎教育学コースの概観を与える基礎的科目にあたるため、コース所属の学生はできる限り受講することが望ましい。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09238002	担当教員	山辺 恵理子		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 2
講義題目	Philosophical Issues in Education				
	Philosophical Issues in Education				

授業の目的・概要	COURSE OBJECTIVES The aim of this course is to deepen students' understandings on education through philosophical dialogues on ethical and controversial issues in education. Abilities 1) to pose philosophical questions, 2) to think logically and critically, 3) to listen to counterarguments and to take them into serious account, 4) to reflect on one's own conceptions, perceptions, and assumptions and at times reshape or even abandon them, and 5) to read and write philosophical papers, are essential to philosophical dialogues, and thus will be developed and assessed in this course.
授業計画	COURSE OUTLINE (TENTATIVE) 1.Introduction: What is philosophy, ethics, and education? 2.What defines a "child"?: Inquiry with Philippe Ariès 3.What defines a "man"?: Inquiry with Immanuel Kant 4.What makes a "child" an "adult"?: Multiple purposes of education 5.What happens in between childhood and adulthood?: Redefining education 6.What are the co-relations between education, teaching, and learning? 7.What makes a good teacher?: Inquiry with Jacques Rancière 8.What makes a good teacher?: Inquiry with Paulo Freire 9.Rethinking children's rights and abilities for political participation 10.Does education build or burn bridges between different groups? 11.Students' Presentation and Facilitation #1: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject, then facilitate the class' philosophical dialogue to deepen the argument. 12.Students' Presentation and Facilitation #2: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject, then facilitate the class' philosophical dialogue to deepen the argument. 13.Students' Presentation and Facilitation #3: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject, then facilitate the class' philosophical dialogue to deepen the argument. 14.Students' Presentation and Facilitation #4: Assigned students are to pose a philosophical question to the class and present their own argument on the subject, then facilitate the class' philosophical dialogue to deepen the argument. 15.Reflection and Final Discussions
授業の方法	COURSE REQUIREMENTS AND POLICIES All classes will be conducted in English. Students are required to read assigned papers before class, and be well prepared to participate in class discussions. Active participation is essential throughout the course.
成績評価方法	GRADING CRITERIA Class participation 30% Mid-term essay and in-class discussions 30% Final essay 40%
教科書	None. Reading assignments will be announced or handed out in class.
参考書	Ariès, P. (1965). Centuries of Childhood: A Social History of Family Life. Oxford, England: Vintage Books. Biesta, J. J. G. (2010). Good Education in an Age of Measurement: Ethics, Politics, Democracy. Paradigm Publishers. Fr
履修上の注意・備考	No prior experience or learning is necessary to take this course.
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09238003	担当教員	須藤 康介		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	水 2
講義題目	学校はデータでどう描けるか How to Describe Schools: Research Methodology on Schooling				

授業の目的・概要	主に教育社会学・学校社会学の計量論文(質問紙調査データを統計分析した論文)の講読を通して、教育現象を社会的に考察・議論するとともに、計量論文の読み方を習得する。教育問題や社会学に関心があり、計量論文を読みたい、または読めるようになりたい統計分析の初学者・初級者を想定して授業を進める。統計分析の数学的原理を学ぶことは必要最低限にとどめて、表の読み方やそこから何を言えるのかを考察することに重点を置く。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 付章「統計表の読み方」 第3回 第1章「学力といじめ被害」 第4回 第2章「学習時間に対する同級生の影響」 第5回 第3章「KYとアクティブ・ラーニング」 第6回 第4章「努力主義の勉強観とその影響」 第7回 第5章「私立中学校の入試ランクによる違い」 第8回 第6章「中学受験入学者の学校適応と価値観」 第9回 第7章「自己有能感の形成と学歴実力主義」 第10回 第8章「ジェンダーをめぐる隠れたカリキュラム」 第11回 第9章「授業形式と教師への信頼」 第12回 配布文献「ゲーム時間が成績と睡眠時間に与える影響」 第13回 振り返り課題
授業の方法	テキストおよび配布文献をもとにしたディスカッション形式で進める。
成績評価方法	議論への参加度 66%、振り返り課題 34%
教科書	須藤康介 2020『学習と生徒文化の社会学』みらい。 ※ 第2回授業までに各自で入手し、持参すること。
参考書	授業時に提示する。
履修上の注意・備考	10分以上遅刻した者は入室を認めない。交通機関の遅延証明書は考慮しない。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学(公)社会学

時間割コード	09238004	担当教員	北村 友人、藤江 康彦、浅井 幸子		
単位数	2.0	学期	A2	時限	月 3, 月 4
講義題目	学校教育学概論 An Introduction to Study on School Education				

授業の目的・概要	<p>私たちが「教育」を考える際、まず真っ先に思い浮かべるのは「学校」である。しかしながら、「学校教育」は、国や社会の中での一つの制度にすぎない。その制度はいかなる力によって動いているのか、そのなかでどのような教育実践がなされているのかを多様な側面から外観し、考察をしていきたい。この授業においては、とくに学校教育の歴史、世界やグローバル社会との関係における学校、教職と教員育成、教科教育という4つの柱を立て、それぞれの視点から「学校」を分析する。</p>
授業計画	<p>第1回～第4回（藤江）学校における教師と子どもの学習と発達 第5回～第8回（浅井）授業の研究を通じた教師の学習 第9回～第12回（北村）持続可能な社会を実現するための教育のあり方 第13回 まとめ </p>
授業の方法	<p>授業の方法:第1回は全体でガイダンスを行う。第2回以降は、3名の担当者がオムニバス形式で、それぞれの専門の立場から学校教育について概論的な講義を行う。さらに映像や画像、文献、資料などを用い、個々の事例や実践例に即して学校教育の問題を具体的に議論する。 本講義は、対面方式で実施する。 </p>
成績評価方法	<p>成績評価方法:授業への参加状況とレポートによって総合的に評価する。</p>
教科書	<p>必要に応じて授業中に指示する。</p>
参考書	<p>必要に応じて授業中に指示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>配付された資料や教材を熟読し、問題意識を持って授業に臨むこと。 資料は、ITC-LMS にて配付する。 また、出席管理を ITC-LMS にて行うことがあるので、当日は ITC-LMS にアクセス可能な端末を持参すること。 </p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09238005	担当教員	勝野 正章、村上 祐介		
単位数	2.0	学期	A1	時限	月 2, 木 2
講義題目	教育行財政学 Educational Administration and Educational Finance				

授業の目的・概要	教育行財政学並びに教育(学校)経営学の基本事項について、現代の改革や国際比較の視点を交えながら学び理解を深めることを目標とする。月曜 2 限に村上が教育行財政学分野、木曜 2 限に勝野が教育(学校)経営学分野をそれぞれ担当する。この科目は教職課程における「教科に関する科目」(社)経済学(公)経済学(国際経済を含む)である。
授業計画	以下のような事項・内容を扱う。※変更することがある 教育行財政分野(村上担当) 教育行政の範囲と展開、国の教育行政制度、自治体の教育行政制度、教育行政における国と自治体の関係、教育費と教育財政、教育課程と教職員に関する制度 教育経営・学校経営分野(勝野担当) 教育における平等(アファーマティブ・アクション論)、「効果のある学校」研究、学校組織の特徴、教員評価、学校と保護者・地域の連携(ソーシャルキャピタル論)
授業の方法	教員による講義、質問に対する回答・解説を中心にしながら、適宜、グループでの意見交換や議論を交えて行う。
成績評価方法	期末試験による。
教科書	特になし。
参考書	勝野正章・村上祐介編著(2020)『新訂 教育行政と学校経営』(放送大学教育振興会) 村上祐介・橋野晶寛(2020)『教育政策・行政の考え方』(有斐閣) 勝野正章・藤本典裕編著(2015)『教育行政学(改訂新版)』(学文社) 青木栄一・川上泰彦編著(2023)『改訂版 教育の政治・行政・経営』(放送大学教育振興会)
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)経済学(公)経済学(国際経済を含む)

時間割コード	09238006	担当教員	李 正連		
単位数	2.0	学期	A1	時限	月 3, 月 4
講義題目	社会教育論 I Theories of Adult Education I				

授業の目的・概要	近年、科学技術の発達や情報化、グローバル化、少子高齢化等の急激な社会の変容が進む中、学校教育万能の時代は過ぎ去り、生涯学習の必要性が世界的な高まりを見せつつある。そこで、この講義では、社会教育・生涯学習の概念及び原理を概観して、理解するとともに、日本及び世界諸国における社会教育・生涯学習の動向を検討することによって、社会教育・生涯学習の意義、さらに今後の社会・生涯教育のあり方について考えることを目的とする。
授業計画	1. 社会教育・生涯学習とは何か 2. 社会教育の歴史的理解 3. 生涯学習理念の登場背景及び主要な生涯学習論 4. 生涯学習の国際的動向①: 欧米の動向を中心に 5. 生涯学習の国際的動向②: アジアの動向を中心に 6. 社会教育・生涯学習の法制及び主要政策 7. 社会教育施設・職員 8. 学校教育と社会教育・生涯学習 9. 社会的弱者と社会教育・生涯学習① 10. 社会的弱者と社会教育・生涯学習② 11. まちづくりと社会教育・生涯学習 12. 参画型社会と市民の学び 13. 期末試験
授業の方法	基本的に講義形式とするが、授業中ワーキングペーパーを書いてもらう。
成績評価方法	授業中のワーキングペーパー30%、期末試験 70%
教科書	なし
参考書	授業中随時提示する。
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教科又は教職に関する科目(旧)大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09238007	担当教員	宮田 玲		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 3
講義題目	情報・資料分析論演習 Seminar in the Analysis of Information and Documents				

授業の目的・概要	標準的な統計学や調査法演習の一手手前(といっても内容的に手前なのではなく認識の問題を扱うと言う意味で)として、データのかたちと形式化、図示、データの背後に世界を想定するとはどういうことか、それに対してどのようなデータをどのように捉えることができるか、を学びます。標準的な統計の用語では、記述統計・探索的データ解析・推測統計の基本的枠組みを理解するところまでをカバーします。実習には、フリーの統計解析・データ解析ソフトであるR(アール)を用います。データのかたちを把握し、そこから解釈の枠組みへと思考実験的に遡ること、その解釈の枠組みに従ってデータを取扱い処理すること、の2方向へと話を展開します。量的な分析としては、統計分析の基本をデータのかたちを中心に考えることになります。
授業計画	第1回:導入 第2回:Rの基本 値のタイプとデータのかたち 第3回:Rの基本 関数の利用とグラフの基本 第4回:量的データの分類とデータの整理、位置の尺度とちらばりの尺度 第5回~第8回:一変量データの分析(1) 探索的なデータの解析と可視化 第9回~第11回:一変量データの分析(2) 区間推定(と検定)の考え方 第12回:量的研究における記述と推定・検定、残された話題少し 第13回:二変量・多変量・マルチウェイデータ 第14回:再び、データのかたち 第15回:再び、解釈の枠組みについて
授業の方法	説明と議論・実習・課題を組み合わせて進めます。
成績評価方法	成績は、主に(1)については課題の遂行により、(2)については小テストと授業への参加度により評価します。
教科書	使いません。
参考書	直接授業には関係しませんが、並行して新井紀子『数学は言葉』(東京図書)を推奨します。(2)に関連する参考図書として南風原朝和『心理統計学の基礎』(有斐閣)、ホーエル『初等統計学』培風館、柳井晴夫他『やさしい統計入門』(講談社ブルーバックス)などがあります。好みに応じて手元に置いておくとよいでしょう。英語ではホーエルの原書およびVerzani. Using R for Introductory Statistics. Chapman & Hall.が授業との関係ではお勧めです。中級まで進みたい場合DeGr
履修上の注意・備考	実習でコンピュータを使います。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09238008	担当教員	影浦 峯		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 4
講義題目	教育研究調査法演習 Seminar on the Basics of Educational Research				

授業の目的・概要	近代以降において「思う」ではなく「考える」ことを可能にしてきた外的な条件と形式的な条件に意識を向け、アカデミックな議論に参加し「考える」基本的な手続きを学ぶ。授業は、参照すること、表現すること、構成すること、知識を参照することの4モジュールからなる。いわゆる「社会調査」などを扱う授業ではない。この程度のことをスキルとして身に付けておかないと、公共圏において独立した個人として社会的、経済的、政治的意思決定に参加することは割と難しいかもしれないという、本当に基本的な思考のスキルを扱う。したがって、扱うことのほとんどは、義務教育段階で、そうでない場合でもせいぜいが高等学校までで扱われていることであり、基本この授業はその意識化と復習である。
授業計画	1. 序論:考えていることと考えていると考えること、などおよび診断 2. 近代以降:ガリレオ・ガリレイ偽金鑑識官、デカルトと記号の問題、「べきだ」の普遍へ向けた解放 3. 参照すること(1) 4. 参照すること(2) 5. 表現すること(1) 6. 表現すること(2) 7. 構成すること(1) 8. 構成すること(2) 9. 構成すること(3) 10. 構成すること(4) 11. 知識を参照すること 12. 文書のテクノロジー 13. およそ考えることを可能にする条件をめぐって
授業の方法	講義・課題遂行・ディスカッションを繰り返します。
成績評価方法	授業への参加度と授業時の課題、最終的な課題を、4:3:3の割合で評価する予定です。
教科書	使いません。
参考書	岩波文庫の主に青版のいくつか、ちくま学芸文庫の青背版に随時言及します。またそれ以外の個別タイトルは授業中に示します。
履修上の注意・備考	原則として教育学部教育実践・政策学コース進学者は必修です。すみません。 オンラインで行います。そもそも、本授業で扱うことは、空間的・時間的に離れたところでも、「理解」できるような言語表現の構成とそれに伴うテクノロジーに関わるものであり、対面で何らかの「ね、わかるでしょ」というチャンネルに甘えるのは不適切だからです。もちろん、オンラインのほうが短期的な学習効果があがるという保証も研究もありませんが。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09238009	担当教員	クリスファー・ボンデュー		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 3
講義題目	Japanese Education Japanese Education				

授業の目的・概要	Education serves multiple purposes in any society. It provides training and knowledge of specific information, the “basics” if you will. In addition, education also reflects what a given society considers important for future generations to know in order to be a functioning member of that society. In this course, we will consider the expectations and outcomes of Japanese education by looking at both intended and unintended outcomes. Further, we will consider how the education system provides for those who do not fit within this structure.
授業計画	Week 1 Introduction to course, expectations, etc. Week 2: The relationship of an education system and the broader society Conflict Model/Structural Functionalism Week 3): Social Class and Education Week 4: Elementary Education – learning to be a student. Week 5): Junior High School – the pressures increase Week 6): Mid Term Examination Week 7): High School – Diversified experiences Week 8 (12/6): Alternative and Minority education Week 9: Visit with Tokyo Shurei Alternative School former staff member Week 10:: Shadow education – Juku and Yobiko Week 11: Special Education
授業の方法	Discussion: Each week, a student (or group of students) will lead the discussion. This requires all students to have done the reading and come to class ready to talk about what you read. The discussion leader(s) will need to provide their own brief
成績評価方法	Evaluation: Attendance: 10% Midterm Exam: 25% Final Paper: 40% Discussion leader/Participation: 25%
教科書	Readings: Required readings will be prepared by the instructor
参考書	Tsuneyoshi, R. (2001) The Japanese Model of Schooling: Comparisons with the United States Tsuneyoshi, R. K. Okano and S. Boocock (2011) Minorities and Education in Multicultural Japan. London: Routledge Press. DeCoker, G. and C. Bjork (
履修上の注意・備考	I encourage you to take the course, even if you are not confident in your English. We can all learn from each other.
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09238010	担当教員	野崎 大地、森田 賢治		
単位数	2.0	学期	A2	時限	火 2, 金 2
講義題目	バイオダイナミクス Biodynamics				

授業の目的・概要	腕を伸ばす、立つ、歩くといった動作の制御から、動作遂行や環境変化に際して呼吸・循環系が生体恒常性を維持するように働く機構にいたるまで、身体運動には多くの生体調節システムの働きが関与している。身体運動を本質的に理解するには、生体調節システムの構成要素の知識だけでは不十分であり、各要素がどのように相互に組み合わせられ、全体としてうまく機能しているのかという視点が不可欠である。本講義では、生体システムの調節に関して、具体的な例を紹介しつつ、その背後にある仕組みについて、理論・数理的視点も交えて解説する。
授業計画	下記の内容について、一回または二回ずつ講義を行っていく予定である。 1. イントロダクション 2. 運動とリズム ～歩行や鼓動の背後にある仕組み～ 3. 神経活動のダイナミクス ～神経活動の生成の仕組み～ 4. 筋収縮のメカニクス ～筋はどうやって力を産み出すか～ 5. 筋骨格系のモデル ～筋により駆動される身体運動～ 6. 身体運動のダイナミクス ～身体運動の運動方程式～ 7. 身体運動のエナジェティクス ～エネルギー変換機としての身体～ 8. 身体運動の制御 ～脳が身体運動を制御する仕組み～ 9. 記憶のダイナミクス ～神経回路の働きから認知・行動へ～ 10. 意思決定のダイナミクス
授業の方法	使用教材等を下記 URL に置く予定である。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポートによる総合評価。
教科書	講義中に指定する。
参考書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	教育職員免許法上の認定科目:(体)運動学(運動方法学を含む) 使用教材等を、以下の URL に置く予定である。パスワード等は講義中に知らせる。 http://researchmap.jp/dnozaki/ 資料公開/ ITC-LMS「教材」(森田担当分)
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)運動学(運動方法学を含む)

時間割コード	09238011	担当教員	佐々木 司、川内 基裕		
単位数	2.0	学 期	A1A2	時 限	月 5
講義題目	機能解剖学(人体の構造と機能及び疾病) Functional Anatomy				

授業の目的・概要	身体(脳・神経を含む)の構造と機能、それと関連した癌、生活習慣病、精神疾患などの疾病の病態・メカニズムの基本的知識を学習する。健康の維持・増進とその教育に役立つ視点からの講義を行う。
授業計画	最終回は期末試験とし、残りを、呼吸器、循環器、血液、消化器、筋・骨格系、神経・感覚器、生殖・発生に分けて講義を行う。
授業の方法	主に板書、または PPT を用いた講義形式で行う。ノートは必ずとること。
成績評価方法	期末試験での評価を主とする。
教科書	佐々木司(編)公認心理師ベーシック講座 人体の構造と機能及び疾病 (KS 心理学専門書) . 講談社(2023 年 3 月から発売)
参考書	必要な場合は授業中に示す
履修上の注意・備考	特になし
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09238012	担当教員	登藤 直弥		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 2
講義題目	心理学統計法 I Psychological Statistics I				

授業の目的・概要	<p>本授業では、心理学の研究においてよく利用される各種統計手法を学修するうえで必要となってくる基礎的な事項について講義を行います。具体的には、心理学研究と統計の関係について解説したうえで分布の記述的指標とその性質について学修し、その後、相関関係の把握と回帰分析、確率モデルと標本分布について学修します。したがって、本授業の目標は、これらの内容を理解し修得することとなります。</p>
授業計画	<p>本授業では、以下のような進度で授業を進めていく予定です。 第 1 回 オリエンテーション、心理学研究と統計(教科書第 1 章) 第 2 回 分布の代表値(教科書第 2 章 1 節) 第 3 回 分布の散布度(教科書第 2 章 2 節) 第 4 回 変数の線形変換と標準化(教科書第 2 章 3 節) 第 5 回 共分散と相関係数(教科書第 3 章 1 節) 第 6 回 回帰分析に関する解説 1(教科書第 3 章 2-4 節) 第 7 回 回帰分析に関する解説 2(教科書第 3 章 2-4 節) 第 8 回 相関と共変と因果、測定の妥当性と信頼性(教科書第 3 章 5-6 節) 第 9 回 確率モデルと標本分布の基本的な考え方(教科書第 4 章 1 節) 第 10 回 比率の標本分布の導出(教科書第 4 章 2 節) 第 11 回 正規分布モデルと平均の標本分布(教科書第 4 章 3 節) 第 12 回 2 変数正規分布モデルと相関係数・回帰係数の標本分布(教科書第 4 章 4 節) 第 13 回 確率モデルの適用に関する諸問題(教科書第 4 章 5 節)</p>
授業の方法	<p>授業については、教科書に基づき作成した資料を利用して「対面の講義形式」で行います。</p>
成績評価方法	<p>毎回実施する小テストへの解答結果(50%)と期末テストの結果(50%)に基づき成績評価を行います。詳細については、第 1 回目の授業時に説明します。</p>
教科書	<p>本授業では、以下の書籍を教科書として授業を行います。なお、授業では教科書の内容をまとめた資料を作成し配布します。 ・南風原朝和(2002). 心理統計学の基礎——統合的理解のために 有斐閣.</p>
参考書	<p>本授業の参考書として、以下の書籍を挙げておきます。 ・南風原朝和・平井洋子・杉澤武俊(2009). 心理統計学ワークブックー理解の確認と深化のために 有斐閣.</p>
履修上の注意・備考	<p>【履修上の注意点】・2017 年度以前開講「心理統計学 I」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修不可。 ・学部横断型プログラム「数理・データサイエンス教育プログラム」の対象科目となる。 ・本科目は複数学部から開講される合併科目であり、科目間での調整が行われるため、試験が通常講義とは異なる曜限で実施されることがある。 【予習・復習について】 各回の講義で教科書のどの範囲の内容について扱うかは「授業計画・内容」に記載してあるので、予習、復習をする際の参考にしてください。また、高等学校までに学修した数学の知識を前提に授業を行いますので、必要に応じて復習等を行っておいてください。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09238013	担当教員	能智 正博、野中 舞子		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 1
講義題目	公認心理師の職責 Professionalism of Licensed Psychologists				

授業の目的・概要	公認心理師法の施行に伴い、国家資格である「公認心理師」が誕生した。本資格は心理学の知識に基づいて、医療・教育・福祉・産業・司法の主に 5 領域での業務を行うため、その職責の基本についての理解と各領域での実践や連携の在り方の基礎的理解を本講義を通して身に着けることが求められる。 公認心理師の資格を得るためには学部課程で 25 の必修科目を履修することが必須となる。本科目「公認心理師の職責」は公認心理師の必須科目であり、かつ公認心理師という資格の説明会も兼ねている。資格取得に関心を持っているものは幅広く履修することが望まれる。
授業計画	第 1 回:イントロダクション・公認心理師の役割 第 2 回:公認心理師の法的義務及び倫理 第 3 回:リスクマネジメント(利用者の安全確保と情報管理) 第 4 回:各領域の具体的業務:医療領域① 第 5 回:各領域の具体的業務:医療領域② 第 6 回:各領域の具体的業務:教育領域① 第 7 回:各領域の具体的業務:教育領域② 第 8 回:各領域の具体的業務:福祉領域① 第 9 回:各領域の具体的業務:福祉領域② 第 10 回:各領域の具体的業務:産業領域① 第 11 回:各領域の具体的業務:司法領域① 第 12 回:支援者としての自己課題発見・解決能力 第 13 回:生涯学習への準備
授業の方法	オンラインと対面での実施とする。具体的なスケジュールは初回に配布するスケジュールを確認すること。
成績評価方法	出席点 30%, レポート 70%
教科書	特に指定しない
参考書	講義内で適宜紹介する
履修上の注意・備考	・学部 4 年生で心理演習・心理実習を履修するためには単位取得が必須となる ・オンラインと対面で実施する 授業計画の順番は変更となることがある。初回にて、スケジュールを説明するので確認すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09238014	担当教員	清河 幸子、野中 舞子、一柳 智紀、藤村 宣之、岡田 謙介、能智 正博、針生 悦子、高橋 美保、岡田 猛、滝沢 龍、遠藤 利彦、植阪 友理、宇佐美 慧		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 3, 木 4
講義題目	教育心理学実験演習 I Experiments in Educational Psychology I				

授業の目的・概要	実習や見学を通じて、教育心理学の研究や実践をおこなうための基礎を養う。
授業計画	確定したスケジュールは、初回授業で提示するが、性格検査、発達検査、知能検査、などの実習のほか、必要に応じて、心理学の生かされている現場(養護学校、家庭裁判所)の見学も行っていく。なお、本授業は木曜日3、4限に隔週で実施する。また、本郷キャンパスやその他の場所で実施することもあるので十分に注意すること。
授業の方法	実習、見学
成績評価方法	レポート
教科書	必要な場合には授業中に指示を出す。
参考書	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)「心理学研究法入門」東京大学出版会
履修上の注意・備考	履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09238015	担当教員	山本 義春、森田 賢治、野崎 大地		
単位数	2.0	学期	A1	時限	月 1, 木 1
講義題目	身体教育学概論 I Introduction to Physical and Health Education I				

授業の目的・概要	からだの理(教育生理学)及び、からだを育むこと(身体教育科学)に関わる基本的な事象と現代的な課題について幅広く学ぶ機会とする。
授業計画	主要な設定課題は以下の通りである(2022年度)。 ・ICT/IoTとヘルスケア ・日常生活のモバイル行動医学 ・生体のゆらぎとその役割 ・睡眠のしくみ ・やる気・モチベーション・努力の脳身体機構 ・価値の学習の脳身体機構 ・価値に基づく意思決定の脳身体機構 ・疾患の機序(依存症などに焦点を当てて) ・身体運動の制御・学習の潜在性 ・身体運動の制御 1: 動作の普遍的パターン ・身体運動の制御 2: 制御を支える脳神経機構 ・身体運動の学習過程の科学
授業の方法	教員の研究を中心に、行動、情動、運動の研究法や脳身体機構等について解説する。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポート・小テストによる総合評価。
教科書	授業内で提示する。
参考書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	授業内で提示する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育原理

時間割コード	09238016	担当教員	多賀 巖太郎、佐々木 司、東郷 史治		
単位数	2.0	学期	A2	時限	月 1, 木 1
講義題目	身体教育学概論Ⅱ Introduction to Physical and Health Education II				

授業の目的・概要	脳とこころの発達(発達脳科学)及び、心身の健康と安全(健康教育学)に関わる基本的な事象と現代的な課題について幅広く学ぶ機会とする。主要な設定課題は以下の通りである。 発達とは何か・健康とは何か?保健で何を学ぶか? 心身の発達・心身の健康・発達と遺伝・環境 脳の発達・免疫・アレルギーと感染症予防 睡眠・運動・代謝・セーフティ・プロモーション 認知・言語・学習・中枢神経発達・精神発達とその障害の疫学 動的システム・小児発達障害とはどのようなものか
授業計画	発達脳科学の基本概念や生体を動的システムとして理解するための基礎を学ぶ 健康教育の介入ポイントを明らかにするための疫学研究の基本的な方法論と行動変容の基礎的理論を学ぶ
授業の方法	教員による講義、課題の演習とレポート作成を組み合わせ授業を進める。
成績評価方法	出席、レポート、試験の総合評価とする。
教科書	指定はしない。
参考書	ストロガッツ: 非線形ダイナミクスとカオス、田中久陽、中尾裕也、千葉逸人(訳)丸善出版 2015 木原雅子、木原正博 訳: 医学的研究のデザイン(第4版)メディカル・サイエンス・インターナショナル社
履修上の注意・備考	この科目は教職課程における「教科に関する科目」(体)学校保健 に該当する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

教職課程科目（Ⅰ）本郷キャンパス

時間割コード	09239101	担当教員	中野 貴文		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 2
講義題目	国語科教育法(基礎) Basic Studies on Japanese Language				

授業の目的・概要	中学高校における国語科教育、とりわけ古典教育の在り様について、理念と実践の両面から考究する。高校生の7割が古典嫌いだと答える中、いかにすれば魅力的な古典の授業が作れるか、また単に面白いだけでなく、深く主体的な学びがなされるか、具体的な授業案に即しつつ学ぶことを目指す。
授業計画	中学・高校における新たな国語科の教育法、具体的には授業案の開発を目指す。定番教材に対する斬新な授業アイデアはもちろん、新たな教材の発掘も視野に入れ、最終的には学習者が自力で面白い授業を作れるようになることを目標とする。その過程で、文学(とりわけ古典文学)との向き合い方、調べ方、伝え方、そして文学を公教育の枠組み中で教えることの意味なども、改めて問い直していく。
授業の方法	講義、及びディスカッションによる。新型コロナの感染状況等によっては、オンラインでも受講できるようにする。
成績評価方法	毎授業時の課題(50%)、学期末レポート(50%)による
教科書	特に固定したものは指定しない。毎週、適宜プリント等を配布する。
参考書	授業時間中に、適宜提示する。
履修上の注意・備考	この科目は教職に関する科目であるので、原則として「国語」の教員免許を取得する予定のない者の受講は認めない。 国語科という教科が、何を教え学ぶためにあるのか、常に考えてほしい。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

時間割コード	09239102	担当教員	頓所 本一		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	国語科教育法(実践)A Practical Studies on Japanese Language A				

授業の目的・概要	<p>1. ことばを愛でる子どもを育てたい (1)国語を学ぶってどういうことだろう?という哲学的な問いのない授業から子どもは逃走していきます。逃走する理由は 3 つの喪失です。ことばの喪失。自己の喪失。関係の喪失。今、中高生は「言葉」を信じられるものとして認識していません。中高生にとって言葉は、情報・コミュニケーションツール、記号です。正解のある文章読解に自己はいりません。〈わたし〉のおもいや考えよりも正解が優先されます。教師による教える講義が一般的です。クラスの友だちと互いの考えを share し、その差異からことばを突き詰めていく関係は希薄です。 (2)本講座では、まず「ことばを愛でる」ことを国語授業の哲学に据えます。そして、書を読むことは「〈わたし〉を読むこと」という、ことばと自己形成が互いに連鎖し合う道をビジョンとして歩んでいきたい。そのための活動システムとして、国語の真正性(世界づくり)、友との学び合い(仲間づくり)、自己形成(自分づくり)の三つの視座を通して、子どもが夢中になってことばの根を問い直し、仲間とその差異を突き詰め合いながら、一人もあきらめず、もがき合って自己を形成していく国語の授業づくりをデザインします。 2. 本講座の大きな特徴【『探究の課題』の設定】 本講座の大きな特徴は、授業での「学習課題の設定」にあります。国語の授業で教師がどのような学習課題を子どもに提示するかによって、言葉をお愛でる子どもに育つか、言葉をお信じない子どもに育てるか、大きく変わってきます。そこで、本講座では以下の 3 つを学習課題の不問としています。 ①「主題」を問わない ②「心情」(登場人物の気持ち)を問わない ③「理由」(なぜ?)を問わない です。主題中心主義の国語の授業から、作品(テキスト)中心主義の授業への転回です。たぶん、みなさんが中学校・高等学校で受けてきた国語の授業とは全く異なる授業スタイルだと思います。 本講座で、みなさんと一緒に共有したいことは「教える」(作品論・作家論・文章読解)国語の授業ではありません。テキストのことばを通して読み味わう、読み描く、文脈を読む授業にしたいのです。詳細については実際の講義でお話します。 【3つの問い直し】 そのために本講座では、以下の三つの「聴く」について問い直していきます。 ①【わたしを聴く】 事前提出物(詩画集・自己紹介シート)から、〈わたし〉の自己形成を問い直します。 ②【ことばを聴く】 事前提出物(ミニ授業で選んだテキスト)を読み合い、突き詰めたい叙述を問い直します。 ③【からだを聴く】 教育現場で実践を重ねている先輩のお話から、子どもを感受していく教師のからだや実際の授業での教師の居方について問い直します。 【ミニ授業の試み】 そして、講義後半は受講生全員に模擬授業(20~30 分:受講者数によって時間帯に変更あり)をしていただきます。「教える」授業ではありません。ことばを「読み味わう/読み描く」授業です。受講生(学生)が生徒役になって学習課題を追究します。授業デザインには受講生全員が理解できる『共有の課題』(平等性)と、グループで追究し合う『探究の課題』(質の向上)の 2 つを設定します。 このような授業デザインづくりや学習課題づくりを受講生の仲間と共有することで、今後の教育実習に生かしていただければ幸いです。 </p>
----------	--

授業計画	<p>1 日目『聴くということ』1 回【ガイダンス】自己紹介/本講座のねらい…テキストを読み味わう学習課題はどうあるべきか?(主題を問わない・理由を問わない・心情を問わない) 【演習】「ことば」を聴く『詩「さようなら」(谷川俊太郎)をテキストに中高生に授業をするとしたら、どのような学習課題を設定するか? 2 回【演習】ことばを聴く「受講生が選んだテキストを互いに読み、心に残った叙述・探究の課題にしたい叙述をメッセージとして伝えよう。」〈わたし〉が選んだテキストを受講生はどんな初感想をもったのか?どんな叙述に関心を寄せたのか、生徒の読みの視点を感じ取る。 3 回【演習ペア】仲間の声を聴く「自己紹介文・詩画集・心に残った叙述について語り合い、『ひと』を感じていく。」 2 日目『子どものくらしに身を置くということ』~教育現場で実践を重ねている先輩から学ぶ(予定)~ 4 回【講話・演習】〈わたし〉の国語授業づくり~ことばと向き合う・子どもと向き合う・自分と向き合う~(先輩のお話) 【ビデオカンファレンス】教育現場の先輩の授業から学ぶ「子どもの声を聴く、友だちとつなぎ、テキスト(叙述)に戻す」 5 回【講話・演習】教育現場からみえてくる国語授業の課題、今後の国語教育のゆくえ(先輩のお話)予定 6 回【reflection・演習】先輩のお話を聴いて全体で share⇒レポート作成、模擬授業デザイン作成 3 日目『模擬授業「1 人 20 分間」』~〈わたし〉が構想した</p>
------	---

	<p>学習課題は受講生を夢中にさせたか？工夫させたか？もがかせたか？～ 7回【模擬授業に向けての授業計画】 聴く・つなぐ・もどす（導入計画・指名計画・板書計画など） 8回【模擬授業】 ①1人20分間×4人 * 授業者の順番は講義当日お知らせします。 9回【模擬授業】 ②1人20分間×4人 4日目 模擬授業「1人20分間」教師の居方（聴く・つなぐ・もどす）を授業に取り入れる 10回【模擬授業】 ③1人20分間×4人 11回【模擬授業】 ④1人20分間×4人 * 受講生の人数によって内容に変更もあります。 12回【カンファレンス】 模擬授業からの学び（省察）/教育実習で生かしたいこと 13回 本講座の振り返り * 上記の講義内容は受講者が16人の場合を想定して計画しました。受講者全員に模擬授業をしていただきますが、人数によって講義内容が変わることを予めご承知おきください。 </p>
授業の方法	講義 グループ学習(男女混合) 演習 ビデオカンファレンス 模擬授業(20分間の模擬授業)
成績評価方法	①事前提出物(詩画集・模擬授業テキスト)状況 ②講義中の提出物(保育園見学事後レポート・模擬授業ワークシート)状況 ③講義の出席状況 ④最終レポート提出状況(講義を受講して学んだこと。4,000字以上。×切 受講後2週間以内)
教科書	「学びの光源」頓所本一著 明治図書 2,500円 * Amazonにて購入いただけます。
参考書	「授業研究入門」稲垣忠彦・佐藤学 岩波書店 「学びのゆくえ」牛山榮世 岩波書店 「教師花伝書」佐藤学 小学館 「教師の身体技法」佐藤学 太郎次郎社
履修上の注意・備考	<p>1 本講義は「対面」授業が原則です。「対面」授業に参加できない場合は受講を控えてください。 2事前提出物について【集中講義前に提出していただきたいこと】 【重要】本講座は事前に提出していただくものが多いです。以下のことを念頭に入れて受講判断ください。 1 受講者は講義事前に以下までメールをください。事前に提出いただくシートを添付いたします。メールがない場合は受講できませんので予めご承知ください。 kuniyuumikihiro2010@yahoo.co.jp 2 講義の事前に提出いただくもの【事前に提出のない場合は受講できませんので予め承知ください。】 ①自己紹介シート ②自作の詩画集 ③模擬授業でのテキストコピー(4ページ以内)★厳守してください。 【参考】昨年度、受講者が選んだテキストを紹介します。 『源氏物語(桐壺冒頭)』『英雄の器(芥川龍之介)』『落穂拾ひ(小山清)』『数学の贈り物(森田真生)』『獅子と芍薬(恩田陸)』『小諸なる古城のほとり(島崎藤村)』『自分の木の下で(大江健三郎)』『思い出せない記憶(茂木健一郎)』 また、自作の「詩画集」は受講生全員に配布いたしますので予めご承知おきください。 2 講義後半に予定されている「模擬授業」のテキストを決めておいてください。テキストのジャンルは問いません。あなたが中高生と読み味わいたいもので結構です。ただしテキストの分量は4ページ以内(コピーした書籍の4ページ分以内)でお願いします。詳細は掲示板でお伝えしますが1と同様、講義の事前に PDF 化しメールにて添付していただきます。 【集中講義中の提出物】 1 受講生が選んだテキストへの感想記入 2 先輩のお話への感想記入 A4用紙 1 枚 2 模擬授業デザイン A4用紙 1 枚 【集中講義中の持ち物】教科書「学びの光源」(明治図書)Amazonにて購入いただけます。 【最終レポート提出】 講義終了2週間以内 A4 用紙 4,000 字以上 </p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

時間割コード	09239103	担当教員	大井 和彦		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	国語科教育法(実践)B Practical Studies on Japanese Language B				

授業の目的・概要	中等教育における国語科教員として必要な資質・実践力について考究し、教育実習以降に必要なであろう技能等を身につけるべく、教材研究と授業展開を結びつけることを目標とする。具体的には以下の事柄を念頭に置く。 1 中等教育に於ける国語科の授業計画と実践の手順を理解し、教材研究に基づく学習指導案を作成する。 2 協働学習・探究学習を意識した学習活動を取り入れて授業計画実践を行う。 3 目的・状況に即した教具の選定、使用方法の工夫を行いながら授業計画実践を行う。 4 授業改善に繋がる観察の要点を理解し、適切に見学ならびに省察を行えるようにする。
授業計画	1 教育・教師論と教科教育論(協働・探究学習と授業者) 2 国語科教育の歴史 3 中学校・高等学校国語科学習指導要領の目標・内容 4 国語科の話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの理論と実践 5 国語科の話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの理論と実践 6 国語科の知識および技能 7 授業視聴・検討 8 授業準備の視点(構成・教材研究の方法等) 9 学習指導案作成方法 10 模擬授業準備・学習指導案作成 1 11 模擬授業準備・学習指導案作成 2 12 模擬授業・授業検討 1 13 模擬授業・授業検討 2 14 模擬授業・授業検討 3 15 国語科教育の現代的意義の再考
授業の方法	原則として、授業者より材料を提示し、それをグループで検討・議論する形をとる。 1～6 授業者による講義ならびに受講生による議論 7 授業映像視聴とその検討 8～9 授業者による講義ならびに受講生による議論 10～11 受講生による議論 12～14 模擬授業と授業検討 15 授業者と受講生による議論
成績評価方法	出席状況・受講態度・提出物(学習指導案・レポート等)により、総合的に評価する。
教科書	『中学校学習指導要領解説 国語編(平成 29 年 7 月)』東洋館出版社 『高等学校学習指導要領解説 国語編(平成 30 年 7 月)』東洋館出版社
参考書	可能であるならば、中学校・高等学校在籍時の教科書・ノート類をお持ちください。 『小学校学習指導要領解説 国語編(平成 29 年 7 月)』東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 総則編』 『高等学校学習指導要領解説 総則編』
履修上の注意・備考	模擬授業に向かったの準備を行うことと、集中講義であることの特性上、欠席が入ると以降の活動が困難となる可能性がありますのでご注意ください。 基本的に全ての回の中で受講生間での議論ならびに共同作業がはいることをご了承ください。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

時間割コード	09239104	担当教員	田中 暁龍
単位数	2.0	学期	S1S2
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(基礎) Basic Studies on Social Studies, Geography and History		

授業の目的・概要	<p><テーマ> 中学校社会科(地理・歴史的分野)及び高校地歴科の指導内容や方法の理解 <到達目標> 1. 中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の各分野の目標・内容及び指導上の留意点を理解している。 2. 中学生(及び高校生)の認識や学力を踏まえた授業設計を行い、評価の考え方の基本を理解している。</p>
授業計画	<p><オンライン授業> 第1回:オリエンテーションー社会科との出会いー、第2回:社会科の成立ー「問題解決学習と系統学習」ー、第3回:社会科の変遷と新しい学力観ー「『覚える』から『考える』社会科へ」ー、第4回:中学校学習指導要領における社会科(地理的分野)の目標・内容・指導上の留意点、地理歴史科の成立と学習指導要領における地理歴史科の目標と構成、第5回:中学校学習指導要領における社会科と歴史的分野の目標・内容・指導上の留意点、高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容と指導上の留意点ー「歴史総合」「地理総合」ー、第6回:社会科授業論1(地理的分野)ー「地理的技能、地図の活用と読図・作図」ー、第7回:社会科授業論2(歴史的分野)ー「資料の活用と歴史的思考力」ー、第8回:社会科学習指導案の作成1ー「学習指導案の骨子をつくる」ー、第9回:社会科学習指導案の作成2ー「学習評価と問い、教材の効果的な活用」ー、第10回:社会科学習指導案と模擬授業1ー導入を中心にー、第11回:社会科学習指導案と模擬授業2ー「語り」を中心にー、第12回:社会科学習指導案と模擬授業3ー「板書」を中心にー、第13回:社会科地理歴史科教育法のまとめ、模擬授業の振り返りと学習指導案の修正(模擬授業の回数や方法については受講者の人数により変更あり)</p>
授業の方法	<p>講義と演習(グループワークまたは模擬授業)を組み合わせる。グループワークは、小グループによる討議を行う予定である。</p>
成績評価方法	<p>課題レポートなどの提出物を60%、発表活動など授業への取り組みを40%として、その結果を総合して評価を行う。ただし、最終レポートとなる「学習指導案」が提出されない場合や、その内容が不良の場合は、不可となる。</p>
教科書	<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(東洋館出版社、平成30年) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史科編』(東洋館出版社、平成31年)</p>
参考書	<p>荒井正剛編『中等教育社会科教師の専門性育成』(学文社、2022年) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版、平成20年) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(教育出版、平成22年) このほか授業中に適宜資料を配布する。 </p>
履修上の注意・備考	<p>教員免許資格取得にかかわることを踏まえて、授業への取り組み姿勢を重視する。第1回目の授業より必ず出席すること。 中学校社会科の授業を構想する関係から、中学生の実態や発達段階を考慮し、教材の加工等に配慮する姿勢や準備が必要になります。既習事項や知識を動員し、そうした指導上の配慮について積極的に取り組んでほしいと思います。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法</p>

時間割コード	09239105	担当教員	田中 暁龍
単位数	2.0	学期	A1A2
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(実践)A Practical Studies on Social Studies, Geography and History A		

授業の目的・概要	<p><テーマ> 中学校社会科(地理・歴史的分野)及び高校地歴科の指導内容や方法の理解と指導の実践 <到達目標> 1. 中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の各分野の目標・内容及び指導上の留意点を深く理解している。 2. 高校生(及び中学生)の認識や学力を踏まえた授業設計を行い、学習評価の考え方を理解している。 3. 社会科・地理歴史科にかかわる専門領域や探究的な実践研究の動向を知り、様々な指導理論を理解している。 4. 高等学校地理歴史科の学習指導案の構成を理解して(中学校社会科との連続性に配慮して)、具体的に作成するとともに、模擬授業とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 <授業の概要> 本授業は、①中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の目標・内容の理解を進め、②教科と背景となる学問領域との関係、実践研究の動向を把握し、③情報機器及び教材の効果的な活用法について理解を深め、④学習指導案の作成と模擬授業の実践を深め、授業の振り返りを通して授業改善に取り組んでいく。その際、小グループによる討議を組み込みながら、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点に立った授業開発を進めていく。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーションー地歴科における講義型と探究型の授業 <オンライン授業>、 第2回:歴史教育と教科書ー日本の教科書と世界の教科書、共通教科書ー、 第3回:探究型で学ぶ地理歴史科教育の実践と評価ー「思考・判断・表現力等」の育成ー、 第4回:高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容及び指導上の留意点1ー「地理総合」「地理探究」ー、 第5回:高校学習指導要領における地理歴史科の各科目の目標・内容及び指導上の留意点2ー「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」ー、 第6回:モノ教材の効果的な活用と博学連携、地理情報システム<GIS> 第7回:地域調査ー伝統・文化の理解と持続可能な社会の形成ー 赤門出発で本郷の地域調査を実施し、教材研究を行います 第8回:資料(文字史料・絵画資料等)の効果的な活用と「問い」 第9回:現代的な諸課題と新科目「歴史総合」、学習指導案の作成、 第10回:模擬授業1ー導入「効果的な導入とは」、 第11回:模擬授業2ー展開「資料の活用」「単元の基軸となる問い」、 第12回:模擬授業3ーまとめ「現代的な諸課題とのかかわり」、 第13回:社会科・地理歴史科教育法のまとめ、模擬授業の振り返り<オンライン授業> (10回目以降の授業実施形態については、「模擬授業」の回数や方法、オンライン授業での実施も含めて、人数により変更があります)</p>
授業の方法	<p>本授業は、①中学校及び高校学習指導要領における社会科・地理歴史科の目標・内容の理解を進め、②教科と背景となる学問領域との関係、実践研究の動向を把握し、③情報機器及び教材の効果的な活用法について理解を深め、④学習指導案の作成と模擬授業の実践を深め、授業の振り返りを通して授業改善に取り組んでいく。その際、小グループによる討議を組み込みながら、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点に立った授業運営を進めていく。</p>
成績評価方法	<p>課題レポートなどの提出物を60%、発表活動など授業への取り組みを40%として、その結果を総合して評価を行う。ただし、最終レポートとなる「学習指導案」が提出されない場合や、その内容が不良の場合は、不可となる。</p>
教科書	<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(東洋館出版社、平成30年) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史科編』(東洋館出版社、平成31年)</p>
参考書	<p>荒井正剛編『中等教育社会科教師の専門性育成』(学文社、2022年) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版、平成20年) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(教育出版、平成22年) このほか授業中に適宜資料を配布する。</p>
履修上の注意・備考	<p>教員免許資格取得にかかわることを踏まえて、授業への取り組み姿勢を重視する。第1回目の授業から出席すること。 高校地歴科の授業を構想する関係から、高校生の実態や発達段階を考慮し、教材の加工等に配慮する姿勢や準備が必要になります。既習事項や知識を総動員し、そうした指導上の配慮について積極的に取り組んでほしいと思います。</p>

時間割コード	09239106	担当教員	南澤 武蔵		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(実践)A Practical Studies on Social Studies, Geography and History A				

授業の目的・概要	<p>本講座では、中学社会および高等学校地理歴史の授業とその実践について、教育実習や教育現場での実践を想定し、授業、教材、方法の各論を現場からの目線に可能な限り近いところから学ぶことを目指すものである。具体的な実践としては、授業づくり(具体的には、指導案作成)や教材の収集と精選および実践としての模擬授業、さまざまな生徒の能力への対応技術などを念頭に置き、講座を展開する。学指導要領が改訂され、教育目標や指導の方法は現在大きく変わろうとしている。本講座は、参加者によるディスカッションや授業づくりを実践的に展開し、教育現場で起こり得る課題や問題を反映した、教科教育の講座として位置づける。 This course is designed to provide an overview of junior high school social studies and senior high school geography and history lessons and their practical application&comma; with the aim of learning about lessons&comma; teaching materials and methods as closely as possible from the perspective of the field&comma; assuming practical education training and practice in the field of education. The course will be developed with specific practices in mind&comma; such as lesson planning (specifically&comma; the preparation of teaching plans)&comma; the collecting and careful selection of teaching materials&comma; teaching demonstrations as practice&comma; and techniques for dealing with various student abilities. With the revision of the Courses of Study&comma; educational goals and teaching methods are currently undergoing major changes. The course is positioned as a course in subject education&comma; reflecting the issues and problems that may arise in the field of education&comma; through the discussion by the participants and the practical development of lesson planning.</p>
授業計画	<p>本講座の主な授業内容は、以下の通りである。 1 教師とは何か 2 授業とは 3 歴史教育 4 歴史学と歴史教育 5 地理教育 6 教材の見つけ方・作り方 7 対話のある授業 8 探究的な学び 9 学習指導案の作成と教材準備 10 模擬授業と検討 11 今日の社会科教育の課題</p>
授業の方法	講義、ディスカッション、グループワーク、発表(模擬授業の実践を含む)
成績評価方法	試験、出席や授業での積極的な参加状況を重視
教科書	野崎雅秀『これからの「歴史教育法」』山川出版社 2017年
参考書	E.H.カー『歴史とは何か』岩波新書 1962年 羽田正『新しい世界史へ—地球市民のための構想』岩波新書 2011年 平成30年改訂学習指導要領(本文、解説)
履修上の注意・備考	成績の評価方法にも記載したように、本講座は授業に出席し、参加することが必要である。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法

時間割コード	09239107	担当教員	村野 光則		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	水 5
講義題目	社会科・公民科教育法(実践) Practical Studies on Social Studies and Citizenship				

授業の目的・概要	中高公民科の授業に対応できる基礎的な授業技術を習得する。前半で授業づくりの基礎的な知識やテクニックを学び、後半は模擬授業を通じて実践的な授業技術の習得をめざす。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 教育実習の基礎知識 第3回 学習指導案の作り方 第4回 考えさせる授業を創る①思考実験・読解力問題 第5回 考えさせる授業を創る②ジグソー法・質問づくり 第6回 考えさせる授業を創る③サイレントダイアログ・哲学対話 第7回 生徒の学習スタイルに応じた授業とは 第8回 すぐれた授業実践に学ぶ 第9回 模擬授業A①(各20分+ふりかえり) 第10回 模擬授業A②(各20分+ふりかえり) 第11回 模擬授業B①(各45分+ふりかえり) 第12回 模擬授業B②(各45分+ふりかえり) 第13回 模擬授業B③(各45分+ふりかえり)
授業の方法	講義, アクティブラーニング, ビデオ視聴, 模擬授業
成績評価方法	模擬授業とふりかえりレポート, 出席数
教科書	『新しい社会 公民』(東京書籍)
参考書	市川伸一『考えることの科学』(中公新書) 汐見稔幸『教えから学びへ』(河出新書) 新井紀子『AI vs. 教科書の読めない子どもたち』(東洋経済) ダン・ロススタイン『たった一つを変えるだけ』(新評論)
履修上の注意・備考	教育実習のための実技科目なので、無遅刻・無欠席が原則です。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(公民)及び公民科の指導法

時間割コード	09239108	担当教員	村野 光則		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	水 5
講義題目	社会科・公民科教育法(実践) Practical Studies on Social Studies and Citizenship				

授業の目的・概要	中高公民科の授業に対応できる基礎的な授業技術を習得する。前半で授業づくりの基礎的な知識やテクニックを学び、後半は模擬授業を通じて実践的な授業技術の習得をめざす。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 教育実習の基礎知識 第3回 学習指導案の作り方 第4回 考えさせる授業を創る①思考実験・読解力問題 第5回 考えさせる授業を創る②ジグソー法・質問づくり 第6回 考えさせる授業を創る③サイレントダイアログ・哲学対話 第7回 生徒の学習スタイルに応じた授業とは 第8回 すぐれた授業実践に学ぶ 第9回 模擬授業A①(各20分+ふりかえり) 第10回 模擬授業A②(各20分+ふりかえり) 第11回 模擬授業B①(各45分+ふりかえり) 第12回 模擬授業B②(各45分+ふりかえり) 第13回 模擬授業B③(各45分+ふりかえり)
授業の方法	講義, アクティブラーニング, ビデオ視聴, 模擬授業
成績評価方法	模擬授業およびふりかえりレポート, 出席数
教科書	『新しい社会 公民』(東京書籍)
参考書	市川伸一『考えることの科学』(中公新書) 汐見稔幸『教えから学びへ』(河出新書) 新井紀子『AI vs. 教科書の読めない子どもたち』(東洋経済) ダン・ロススタイン『たった一つを変えるだけ』(新評論)
履修上の注意・備考	教育実習のための実技科目なので、無遅刻・無欠席が原則です。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(公民)及び公民科の指導法

時間割コード	09239109	担当教員	加々美 勝久		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	数学科教育法(基礎) Basic Studies on Mathematics				

授業の目的・概要	中学校・高等学校における数学科の授業を行うために必要な指導力を培う。特に中等教育前期(中学校)の教材研究に重点を置く。戦後における学習指導要領の変遷を学び、現行学習指導要領を理解し、具体的な学習内容を理解できることを目標とする。「良い授業とは」を問うことで、望ましい授業観・指導観を育成し、「日本一の授業名人の先生」になることを目標とする。そのために、各領域で指導されている内容を把握し、学習指導案の作成を行い、評価についても講義する。教材研究のあり方や問題解決型授業の実践例を与え、グループ活動などを行いながら講義を進める。数学体験館での体験も行う予定である。授業・教材における ICT の利活用についても講義する。
授業計画	第 1 回:オリエンテーション 第 2 回:学習指導要領の変遷 第 3 回:教材研究(数量領域「数と式①」) 第 4 回:教材研究(数量領域「数と式②」) 第 5 回:教材研究(図形領域①図形の見方) 第 6 回:教材研究(図形領域②ユークリッド空間) 第 7 回:教材研究(図形領域③) 第 8 回:教材研究(関数・解析領域 数学的な見方・考え方) 第 9 回:教材研究(データの活用・確率) 第 10 回:学習指導案について 第 11 回:数学体験館見学 第 12 回:デジタル教科書の実際 第 13 回:ICT の活用 第 14 回:到達度確認課題 詳細はオリエンテーションで伝えます。
授業の方法	講義とグループ活動・作業的活動を行う。 アクティブラーニングを基本とする。
成績評価方法	平常点および小論文課題と筆記テストを行い、評価する。
教科書	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 数学編(平成 29 年 7 月) ※授業開始時まで各自購入しておいてください。
参考書	若い先生に伝える仲田紀夫の算数/数学授業術 仲田紀夫著 黎明書房 "疑問"に即座に答える算数・数学学習小事(辞)典 仲田紀夫著 黎明書房 小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)解説算数編(平成 29 年 7 月) 中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示) 高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 数学・理数編(平成 30 年 7 月) その他は授業中に紹介します。
履修上の注意・備考	算数・数学科教育への関心が高いことが望ましい。講義の連続性があるので、講義に出席することを前提にします。 授業開始 29 分までは遅刻としますが、それ以降は入室は認めるが欠席扱いとなります。 講義回数(14 回)の4分の3以上(11 回以上)の出席を履修条件とします 【履修上の注意】 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法

時間割コード	09239110	担当教員	加々美 勝久		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 1
講義題目	数学科教育法(実践)A Practical Studies on Mathematics A				

授業の目的・概要	<p>中学校・高等学校における数学科の授業を行うために必要な指導力を培う。特に中等教育前期(中学校)の教材研究と模擬授業の実施に重点を置く。「良い授業とは」を問うことで、望ましい授業観・指導観を育成し、「日本一の授業名人の先生」になることを目標とする。そのために、中学校数学の検定教科書を用い各領域で指導されている内容を把握し、学習指導案の作成および模擬授業を行い、評価についても考える。教材研究のあり方や課題解決型授業の実践例を構成する。授業・教材における ICT の利活用についても体験する。 到達目標は以下の通りとする。 「数学教育の目的」「数学的な考え方」などが理解できたうえで、情報機器を使った学習指導案の作成と模擬授業が実施できること。 パワーポイントなどを使って模擬授業が出来ることが望ましい。 ①生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 ②教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 ③学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 ④模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 ⑤当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。</p>
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション。使用テキスト購入。授業分担等 第2回:学習指導案の作成について 第3回:模擬授業 1(数と式 1:文字式) 第4回:模擬授業 2(数と式 2:式の計算) 第5回:模擬授業 3(数と式 3:1次方程式) 第6回:模擬授業 4(数と式 4:式の計算(2学年)) 第7回:模擬授業 5(数と式 5:式の計算(3学年)) 第8回:模擬授業 6(数と式 6:2次方程式) 第9回:模擬授業 7(図形 1:平面図形) 第10回:模擬授業 8(図形 2:図形の性質の調べ方) 第11回:模擬授業 9(図形 3:図形の性質の調べ方) 第12回:模擬授業 10(図形 4:三角形・四角形) 第13回:模擬授業 11(図形 4:円) 第14回:振り返りとディスカッション&comma;到達度確認課題作成</p>
授業の方法	<p>教材研究と模擬授業を必須として行う。 模擬授業実施後ディスカッション及び受講生による相互評価を行う。</p>
成績評価方法	<p>模擬授業、模擬授業の学習指導案、振り返りとまとめの課題により評価する。 分担箇所の模擬授業の実施を履修の必須条件とします。 </p>
教科書	<p>中学校学習指導要領解説 数学編(平成 29 年)(各自購入) 中学校数学の検定済教科書(学校図書株式会社 中学校数学1~3)(第1回に購入) </p>
参考書	<p>若い先生に伝える仲田紀夫の算数／数学授業術 仲田紀夫著 黎明書房 ”疑問”に即座に答える算数・数学学習小事(辞典) 仲田紀夫著 黎明書房 高等学校学習指導要領解説 数学編・理数編(平成 30 年)(各自購入) その他は授業中に紹介します。</p>
履修上の注意・備考	<p>算数・数学科教育への関心が高いことが望ましい。履修者の模擬授業を中心に進めるため、講義に出席することを前提にします。 数学科教育法(基礎)を履修していることが望ましい。4 領域の内容を理解していること。学習指導案の作成については既習であることを前提とします。受講までに確認しておくこと。 担当の模擬授業を不実施の場合は、単位を認めないので注意してください。 授業開始 29 分までは遅刻としますが、それ以降は入室は認めるが欠席扱いとなります。 講義回数4分の3以上(11 回以上)の出席を履修条件とします。 </p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法</p>

時間割コード	09239111	担当教員	石橋 太加志、清野 堯明		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	数学科教育法(実践)B Practical Studies on Mathematics B				

授業の目的・概要	中等教育段階での数学科の授業を行うときに、事前に教材研究ができ、学習指導案が作成できるようになることを目標とする。単なる問題提示、その解説、演習という授業の流れにとどまらないためにはどのような点に注意すべきなのかを具体的な指導事例を中心に考察する。自分の受けてきた授業を振り返り、数学科の授業者に必要な知識・技術について考察する。中学校・高等学校の学校現場で指導している立場から、具体的な教材・資料・実践例を通して、数学教育に関するテーマを与える。
授業計画	第1回:「数学」と「学校数学」との違い 第2回:現行の学習指導要領と中学校・高等学校の数学科カリキュラム 第3回:学習指導要領の歴史 第4回:学習指導法 第5回:評価 第6回:教材研究(空間図形の模型作りを例にして) 第7回:教材研究(単元のつながりを意識した題材を例にして) 第8回:教材開発(教科書の問題を生かす) 第9回:教材開発(生徒の反応・誤答を生かす) 第10回:数学的な考え方 第11回:ICTの活用 第12回:数学的モデル化 第13回:学習指導案の書き方 第14回:模擬授業(学習指導案の進め方) 第15回:模擬授業(授業を評価する)
授業の方法	講義またはテーマごとに課題を提示して、その課題について問題解決し、その解決過程を振り返る。
成績評価方法	テストは行わず、レポート等で評価する。そのレポートや講義中の活動を見て、講義の内容を理解し、自らの問題解決過程を振り返り、考察をしているかどうかを確認する。
教科書	中学校学習指導要領解説数学編、高等学校学習指導要領解説書理数編数学編
参考書	中学校学習指導要領解説数学編、高等学校学習指導要領解説書理数編数学編
履修上の注意・備考	上記の成績評価方法で記入したように、毎回の講義で学生の活動を重視し、さらにレポートを課すので、講義に出席することを前提とする。 【履修上の注意】 ※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義)を参照 http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.html
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法

時間割コード	09239112	担当教員	對比地 覚
単位数	2.0	学期	集中
講義題目	理科教育法(実践)A Practical Studies on Natural Science A		

授業の目的・概要	教育学部附属中等教育学校の理科専任教員が担当する。理科教育を中心に、学生が教育実習をする際に、授業や学校現場で注意すべきこと・工夫できることなどを解説し、演習や模擬授業で実践する。 具体的には「教員の仕事」、「理科教育では何をするのか」、「指導案の作成」、「実験・観察を含む授業運営」などの事項を扱う。 この科目は教職課程における「教職に関する科目」の「各教科の指導法」に該当する。
授業計画	1. 理科教育の目的・学習指導要領 2. 授業の方法 3. 評価の方法 4. 評価の演習 I 5. 実験・観察の意義 6. 授業における安全管理 7. 学習指導案の書き方 8. 学習指導案の作成／検討 9. 模擬授業の準備 10. 模擬授業I① 11. 模擬授業I② 12. 探究活動の指導 13. 模擬授業 II ① 14. 模擬授業 II ② 15. 模擬授業 II ③
授業の方法	実技演習や解説を中心に、グループワークや模擬授業を通して互いに理解を深める。
成績評価方法	出席状況、レポート(指導案を含む)、授業に対する取り組み
教科書	なし
参考書	中学校学習指導要領解説 理科編 高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編
履修上の注意・備考	感染症の状況にもよりますが、実際の中高生に対して模擬授業をしてもらう予定です。 そのため、会場は中野区にある教育学部附属中等教育学校とします。 オンラインで実施することになった場合は、改めて LMS に URL を掲載します。 模擬授業に参加する生徒を募集する関係で、担当したい科目(物理、化学、生物、地学)を事前に知らせてもらいたいと考えています。 そのため、履修すること(登録ではなく本当に受講するのかどうか)が決まったら、 ①中学生がいいのか、高校生がいいのか、こだわりはないのか。 ②担当したい科目が決まっているのか。特にこだわりはない(例:化学または生物ならどちらでもいい等) ③担当できない科目(中学生の化学なら何とかなるが、高校生の化学は不可など)があるか。 を 6/17(金)までにメール(tsuhihi@g.ecc.u-
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 理科の指導法

時間割コード	09239113	担当教員	荒井 恵里子		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	水 5
講義題目	理科教育法(実践)C Practical Studies on Natural Science C				

授業の目的・概要	教育学部附属中等教育学校の理科専任教員が担当する。理科教育を中心に、学生が教育実習をする際に、授業や学校現場で注意すべきこと・工夫できることなどを解説し、模擬授業で実践する。具体的には「学校とはどんなところか」、「教員の仕事」、「理科教育では何をするのか」、「様々な授業形態」などの事項を扱う。この科目は教職課程における「教職に関する科目」の「各教科の指導法」に該当する。
授業計画	1. 教員という職業について 2. 理科教育の目的・学習指導要領 3. 授業の方法と評価 4. 授業の教材の具体例 5. 授業でのメディア・機器の利用 6. 学習指導案の作成 7. 学習指導案の検討・模擬授業の準備 8. 模擬授業I① 9. 模擬授業I② 10. 実験・観察の意義・授業における安全管理 11. 模擬授業Ⅱ① 12. 模擬授業Ⅱ② 13. 模擬授業Ⅱ③
授業の方法	講義や解説を中心に、グループワークや模擬授業を通して互いに理解を深める。
成績評価方法	出席状況、レポート(指導案を含む)、模擬授業、授業に対する取り組み
教科書	なし
参考書	中学校学習指導要領解説 理科編 高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編
履修上の注意・備考	受講生全員に模擬授業を担当していただきます
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 理科の指導法

時間割コード	09239114	担当教員	青木 秀憲、上岡 洋晴		
単位数	2.0	学期	S2	時限	火 1, 火 2
講義題目	保健体育科教育法(実践)C Practical Studies on Health and Physical Education C				

授業の目的・概要	<p>保健体育の授業設計を実際に行うに当たっての技法、注意点を主に実習を通じて体得する。保健体育の授業運営においては、これまでに得た技術、知識、経験などをもとに構成することが基本であるが、未成年の集団を授業対象としている以上、理論・理屈、経験だけでその集団に対処することは不可能である。授業時には不測の問題が常に発生する危険を帯びている。また、授業の運営にはきわめて些末な準備作業が無数にあり、これを疎かにすると限られた授業時間内で効果的、効率的な授業を実施することは困難となる。本来教師として持つべき技術、知識、経験以外に、現場で生じる諸問題への対応力、事前の綿密な準備作業への想像力、現場での遂行力は、あらゆる社会人にとって必要であり、教師を志す学生以外にも有益であると思われる。本授業はこうした対応力、想像力、遂行力を養成する第一歩と位置付けている。 保健体育科教育法(実践)には A、B、C の 3 科目の授業があるが、どの科目からでも受講することが可能である。また、中学校の教員免許取得を考えない限り、A、B、C の3つすべてを履修する必要はなく、どれかを単独で履修し、単位を取得することも可能である。 本授業は、2022 年度に「実践 A」と「実践 B」が既に開講されているため、今回の「実践 C」では過去に「実践」を履修している者(既修者)と今回初めて履修する者(初修者)とが混在する可能性がある。従って、既修者と初修者とは授業内容や課題に若干の違いが生ずる場合がある。例えば、既修者は模擬授業およびその振り返り等の実習を中心とし、初修者は授業運営に関する基本的な技法、考え方などを踏まえてから模擬授業に臨むなど、既修者と初修者を分けて別々の課題や実習に臨むことも予定している。 The purpose of this class is to understand how to teach a physical education class. The main things to do in this class are followings: ・Understanding physical education curriculum guidelines ・Creating physical education lesson plans ・Having a mock physical education class </p>
授業計画	<p>主に以下の内容を全 7 回で学習するが、既修者と初修者では授業内容に若干の違いが生じる場合もある。 1. イントロダクション 体育教師が求められる役割、競技主体思考と学校体育思考の違い、東京大学で体育を学ぶ意義 2. 学習指導案の考え方・理念 3. 未熟練者の動作の分析 4. 学習指導案・授業時案の作成および発表・質疑 5. 指導実践見学(東京大学教育学部附属中等教育学校等での授業見学) 6. 体育実技模擬授業を一人 2 回程度(既修者は初修者よりも長時間の模擬授業を実施) 7. 体育実技模擬授業振り返り 8. ニュースポーツの理解および実践 ※1 回の授業は原則 2 時限分連続で実施する。</p>
授業の方法	<p>本授業はすべて対面で実施する予定。履修希望者は第 1 回の授業時、直接教室に集合すること。授業期間の前半は講義、ディスカッション、作業が中心。後半は履修者が「教師役」、「生徒役」に分かれて行う体育実技の模擬授業や、学校現場に向いて行う授業見学など、実習が中心となる。</p>
成績評価方法	<p>実習が主体となる授業のためペーパーテストによる定期試験は実施しない。講義で実施する諸作業の提出状況や内容、ディスカッションにおける発言内容、模擬授業の出来ばえを評価の対象とする。</p>
教科書	<p>文部科学省 . 中学校 : 学習指導要領 (平成 29 年度告示)「第 7 節 保健体育」. https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf その他、随時、授業時に紹介する。</p>
参考書	<p>必要があれば、随時授業時に紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>特になし。時期を問わず運動部やクラブチームなどでのスポーツ経験があることが望ましいが、全くスポーツに関係したことのない学生の視点・考え方には非常に示唆に富むものがあるので、まとまったスポーツ経験がなくても履修を勧めたい。</p> <p><注意:教員免許取得を考えている学生へ> 平成 31 年度より施行されている新教職課程が適用となる学生は、教免法上の要件科目「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」について、中学校免許状取得には「身体教育方法論」2 単位及び「実践」6 単位の合計 8 単位の修得が必要となる(実践 A、B、C をそれぞれ 1 回ずつ履修)。</p>

また高等学校免許状を取得する場合は、「身体教育方法論」2 単位及び「実践」2 単位の合計 4 単位の修得を要する
(実践 A、B、C のいずれか 1 科目を履修)。| 教員免許状の取得を希望する場合、自身に

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 保健体育科の指導法

時間割コード	09239115	担当教員	青木 秀憲
単位数	2.0	学期	A2
		時限	火 1, 火 2
講義題目	保健体育科教育法(実践)A Practical Studies on Health and Physical Education A		

授業の目的・概要	<p>保健体育の授業設計を実際に行うに当たっての技法、注意点を主に実習を通じて体得する。保健体育の授業運営においては、これまでに得た技術、知識、経験などをもとに構成することが基本であるが、未成年の集団を授業対象としている以上、理論・理屈、経験だけでその集団に対処することは不可能である。授業時には不測の問題が常に発生する危険を帯びている。また、授業の運営にはきわめて些末な準備作業が無数にあり、これを疎かにすると限られた授業時間内で効果的、効率的な授業を実施することは困難となる。本来教師として持つべき技術、知識、経験以外に、現場で生じる諸問題への対応力、事前の綿密な準備作業への想像力、現場での遂行力は、あらゆる社会人にとって必要であり、教師を志す学生以外にも有益であると思われる。本授業はこうした対応力、想像力、遂行力を養成する第一歩と位置付けている。 保健体育科教育法(実践)には A、B、C の 3 科目の授業があるが、どの科目からでも受講することが可能である。また、中学校の教員免許取得を考えない限り、A、B、C の3つすべてを履修する必要はなく、どれかを単独で履修し、単位を取得することも可能である。 本授業は、2022 年度に「実践 A」と「実践 B」が既に開講され、2023 年度 S2 では「実践 C」が開講される。従って今回の「実践 A」では過去に「実践」を履修している者(既修者)と今回初めて履修する者(初修者)とが混在する可能性がある。従って、既修者と初修者とでは授業内容や課題に若干の違いが生ずる場合がある。例えば、既修者は模擬授業およびその振り返り等の実習を中心とし、初修者は授業運営に関する基本的な技法、考え方などを踏まえてから模擬授業に臨むなど、既修者と初修者を分けて別々の課題や実習に臨むことも予定している。 The purpose of this class is to understand how to teach a physical education class. The main things to do in this class are followings: •Understanding physical education curriculum guidelines •Creating physical education lesson plans •Having a mock physical education class </p>
授業計画	<p>以下の内容を全 7 回の授業の中で取り扱う。なお、履修者の人数や既修者／初修者の人数比率によってはスケジュールの一部を調整、変更する場合がある。具体的な授業内容は、開講が近づいた時点で改めてこの場に記載する予定。 1. ガイダンス 運動指導動画分析・検討、学習指導案概説(初修者のみ) 2. 附属中等教育学校授業見学 3. 体育実技模擬授業①(屋外種目) 4. 体育実技模擬授業②(アリーナ種目／テニス) 5. 運動指導実践事例学習 運動指導現場での実践例についてゲストスピーカーをお招きして伺う。 6. 保健体育模擬授業 ※1 回の授業は原則 2 時限分連続で実施する。 </p>
授業の方法	<p>体育や保健の授業を想定し、履修者が「教師役」、「生徒役」に分かれて行う「模擬授業」と、実際の学校現場に出向いて行う「授業見学」など、実践的な実習が授業の中心となるが、初めて「保健体育科教育法(実践)」を履修する者が多い場合は、基本事項(学習指導案の解説、動作分析等)の比率を高める場合もある。本授業はすべて対面で実施する予定。履修希望者は第 1 回の授業時、直接教室に集合すること。 </p>
成績評価方法	<p>実習が主体となる授業のためペーパーテストによる定期試験は実施しない。講義で実施する諸作業の提出状況や内容、ディスカッションにおける発言内容、模擬授業の出来ばえを評価の対象とする。</p>
教科書	<p>文部科学省 . 中学校 : 学習指導要領 (平成 29 年度告示)「第 7 節 保健体育」. https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf その他、随時、授業時に紹介する。 </p>
参考書	<p>必要があれば、随時授業時に紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>特になし。時期を問わず運動部やクラブチームなどでのスポーツ経験があることが望ましいが、全くスポーツに関係したことのない学生の視点・考え方には非常に示唆に富むものがあるので、まとまったスポーツ経験がなくても履修を勧めたい。</p> <p><注意:教員免許状取得を考えている学生へ> 平成 31 年度より施行されている新教職課程が適用となる学生は、教免法上の要件科目「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」について、中学校免許状取得には「身</p>

体教育方法論」2 単位及び「実践」6 単位の合計8単位の修得が必要となる(実践 A、B、C をそれぞれ 1 回ずつ履修)。
また高等学校免許状を取得する場合は、「身体教育方法論」2 単位及び「実践」2 単位の合計 4 単位の修得を要する
(実践 A、B、C のいずれか 1 科目を履修)。| 教員免許状の取得を希望する場合、自身に

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 保健体育科の指導法

時間割コード	09239116	担当教員	奥 聡一郎
単位数	2.0	学期	S1
講義題目	英語科教育法(実践)A Practical Studies on English Language A		
		時 限	火 3, 火 4

授業の目的・概要	<p>授業の到達目標及びテーマ 1. 学校教育で外国語、英語を学ぶ意義を見直し、歴史的変遷と現状分析を通して、英語教師に必要な知識、指導技術を身につける。 2. 学習の対象となる英語そのものの理解を深め、授業における運用能力を高める。 3. 外国語教育の理論的知識と教授法に関する実践的知識について学ぶことにより、教育実習に対する準備を行う。 4. 指導法や教授法をマイクロティーチングの形式で実践したうえで、受講者各自が模擬授業を行い、講評や議論を通して、自らの授業改善につなげることができるようにする。</p>
授業計画	<p>第1回:イントロダクション、評価方法の説明、英語の学び方を振り返り、学校教育と教員の役割について意見をまとめる。【キーワード 英語の学び方、学校教育】 第2回:英語学習について諸外国での授業と教授法、教材の比較・検討を発表する。【キーワード 言語政策、world Englishes 教授法】 第3回:学習指導要領の変遷日本の英語教育の特徴を学習指導要領の歴史的変遷から学び、コミュニケーション能力を身につけさせるための方法について理解を深める。【キーワード 学習指導要領 コミュニケーション能力】 第4回:英語教師の資質と能力。【キーワード 英語力、グループ・ワークによるマイクロティーチング】 第5回:4 技能の指導法「読む・書く」指導の実例を学ぶ。【キーワード 文法・語彙指導、辞書指導】 第6回:4 技能の指導法「聞く・話す」指導の実例を学ぶ。【キーワード 発音記号、フォニックス】 第7回:新しい学習方法【キーワード アクティブラーニング、反転授業、協働学習】 第8回:ICT 活用と教育工学【キーワード 板書、LL、CALL、フラッシュカード、電子黒板】 第9回:授業構成 導入、展開、評価などの技法を確認し、使えるようにする。【キーワード 学習指導案】 第10回:学習評価と言語活動のまとめ【キーワード 評価、キャンドゥーリスト】 第11回:録音と録画を使った授業分析と授業研究【キーワード 模擬授業、】 第12回:新しい教授法と模擬授業(1)【キーワード 授業評価、アクティブラーニング】 第13回:ICT 活用と模擬授業(2)【キーワード 4 技能、ICT 活用】 第14回:学習者要因に配慮した模擬授業(3)【キーワード 教室外学習、動機づけ】 第15回:授業のまとめ【キーワード 教員研修、授業研究】</p>
授業の方法	<p>まず、教える対象となる英語についての基本的な理解を深め、運用能力の向上を図る。英語の特質を理論的に理解したうえで教材開発や言語活動の設定に応用できるようにする。学習指導要領の概要や言語政策、教授法の変遷など歴史的流れと教材論の展開を理解し、教育実習の準備をする。毎時の指導案及び年間授業計画の立て方、授業の構成、教科書の扱い方をアクティブラーニングの形式で学び、それぞれが学習指導案を作成し、模擬授業を行う。受講者による互いの講評や議論を通じて、教壇に立つ心構えを身につけることを目標とする。</p>
成績評価方法	<p>毎回の講義内容に関するリアクションペーパー(20%)、模擬授業の学習指導案(20%)、模擬授業への講評と議論(20%)、グループ・ワークによるマイクロティーチング(20%)英語教育に関する最終レポート(20%)を総合的に評価する。</p>
教科書	<p>小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)文部科学省編 東洋館出版社 ISBN978-4-491-03460-7 小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)解説 外国語活動・外国語編 文部科学省編 開隆堂 ISBN978-4-304-05168-5 中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)文部科学省編 東山書房 ISBN978-4-8278-1558-50 中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)解説外国語編 文部科学省編 開隆堂 ISBN978-4-304-05169-2 高等学校学習指導要領(平成 30 年 3 月告示)解説外国語編 文部科学省編 開隆堂 ISBN978-4-304-05169-2</p>
参考書	<p>JACET SLA 研究会編『第二言語習得と英語科教育法』東京:開拓社 金谷憲他編『大修館 英語授業ハンドブック 中学校編』東京:大修館書店 金谷憲他編『大修館 英語授業ハンドブック 高等学校編』東京:大修館書店 Jim Scrivener. (2011) Learning Teaching. The Essential Guide to English Language Teaching. Third Edition. Oxford: Macmillan Books. </p>
履修上の注意・備考	<p>原則として、教員免許取得予定者を対象とします。ITC-LMS を利用しますのでパソコンは必携です。</p>

時間割コード	09239117	担当教員	高橋 和子
単位数	2.0	学期	集中
講義題目	英語科教育法(実践)B Practical Studies on English Language B		

授業の目的・概要	<p>小学校・中学校・高等学校の英語教材に焦点を置いて、これらの構造と特色を踏まえた授業実践を目指します。【目標】1) コミュニケーション能力育成を目指す日本の英語教育のあり方を、英語教材の変遷を通して理解することができる2) 英語教材(会話文、説明文、物語文等)の構造と特色を理解することができる3) 小学校・中学校・高等学校における、英語教材のあり方を理解することができる4) 英語で書かれたテキストをもとに、自ら英語教材を作成することができる【概要】・コミュニケーション能力重視の英語教育と、英語教材の変遷について ・英語教材(会話文、説明文、物語文等)の構造と特色について ・各校種における英語教材の特色について ・英語教材と問いの立て方について ・デジタル時代における英語教材のあり方について </p>
授業計画	<p>第1回: イントロダクション 第2回: コミュニケーション能力重視の英語教育と英語教材: 1980年代以降を中心に 第3回: 英語教材の見かた: 本文・質問/発問・学習活動/言語活動 第4回: 小学校英語教材(1) 会話文 第5回: 小学校英語教材(2) 絵本・物語文 第6回: 中学校英語教材(1) 会話文 第7回: 中学校英語教材(2) 説明文 第8回: 中学校英語教材(3) 物語文 第9回: 高等学校英語教材(1) 会話文 第10回: 高等学校英語教材(2) 説明文 第11回: 高等学校英語教材(3) 物語文 第12回: これからの英語教材 第13回: 最終レポート ※注意: 上記計画は、受講者の状況等に伴って、変更の可能性があります。変更等の連絡は、必要に応じてLMSで行います。</p>
授業の方法	<p>・検定教科書等に掲載されている教材分析の他、これらと関連する資料を使用しながら授業を行います。 ・講義と演習を組み合わせた授業形態です。 ・受講者同士のグループワークを随時取り入れます。 ・LMSでの教材配布、ZOOMでの授業を組み合わせる予定です。 </p>
成績評価方法	<p>・課題(教材作成を含む)50%、最終レポート 50% ・上記にグループワークの成果、ZOOM や LMS へのログイン状況等も踏まえて、総合的に評価します。</p>
教科書	<p>・LMSで教材を配布します。 ・小学校・中学校・高等学校『学習指導要領』、および『学習指導要領解説』を使用します。 以下の文部科学省ホームページより入手可能です(2023年1月5日現在): https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm </p>
参考書	<p>・田中武夫・田中知聡(2018)『英語授業の発問づくり』明治図書 ・Berger&comma; Warren. & Foster&comma; Elise. (2020). Beautiful questions in the classroom. Corwin. ・McKee&comma; Robert. (2014). Story: Substance&comma; structure&comma; style&comma; and the principles of screenwriting.</p>
履修上の注意・備考	<p>・原則として、教員免許取得予定者を対象とします。免許取得予定ではないが履修を希望する方は、以下のメールアドレスまでご相談ください。 【準備学習(講義を履修するために必要な予備知識)等】本科目は、現在の外国語(英語)教育の概要を理解していることを前提に進めます。 これらの概要を把握していない場合、各学校種の『学習指導要領』及び同解説(外国語・英語教育関係)をあらかじめご覧ください。『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』の付録8・9・10は学校種を横断して目標や言語材料が閲覧可能です。</p> <p>・本講義は集中講義で行います。日程および実施形態等は、関連部署が発信する情報をご覧ください。 配布教材に基づいて学習し、問題意識を持って授業に臨んでください。 授業に関する情報は、LMSのお知らせ欄で周知します。定期的にお知らせを見るようにして下さい。 </p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法

時間割コード	09239118	担当教員	戸上 和正		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	英語科教育法(実践)C Practical Studies on English Language C				

授業の目的・概要	学校教育(中等教育)における英語の授業について、基本的な事項や指導理論などの知識を踏まえて、学校現場の状況を参照しながら対話と実技を行うことで、英語科の教員としての実践力を身につけることを目標とします。この目標達成のためにどのような手立てで進んでいくのか、この授業でどのような活動のゴールを設け、また、学習の過程でどのようなことを思考して欲しいのかを「授業の方法」に記します。
授業計画	第1回:英語の授業の目的、教員が身につけるべき力とは? 第2回:学習理論や指導理論から英語での指導を考える 第3回:コンテンツから英語の指導場面を考える 第4回:中学校・高等学校での授業について(授業形態) 第5回:中学校・高等学校での授業について(教材や素材) 第6回:中学校・高等学校での授業について(指導内容) 第7回:附属学校の授業(2、4、6年の授業から) 第8回:附属学校の授業(生徒の声) 第9回:附属学校の授業(授業を作る) 第10回:中学校模擬授業の実践① 第11回:中学校模擬授業の評価① 第12回:高等学校模擬授業の実践② 第13回:高等学校模擬授業の評価②
授業の方法	目標達成のための受講者の手立て (1)英語で授業を行うことについて、アプローチやスタイルの面から考察する。 (2)学習者の年齢や学年、習熟度、学びの目的に応じた授業の場면을考察する。 (3)附属学校をモデルとして学校現場の情報をもとに指導の工夫を講じた実践的課題を行う。 実際の活動としてのゴール (1)具体的な意味を持った英語での指導場면을体験する。 (2)状況の違う中で学びの実践を学習者として、また授業者として行う。 (3)附属学校の授業を見て生徒の声を聞き、学習者と指導者の関わりを持った実践を行う。
成績評価方法	授業内での活動の成果と講義後のレポート課題により評価します。 授業内での活動は、単元の区切りで Google フォームなどを利用してフィードバックとして提出していただくものを中心に評価します。レポート課題は、本講座で知り得たことを使って後日提示する素材を用いた授業案を作るというものです。多少の変更をすることもありますが、大筋としてはこの形で行きます。 評価の観点は授業当日にお知らせします。
教科書	なし
参考書	特に指定しませんが、指導法や指導理論に関する本、学びの(授業の)スタイルに関する本、第2言語習得の本、学習の評価に関する本、英語学入門や英語の文法、音声、作文、スピーチ、プレゼンテーションなどに関する本など、さまざまな本を読んでおいてください。その中で受講する皆さんがお勧めする本を紹介していただく場面を作ります。
履修上の注意・備考	教育学部附属中等教育学校で行います。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法

時間割コード	09239119	担当教員	波多野 名奈		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	教育原理Ⅱ Educational Principles II				

授業の目的・概要	<p>本授業は、教職課程の「教育の基礎的理解の関する科目」のうち、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に該当する科目である。教育とはどのような営みなのか、何をもって教育と定義するのか、そして教育とはどのような歴史的経緯を辿って今の在り方になったのか、といった原理的な問いに対峙しつつ、これから教職に就き未来の教育を創りあげる者としての自覚と課題意識を身につけるための、準備作業として位置づける。この授業では、簡単には答えの出ない問いに粘り強く取り組み、輻湊する問題を自分なりに解きほぐすことを試みてもらいたい。 到達目標は以下の三点である。 (1)社会の変化と教育に関する出来事を結びつけ、社会・歴史的構成物として教育を捉える視点を持つ。 (2)教育実践の背後の理念を捉え、理念から具体的な教育実践へとつなげる道筋を描くことができる。 (3)現代の教育を巡る諸課題に対し、多様かつ幅広い視点からアプローチすることができる。</p>
授業計画	<p>1. 教育を捉える枠組み (1) 自律と他律、あるいは解放と抑圧という図式 (2) 近代教育の成立 ~「子ども」の誕生~ (3) 近代教育の成立 ~「学校」の誕生~ (4) 日本の教育の歴史 2. 発達を巡る理論と実践 (1) 発達という物語 (2) 甘えと依存 ~日本の子育ての原理~ (3) 脱・発達論とその限界 3. 学校教育の輪郭 (1) オルタナティブ・スクール (2) 教えない教育は可能か ~わざの習得と伝達~ (3) 脱・学校論とその行く末 4. 教育を巡る諸議論 (1) 愛と欲望の教育 (2) 教育空間と人間形成 (3) 性と生命、死の教育 (4) 新教育と経済原理</p>
授業の方法	<p>講義形式を基本とするが、可能な限りディスカッションの時間も設ける。 振り返りシートを用い、双方向的な授業を試みる。</p>
成績評価方法	<p>期末レポート(60%)、振り返りシート(40%)</p>
教科書	<p>特に指定しない</p>
参考書	<p>授業内で指示する</p>
履修上の注意・備考	<p>この授業は教職に関する科目である。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照※A 参照</p>

時間割コード	09239120	担当教員	伊藤 貴昭		
単位数	2.0	学期	S1	時限	金 1, 金 2
講義題目	教育心理Ⅱ Educational Psychology II				

授業の目的・概要	<p>【目標】 学習および発達の過程について理解を深め、発達段階に即した子どもの心理的特性を理解し、教育実践場面へつなげるための基礎となる考え方を身につける。 1. 教育心理学で扱われてきた学習の原理、発達、思考の特徴などについて理解を深める。 2. 発達段階に即して子どもの心的メカニズムを理解し、教育実践へつなげるための能力を育む。 3. 教員になったときに直面する問題に対して、心理学的な観点から考えることができる。 【概要】 教育心理学とは、心理学で明らかにされてきた知見を教育実践に活かすことを目的とした学問である。本講義では、教育心理学が対象とするテーマの中でも特に「学習の原理」「発達」を中心に子どもの発達状況に応じてどのような心理メカニズムが働いているかについて理解を深めていく。 </p>
授業計画	<p>第1回:学習の原理 第2回:記憶のメカニズム 第3回:乳児期から児童期の発達の過程 第4回:青年期以降の発達の過程 第5回:ことばや概念の発達 第6回:問題解決と推論のプロセス 第7回:協同で取り組むことの効果 第8回:学習方略の有効性 第10回:動機づけのメカニズム(1)欲求に基づく動機づけ 第11回:動機づけのメカニズム(2)認知に基づく動機づけ 第12回:子どもの発達に応じた教育の在り方とは 第13回:活動性を高める授業づくり 第14回:教育実践に対する教育心理学の貢献 第15回:まとめ </p>
授業の方法	2023 年度授業実施方針に基づいて実施します。
成績評価方法	<p>授業への貢献度(10%)各回の課題提出 レポート(30%) 学期末試験(60%) ただし、出席状況(各回の課題提出の状況)が悪い場合には試験の結果によらず不可とします。 ※授業実施方針によりオンライン授業となった場合には、学期末試験をレポートに置き換えます。</p>
教科書	特に指定しない。
参考書	『絶対役立つ教育心理学』 藤田哲也編 ミネルヴァ書房
履修上の注意・備考	<p>本授業は教職課程科目のため、出席(毎回の課題提出)を重視します。また、グループ活動への積極的な参加も求めます。 教育実習等で欠席が多数見込まれる場合には、授業時または以下のメールアドレス宛に必ず申し出てください。 </p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※3 参照※D 参照

時間割コード	09239121	担当教員	堤 英俊
単位数	1.0	学期	集中
講義題目	特別支援教育総論 I An Introduction to Special Needs Education I		

授業の目的・概要	<p>本授業では、特別な教育的ニーズを示す子どもを多角的・包括的に理解する力量を高めるとともに、日本におけるインクルーシブ教育の実現に向けた、通常の小・中学校や高等学校における具体的方策について検討する。到達目標は以下のとおりである。 1. 特別支援教育の制度と構造、およびインクルーシブ教育との関係性について説明できる。 2. 特別な教育的ニーズを示す子どもを理解するにあたっての基本的な知識・観点・態度を身につけるとともに、支援・配慮の原理と方法について理解する。 3. インクルーシブな学級・学校・地域づくりの具体的方策について考察し、言語化することができる。 </p>
授業計画	<p>次のようなテーマを検討する。 1. 特別支援教育の制度と構造、特別支援教育とインクルーシブ教育 2. 特別な教育的ニーズを示す子どもの理解と合理的配慮 3. 障害の個人モデルと社会モデル 4. 発達障害の理解(ASD・ADHD・LD)、神経回路の多様性 5. さまざまな障害の理解(知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害等) 6. 人種、国籍、性、母国語、貧困等の理解 7. インクルーシブな学校づくり:オルタナティブな学校の取り組みに学ぶ 8. 通常学級におけるインクルーシブな学級づくり:学びとケアの共同体 9. 通常学級におけるインクルーシブな授業づくり①:授業のユニバーサルデザイン、ICT等の支援技術の活用 10. 通常学級におけるインクルーシブな授業づくり②:ペア学習・協同学習 11. 特別支援教育コーディネーター・特別支援教育支援員等の役割と連携 12. 個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と活用、通級による指導、自立活動 13. 交流及び共同学習、障害理解教育、多文化教育 14. インクルーシブな地域づくり:学校という制度的枠組みをこえて 15. これからの特別支援教育／インクルーシブ教育の課題 </p>
授業の方法	<p>講義を中心に、適宜、動画視聴やグループ・ディスカッションを行う。</p>
成績評価方法	<p>各回のリアクションペーパー(40%)、課題レポート(60%)にもとづき、総合的に評価する。</p>
教科書	<p>教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。 </p>
参考書	<p>堤英俊(2019)『知的障害教育の場とグレーゾーンの子どもたちーインクルーシブ社会への教育学ー』東京大学出版会。 木村泰子・小国喜弘 編(2019)『「みんなの学校」をつくるためにー特別支援教育を問い直すー』小学館。 湯浅恭正・新井英靖・吉田茂孝 編(2019)『よくわかるインクルーシブ教育』ミネルヴァ書房。 この他、授業の中で関係する文献を紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>主体的な参加を前提とする。</p> <p>【履修上の注意】 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※E 参照</p>

時間割コード	09239122	担当教員	富士原 紀絵		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	教育課程Ⅱ Curriculum Studies II				

授業の目的・概要	テーマ「教育課程の編成を理論的、実践的に学ぶ」 日本の教育課程の歴史の変遷を踏まえつつ、学校主体のカリキュラム編成法とマネジメントの意義とその方法について理解する。教育課程の全体構造との関係において各教科、領域の存在意義をとらえ、学校の全体教育課程を編成しマネジメントする能力を養う。
授業計画	第1回:教育課程・カリキュラム・学習指導要領の関係性 第2回:現代日本の子どもの諸問題(学習面、生活面)と教育課程 第3回:教育課程における教科の分化と総合、選択履修と共通履修の関係 第4回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(1)戦後初期 第5回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(2)1958年~1977年 第6回:学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(3)1989年~1998年 第7回:2017年改訂学習指導要領の全体構造と特徴-2008年学習指導要領との比較を通して 第8回:カリキュラム・マネジメントの意義 第9回:カリキュラム・マネジメントと授業評価と学校評価 第10回:カリキュラム・マネジメントの方法 第11回:教科横断的な教育課程編成の実践例から学ぶ-小学校 第12回:総合的な学習の時間を中心とした教育課程編成とマネジメントを実践例から学ぶ-中学校 第13回:教育課程の試作-学校教育目標を検討する 第14回:試作した教育目標と教科の関係を検討する 第15回:試作した教育目標と教科外領域の関係を検討する
授業の方法	全面对面授業を想定するが、大学の指示により zoom による全面オンライン形式になる場合もある。 1) 授業形式は講義。 2) 毎回、講義への感想の提出を求める(当日の授業時間内に提出)。 3) 感想ではなく、アンケートや特定のテーマについての意見を求めることもある。
成績評価方法	感想の提出(50%)、テスト(50%)の合算による。
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領解説 総則編』。いずれも文部科学省ホームページからダウンロード可能。
参考書	根津朋実編著『教育課程』ミネルヴァ書房、2019
履修上の注意・備考	受講希望者はシラバスや ICT-LMS を意識的にチェックしておくこと。 1) オンラインで zoom になる場合、URL はシラバスや ICT-LMS に、集中講義の日程と実施形態が確定してから掲示する。 2) 講義資料の事前配布、授業へのコメント、課題等は ICT-LMS システムを活用する。 3) 全学教職科目であるため、教員免許取得者の履修の観点では中等教育免許取得者を念頭に置くが、日本においてカリキュラム開発は初等教育を中心に行われてきた歴史的経緯があるため、初等教育の内容も押さえておくことになる。初等中等教育に関わる時事的な情報を、各自意識的に入手しておくこと。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照※F 参照

時間割コード	09239123	担当教員	藤井 佳世		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	道徳教育法 Methods of Moral Education				

授業の目的・概要	<p>本授業の目的は、教職を志す学生にとって必要な道徳教育の基礎的知識・理解と道徳の指導法を養うことにある。おもに、道徳をめぐるさまざまな議論の考察を通して、道徳教育の哲学的・倫理的基盤、学校における道徳教育の目標と内容について学び、学習指導過程の構想などのこれからの道徳教育の可能性について考えることができるようになることを目的とする。</p>
授業計画	<p>道徳教育の課題や理論、授業の位置付けなどを学び、学習指導構想を作成する。</p>
授業の方法	<p>講義、授業中の課題提出、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションをおこなう。</p>
成績評価方法	<p>成績は、授業時間内に行う小テスト、小レポート・課題提出、資料作成・発表、最終レポートで判断する。授業内で実施する小テスト・課題等は、公欠のみ考慮する。</p>
教科書	<p>教科書は使用しない。 </p>
参考書	<p>参考書は使用しないが、次のものを使用する。 1文部科学省『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』 2文部科学省『中学校学習指導要領解説(平成 29 年告示) 総則編』 3文部科学省『中学校学習指導要領解説(平成 29 年告示) 特別の教科 道徳編』3は、可能であれば持参すること。 その他、関連する資料・文献等は授業中に適宜紹介する。</p>
履修上の注意・備考	<p>※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照※G 参照教科又は教職に関する科目(旧)大学が独自に設定する科目(新)</p>

時間割コード	09239124	担当教員	浅川 俊彦		
単位数	1.0	学期	S1	時限	水 5
講義題目	総合的な学習の時間の指導法 Pedagogical Studies on the Period for Integrated Studies				

授業の目的・概要	<p>中等教育段階における「総合的な学習の時間」について実践的課題を学び、 実際の授業を構想する作業を通して、創造的な学習の場をつくる力量を形成する。 - 現在の学校教育では、教科学習においても「探究的な学び」が求められている。 かつては一定の知識や解法を身につけることが、諸課題にアプローチする際の基礎と考えられてきた。 しかしスマホひとつ取り出せば膨大なデータにいつも容易くアクセスできるいま、 それを頭の中に詰め込む努力は虚しいものと言わざるを得ない。 中高の教室で行われる授業も、黒板を背にした教員が整理した知識を いかに合理的に生徒に受け渡し、ドリルや演習で歩留まりを上げていく そんなスタイルが通用しないものとなりつつある。 では一体何が求められているのか。 そのヒントの一つが教科の枠を超えた「総合的な学習」にある。 いま社会に満ちている諸課題の中から、何を自分ごととして選び取るのか。 その分野でこれまで何が明らかにされており、何がホットな話題なのか。 自分の身の丈に合ったアプローチにはどんなものがあるのか。 あふれる情報の海から、信頼にたるものを手繰り寄せ 先人の到達に学びながらも自分の頭で思考・分析し 客観と主観を行き来させながらまとめ上げ それをわかりやすい形で、届けたい相手に向けて発信していく。 そうした一連の「探究的な学び」は、はたして 数十名の生徒が一斉に時間に縛られながら学習する 学校教育で本当に成り立つのだろうか? 履修学生自身の経験と先進的事例に学びながら、その問いに迫りたい。</p>
授業計画	<p>授業計画 第1回 総合的な学習とは何か(受講者の経験を対象化する) 第2回 「探究」にカリキュラムは成立するのか 第3回 総合的な学習の具体例(魅力的な事例にまなぶ) 第4回 総合的な学習をデザインする(グループワーク) 第5回 総合的な学習の指導案をつくる 第6回 授業案とその検討 ① 第7回 授業案とその検討 ② </p>
授業の方法	<p>総合的な学習の時間について、先進的事例のいくつかと受講者自身の経験を踏まえ、 その特徴を吟味し、問題点および改善点を考える。個人または小グループで実際の授業を構想し、 その相互評価を元に練り上げて学習指導案に結実させる。 </p>
成績評価方法	<p>毎回のリフレクションペーパー(15点×7回)、学習指導案(95点)の200点満点で評価。 </p>
教科書	なし
参考書	授業中に必要に応じて資料を配布する。
履修上の注意・備考	<p>この授業自体を探究的・協働的な学びの場として構成していきたいので、主体的に動く姿勢や互いから学びあう姿勢が強く求められる。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※H 参照

時間割コード	09239125	担当教員	浅川 俊彦		
単位数	1.0	学期	S2	時限	水 5
講義題目	総合的な学習の時間の指導法 Pedagogical Studies on the Period for Integrated Studies				

授業の目的・概要	<p>中等教育段階における「総合的な学習の時間」について実践的課題を学び、 実際の授業を構想する作業を通して、創造的な学習の場をつくる力量を形成する。 - 現在の学校教育では、教科学習においても「探究的な学び」が求められている。 かつては一定の知識や解法を身につけることが、諸課題にアプローチする際の基礎と考えられてきた。 しかしスマホひとつ取り出せば膨大なデータにいつも容易くアクセスできるいま、 それを頭の中に詰め込む努力は虚しいものと言わざるを得ない。 中高の教室で行われる授業も、黒板を背にした教員が整理した知識を いかに合理的に生徒に受け渡し、ドリルや演習で歩留まりを上げていく そんなスタイルが通用しないものとなりつつある。 では一体何が求められているのか。 そのヒントの一つが教科の枠を超えた「総合的な学習」にある。 いま社会に満ちている諸課題の中から、何を自分ごととして選び取るのか。 その分野でこれまで何が明らかにされており、何がホットな話題なのか。 自分の身の丈に合ったアプローチにはどんなものがあるのか。 あふれる情報の海から、信頼にたるものを手繰り寄せ 先人の到達に学びながらも自分の頭で思考・分析し 客観と主観を行き来させながらまとめ上げ それをわかりやすい形で、届けたい相手に向けて発信していく。 そうした一連の「探究的な学び」は、はたして 数十名の生徒が一斉に時間に縛られながら学習する 学校教育で本当に成り立つのだろうか? 履修学生自身の経験と先進的事例に学びながら、その問いに迫りたい。</p>
授業計画	<p>授業計画 第1回 総合的な学習とは何か(受講者の経験を対象化する) 第2回 「探究」にカリキュラムは成立するのか 第3回 総合的な学習の具体例(魅力的な事例にまなぶ) 第4回 総合的な学習をデザインする(グループワーク) 第5回 総合的な学習の指導案をつくる 第6回 授業案とその検討 ① 第7回 授業案とその検討 ② </p>
授業の方法	<p>総合的な学習の時間について、先進的事例のいくつかと受講者自身の経験を踏まえ、 その特徴を吟味し、問題点および改善点を考える。個人または小グループで実際の授業を構想し、 その相互評価を元に練り上げて学習指導案に結実させる。 </p>
成績評価方法	<p>毎回のリフレクションペーパー(15点×7回)、学習指導案(95点)の200点満点で評価。 </p>
教科書	なし
参考書	授業中に必要に応じて資料を配布する。
履修上の注意・備考	<p>この授業自体を探究的・協働的な学びの場として構成していきたいので、主体的に動く姿勢や互いから学びあう姿勢が強く求められる。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※H 参照

時間割コード	09239126	担当教員	浅川 俊彦		
単位数	1.0	学期	A1	時限	水 5
講義題目	総合的な学習の時間の指導法 Pedagogical Studies on the Period for Integrated Studies				

授業の目的・概要	<p>中等教育段階における「総合的な学習の時間」について実践的課題を学び、 実際の授業を構想する作業を通して、創造的な学習の場をつくる力量を形成する。 - 現在の学校教育では、教科学習においても「探究的な学び」が求められている。 かつては一定の知識や解法を身につけることが、諸課題にアプローチする際の基礎と考えられてきた。 しかしスマホひとつ取り出せば膨大なデータにいつも容易くアクセスできるいま、 それを頭の中に詰め込む努力は虚しいものと言わざるを得ない。 中高の教室で行われる授業も、黒板を背にした教員が整理した知識を いかに合理的に生徒に受け渡し、ドリルや演習で歩留まりを上げていく そんなスタイルが通用しないものとなりつつある。 では一体何が求められているのか。 そのヒントの一つが教科の枠を超えた「総合的な学習」にある。 いま社会に満ちている諸課題の中から、何を自分ごととして選び取るのか。 その分野でこれまで何が明らかにされており、何がホットな話題なのか。 自分の身の丈に合ったアプローチにはどんなものがあるのか。 あふれる情報の海から、信頼にたるものを手繰り寄せ 先人の到達に学びながらも自分の頭で思考・分析し 客観と主観を行き来させながらまとめ上げ それをわかりやすい形で、届けたい相手に向けて発信していく。 そうした一連の「探究的な学び」は、はたして 数十名の生徒が一斉に時間に縛られながら学習する 学校教育で本当に成り立つのだろうか? 履修学生自身の経験と先進的事例に学びながら、その問いに迫りたい。</p>
授業計画	<p>授業計画 第1回 総合的な学習とは何か(受講者の経験を対象化する) 第2回 「探究」にカリキュラムは成立するのか 第3回 総合的な学習の具体例(魅力的な事例にまなぶ) 第4回 総合的な学習をデザインする(グループワーク) 第5回 総合的な学習の指導案をつくる 第6回 授業案とその検討 ① 第7回 授業案とその検討 ② </p>
授業の方法	<p>総合的な学習の時間について、先進的事例のいくつかと受講者自身の経験を踏まえ、 その特徴を吟味し、問題点および改善点を考える。個人または小グループで実際の授業を構想し、 その相互評価を元に練り上げて学習指導案に結実させる。 </p>
成績評価方法	<p>毎回のリフレクションペーパー(15点×7回)、学習指導案(95点)の200点満点で評価。 </p>
教科書	なし
参考書	授業中に必要に応じて資料を配布する。
履修上の注意・備考	<p>この授業自体を探究的・協働的な学びの場として構成していきたいので、主体的に動く姿勢や互いから学びあう姿勢が強く求められる。</p>
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※H 参照

時間割コード	09239127	担当教員	森 俊二
単位数	2.0	学 期	集中
講義題目	特別活動の指導法 A Way of Instruction of Extracurricular Activities		

授業の目的・概要	<p>学習指導要領に基づいた特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)は集団を通して生徒に自主的・自治的な能力を育成するものです。特別活動は教科外活動＝生活指導の領域です。生活指導は子ども自身が今ある生活現実をつくりかえようとするように援助することです。そして子どもを社会的実践主体に育てることを重視します。ここではHRや集団を子どもの自発性や創造性を依拠してつくりかえていく中で、民主的な関係や集団のあり方を教えていく「子ども集団づくり」をその指導方法として基本に学びます。事例を実践的に学び、子どもを生活の主体・実践の主体ととらえ、子どもとつながり、地域・保護者とつながる特別活動の指導の道筋と課題をグループワーク・討論等を通して共に学びます。</p>
授業計画	<p>1. 学習指導要領、部活動問題 2. 学級びらき、学級通信、 3. 生活指導と生徒指導、子ども集団づくりへ 4. ゼロトレと子どもの権利条約 5. HR 実践分析① 6. HR 実践分析② 7. 三者協議会と生徒会の指導 8. 生徒会実践分析 9. 指導と管理 ケーススタディ 10. 学級における子どもの関係性の指導①班・討議・リーダーをどうつくるか 11. ②HRにおける行事の指導 12. 学級における子どもの関係性の課題 いじめ問題の指導 13. 実践事例分析 14. 特別なニーズのある子ども支援と生活指導 15. 実践事例分析 まとめ </p>
授業の方法	<p>講義だけでなく討論・グループワークを行います。積極的に参加して下さい。</p>
成績評価方法	<p>レポート55%、平常点45%(授業で指示された課題、コメントカード、授業・討論等の参加状況等)</p>
教科書	<p>『市民性を育てる生徒指導・進路指導』望月一枝・森俊二他編 大学図書出版 2020 年 ISBN 978-4-909655-43-1 ¥1980 </p>
参考書	<p>中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200 円＋税 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200 円＋税 『必ず盛り上がる文化祭ガイド』森俊二編 学事出版 2014年 1800 円＋税 『高校生活指導』210号 高生研編 教育実務センター 2020年 1200 円＋税 『高校生活指導』208号 高生研編 教育実務センター 2018年 1200 円＋税 『高校生活指導』204号 高生研編 教育実務センター 2017年 1200 円＋税 『新しい時代の</p>
履修上の注意・備考	<p>教科書は授業に必須です。必ず各自で授業開始までに準備してください。 教科書・参考書の内容を進んで読んで下さい。 </p> <p>【履修上の注意】 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.html</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照※I 参照</p>

時間割コード	09239128	担当教員	森 俊二
単位数	2.0	学 期	A1A2
講義題目	特別活動の指導法 A Way of Instruction of Extracurricular Activities		
		時 限	火 4

授業の目的・概要	<p>学習指導要領に基づいた特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)は集団を通して生徒に自主的・自治的な能力を育成するものです。特別活動は教科外活動＝生活指導の領域です。生活指導は子ども自身が今ある生活現実をつくりかえようとするように援助することです。そして子どもを社会的実践主体に育てることを重視します。ここではHRや集団を子どもの自発性や創造性を依拠してつくりかえていく中で、民主的な関係や集団のあり方を教えていく「子ども集団づくり」をその指導方法として基本に学びます。事例を実践的に学び、子どもを生活の主体・実践の主体ととらえ、子どもとつながり、地域・保護者とつながる特別活動の指導の道筋と課題をグループワーク・討論等を通して共に学びます。</p>
授業計画	<p>1. 学習指導要領、部活動問題 2. 学級びらき、学級通信、 3. 生活指導と生徒指導、子ども集団づくりへ 4. ゼロトレと子どもの権利条約 5. HR 実践分析① 6. HR 実践分析② 7. 三者協議会と生徒会の指導 8. 生徒会実践分析 9. 指導と管理 ケーススタディ 10. 学級における子どもの関係性の指導①班・討議・リーダーをどうつくるか 11. ②HRにおける行事の指導 12. 学級における子どもの関係性の課題 いじめ問題の指導 13. 実践事例分析 14. 特別なニーズのある子ども支援と生活指導 15. 実践事例分析 まとめ </p>
授業の方法	<p>講義だけでなく討論・グループワークを行います。積極的に参加して下さい。</p>
成績評価方法	<p>レポート55%、平常点45%(授業で指示された課題、コメントカード、授業・討論等の参加状況等)</p>
教科書	<p>『市民性を育てる生徒指導・進路指導』望月一枝・森俊二他編 大学図書出版 2020 年 ISBN 978-4-909655-43-1 ¥1980 </p>
参考書	<p>中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200 円＋税 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい 平成30年 200 円＋税 『必ず盛り上がる文化祭ガイド』森俊二編 学事出版 2014年 1800 円＋税 『高校生活指導』210号 高生研編 教育実務センター 2020年 1200 円＋税 『高校生活指導』208号 高生研編 教育実務センター 2018年 1200 円＋税 『高校生活指導』204号 高生研編 教育実務センター 2017年 1200 円＋税 『新しい時代の</p>
履修上の注意・備考	<p>教科書は授業に必須です。必ず各自で授業開始までに準備してください。 教科書・参考書の内容を進んで読んで下さい。 </p> <p>【履修上の注意】 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 学生支援チーム HP>時間割>学部(集中講義) http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.html</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照※I 参照</p>

時間割コード	09239129	担当教員	黒田 友紀		
単位数	2.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	教育の方法Ⅱ Teaching Methods II				

授業の目的・概要	<p>【概要】本授業では、教育方法の理論や、学びや授業、教育評価に関する基本的な考え方について理解し、さまざまな学習形態や ICT・教材教具を活用した授業を具体的にデザインできることをねらいとする。また、実際の授業映像の分析から平等で質の高い学びについて検討し、「学びの専門家」としての教師の技(アート)についてともに考察を行いたい。 【目標】・教育方法の理論と歴史、子どもの学びや授業、教育評価などの基礎的事項について理解する。 ・授業の目的に応じ、学習形態・教材教具や ICT を活用して、具体的に授業をデザインすることができる ・教材研究の方法や授業の構成を考え、学習指導案の作成を含む基本的な指導技術を習得する。 </p>
授業計画	<p>1. 教育方法とは何か、授業について振り返る 2. 授業とは何か、教えると学ぶ、授業という場 3. 教育方法の理論と歴史(1)一斉授業の成立 4. 教育方法の理論と歴史(2)子ども中心主義・進歩主義の教育 5. カリキュラムと授業デザイン 6. 教育方法の実践例(1)多様な学習形態 7. 教育方法の実践例(2)ICT の活用 8. 教育方法の実践例(3)課題の設定、教材・教具 9. 協同(働)的学び、アクティブ・ラーニングを考える 10. 授業のデザイン(1)学習指導案の作成方法、教材研究 11. 授業のデザイン(2)教育評価の理論と方法 12. 授業デザインと評価:何を評価するか、どんな資質能力を測定するか 13. 授業の省察:子どもの学びの様子から考える 14. 授業の省察:授業研究と協議会 15. 教師の学びと成長 </p>
授業の方法	<p>・主として、授業のテーマに沿って共有した資料に基づいて、講義+小グループによるディスカッションと質疑+補足説明によって授業をすすめる。 ・授業ビデオの視聴を行う場合、小グループおよび全体でのディスカッションを行い、その後リフレクションとして小レポートを作成してもらう。</p>
成績評価方法	<p>各回の課題・小レポート(50%)、授業・議論への貢献度(20%)、最終レポート(30%)で総合的に評価する。</p>
教科書	<p>特に指定せず、必要な資料は適宜共有する。 </p>
参考書	<p>稲垣忠彦、佐藤学『授業研究入門』岩波書店、1996年 佐藤学『教育の方法』左右社、2010年 小室弘毅・齋藤智哉編著『ワークで学ぶ教育の方法と技術』ナカニシヤ出版、2019年 その他、講義の中で、適宜資料を配付する。</p>
履修上の注意・備考	<p>・この講義の履修にあたり必要となる予備知識や事前に履修しておくべき科目は特にないが、授業前に資料等を読み、「自分はどのように考えるか」を明確にして授業に臨んでほしい。 ・また、シラバスは、受講生のニーズや状況等に応じて、授業途中にも変更することがある。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照※J 参照</p>

時間割コード	09239130	担当教員	山本 宏樹		
単位数	2.0	学期	A1	時限	金 2, 金 3
講義題目	生徒指導・進路指導 Student Guidance and Career Guidance				

授業の目的・概要	<p>■授業の概要 もし授業中に生徒が寝ていたら、教師はどう振る舞えばよいのでしょうか。「高校に進学したくない」という中学生を前に、どのような言葉かけをすればよいでしょうか。「クラスで無視されている」という相談に対しては、具体的にどのように対応をすべきでしょうか? 教師の日常は、悩ましく切実な判断の連続です。生徒指導と進路指導は、子どもの人格・尊厳の奥深くに立ち至る困難な教育活動であり、子どもから「生涯の恩師」として慕われる可能性がある一方、子どもを深く傷つける可能性もはらみます。 受講生の皆さんも、これまでの学校生活において、多かれ少なかれ生徒の立場で生徒指導・進路指導を経験してきたはずです。この授業では、その時の記憶や想いを足がかりにしながら、今度は教師の立場になって理解を深めていきましょう。 ■授業の目標 本授業の目的は、生徒指導と進路指導・キャリア教育の理論と方法の理解です。生徒指導では「他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けること」を、進路指導では「進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付けること」を全体の目標とします。 ■授業の到達目標 1) 生徒指導の意義や原理を理解し、それらを説明できること。 2) すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解し、それらを説明できること。 3) 児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解し、それらを説明できること。 4) 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解し、それらを説明できること。 5) 全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解し、それらを説明できること。 6) 児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解し、それらを説明できること。 ■Course overview If a student falls asleep in class&comma; how should the teacher respond? In the presence of a middle school student who expresses reluctance to attend high school&comma; what manner of discourse would be appropriate? In response to a consultation about being ignored by classmates&comma; what specific steps should be taken? A teacher's daily existence is a series of difficult decisions. Student guidance and career counseling are both arduous educational activities that reach into the deepest&comma; most profound depths of a child's personality and dignity&comma; and while it is possible for children to hold their teachers in awe as &quot;lifelong mentors&comma;&quot; there is also the potential for deep harm. All of you students have probably experienced student guidance and career counseling in your previous school lives. In this lecture&comma; using those memories as a foundation&comma; let us deepen our understanding while assuming the standpoint of a teacher.</p>
授業計画	<p>第1回: 生徒指導・進路指導の意義と目的 第2回: 生徒指導の現状(1) 学校の抱える問題(体罰) 第3回: 生徒指導の現状(2) 学校の抱える問題(行き過ぎた指導) 第4回: 生徒指導の現状(3) 学校の抱える問題(校則問題) 第5回: 生徒指導の理論(1) 生徒指導の原理と学校教育裁判 第6回: 生徒指導の理論(2) 教師の生徒指導上の諸問題の背景要因 第7回: 生徒指導の方法(1) 特別指導・懲戒処分・有形力の行使・機関連携 第8回: 生徒指導の方法(2) 対話的指導・修復的実践・子ども集団づくり・SST 第9回: 生徒指導の方法(3) 暴力行為・いじめ・不登校・非行逸脱・インターネット使用等の現状と対応 第10回: 進路指導の理論と方法(1) 進路指導・キャリア教育の原理 第11回: 進路指導の理論と方法(2) 進路指導の科学(職業選択編) 第12回: 進路指導の理論と方法(3) 進路指導の科学(進学指導編) 第13回: 進路指導の理論と方法(4) 進路指導のケーススタディ 第14回: 総括</p>
授業の方法	<p>・2週目以降に班分けを行い、毎週グループディスカッションを実施します。 ・毎授業後にコメントペーパーの提出(ないし掲示板への投稿)を求め、内容を履修者に共有します。 ・配付資料はすべて ITC-LMS 上で配付します。 ・授業は基本的にすべて撮影し、復習や補講に供する予定です。 ・授業内で扱いきれない内容(分野別の職業指導等)について</p>

	て、オンデマンド動画を提供します(受講は任意です)。
成績評価方法	・授業への7割以上の出席を成績評価の前提条件として、授業内評価 60%(発言・グループワーク・コメントペーパー、ピアレビュー等)、期末レポート40%で評価します。 ・期末レポートの評価方法には、履修者相互の匿名ピアレビューを含みます。
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回資料を電子媒体で配付します。
参考書	・文部科学省『学習指導要領』および『学習指導要領解説 総則編』(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm) ・文部科学省『生徒指導提要』2022年版(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm)。 ・内田良・山本宏樹[編著]『だれが校則を決めるのか:民主主義と学校』岩波書店、2022年。 ・山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志『新しい時代の生活指
履修上の注意・備考	・この講義を履修するために必要な予備知識(分野や科目、事前に履修しておくべき科目など)は特にありません。教職を目指さない学生も履修可能です。履修者は学部 2,3 年生が多いですが、履修者のなかには学部 1 年生(!)や博士後期課程の学生もいます。 ・初回到授業の進め方について資料配付のうえ説明を行います。授業の進め方についてご理解をいただいた上で受講いただきたいと思いますので、やむをえず初回到欠席をした場合は 2 週目の授業までにメールで申し出てください。 ・履修にあたって配慮してほしい点や、履修してよいかどうか等、気になることがあれば、お気軽にご連絡ください。 学生からの質問・相談には随時お答えしていますので、お気軽にご連絡ください。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※9 参照※K 参照

時間割コード	09239131	担当教員	北原 祐理		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 3
講義題目	教育相談Ⅱ School Counseling II				

授業の目的・概要	<p>【目的】教育相談とは、児童・生徒一人ひとりの心理社会的発達や教育上の問題を理解し、人格的な成長を促進する活動です。その過程では、個人が各々の発達に即して自己理解を深め、集団の中で他者との関係性を育むことを援助することが求められます。学校現場における教育相談は、教員や心理職の個別の活動に限らず、両者の連携や組織風土を通して実践されます。本講義では、児童・生徒を理解するための心理学的知識や対応例を学び、受講者自身の専門性や立場を交えて教育相談の実践について考えることをめざします。 【到達目標】 ① 学校における教育相談の理念について説明することができる。 ② 児童・生徒の課題や不適応の意味を多角的な視点から説明することができる。 ③ カウンセリングの理論や技法に関する基礎知識を身につける。 ④ 教育相談における組織的な取り組み(支援計画の作成、学内外の連携など)の必要性を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション:なぜ教育相談を学ぶのか 第2回 子どもを理解するためのまなざし(1) 第3回 子どもを理解するためのまなざし(2) 第4回 カウンセリングの役割 第5回 カウンセリングの技法と実践 第6回 教育相談における問題のアセスメント 第7回 心理検査の実際と活用 第8回 チームとしての学校:組織的な支援体制 第9回 生徒指導上の諸課題:いじめ・不登校 第10回 特性を踏まえた援助:発達障害と特別支援教育 第11回 集団を育てる:心の健康教育 第12回 教育相談における現代的課題 第13回 まとめとふりかえり</p>
授業の方法	<p>講義形式を基本として、適宜ペアワークやグループワークを取り入れる。受講者は毎授業後に自身の考えや気づきをまとめたリアクションペーパーを提出し、これが出席点として換算される。必要に応じて、授業の冒頭でリアクションへのフィードバックを行う。 </p>
成績評価方法	<p>・出席状況(リアクションペーパー):30% ・課題(グループ討議・小レポート):30% ・期末試験:40% ※ 積極的な参加を求めるとともに、教職科目のために参加状況が芳しくない者は不可とすることがある。</p>
教科書	<p>指定しない。授業中に資料を配布する。</p>
参考書	<p>「絶対役立つ教育相談:学校現場の今に向き合う」藤田哲也(監修) ミネルヴァ書房(2017年) 「子どもを支援する教育の心理学」村上香奈・山崎浩一(編) ミネルヴァ書房(2021年) </p>
履修上の注意・備考	<p>事前に履修しておくべき科目等はないが、児童期・思春期の心理的問題について扱うため、発達心理学・教育心理学・臨床心理学等への関心があると望ましい。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※10 参照※L 参照</p>

時間割コード	09239132	担当教員	鈴木 悠太
単位数	2.0	学期	集中
講義題目	教師論Ⅱ Teaching and Teacher Education II		

授業の目的・概要	<p>本授業の主題は、授業改革・学校改革と教師をめぐる理論と実践である。すなわち、受講者のこれまでの学校教育における体験(被教育体験)を基盤とし、学びとは何か、授業とは何か、教職とは何か、学校とは何かについての原論的な検討を経て、より良い学校とより良い授業を構想するための理論的な基礎を独自に形成することである。 これらを通して、より良い教育の担い手(生涯において学び続ける教師)となるための基盤を確立する。 本授業の到達目標は、①学校改革・授業改革の基本となる概念や理論を活用し、②受講者自身のこれまでの教育体験(被教育体験)を深く省察し自己に相応しい教育観を形成し、③より良い学校とより良い授業を構想するための理論的な基盤について独自の見解を客観的・具体的に説明できること、である。</p>
授業計画	<p>1. 「学校改革の現場の声を聴き、現場から学ぶ」とは何か。 2. 授業研究を中心とする学校改革 3. 学校改革の理論 4. 授業改革の理論 5. 学校改革の事例:日本国内の展開 6. 学校改革の事例:国際的な展開 7. 授業改革の事例:日本国内の展開 8. 授業改革の事例:国際的な展開 9. 教師の専門家共同体 10. 教師の専門家としての学び 11. 教職の専門性 12. 協同的な学び 13. 教育政策実施研究の視点 14. 授業改革・学校改革研究の方法論 15. 授業改革・学校改革のアクション・リサーチ</p>
授業の方法	<p>本授業の方法は、教科書や配布資料に基づき、学校改革・授業改革の概念や理論についての講義を行い、適宜グループ・ワーク(協同学習)を取り入れる。受講者には、それぞれの被教育体験を基盤としながら、自己に相応しい教育観の形成やより良い学校とより良い授業の構想に関する自己の見解を説明できるようになることが期待される。</p>
成績評価方法	<p>最終レポート:50%(授業改革・学校改革と教師をめぐる理論と実践の理解、教育観の省察と形成)、平常点評価:50%(授業の到達目標の達成のための授業への参加度と授業内の小レポートの作成)。</p>
教科書	<p>鈴木悠太、2022、『学校改革の理論—アメリカ教育学の追究—』、勁草書房。 Yuta Suzuki&comma; 2022&comma; Reforming Lesson Study in Japan: Theories of Action for Schools as Learning Communities&comma; Routledge。 鈴木悠太、2018、『教師の「専門家共同」の形成と展開—アメリカ学校改革研究の系譜—』、勁草書房。 </p>
参考書	<p>鈴木悠太、2019、「学校の教師」、高橋浩・金田健司(編)『教育の本質と教師の学び』、学文社、pp. 123-146。 秋田喜代美・佐藤学(編)、2015、『新しい時代の教職入門【改訂版】』、有斐閣。 佐藤学、2015、『専門家として教師を育てる—教師教育改革のグランドデザイン—』、岩波書店。 佐藤学、1997、『教師というアポリア—反省的实践へ—』、世織書房。</p>
履修上の注意・備考	<p>講読する論文や実践記録について丁寧に読み込み授業内の学びを深める。授業後には授業内の学びをさらに深めるために発展的に論文や実践記録について引き続き丁寧に読み込む。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照※B 参照</p>

時間割コード	09239133	担当教員	山本 義春		
単位数	3.0	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	教育実習 I Student Teaching I				

授業の目的・概要	1. 学校の組織及び教育活動の全般について、実地の観察と参加を通じて理解を深める。 2. 授業を実際に担当し、教科指導に関する指導力の基礎を養う。 3. 学級担任を実際に担当し、その職務内容を理解するとともに、学級経営に関する指導力の基礎を養う。 4. 個々の生徒及び生徒集団について理解を深め、生徒指導に関する指導力の基礎を養う。
授業計画	事前指導は、2月に1日、3月に1日の計2日間、東京大学教育学部附属中等教育学校において実施する。カリキュラム、学級経営、生活指導上の諸問題についての講義、学習指導案作成演習を行う。事前指導における学修状況を総合的に判断し、合格者にのみ本実習を行うことを許可する。 本実習の指導計画は、実習校によって異なるため一概には記載できないが、概ね第1週は授業観察を中心に、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、指導教員の指導のもとで実際に体験し、指導力及び職務遂行能力の基礎を養う。第2週は、以上の観察と指導・職務への参加を継続するとともに、実際に授業を行う。また、可能な限り研究授業を実施して、授業実習のまとめを行う。 事後指導は、教育実習終了時期により、7月または11月に東京大学教育学部附属中等教育学校において実施し、教育実習の振り返りを中心に行う。また、教育実習終了後1週間以内に「教育実習レポート」を提出しなければならない。
授業の方法	事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深めるとともに、授業観察や学習指導案作成演習を行う。 本実習では、教育実習生が参加する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などのすべての側面について、教科及び学級担当の両指導教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。 事後指導では、「教育実習レポート」の作成やグループ討議によって、教育実習の振り返りを行う。
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。教育実習担当教員2名が、教育実習生の作成した「教育実習記録簿」及び「教育実習レポート」を精査し、教育実習校からの評価を勘案して、総合的に評価する。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	履修に際しては個人による UTAS からの履修登録ではなく、各自が所属する学部又は研究科(教育部)の担当係へ申し込み書類を提出すること。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教育実習(2週間)

時間割コード	09239134	担当教員	山本 義春		
単位数	5.0	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	教育実習Ⅱ Student Teaching II				

授業の目的・概要	1. 学校の組織及び教育活動の全般について、実地の観察と参加を通じて理解を深める。 2. 授業を実際に担当し、教科指導に関する指導力の基礎を養う。 3. 学級担任を実際に担当し、その職務内容を理解するとともに、学級経営に関する指導力の基礎を養う。 4. 個々の生徒及び生徒集団について理解を深め、生徒指導に関する指導力の基礎を養う。
授業計画	事前指導は、2月に1日、3月に1日の計2日間、東京大学教育学部附属中等教育学校において実施する。カリキュラム、学級経営、生活指導上の諸問題についての講義、学習指導案作成演習を行う。事前指導における学修状況を総合的に判断し、合格者にのみ本実習を行うことを許可する。 本実習の指導計画は、実習校によって異なるため一概には記載できないが、概ね第1週は授業観察を中心に、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、指導教員の指導のもとで実際に体験し、指導力及び職務遂行能力の基礎を養う。第2週は、以上の観察と指導・職務への参加を継続するとともに、実際に授業を行う。また、可能な限り研究授業を実施して、授業実習のまとめを行う。 事後指導は、教育実習終了時期により、7月または11月に東京大学教育学部附属中等教育学校において実施し、教育実習の振り返りを中心に行う。また、教育実習終了後1週間以内に「教育実習レポート」を提出しなければならない。
授業の方法	事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深めるとともに、授業観察や学習指導案作成演習を行う。 本実習では、教育実習生が参加する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などのすべての側面について、教科及び学級担当の両指導教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。 事後指導では、「教育実習レポート」の作成やグループ討議によって、教育実習の振り返りを行う。
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。教育実習担当教員2名が、教育実習生の作成した「教育実習記録簿」及び「教育実習レポート」を精査し、教育実習校からの評価を勘案して、総合的に評価する。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
履修上の注意・備考	履修に際しては個人による UTAS からの履修登録ではなく、各自が所属する学部又は研究科(教育部)の担当係へ申し込み書類を提出すること。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教育実習(3週間以上)

時間割コード	09239135	担当教員	山本 義春、江頭 双美子、関塚 洋子、勝野 正章、藤江 康彦、植阪 友理、東郷 史治、隠岐 さや香		
単位数	2.0	学期	A2	時限	金 5, 金 6
講義題目	教職実践演習(中・高) Seminar on Professional Practice in Teaching				

授業の目的・概要	<p>教職課程における「集大成」として位置づけられる演習であり、各履修者の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するために実施する。学校教育、特に中等教育のリーダーとなる教員の育成を目指し、文部科学省が含むべき事項と定める4事項(①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解に関する事項、④教科等の指導力に関する事項)の育成を図り、複雑な問題解決に対応できる判断力を培うための演習とする。 内容は、以下の2つに大別される。 ① 討論をベースにした教職に関する現代的課題の理解:現代的課題やその具体的事例についての講義を受講、あるいはビデオ(DVD)を視聴し、担任のコーディネートによりグループ討論及び全体討論を行う。 ② 授業の計画・実施・研究協議:グループ毎に授業を計画・実施し、クラス全体で研究協議を行う。</p>
授業計画	-
授業の方法	<p>教育学研究科教員と東大付属中等教育学校教員の連携協力のもとで実施される。4クラスに分けて行う。教職に関する現代的課題の理解については、担任がグループ、クラスでの討論をコーディネートして行う。授業の計画・実施・研究協議では、担任の指導のもと、グループ毎に授業を計画・実施し、クラス全体で研究協議を行う。受講者には主体的・積極的な参加が求められる。</p>
成績評価方法	<p>演習に参加しての平常点(振り返りレポートの提出を含む)による。出席が重視される。</p>
教科書	<p>特に指定しない。</p>
参考書	<p>各回担当講師が紹介する情報を参考にされたい。</p>
履修上の注意・備考	<p>教職実践演習を履修する年度末に、教育職員免許状を取得する見込み者又は教育職員免許状の取得に必要な単位の修得をすべて終える見込みの者が対象となる。履修登録は UTAS によらず特別な方法で行うので、下記「関連ホームページ」にて各自確認のうえ遺漏のないよう注意すること。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

教職課程科目（Ⅱ）駒場キャンパス

時間割コード	09239201	担当教員	下地 秀樹		
単位数	2.0	学 期	S1S2	時 限	木 5
講義題目	教育原理 I Educational Principles I				

授業の目的・概要	「人間は教育されねばならない存在なのか否か」というテーマをめぐり、参加者各人が自己の(被)教育体験を対象化し、相対化する糸口を探ることを目標とする。このことが「教育を原理的に考える」第一歩である。遠回りのようだが、参加者間の討議により、教育の実践知の基盤となる反省知が獲得されていくはずである。 Objectifying and relativizing each experience of being educated through the exchange of opinions. That is the primary goal of this course.
授業計画	授業の目標に近づくべく、教育学および隣接諸科学の成果を援用しながら、主な柱として次のようなテーマを検討する。 1. 人間のメルクマール 2. 人類化と人間化 3. 近代化の行方: イゾラド 4. 生命倫理を考える: エンハンスメント 5. 正常と異常を考える: 野生児の事例 6. 近代学校の胎動と近代の人間観 7. 臨界期 8. 現代発達環境論 9. 発達と教育の基礎理論 10. 明治初期の教育 11. 戦時下の教育 12. 教育基本法 13. 戦後の中等教育制度 14. 学力観: PISA 等の構想 15. 現代の学校改革
授業の方法	基本的には講義形式であるが、ほぼ毎回、上記問題群に関わる小レポートまたは小テストを課す(LMS に提出)。相互に討議し、批評しあう機会をなるべく多く設けたい。講義は、その結果を反映させながら構成する。 「教職に関する科目」(教員免許取得のための必修科目)であるが、教員免許取得にいたるプロセスのベースとなる問題群について、あまり先を焦らずに考える時間としたい。
成績評価方法	学期末最終授業時には、総括としてのテストを実施するか、または期末レポートを課し、いずれにしても、さらに相互批評を行う。どちらにするかは、授業中に受講者との相談により決定する。成績評価は、前記「授業の方法」欄に示した小レポートや小テストと、この総括テストまたは期末レポートを総合した平常点評価とする。敢えて配分を記すと、小レポートおよび小テスト 80%、総括テストまたは期末レポート 20%とする。
教科書	堀尾輝久他編『新版 地球時代の教育原理』(三恵社)
参考書	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意・備考	この科目は教職に関する科目である ※2021 年度以前開講「教育原理」(担当教員: 下地秀樹)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照※A 参照

時間割コード	09239202	担当教員	町支 大祐		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 6
講義題目	教師論 I Teaching and Teacher Education I				

授業の目的・概要	【授業の目標】1. 教師との関わりに関する自らの経験を相対化し、教職のあり方について考えることができる。 2. 教職の意義や役割並びに職務内容に関する実践的、理論的な理解を深める。 3. 教職に関する教職を将来の進路の一つとして真剣に検討している学生に、その検討のための材料を提供する。【授業の概要】講義や対話を通じて、教員の職務や意義、社会における役割等についての理解を深める。また、教員経験者の話を聞く機会ももうけ、実際の教職の様子に関わる理解を深める。これらの理解を深めるとともに、教職を将来の進路の一つとして真剣に検討している学生に対して、その検討のための材料を提供する。
授業計画	1 イントロダクション 2 教師との関わりを振り返る 3 これからの社会と教師 4 学校に求められる学びと教師 5 教師の専門性(1) 6 教師の専門性(2) 7 教師のライフコース(1) 8 教師に関わるトピック_職務環境 9 教師に関わるトピック_免許制度 10 教師に関わるトピック_指導主事 11 教師のライフコース(2) 12 教師と学校経営 13 教師に関わる政策(1) 14 教師に関わる政策(2) 15 授業のまとめ
授業の方法	・講義による話題提供と、学生間の対話やワークを中心に進める ・授業のうち複数回はオンラインまたはオンデマンドで行う
成績評価方法	・リアクションペーパー等による評価 ・ワークなどに関わる学生間のピア評価 ・レポート等の最終課題(形式については授業の展開によって変更する) これらの方法を組み合わせて評価する
教科書	特に指定しない(必要な資料は適宜配布する)
参考書	山崎準二ら(2020)『新・教職入門(改訂版)』学文社 脇本健弘ら(2015)『教師の学びを科学する』北大路書房
履修上の注意・備考	・内容は参加者の意向等に応じて柔軟に考える ・対話等を多く含むので、そのことを前提に履修すること
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照※B 参照

時間割コード	09239203	担当教員	知念 涉
単位数	2.0	学期	S1S2
講義題目	教育と社会 Education and Society		
		時限	金 4

授業の目的・概要	教育のあり方は、社会の状況と深く関係している。本授業では、教育と社会の関係性について検討し、教育政策や学校現場の教育実践を広い視野から考察する力を養うことを目指す。 本授業は、大きく分けて三つの段階に分けられる。第一段階(第 1-4 回)は、社会の中で近代学校が果たす役割を、現代的状況をふまえて理解する。第二段階(第 5-9 回)は、学校の中で周辺的な状況に置かれやすい社会的背景をもった子どもたちと学校教育の関係を検討する。その指導上の課題を理解するとともに、その課題を克服するための方途を学校・家庭・地域のつながりを重視する「力のある学校」論や諸外国の学力格差は正政策から考える。そして第三段階(第 10-12 回)は、マスメディアと教育の関係を中心に据え、近年の教育政策の動向を理解する。最終回(第 13 回)では、授業を振り返って教育を社会との関係性で考えることの重要性を認識する。
授業計画	1. イントロダクション 2. 学校化社会としての現代日本 3. 学校の社会的機能と役割: 理念と現実 4. 学校と労働市場の接続をめぐる問題 5. 教育と子どもの貧困 6. 教育とジェンダー 7. 教育と性的マイノリティ 8. 教育とナショナリティ 9. 教育と被差別部落 10. 学校安全とメディア 11. いじめ問題の視角と死角 12. 労働者としての教師 13. まとめ
授業の方法	各回の授業前に、教科書等の文章を読んで簡単な課題に取り組んでもらう。そうした文章の知識を前提にして、授業ではより詳しい解説および議論を行う。授業後には、授業を通して考えたことをリアクションペーパーにまとめてもらう。Google Classroom を使用して授業の資料を配布するので、登録しておくこと。Google Classroom のクラスコードは以下の通りである。 Google Classroom のクラスコード: gswunuf7
成績評価方法	- 各回のリアクションペーパー: 50% - 期末レポート: 50%
教科書	中村高康・松岡亮二編, 2021, 『現場で使える教育社会学: 教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房。
参考書	中澤涉, 2021, 『学校の役割ってなんだろう』筑摩書房。 片山悠樹他, 2017, 『半径5メートルからの教育社会学』大月書店。 若槻健・西田芳正編, 2010, 『教育社会学への招待』大阪大学出版会。
履修上の注意・備考	授業外課題として文章を読んだことを前提にして、議論等を行う回があります。学生の積極的な参加を期待します。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※4 参照※C 参照

時間割コード	09239204	担当教員	小野田 亮介		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 5
講義題目	教育心理 I Educational Psychology I				

授業の目的・概要	【授業の目標】「学ぶこと」や「教えること」のメカニズムについて心理学の観点から理解し、子どもの学習を支援できるようになることを目指す。また、教育心理学的な視点から社会的な問題を分析し、教育の展開可能性を考えられるようになることを目指す。 【概要】教育心理学の中でも「発達」「教授・学習」「思考」などのテーマを中心とした講義を行う。各テーマについて心理学の知見を紹介し、それらの知見を踏まえて自他の学習場面を分析し、支援に反映する方法について考える。
授業計画	第 1 回:ガイダンス-教育心理学とは 第 2 回:認知と言語の発達 第 3 回:社会性の発達-障害のある子どもへの理解と支援 第 4 回:記憶のメカニズム 第 5 回:知識と理解 第 6 回:問題解決 第 7 回:学習のメカニズム 第 8 回:動機づけ(1)自己決定理論と自己効力感 第 9 回:動機づけ(2)原因帰属とマインドセット 第 10 回:学級集団と教師の関係 第 11 回:集団の中での学習 第 12 回:授業のデザインと評価 第 13 回:期末テストおよび解説 ※講義内容および順序は変更になることがある。
授業の方法	遠隔講義としてオンデマンド型の講義を行う。 授業外学習として、講義前の予習課題(2 回目以降)と、講義受講後のリアクションペーパーの提出を求める。 講義内課題として WEB 調査に参加し、心理学の方法論について体験的に学ぶ場合もある。 講義資料は ITC-LMS の「教材」にアップするので確認して欲しい。
成績評価方法	予習課題・リアクションペーパー(20%) 講義内課題(20%) 期末レポート(60%)
教科書	特に指定しない。
参考書	授業時に適宜指示する。
履修上の注意・備考	授業スライドを PDF で配付する。 オンデマンド型の場合は、授業スライドに対して説明を加えている動画をみながら学習を進めて欲しい。 資料や動画にアクセスできるページは ITC-LMS に掲載する。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※3 参照※D 参照

時間割コード	09239205	担当教員	岩田 一正
単位数	2.0	学期	S1S2
講義題目	教育課程 I Curriculum Studies I		
		時限	水 5

授業の目的・概要	<p>教育課程やカリキュラムは、学習指導要領や教科書と同一視され、固定化されたものと認識される傾向があるが、本授業はこの認識の妥当性を考察していくことを課題とする。 この課題に迫るために、カリキュラムという用語の歴史、学習指導要領の内容・歴史的変遷・役割・意義・改訂の背景、教科横断的総合的学習、カリキュラムを改善するための学力調査の方法、ヒドゥン・カリキュラム、他国のカリキュラムなどを概観していく。そしてこの作業を通じて、カリキュラムの具体的内容の選択基準やカリキュラム編成の方法・類型を批判的に検討できる力を獲得するとともに、学校や子ども、また地域に即してカリキュラムを編成する意義を理解していくことを目指す。 </p>
授業計画	<p>1. オリエンテーション 2. カリキュラムの構成要素 3. 戦前・戦時期のカリキュラム、学習指導要領の変遷 1【1947 年、1951 年、1958 年学習指導要領の内容、社会的背景】 4. 学習指導要領の変遷 2【1968 年、1977 年、1989 年学習指導要領の内容、社会的背景】 5. 学習指導要領の変遷 3【1998 年、2008 年、2017 年学習指導要領の内容、社会的背景】 6. カリキュラム評価の方法【PDCA サイクルの確立、全国学力・学習状況調査、PISA、TIMSS、ランダム化比較実験】 7. 教科領域横断的総合的な学習の編成 1【総合的な学習の時間の意義、総合学習の映像資料の視聴】 8. 教科領域横断的総合的な学習の編成 2【地域、学校、子どもに即した総合学習のテーマ設定、学びの蓄積、総合学習で生じ得る困難】 9. カリキュラム編成の背後にある教育観、カリキュラム編成の原理・方法・類型、教育内容・カリキュラムの具体的内容の選択基準、各カリキュラム編成方法の差異 10. ヒドゥン・カリキュラム 1【ヒドゥン・カリキュラムとは、研究の展開】 11. ヒドゥン・カリキュラム 2【ヒドゥン・カリキュラムの事例、ジェンダー】 12. 他国のカリキュラム①【各国の学力調査・統計から見える姿、映像資料の視聴】 13. 他国のカリキュラム②【アメリカと韓国のカリキュラム】 14. 他国のカリキュラム③【イギリスとフィンランドのカリキュラム】 15. まとめ 以上のように計画しているが、状況に応じて変更することがある。</p>
授業の方法	<p>本授業はプレゼンテーション・ソフトを用いた講義形式として実施する。また、学生の教育課程に関する具体的な理解を促進するために、映像資料を視聴する機会を設ける。なお、テーマによってはグループ・ワークに取り組み、それを踏まえてレポートを記述してもらおう。 講義で用いるスライドを PDF ファイルとしたものを ITC-LMS を通じて配布するので、事前に読んでもらいたい。 なお、COVID-19 の感染状況によって遠隔授業を実施することとなった際には、Zoom を用いて授業を実施する。</p>
成績評価方法	<p>筆記試験(60%:前記した「授業の目標」達成しているかどうかを評価する)、小レポート(40%:授業の際に提示する課題について簡単なレポートを何回か執筆してもらおうこととなる)。 ただし、COVID-19 の感染状況によって授業の方法を変更することとなった場合には、評価方法を変えることを予定している。</p>
教科書	<p>金井香里・佐藤英二・岩田一正・高井良健一『子どもと教師のためのカリキュラム論』成文堂、2019 年。</p>
参考書	<p>文部科学省(文部省)『学習指導要領』(各年度版) Philip Jackson&comma; Life in Classrooms&comma; Holt&comma; Rinehart and Winston&comma;1968. 国立教育政策研究所編『生きるための知識と技能』1・2・3、ぎょうせい。 同前『生きるための知識と技能』4・5・6・7、明石書店。 ブルデュー、パスロン『再生産』藤原書店、1991 年。 天野正子編『新編 日本のフェミニズム 8 ジェンダーと教育』岩波書店、2009 年。 直井道子</p>
履修上の注意・備考	<p>受講するために必要な予備知識というものはないが、上記した PDF ファイルを事前に読んで授業に参加してもらいたい。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照※F 参照</p>

時間割コード	09239206	担当教員	西野 真由美		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 5
講義題目	道徳教育の理論と実践 Theory and Practice of Moral Education				

授業の目的・概要	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の理論と実践についての理解を深め、道徳教育の視点で学校カリキュラムの全体を捉え、教科等横断的な視点や地域社会の資源を活用した道徳教育のカリキュラム・マネジメントを実践し、道徳授業を構想する力を育てることを目標にしています。
授業計画	以下のテーマに沿って、進めます。 (1)学校における道徳教育の意義 学校で「道徳」を「教える」なんて不可能、もしできるとしても、危険。そんな道徳教育への疑問や疑念を出し合って検討したうえで、学校における道徳教育が何を指すのかを批判的に検討しましょう。 (2)日本における道徳教育の歴史 明治以降の学校教育が国民意識形成に与えた影響を道徳教育の視点で見直します。 (3)道徳教育の理論 代表的な道徳教育理論を理解して教育実践に生かす方法を検討します。 また、道徳の教科化に向け、「考え、議論する道徳」授業の実現に求められる指導法や評価に関する考え方を明らかにします。 (4)現代的な諸課題と道徳教育 キャリア教育、科学技術教育、情報教育など現代的な諸課題に道徳教育でどう取り組むかを具体的に考え、カリキュラムと授業を構想します。
授業の方法	対面で実施予定です。授業では、ほぼ毎回、グループワークを実施し、ディスカッションや共同作業に取り組んでいただきます。授業で使用する資料や課題は、ITC-LMS で配布していきます。授業前後に確認するようにしましょう。
成績評価方法	毎時間の授業で提出していただくアクションペーパーと授業で指定する参考文献へのレポートで評価します。
教科書	講義テーマごとにレジュメを配布します。
参考書	参考文献はテーマ別に指示します。授業で配布するレジュメに提示した参考文献のなかから、一冊を選んでレポートを提出して下さい。
履修上の注意・備考	授業は対面で実施予定です。今後、オンライン対応が必要になる場合は、あらためてこのシラバスで連絡いたします。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照※G 参照教科又は教職に関する科目(旧)大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09239207	担当教員	草薨 佳奈子		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 5
講義題目	特別活動論 Extra-Curriculum Activity				

授業の目的・概要	<p>社会が変わる中、特別活動の内容や指導法も変化している。特別活動は教科外活動を通じて多岐にわたる資質・能力の育成が期待されているが、教科書がなく教員の創造性や指導力が試される領域であるともいえる。本コースでは、特別活動の目標、内容、実践、課題を学ぶとともに、人間形成、他者との共存、社会との関わり方など、将来の社会生活につながる能力・資質能力の育成、時代とともに変わる学校教育のあり方についても検討していく。</p>
授業計画	<p>第1回 教科外活動としての特別活動 第2回 特別活動の目標と意義 第3回 学級活動・ホームルーム活動 第4回 学校行事の意義と実践 第5回 生徒会活動の意義と実践 第6回 特別活動と生徒指導 第7回 特別活動における体験活動 第8回 特別活動における人間形成と市民性教育 第9回 グループ発表 第10回 グループ発表 第11回 グループ発表 第12回 グループ発表 第13回 海外の特別活動とその実践 第14回 特別活動の指導と評価 第15回 特別活動の今日的役割、まとめ</p>
授業の方法	<p>特別活動は日々の学校生活で重要な役割を果たしているが、教科の活動と比較すると教育的意義が必ずしも理解されていないことが多い。本講義では批判的に特別活動の目的や教育活動の内容を検討し、これからの社会を担う次世代の育成に、必要な資質・能力について考えていく。また批判的思考力や協働する体験をつけるため、グループディスカッションを行う他、グループ発表、レポートにも取り組む。</p>
成績評価方法	<p>本授業の評価は、以下の規準によって行う。授業への参加度・リアクションペーパー(30%)、グループ発表(30%)、期末レポートの内容(40%)により、総合的に判断する。</p>
教科書	<p>『特別活動の理論と実践(アクティベート教育学 11)』単行本(ソフトカバー) 汐見稔幸(監修)&comma; 奈須正裕(監修)&comma; 上岡 学(編集)&comma; 林 尚示(編集) 『特別活動論 / (新・教職課程シリーズ)』犬塚文雄編著、一藝社</p>
参考書	<p>国立教育政策研究所教育課程研究センター(2016)学級・学校文化を創る特別活動(中学校編) 中学校学習指導要領解説 特別活動編(文部科学省ホームページ) 高等学校学習指導要領 解説 特別活動編(文部科学省ホームページ)(同前) 中学校学習指導要領 解説 総合的な学習の時間編(文部科学省ホームページ) 高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編(文部科学省ホームページ) 日本特別活動学会(2010)『新訂 キーワードで拓く新しい特別活動』 『特別活動』折出健二・和井田清司他、学文社 『特別活動』</p>
履修上の注意・備考	<p>初回の授業では授業方法、授業形態、履修上の諸注意について説明するため、履修希望者は必ず出席すること。 授業で事前学習に基づきグループワークを行うため、必ず行うこと。また毎授業後にリアクションペーパーの提出がある。積極的な発言・参加を求める。 </p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照※1 参照</p>

時間割コード	09239208	担当教員	藤江 康彦		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	月 5
講義題目	教育の方法 I Teaching Methods I				

授業の目的・概要	<p>[授業の目標]学校教育における「授業」について様々な視点から検討することを通して、学校教育や教室といった制度的な学習の場の特質、社会文化的な状況における子どもの学習のありようと支援の方法、子どもの学習・発達を支援する専門家としての教師の実践を理解することをめざす。具体的には以下の通りである。 1. 学校教育における授業の特質について理解する。 2. 授業という営みの特徴、授業の構成要素、授業のデザイン、について理解する。 3. 授業における子どもの学習の特徴や支援の方法について理解する。 4. 専門家としての教師の知識の特徴、専門的発達について理解する。 5. 学校や教室とはどのような学習環境であるのか、教師はそこで何をすべきかについて考察する。 [授業の概要]学校における教師の仕事の中心は授業の構想、実践、省察を通して子どもの学習を支援することである。この授業では、学校における授業の目的、授業の歴史や形態、授業のコミュニケーション、授業のデザインと評価、教師の実践的知識と成長などについて、実践事例や研究事例を検討しながら探究していく。社会的、文化的、制度的な場である教室において、教師や子どもがどう生きているのか、教師の立場からその生をどのように看取することができるのか、ということを追究していく。</p>
授業計画	<p>①ガイダンス ②教室という時空間 ③教室における学習の特徴 ④ディスカッション1 ⑤学習者とは ⑥学習者の声を聴く ⑦ディスカッション2 ⑧授業の成り立ち ⑨授業を準備する ⑩授業をおこなう ⑪授業を評価する ⑫ディスカッション3 ⑬まとめ</p>
授業の方法	<p>講義を中心に、適宜、受講者間のディスカッションを取り入れる。 </p>
成績評価方法	<p>定期試験を行わず、平常試験(課題・レポート等)で総合評価する。 「毎回の小課題」(60%)、「最終論述課題」(40%)によって総合的に評価する。ただし、毎回の小課題の提出が全体の3分の2に満たない場合、および最終論述課題が未提出の場合は、原則として評価の対象外とする。 </p>
教科書	<p>指定せず、授業中に資料を配付する。</p>
参考書	<p>秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』(放送大学教育振興会) 秋田喜代美・佐藤学(編著)『新しい時代の教職入門』(有斐閣) 稲垣忠彦・佐藤学『授業研究入門』(岩波書店) 佐藤学『教育方法学』(岩波書店)</p>
履修上の注意・備考	<p>授業は対面で実施するが、出欠確認、資料送付、毎回にミニレポート提出に LMS を使用するので、LMS に接続して作業のできる端末を持参すること。</p> <p>※2018 年度以前開講「教育の方法」(担当教員: 藤江康彦)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照※J 参照</p>

時間割コード	09239209	担当教員	栗田 佳代子		
単位数	1.0	学期	集中	時限	集中
講義題目	ICTを活用した効果的な授業づくり Creating effective your course using ICT				

授業の目的・概要	<p>授業の概要 本授業では、今後の教育におけるICT技術の重要性を理解し、教師として正しい知識を獲得し、未来の教育に活用していくための基盤を形成することを目指す。ICT技術は日進月歩で進化を続けるものであることから、基礎知識を得て活用しつつも常に更新し、生徒や学生とともに学んでいく姿勢を獲得することも目的の一つである。 授業のテーマ及び到達目標 ・現代社会を支えるICT技術の意義および役割を説明できる ・ICT技術が未来の学びの可能性を広げ、特に協働学習と個別最適化に寄与することを体験する ・ICT技術を利用した教育の陥穽を説明できる ・これからの教師の指導力および校務にICT活用が必須であり、多少なりとも使えるようになる ・情報モラルや情報セキュリティを含めてICT技術の活用を説明できる</p>
授業計画	<p>授業計画 第1回：現代社会のICTの役割、学校とテクノロジー 第2回：学びにおける対話・協働に寄与するICT技術 第3回：個別最適化された学びを実現するICT技術 第4回：オンライン授業のデザイン 基礎的な設計論 第5回：オンライン授業のデザイン アクティブラーニングをとりいれた授業 第6回：ICT技術の陥穽 第7回：情報モラル・情報セキュリティの基礎知識 第8回：校務に活用するICT技術 この科目は集中講義形式として行い、1単位に相当する内容を含む。</p>
授業の方法	<p>下記日程の集中講義形式で行う 2月14日(水)2&comma;3&comma;4時限 2月15日(木)2&comma;3&comma;4時限 (6時限で8回分の内容を含む)</p>
成績評価方法	<p>集中講義における各種ワークへの参加(50%)と終了後のレポート課題(50%)で評価を行う。</p>
教科書	<p>稲垣忠・佐藤和紀 編(2021)「ICT活用の理論と実践」北大路書房 (ただし購入に必要はない)</p>
参考書	<p> 浅野大介(2021)「教育DXで「未来の教室」をつくろう—GIGAスクール構想で「学校」は生まれ変わるか」学陽書房</p>
履修上の注意・備考	<p>集中講義はオンラインで実施予定とする。携帯やタブレットではなく、PCで参加すること。 集中講義ではGoogle Classroomを紹介し、使う予定である。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※M参照</p>

時間割コード	09239210	担当教員	鈴木 雅博		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	水 5
講義題目	進路指導・生徒指導 Career Guidance and Pupil Guidance				

授業の目的・概要	<p>◆授業の概要 生徒指導とは「児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のこと」である(生徒指導提要[令和4年版])。ここに、「自分らしく生きる」という個人の生き方の問題を「社会」との関係のなかで、どう折り合いをつけるのかという難しい課題を見てとることができる。進路指導も「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく」キャリア発達をめざすものであるが(2011年1月中央教育審議会答申)、ここにも同種の緊張関係を見出せる。教師は、時に葛藤を孕む「自分らしさ」と「社会」の関係について、どのように生徒指導・進路指導を行うことを求められ、それを行っているのか。その理念と実際を法制度・文化・社会情勢との関連において理解することが本講座の課題となる。 ◆授業の到達目標 (1)生徒指導の意義および原理を理解する。 (2)すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 (3)児童生徒が抱える生徒指導上の課題と、養護教諭等の教職員、外部の専門家および関係機関等との連携も含めた対応の在り方を理解する。 (4)進路指導・キャリア教育の意義および原理を理解する。 (5)すべての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。 (6)児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。 </p>
授業計画	<p>1 生徒指導の意義と役割 2 生徒指導と子どもの権利 3 生徒指導と校則① 4 生徒指導と校則② 5 生徒指導と懲戒・体罰 6 生徒指導をめぐる教師間相互行為 7 いじめ問題① 8 いじめ問題② 9 不登校・SNS・暴力行為 10 進路指導とフリーター・ニート問題 11 キャリア教育の内容と事例検討 12 高卒就職の進路指導① 13 高卒就職の進路指導② 14 総括 </p>
授業の方法	<p>講義形式を基本としつつ、適宜ディスカッションを行う。テーマによってはグループワークを取り入れる。</p>
成績評価方法	<p>授業後の小レポート 30%、期末レポート 70%。なお、欠席は4回までとする。</p>
教科書	<p>特に指定しない。 レジュメ・資料を配布する。 </p>
参考書	<p>『生徒指導提要』(令和4年版) 文部科学省 『中学校学習指導要領(平成29年告示)』文部科学省 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』文部科学省 いずれも Web で入手可能。 </p>
履修上の注意・備考	<p>受講生には日頃からいじめ・不登校といった生徒指導上の諸課題や進学・就職等の進路指導に関するニュース等に目を向けることが求められる。また、授業後に学習内容を復習し、関連する書籍等に目を通すことで、次回の授業に備えてほしい。</p>
教育職員免許法上の認定科目	<p>教育職員免許法上の認定科目 ※9 参照※K 参照</p>

時間割コード	09239211	担当教員	大瀧 玲子		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	火 2
講義題目	教育相談 I School Counseling I				

授業の目的・概要	教育相談の意義と必要性について理解すること、幼児、児童および生徒の心理社会的発達と教育的課題について理解し、支援に必要な基礎的知識を身につけることを目標とする。 ①学校における教育相談の意義と理論について理解する ②カウンセリングの理論や技法に関する基礎的知識を身につける ③教育相談の具体的な進め方と対応の要点、学内外の連携について理解を深める
授業計画	第 1 回:オリエンテーション／教育相談とは 第 2 回:子どもの発達 第 3 回:児童・思春期の精神疾患の理解と対応 第 4 回:カウンセリングの基本とその考え方 第 5 回:カウンセリングの基本的な技法 第 6 回:学校におけるカウンセリング、教育相談の進め方 第 7 回:不登校の理解と対応 第 8 回:いじめ・非行の理解と対応 第 9 回:発達障害の理解 第 10 回:発達障害への対応 第 11 回:保護者の相談、学校内外の連携 第 12 回:様々な不適応を示す子どもたちへの理解と対応、総括 定期試験
授業の方法	講義形式を基本として、教育現場における教育相談の重要性、教育現場において幼児・児童・生徒が直面しやすいメンタルヘルス上の問題およびそれに対応するために必要なカウンセリングの基礎知識について概説する。毎回の講義内で、教員が提示する教育相談上の諸問題について考察し、リアクションペーパーにまとめる。また講義内で小グループの話し合いを行うことがある。
成績評価方法	定期試験(60%) 授業参加およびリアクションペーパー等(40%)
教科書	持参が必要な教科書等は特になし
参考書	「よくわかる臨床心理学」下山晴彦(編) ミネルヴァ書房 その他、授業内で適宜紹介する。
履修上の注意・備考	事前に履修しておくべき科目等はないが、子どもの発達に関する講義内容が多く含まれるため、発達心理学・教育心理学・臨床心理学等への関心があると望ましい。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※10 参照※L 参照

時間割コード	09239212	担当教員	小国 喜弘、星加 良司		
単位数	1.0	学期	A1	時限	金 5
講義題目	特別支援教育総論Ⅱ An Introduction to Special Needs Education II				

授業の目的・概要	本授業では、特別な教育的ニーズを示す子どもを多角的・包括的に理解する力を高めるとともに、日本におけるインクルーシブ教育の実現に向けた、通常の小・中学校や高等学校における具体的方策について検討する。到達目標は以下のとおりである。 1. 特別支援教育の制度と構造、およびインクルーシブ教育との関係性について説明できる。 2. 特別な教育的ニーズを示す子どもを理解するにあたっての基本的な知識・観点・態度を身につけるとともに、支援・配慮の原理と方法について理解する。 3. インクルーシブな学級・学校・地域づくりの具体的方策について考察し、言語化することができる。
授業計画	10月13日「共に学ぶ」教育の歴史を考える:排除の制度化とその再編 10月20日「共に学ぶ」学校・授業をどのようにつくればいいのか:個別指導計画、ユニバーサルデザインの問題 10月27日 いかに学校の中に「社会的障壁」は存在するのか:障害の社会モデルの観点から 11月3日 学校の中の『社会的障壁』をどう失くすのか:合理的配慮と環境の整備 11月10日 真のインクルーシブ教育に向けて:排除と差別のない学校づくり 11月17日 ディスカッション、レポート
授業の方法	オンラインで行う。 講義を中心に、適宜、動画視聴やグループ・ディスカッションを行う。
成績評価方法	各回のリアクション・ペーパー(計50点)、期末レポート(50点)にもとづき、総合的に評価する。
教科書	適宜配布する
参考書	木村泰子・小国喜弘(2019)『「みんなの学校」をつくるためにー特別支援教育を問い直すー』小学館 その他、各回の授業の中で関係する文献を紹介する。
履修上の注意・備考	主体的な参加を前提とする。
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※E 参照

特設科目

時間割コード	09239901	担当教員	小国 喜弘、李 炯植		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	金 2
講義題目	子どもの貧困問題概論 Introduction to Child Poverty in Japan				

授業の目的・概要	日本における子どもの貧困の実態について理解を深め、解決のためのアプローチについて実践の事例を元にしなが 検討していくことで今後の貧困対策のあり方について学ぶことを目的とする。 授業前半部では種々のデータや個別 の事例を通して、子どもの貧困に関する基礎知識を学ぶ。 授業後半部ではゲストスピーカーの話や映像表象を通 じて、子どもの貧困のリアルを学ぶ。
授業計画	第 1 回:オリエンテーション、授業の進め方・教員紹介、受講者の関心の共有 第 2 回:子どもの貧困概説(データ) 第 3 回:子どもの貧困概説(事例) 第 4 回:子どもの貧困の構造的要因・政策動向 第 5 回:NPO 法人 Learning for All のア プローチ 第 6 回:学習支援と市場化 第 7 回:ゲストスピーカーによる講義と討論① 第 8 回:ゲストスピーカーによる講 義と討論② 第 9 回:ゲストスピーカーによる講義と討論③ 第 10 回:ゲストスピーカーによる講義と討論④ 第 11 回:映 像から学ぶ子どもの貧困① 第 12 回:映像から学ぶ子どもの貧困② 第 13 回:本講義を通してのリフレクション、学び の共有 ※ゲストスピーカーは子ども支援の実践者や政策形成に関わる専門家などの登壇を予定しています
授業の方法	基本的に対面で実施します。特段の事情を有する場合、オンラインでの参加を許可します。詳しくは初回の授業でご説 明いたします。 開講期間中に任意で NPO 法人 Learning for All の支援拠点への見学を案内いたします。関心のある 方はそちらへの参加もご検討ください。
成績評価方法	毎回の出席(ITC-LMS の出席機能+リアクションペーパー)と最終レポートを 5:5 で評価します。
教科書	必要となる文献については、前週までに原則として PDF ファイルにて共有する。
参考書	適宜紹介する
履修上の注意・備考	本講義の内容は、昨年度 A セメスター開講の「子どもの貧困問題に関するサービスラーニング I」の内容と大きく重複 するので、注意すること。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09239902	担当教員	星加 良司		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	火 4
講義題目	デイビアリティ・スタディーズ Disability Studies				

授業の目的・概要	<p><目的・目標> デイビアリティ(障害=「できなさ」)について考えると、どのような営みだろうか？それは、「できなさ」を抱える個体の性質について知ることと同時に、いやむしろそれ以上に、「できること」を条件付け、意味付け、価値付けている社会のあり方について考察することである。 この授業では、(1)近年の新しい障害研究のパラダイムと、それに基づく基礎的な理論枠組みについて理解するとともに、(2)社会システムを支える様々な制度や規範と障害問題との連関について、多角的に分析する視点を獲得することを目的とする。 <授業概要> 前半でデイビアリティ・スタディーズの基礎的な概念や視点について解説し、後半では関連する日本語文献の講読等を通じてその理解を深化させる。 ※なお、この授業は、学部横断型「バリアフリー教育プログラム」のコア科目 A 群(選択必修)として開講されている。</p>
授業計画	<p>1. ガイダンス 2. デイビアリティとは何か I:近代のカテゴリーとしての障害 3. デイビアリティとは何か II:無力化のメカニズム 4. デイビアリティとは何か III:リスク社会と排除される身体 5. デイビアリティとは何か IV:「障害の社会モデル」という視点 6. デイビアリティとは何か V:「障害平等」はいかにして可能か 7. 文献講読 II 8. 文献講読 III 9. 文献講読 III 10. 文献講読 IV 11. 文献講読 V 12. ゲストスピーカーとの対話 13. まとめ</p>
授業の方法	<p>教員による講義、受講生による文献報告、ゲストスピーカーを迎えての対話等を組み合わせて授業を進める。いずれの形式においても、受講生の主体的・積極的な参加により、インタラクティブにディスカッションを展開することが期待されている。</p>
成績評価方法	<p>平常点50%、レポート50%の比率で評価を行う。平常点は、授業時の報告内容や討論への参加状況について、的確性・論理性・積極性等を考慮して評価する。レポートは、授業の終了時に提出を求め、授業目標への到達度の観点から評価する。</p>
教科書	<p>特に指定しない。</p>
参考書	<p>授業内で適宜指示する。</p>
履修上の注意・備考	<p>障害問題についての予備的な知識は特に必要としない。受講者は、指定文献を予め熟読する等、授業でのディスカッションのための十分な準備を行うことが期待される。</p> <p>授業に関する問い合わせ先 hoshika@p.u-tokyo.ac.jp</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09239903	担当教員	熊谷 晋一郎、高橋 麻衣子、綾屋 紗月、並木 重宏、福島 智、近藤 武夫、星加 良司		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	水 4
講義題目	バリアフリー総論 Introduction to Barrier-free Studies				

授業の目的・概要	<p>歩道にひいてある黄色い点字ブロックのデコボコが不便だと感じたことはありませんか？満員の通勤電車で電動車いす利用者が乗って来たら少し迷惑だと感じますか？近年、わたしたちの周りでは、「バリアフリー化」と呼ばれる環境整備が様々な場面で進められており、多くの場合、それは障害者にとって「やさしい」ことだと肯定的に受け止められています。ところが、ある障害者にとって「やさしい」環境を整備しようとしたところ、それが別の障害者や障害をもたない人たちにとって「やさしくない」環境を生み出してしまう、という事態も起きています。このように考えると、バリアフリーとは、一方で問題を解決しつつも、他方で別の問題を新たに生み出してしまうという二重性を内在した営みだと言えます。 本講義では、バリアフリー化によって生み出される新たな問題と、その問題をめぐって人びとの間に引き起こされる衝突・対立を「バリアフリー・コンフリクト」というキーワードで捉えます。本講義を通じて、多様化、複雑化が進む現代社会において生じている様々なコンフリクトと向き合い、解決していくための技法について一緒に考えていきましょう。</p>
授業計画	<p>以下に示したテーマでの講義を行います。 ・バリアフリーコンフリクトとは何か ・「回復」と「代償」のあいだ ・読み書きできない子どもの難関大学進学は可能か？ ・障害者への割引サービスをずるいと感じるあなたへ ・裁かれない人がいるのはなぜか？ ・実験室におけるコンフリクト ・障害についてのスティグマとマイクロアグレッション ・全体の振り返りとまとめ 1. 2022年10月5日(水) 14:55-16:40 熊谷 2. 2022年10月12日(水) 14:55-16:40 高橋 3. 2022年10月19日(水) 14:55-16:40 高橋 4. 2022年10月26日(水) 14:55-16:40 綾屋 5. 2022年11月2日(水) 14:55-16:40 綾屋 6. 2022年11月9日(水) 14:55-16:40 並木 7. 2022年11月16日(水) 14:55-16:40 並木 8. 2022年11月30日(水) 14:55-16:40 星加 9. 2022年12月7日(水) 14:55-16:40 星加 10. 2022年12月14日(水) 14:55-16:40 近藤 11. 2022年12月21日(水) 14:55-16:40 近藤 12. 2023年1月11日(水) 14:55-16:40 熊谷 13. 2023年1月18日(水) 14:55-16:40 クッファーマン・熊谷 14. 2023年1月25日(水) 14:55-16:40 福島</p>
授業の方法	<p>本授業は、東京大学先端科学技術研究センターに所属する教員(福島智、近藤武夫、熊谷晋一郎、高橋麻衣子、並木重宏、綾屋紗月)および東京大学学院教育学研究科付属バリアフリー教育開発研究センター(星加良司)に所属する教員がオムニバス形式で行う講義です。</p>
成績評価方法	<p>期間終了後に提出を求めるレポートによって評価を行います。</p>
教科書	<p>なし</p>
参考書	<p>『バリアフリー・コンフリクト 争われる身体と共生のゆくえ』中邑賢龍、福島 智(編)、東京大学出版会、2012年9月</p>
履修上の注意・備考	<p>授業内容の問い合わせについては、直接担当教員までご連絡下さい。 講義はオンラインで開講します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09239904	担当教員	星加 良司、飯野 由里子		
単位数	2.0	学期	S1S2	時限	木 3
講義題目	ダイバーシティと社会 Diversity and Society				

授業の目的・概要	近年「ダイバーシティ(多様性)」という言葉が、社会や組織の目指すべき目標と関連づけられて語られるようになっていきました。そこでは性別や年齢、性的指向や性自認、障害等にもとづく差異が、社会全体の「活力」や企業の「生産性」向上に直結するものであるかのように捉えられがちです。しかし、私たちの間にある差異は平板なものとしてではなく、権力関係を含んだものとして存在しています。それゆえ、さまざまな摩擦や衝突を生み出すものでもあります。 この授業の目的は、私たちの間の差異の編成のされ方やそこに働く権力関係に目を向けることで、ダイバーシティを社会的公正の観点から捉え直すことにあります。その際、フェミニズム研究やクィア研究、ディスアビリティ研究等の知見を参照することで、ダイバーシティについて学際的かつ多領域的に学んでいきます。
授業計画	1 ガイダンス&イントロダクション 2 バリアとマジョリティ性 3 特権とインターセクショナルリティ① 4 特権とインターセクショナルリティ② 5 グループワーク:特権リストを作ってみる 6 グループワーク:特権リストを作ってみる 7 多様な男性性(Masculinities) 8 「男らしさを競う文化」を捉え直す 9 視点としてのクィア 10 制度としての異性愛、制度としての健全性 11「見えない」障害とカミングアウト① 12「見えない」障害とカミングアウト② 13 まとめと振り返り
授業の方法	・対面で実施します。 ・本授業は、担当教員による講義と指定文献についてのディスカッションで構成されます。 ・講義の回では、70 分程度の講義の後、LMS に講義の要旨(ポイント)やコメントを書き込む時間をとります。状況に応じて、グループ・ディスカッションをすることがあるかもしれません。
成績評価方法	1)平常点:40 点 2)中間レポート:25 点 3)期末レポート:35 点
教科書	・飯野由里子・西倉実季・星加良司(2022)『「社会」を扱う新たなモード―「障害の社会モデル」の使い方』生活書院
参考書	・グッドマン、ダイアン(2015)『真のダイバーシティをめざして―特権に無自覚なマジョリティのための社会的公正教育』上智大学出版(出口真紀子監訳、田辺希久子訳)
履修上の注意・備考	・講義は、パワーポイントを投影しながら行いますが、プリント(パワーポイントを印刷したもの)は配布しません。パワーポイントのデータは授業の前日の夜までに LMS にアップします。必要に応じて各自ダウンロード・印刷し、授業に持参してください。 ・文献購読を行う回があります。受講生には指定文献を事前に読み、内容を理解した上で授業に参加することが期待されます。
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09239905	担当教員	星加 良司、飯野 由里子		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	木 3
講義題目	フェミニズム理論 Feminist Theory				

授業の目的・概要	<p>フェミニズム理論は、1960年代後半に登場した第二波フェミニズム(女性解放運動)の運動と思想をもとに発展してきた知識の枠組です。当初は、女性学(Women's Studies)と呼ばれる学問領域の中で、主に男女間の不平等や格差の検証に焦点をあて、伝統的な学問分野の男性中心性が明らかにし、説明するための道具立てとして用いられてきました。その後 1980年代になると、男性や男性性の経験に焦点をあてた研究も行われるようになり、男性学(Men's Studies)という専門領域の登場にも寄与します。ところが、女性学とそれに続く男性学がアカデミックな探求の専門領域として確立された1980年代後半、ポストモダニズムやポスト構造主義などの理論が進行した結果、「女性」や「男性」を別々の一元的なカテゴリーとして捉える考え方に疑問が突きつけられることとなります。これにより、「女性学」や「男性学」という用語は論争的となり、それらの存在理由が大きく揺さぶられることになりました。「女性学」や「男性学」に代わるものとして、「ジェンダー論」という名称が好まれるようになった理由の一端はここにあります。こうした経緯を経て、現在フェミニズム理論は、男女間だけではなく女性間・男性間に存在するさまざまな不平等や格差を捉える認識枠組みとして展開されています。本授業では、フェミニズム理論が登場・発展した歴史的背景に加え、現代社会において生じているさまざまな不平等や格差を批判的に捉える際に有用な概念や議論を紹介します。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス&イントロダクション <Part1:フェミニズム理論の基礎概念> 2 フェミニズムの「波」:女性参政権運動から女性解放運動へ 3 ジェンダー「平等」:三つの視点 4 合理的配慮とポジティブ・アクション 5 公私二元論とジェンダー分離 6 アンペイド・ワーク 7 セクシュアリティとポルノ論争 <Part2:インターセクショナル・フェミニズムの視点> 8 フェミニズムと人種差別 9 フェミニズムと優生思想 10 第二波フェミニズムを捉え直す 11 トランスジェンダー・フェミニズム 12 ポスト・フェミニズムの時代 </p>
授業の方法	<p>・対面で実施します。 ・Part1では、70分程度の講義の後、LMSに講義の要旨(ポイント)やコメントを書き込む時間をとります。状況に応じて、グループ・ディスカッションをすることがあるかもしれません。 ・Part2では、文献購読を中心に授業を実施します。購読する文献は、カイラ・シュラー『ホワイト・フェミニズムを解体するーインターセクショナル・フェミニズムによる対抗史』です。 </p>
成績評価方法	<p>1)平常点 40点 2)中間レポート 25点 3)期末レポート 35点 </p>
教科書	<p>Schuller&comma; Kyla. 2021&comma; The Trouble with White Women: A Counterhistory of Feminism&comma; Bold Type Books.=カイラ・シュラー(川副智子訳、飯野由里子監訳)『ホワイト・フェミニズムを解体するーインターセクショナル・フェミニズムによる対抗史』明石書店、2023年</p>
参考書	<p>清水晶子『フェミニズムってなんですか?』文春新書、2022年 和泉真澄他『私たちが声を上げるときーアメリカを変えた10の問い』集英社新書、2022年</p>
履修上の注意・備考	<p>・講義は、パワーポイントを投影しながら行いますが、プリント(パワーポイントを印刷したもの)は配布しません。パワーポイントのデータは授業の前日の夜までにLMSにアップします。必要に応じて各自ダウンロード・印刷し、授業に持参してください。 ・文献購読を行う回があります。受講生には指定文献を事前に読み、内容を理解した上で授業に参加することが期待されます。 </p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09239906	担当教員	星加 良司		
単位数	1.0	学期	A2	時限	火 3
講義題目	インクルーシブ社会のための実践知 Practical Knowledge for anInclusive Society				

授業の目的・概要	この社会で「障害」と呼ばれる状態・現象について考える。指導教員は、「盲ろう者」(視覚と聴覚に障害を併せ持つ障害者)であり、教員自身の体験に立脚しつつ、受講者の体験や想像力との相互作用により、「思想的化学反応」を生み出すことを目指す。
授業計画	1. イントロダクション。 2. 障害、障害者をめぐる言説の概要。 3. 障害学(ディスアビリティ・スタディーズ)の国内外の研究・実践動向。 4. 「障害」を体験する(盲ろうシミュレーション体験の実施)。 5. 「体験」を振り返る。 6. 「体験」からなにを見だし、なにを考えるか。→「点字」、および「指点字」の基礎的実技に挑戦する。 7. 障害の多様性:当事者の生の声を聞くⅠ(視覚障害) 8. 障害の多様性:当事者の生の声を聞くⅡ(重度身体障害) 9. 障害の多様性:当事者の生の声を聞くⅢ(その他の障害者) 10. 社会に蔓延する障害差別→相模原障害者殺傷事件」を考える。 11. なにが差別もたらずのか→能力差別の本質。 12. 障害と苦悩。 13. 障害の有無を超えた、苦悩と生の関係。 14. まとめ。
授業の方法	本講義は4日間の集中講義形態をとる。少人数(10人程度の受講者を想定)の受講者と指導教員とのディスカッション、受講者同士のディスカッションの他、「障害(盲ろう)のシミュレーション体験」や点字等の基礎的実技にもチャレンジしてもらう予定であり、こうした参加型の授業に積極的に取り組んでもらえる受講者を期待している。
成績評価方法	平常点
教科書	なし。
参考書	以下、いずれも必須ではない。可能なら事前に入手、通読すると望ましいもの。 『盲ろう者として生きて』福島智、明石書店(2011) 『ぼくの命は言葉とともにある』福島智、致知出版社(2015) 『夜と霧』ヴィクトール・フランクル、みすず書房(2002)
履修上の注意・備考	積極的な受講者を期待している。 集中講義日程を確認する際は、 以下、教育学部学生支援チーム HP を参照のこと。 https://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09239907	担当教員	遠藤 利彦、多賀 徹太郎、浅井 幸子、野澤 祥子		
単位数	2.0	学期	A2	時限	集中
講義題目	発達保育実践政策学概論 Introduction to early childhood development, education, and policy research				

授業の目的・概要	<p>発達保育実践政策学は、子どもの育ちを中心に置き、子育て・保育の実践や政策のあり方について、学術的に解明検討を行う学際的学問領域である。本授業では、発達保育実践政策学に関わる多様なトピック、すなわち、乳幼児の発達、保育の理論・歴史・実践・制度・政策についての基礎的事項ならびに国内外の最新研究動向を学ぶ。さらに、学んだことや自身の経験に基づき、これからの子育て・保育の実践や政策、それを支える研究のあり方について他者と議論し、考える。</p>
授業計画	<p>下記の内容について講義とグループワークによって学ぶ。 ①発達保育実践政策学の考え方と研究例 ②胎児・新生児・乳児の発達 ③乳幼児の認知的発達と子育て・保育(1) ④乳幼児の認知的発達と子育て・保育(2) ⑤乳幼児の社会情動的発達と子育て・保育(1) ⑥乳幼児の社会情動的発達と子育て・保育(2) ⑦保育の思想と歴史 ⑧保育の制度・政策 ⑨特別なニーズをもつ子どもと保育(1) ⑩特別なニーズをもつ子どもと保育(2) ⑪小学校への移行 ⑫父親の子育て ⑬これからの子育て・保育について考える:ディスカッション </p>
授業の方法	<p>講義とグループワークを適宜交えながら授業を進める。 </p>
成績評価方法	<p>レポート</p>
教科書	<p>『あらゆる学問は保育につながる 発達保育実践政策学の挑戦』秋田喜代美(監修) 山邊昭則・多賀徹太郎(編) 東京大学出版会 </p>
参考書	<p>『乳幼児の発達と保育 食べる・眠る・遊ぶ・繋がる』秋田喜代美(監修) 遠藤利彦・渡辺はま・多賀徹太郎(編著) 朝倉書店 『園庭を豊かな育ちの場に: 実践につながる質の向上のヒントと事例』秋田喜代美・石田佳織・辻谷真知子・宮田まり子・宮本雄太(著) ひかりのくに 『園づくりのことば 保育をつなぐミドルリーダーの秘訣』井庭崇・秋田喜代美(編著) 野澤祥子・天野美和子・宮田まり子(著) 丸善出版 『保育学用語辞典』秋田喜代美(監修) 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(編著)中央法</p>
履修上の注意・備考	<p>特になし 開催日程 1月24日(水)1~5限 1月25日(木)2~5限 1月30日(火)2~5限 </p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09239908	担当教員	中西 正康、岡田 猛		
単位数	2.0	学 期	A1A2	時 限	木 6
講義題目	演技実践 Acting Lesson				

授業の目的・概要	プロの俳優が行う演技練習を通し自分自身と向き合い、感性を磨き、共感力、コミュニケーション能力を高め豊かな人間になる。
授業計画	相手の言葉を聞いてそれを繰り返すレペテション練習を中心に学びます。ただ言葉を繰り返すだけではなく、相手の様子、心の態度から気持ちや感情を受け取り、それを自分がどう感じているのかを相手に伝えます。この練習を行うことにより楽器(自分自身)が繊細になり、相手と共鳴し、交流ができ、思考を使わずに衝動に従い自由になれ、想像の世界で真に生きることができるようになります。 レペテションを使い、最終的にはシーンを実際に演じてみます。
授業の方法	少しでも多く体験をして欲しいので実技が中心になります。
成績評価方法	日常点 演技的に上手い下手ではなく、解放されていて相手とコミュニケーションがとれているかをポイントに評価をします。
教科書	「リアリズム演技」著・ボビー中西（而立書房）
参考書	「サンフォード・マイズナー・オン・アクティング」―ネイバーフッド・プレイハウス演劇学校の1年間(而立書房)
履修上の注意・備考	時間厳守 服装は動きやすいもの着用 1 自己紹介 志望動機 ムーブメント トラスト練習 シアターゲーム 演技の定義 2 モノローグ(自分のモノローグ)を読む 3 モノローグ(自分以外の人のモノローグ)を読む 4 一語 一行 レペテション 5 レペテション 6 レペテション 7 レペテション センソリー (コーヒークップ、レモン) 8 シーンスタディ① 9 シーンスタディ① 10 シーンスタディ① 11 モノローグ 12 シーンスタディ② 13 シーンスタディ② 14 シーンスタディ②
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09239909	担当教員	近藤 良平、岡田 猛		
単位数	2.0	学期	A1	時限	火 3, 火 4
講義題目	身体表現の実践 Practice of Physical Expression				

授業の目的・概要	本授業は、第一線で活躍する振付家・ダンサーの近藤良平による身体表現の授業である。 本授業では「身体で表現を創出していくとはどういうことなのか」を、講師の経験に基づいた様々なアプローチを実際に身体を動かして体験しながら探索していくことを大きな目的としている。
授業計画	感染状況に応じてやむを得ない変更はあるかもしれないが、対面で行うことを前提とする。授業進行の詳細については、受講者とのやり取りの上で随時変更していくが、今のところ、以下のような大枠で行う予定である。 1. 出会い 2. 身体表現のワーク① 3. 身体表現のワーク② 4. 身体表現のワーク③ 5. 身体表現のワーク④ 6. 創作 7. 発表
授業の方法	対面で、講師と共に身体を動かして体験する方法をとる。
成績評価方法	以下の4点を踏まえて総合的に判断する。 1. 出席状況、2. 授業に対する積極性、3. 毎回の授業での課題やコメントシートの提出状況、4. 最終レポート
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	<p>実技の授業なので毎回参加することは大切である。 実技授業の性質上、受講希望者が多い場合は、人数制限を設ける場合がある。 準備しておくことよいもの:動きやすい服装、飲み物、タオル、靴下(裸足もしくは靴下で動いていきます)など。 </p> <p>ダンスやその他の表現活動の経験の有無は問いません。また、実技で行う身体表現も専門的な技術は必要としません。初めて表現やダンスを行う方も歓迎します。また、どの学部の学生も歓迎します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09239910	担当教員	Steven Fischer		
単位数	2.0	学期	A1	時限	火 2, 水 2
講義題目	Cartoon Storytelling Cartoon Storytelling				

授業の目的・概要	<p>This course is for anyone who has an interest in expressing themselves through cartoons and those interested in cartoons as an art form. This class is about realizing the potential of becoming a cartoonist no matter your skill level. This course is intended to introduce students to the possibilities cartooning offers as a vehicle to express and communicate effectively. Students should realize that while commercial cartooning may require certain skills and abilities&comma; the only limitation in the art of cartoon storytelling are those self-imposed. Anyone willing to express him or herself honestly can create a legitimate comic. Our objective is to create and complete an original story with original characters.</p>
授業計画	105 min. sessions each Tuesday and Thursdays
授業の方法	lecture, exercises, projects
成績評価方法	class participation 25% attendance 25% assignments 25% final project 25%
教科書	n/a
参考書	n/a
履修上の注意・備考	<p>While participants will be creating many cartoons during the course (in comic book&comma; comic strip&comma; single panel&comma; and storyboard formats)&comma; the final project – and goal of this course – is for each student to produce a completed cartoon story in comic book form that demonstrates the student’s ability to understand character development&comma; narrative structure&comma; and storytelling. These final projects will be collected into a keepsake PDF for you to use as part of your portfolio.</p> <p>https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/89583157918?pwd=K0REYki0VG9ZZ0g3aDA1eFROWDNLUT09 meeting ID: 895 8315 7918 password: 719281</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09239911	担当教員	Michael Spencer
単位数	2.0	学期	S1
		時限	集中
講義題目	Sound Sense: Reevaluating our relationship with music		
	Sound Sense: Reevaluating our relationship with music		

授業の目的・概要	The objectives for this course are to expand your knowledge of musical practice to be able to apply analytically the concepts introduced within the course, across a wide range of musical genres, but without the need for any formal training in musical theory. To understand the value of music and its deeper role in society
授業計画	1. Thinking differently: music, memory, patterns and the management of expectation, educational practice in schools, societal change and the influence of the record industry on listening habits. 2. The building blocks of music, an introduction: rhythm, melody, harmony, texture, dynamic, silence 3. Rhythm: physiology and movement 4. Melody: prosody and respiration 5. Harmony: Pythagorus, the harmonic series, horizontal motion and vertical structures, Rameau (the Isaac Newton of music), the invention of music notation, and the problem with keyboards 6. Texture: aural colours and the blending of sounds 7. Dynamics: instrument design, noise, technological enhancement 8. Silence: the forgotten element 9. Architecture: the transition from simple to complex musical structures 10. Active listening: refining one's listening practice 11. Review
授業の方法	The course will be comprised of information giving, interactive challenges, and facilitated exchanges between participants
成績評価方法	Class participation (presentations and in-class discussions)
教科書	Not applicable
参考書	A wide variety of music examples will be referred to throughout the course. In addition, recommended lists for further listening will be provided at the end of each session
履修上の注意・備考	Before the course you will be required to prepare a short presentation (2-3 minutes) about a specific piece of music with which you feel a particular connection. There are no prerequisites for how you might do this. N.B. please inform the lecturer by email a minimum of 5 days before the course begins in order to enable the collation of materials for the first lecture. Not applicable
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09239912	担当教員	王 冀中		
単位数	2.0	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	油画材料与表現技法 Oil Painting Materials and Expression Techniques				

授業の目的・概要	<p>中国電媒大学教授で美術創作研究院院長でもある王冀中教授による油画材料与表現技法の実技の集中授業である。油画の経験者のみならず、初心者も対象として、油画の基礎から教える。なお、授業は中国語で行われるが、日本語の通訳が付く。 授業目的: 1.受講生の美的感覚と芸術センスの向上 2.油画の基礎材料や技法の習得 3.自画像創作を通して自己と外部の世界との繋がりを探る 授業概要: 理論講義と絵画実践を通して、西洋油画の画材・技法の基礎知識と体系および画材や技法が油画の言語や表現に与える影響を理解し、色彩関係や人体構成の比例などの基礎知識を身につけ、素材表現への関心を養う。 </p>
授業計画	<p>授業内容: 一日目:油画の画材・技法の発展歴史の紹介 1.基礎画材の使用法 2.油絵具と画用液の調合方法 3.事前準備(キャンバスの張り方など) 二日目:油画の関連知識 1.色彩の基本知識 2.油画の基礎技法 3.人体デッサンの基礎 4.自画像のデッサン制作 三日目:自画像創作(過程) 1.下図の転写 2.構図の設定 3.下塗り 4.人物像の描写 四日目:自画像創作(完成) 1.着色 2.細部の描写 3.背景の処理 4.仕上げ </p>
授業の方法	<p>4日間の夏期集中授業として実施する。実技授業につき、対面のみの実施で、絵画理論と実践を教える。 スペースや授業内容の制約上、受講者数は10名を上限とする。希望者が多い場合は、抽選等で決定する。</p>
成績評価方法	<p>油画技法を用いたスケッチや模写の最終課題作品によって成績を決める。 授業内容は講義中に適宜変更することがある。 </p>
教科書	なし
参考書	なし
履修上の注意・備考	<p>絵の具等で汚れても良い服装をして参加すること。</p> <p>授業外の準備と学習内容 絵画の学習実践のための各種画材を必要に応じて準備する。 </p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09239913	担当教員	王 冀中		
単位数	2.0	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	油画材料与表現技法 Oil Painting Materials and Expression Techniques				

授業の目的・概要	<p>中国電媒大学教授で美術創作研究院院長でもある王冀中教授による油画材料与表現技法の実技の集中授業である。油画の経験者のみならず、初心者も対象として、油画の基礎から教える。なお、授業は中国語で行われるが、日本語の通訳が付く。 授業目的: 1.受講生の美的感覚と芸術センスの向上 2.油画の基礎材料や技法の習得 3.自画像創作を通して自己と外部の世界との繋がりを探る 授業概要: 理論講義と絵画実践を通して、西洋油画の画材・技法の基礎知識と体系および画材や技法が油画の言語や表現に与える影響を理解し、色彩関係や人体構成の比例などの基礎知識を身につけ、素材表現への関心を養う。 </p>
授業計画	<p>授業内容: 一日目:油画の画材・技法の発展歴史の紹介 1.基礎画材の使用法 2.油絵具と画用液の調合方法 3.事前準備(キャンパスの張り方など) 二日目:油画の関連知識 1.色彩の基本知識 2.油画の基礎技法 3.人体デッサンの基礎 4.自画像のデッサン制作 三日目:自画像創作(過程) 1.下図の転写 2.構図の設定 3.下塗り 4.人物像の描写 四日目:自画像創作(完成) 1.着色 2.細部の描写 3.背景の処理 4.仕上げ </p>
授業の方法	<p>4日間の夏期集中授業として実施する。実技授業につき、対面のみの実施で、絵画理論と実践を教える。 スペースや授業内容の制約上、受講者数は10名を上限とする。希望者が多い場合は、抽選等で決定する。</p>
成績評価方法	<p>油画技法を用いたスケッチや模写の最終課題作品によって成績を決める。 授業内容は講義中に適宜変更することがある。 </p>
教科書	なし
参考書	なし
履修上の注意・備考	<p>絵の具等で汚れても良い服装をして参加すること。 S1S2の集中授業と同じ内容であるので、既に受講した人は、この授業を受講することはできない。</p> <p>授業外の準備と学習内容 絵画の学習実践のための各種画材を必要に応じて準備する。 </p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09239914	担当教員	尾上 明代
単位数	2.0	学期	集中
講義題目	ドラマセラピーを通じた表現実践 Practice for Expression through Drama Therapy		

授業の目的・概要	<p>授業の目標 ドラマや劇を通して、「演じる」という芸術表現形態の楽しさを体験することで、創造性や自己表現力、自発性などを高めることを目標とする。 グループダイナミクスやリフレクションを使うドラマセラピーのワークを媒体とすることにより、上記と同時に、コミュニケーション技術、自分自身とさまざまな他者への理解力、受容力を高めることができる。 ドラマセラピーの理論的背景についての基本的理解が得られる。 「演じること」は身体、感情、知性を統合して行う活動であり、さらにドラマセラピストである講師が自由で楽しい感覚を提供しながら授業を進めることにより、上記のような能力が同時に高まることが可能となる。 授業の概要 ドラマや劇を演じることを通じて表現力や創造性を高めることを目指すコースである。 「創造的教養人(岡田・縣、2013)*」を育成する一環として、表現を創造的かつ主体的に楽しむ体験を提供し、受講後の研究や職業生活、また人生を豊かにすることの一助になるようなアクティビティーで構成している。 グループワークの中においては自分を客観視できるだけでなく、自分の人生だけでは体験できない、他者の人生・状況・考え方などについても、より深い新しい理解が可能になる。また「ドラマ」で「役」を演じるということが、実はいかに「現実生活」を豊かにし、また問題解決のツールとして使えるかを、知的学習からだけでなく、身体・感情・感覚でホリスティックに理解し、かつ体得できるところがポイントである。 ドラマセラピーはクリエイティブアーツセラピー、またグループセラピーの一つで、ドラマ・演劇のプロセスを系統的かつ意図的に用いる体験的アプローチである。この手法により、自己の意識と無意識を含む様々な心的要素がとり扱われ、また、他者や環境との関係、および他者の多様な側面の探索も可能になる。そのため、自己覚知と他者理解が深まり、視点や行動、社会関係の変化を促すので、「セラピー」という狭い枠を超えて、人の創造性・自発性が必要となる多くの分野に汎用できる。特に教育分野では有用性が高い。 * 岡田猛・縣拓 (2013)&comma; 芸術の認知科学 展望論文 創造の主体者としての市民を育む:「創造的教養」を育成する意義とその方法&comma; 認知科学&comma; 20(1)&comma; pp27-45. </p>
授業計画	<p>第1回 このクラスの実施方法のオリエンテーションと最初の interaction のためのゲーム 第2回 想像力・創造力・即興力を豊かに 第3回 フィクション(架空)とリアリティー(現実)の間を行き来する 第4回 おとぎ話—象徴・架空の力 第5回 ドラマセラピーの事例 第6回 ドラマで「詩」の鑑賞1 第7回 同上2 第8回 ドラマセラピーの基本的な理論 第9回 人間関係、及び社会問題の探索1(ソシオドラマ) 第10回 同上2 第11回 自分の「role」認識 第12回 心の障害物を乗り越えるドラマ 第13回 グループプロセスの終結・まとめ </p>
授業の方法	<p>夏季集中授業として対面で実施する予定です。この授業形態を活かして、体験・ディスカッション・座学などをバランスよく配置し、わかりやすく、また疲れすぎないプロセスを作り進めていきます。 表現実践としてドラマ的ゲームや演技を行い、個人とグループの変容や発展を体験的に理解してもらいます。「演じる」ことへの不安をとりのぞき、楽しく取り組めるように漸進的に丁寧に進めていきます。このこと自体が、ドラマセラピーを媒体に使う利点の一つであるので、アクティビティーに不安がある人がいたとしても、心配せずに受講してください。 毎</p>
成績評価方法	<p>表現力や創造性、自他の理解力などの発展・深化を、授業参加の様子やディスカッションの内容(50%)、期末レポート(50%)から総合して評価する。</p>
教科書	<p>教科書は生協等で手に入れて、二日目までに1章の事例を読んでおいてください。 (ネット等で、ない場合も、生協には入れてあります) 心ひらくドラマセラピー:自分を表現すればコミュニケーションはもっとうまくいく! 尾上明代著(河出書房新社) </p>
参考書	<p>ドラマセラピーのプロセス・技法・上演—演じることから現実へ ルネ・エムナー 著 (北大路書房)</p>
履修上の注意・備考	<p>体験型の学習なので、基本的に全回出席することがまず大切です。 授業内での積極的な参加態度はもちろん良い評価の対象にはなりますが、「授業」だからといって、すべてのワークに無理に参加をしなければならない、というプレッシャーを感じる必要はありません。 その時どきの自分の心身の状態に合わせて参加して下さい。 「演技が得意な人、</p>

人前で発表することが好きな人」にのみ適しているアプローチではないかという勘違いもあるかもしれませんが、そうではなくてアクト(行動、演技)することが「多くの人を取り組みやすく、創造力や表現力などを高める有効な方法であること」を授業内で示します。楽しんで学んでください。|もちろん、学習・研究のためには、一定の参加が必要でもあるので、新しいことに積極的に取り組み、学ぶという意欲と心構えをもって臨んでもらえればと思います。

夏季集中として、4日間(2週末)で実施します。|7月29日(土) 2~5限 |7月30日(日) 2~4限|8月5日(土) 2~4限|8月6日(日) 2~4限|||

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09239915	担当教員	中野 優子、岡田 猛		
単位数	2.0	学期	S2	時限	木 3, 木 4
講義題目	コンテンポラリーダンス創作の実践 Contemporary Dance Creation and Performance				

授業の目的・概要	<p>本授業の目的は、「コンテンポラリーダンスの創作を実際に体験してみること」である。実際に心と身体を動かしながら、参加者それぞれが自分の心と身体だからこそできるダンスをクラスメイトと協力しながら創作・発表する。それを通して、自分自身やクラスメイトのこれまでに気が付かなかった魅力に気が付いたり、日常を捉えなおしたりすることを目指す。</p>
授業計画	<p>感染状況に応じてやむを得ない変更はあるかもしれないが、対面で行うことを前提とする。授業進行の詳細については、参加者とやり取りし、参加者の提案を踏まえて、随時変更する。今のところは、以下のように、コンテンポラリーダンス創作の一つのアプローチを共に体験していこうと考えている。 1 お互いを知る・仲良くなる 2 どんどん出会う(自分の身体、イメージ、感覚、他者の身体、空間、音楽と出会う) 3 リンクさせる(気持ちやイメージと身体をつなげる、他者とつながる) 4 のんびりのる(湧き上がるものを待ったり、音にのったりと動かされる身体を知る) 5 ひらくとひめる(表現を空間に広げる・開くことと、秘めていくことを体験する) 6 みんなで創る(これまでの経験を基に、みんなで協力してシーンを創る) 7 つなげて伝える(創ったことをつなげて、伝え合う) ※身体表現をベースにしながらもドローイングや写真など、いろいろなメディアを組みあわせて創作しようと考えています。 ※毎日が楽しくなるような宿題を課す回もあるかもしれません。 なお、参加者のみなさんのダンスクリエイションパートナーとして、ダンサー・振付師の C ユタツヤさんに関わっていただきます。 </p>
授業の方法	対面で、講師と共に身体を動かして体験する方法をとる。
成績評価方法	以下の4点を踏まえて総合的に判断する。 1. 出席状況、2. 授業に対する積極性、3. 毎回の授業での課題やコメントシートの提出状況、4. 最終レポート
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意・備考	<p>実技の授業なので毎回参加することは大切である。 実技授業の性質上、受講希望者が多い場合は、人数制限を設ける場合がある。 準備しておくといよいもの:動きやすい服装、飲み物、タオル、靴下(裸足もしくは靴下で動いていきます)など。 </p> <p>ダンスやその他の表現活動の経験の有無は問いません。また、実技で行う身体表現も専門的な技術は必要としません。初めて表現やダンスを行う方も歓迎します。また、どの学部の学生も歓迎します。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09239916	担当教員	小国 喜弘、李 炯植		
単位数	2.0	学期	A1A2	時限	金 2
講義題目	子どもの貧困問題演習 Seminar in Child Poverty in Japan				

授業の目的・概要	<p>日本における子どもの貧困の実態について理解を深め、解決のためのアプローチについて実践の事例を元にしなが ら検討していくことで今後の貧困対策のあり方について学ぶことを目的とする。 特に、関東近郊で実際に支援を行っ ている現場への見学、および受講生の関心に基づく発表等インタラクティブな形式の授業を通して、受講生が各々の立場・ 関心に基づいて子どもの貧困問題に関わることを期待する。</p>
授業計画	<p>第 1 回:オリエンテーション、授業の進め方・教員紹介 第 2 回:前期の復習および発展的議論① 第 3 回:前期の復習 および発展的議論② 第 4 回:前期の復習および発展的議論③ 第 5 回:現場見学① 第 6 回:現場見学② 第 7 回:講 義およびワーク①(システム思考を用いた子どもの貧困問題の分析) 第 8 回:講義およびワーク②(多様な「貧困」概念 の理解) 第 9 回:講義およびワーク③(誰もが持つ「特権性」の理解) 第 10 回:受講生による発表① 第 11 回:受講生 による発表② 第 12 回:受講生による発表③ 第 13 回:本講義を通してのリフレクション、学びの共有</p>
授業の方法	<p>基本的に対面で実施します。特段の事情を有する場合、オンラインでの参加を許可します。詳しくは初回の授業でご説 明いたします。 現場見学の場所および日程についてはこちらからいくつか提示いたします(基本的に関東近郊、土 日)。初回または第 2 回に日程調整をいたしますので、ご都合のよい日程でご参加ください。 受講生による発表につい ては、受講人数にもよりますが、基本的に 3~5 人程度のグループで 30 分程度を予定しています。テーマは「子どもの 貧困」に関連するものであれば、各グループの興味や問題意識に沿って決めていただいて</p>
成績評価方法	<p>毎回の出席(ITC-LMS の出席機能+リアクションペーパー)と授業中の発表(第 10 回~第 12 回のいずれか 1 回)を 5:5 で評価します。期末試験および最終レポートはありません。</p>
教科書	<p>必要となる文献については、前週までに原則として PDF ファイルにて共有する。</p>
参考書	<p>適宜紹介する</p>
履修上の注意・備考	<p>内容の関係上、以下の講義のいずれかを受講済みであることが望ましいですが、A セメスターからの受講も可能です。 ・2022 年度 A セメスター開講:「子どもの貧困問題に関するサービスラーニング I」 ・2023 年度 S セメスター開講:「子 どもの貧困問題概論」 現場見学は便宜上第 5 回および第 6 回として設定していますが、上の通り現場の都合上土日 での実施となる予定です。そのため、実際には「授業 11 回+現場見学 1 回」が本演習の内容となります。</p>
教育職員免許法上の認定科目	

